ISSN 0912-8182

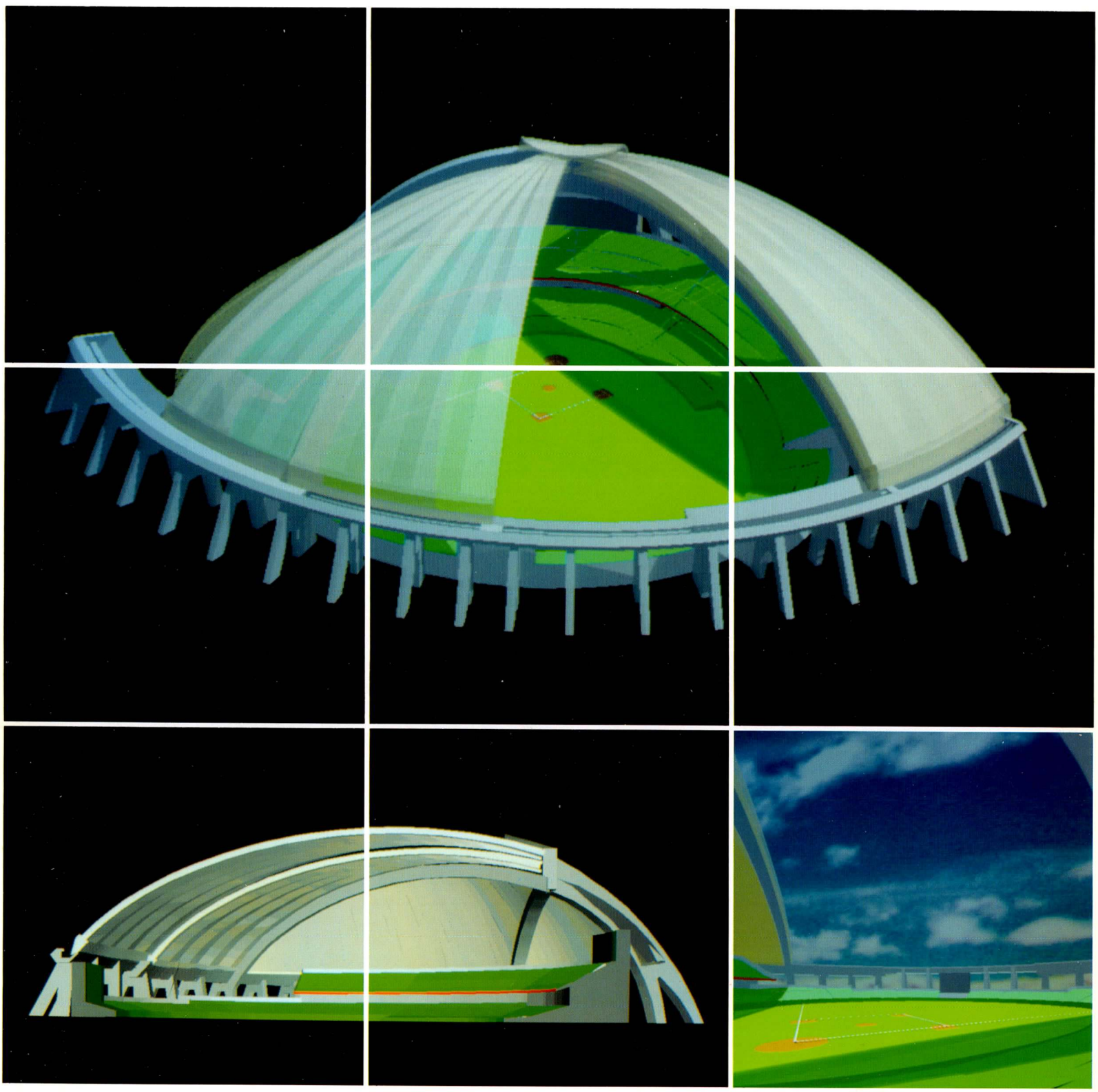
Vol. 70 通巻803号　平成元年2月25日発行・毎月1回25日発行・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1989 2

特集■竹中工務店創立90周年記念
■リゾート事情



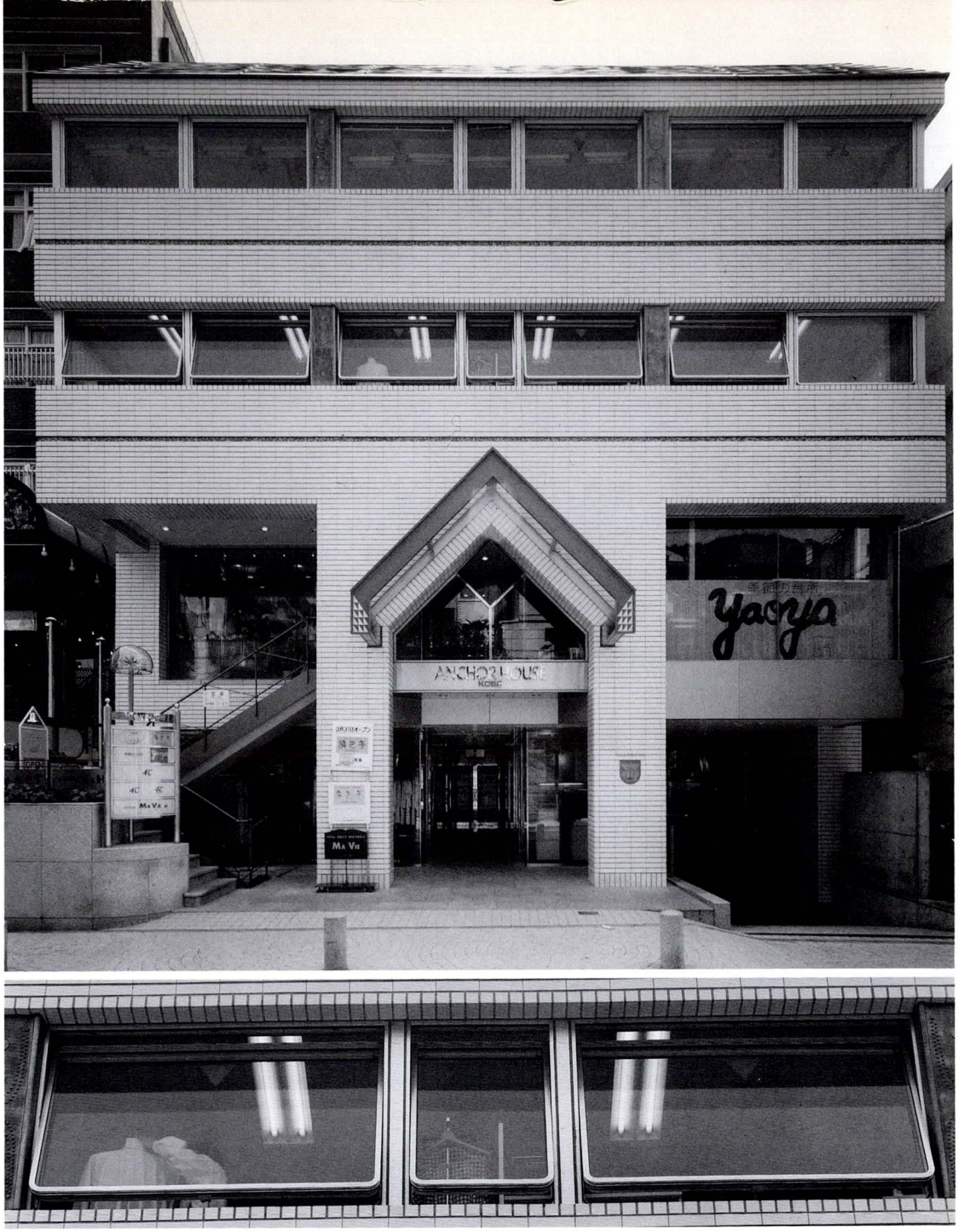
日本建築協会

現代建築のクオリティを高める

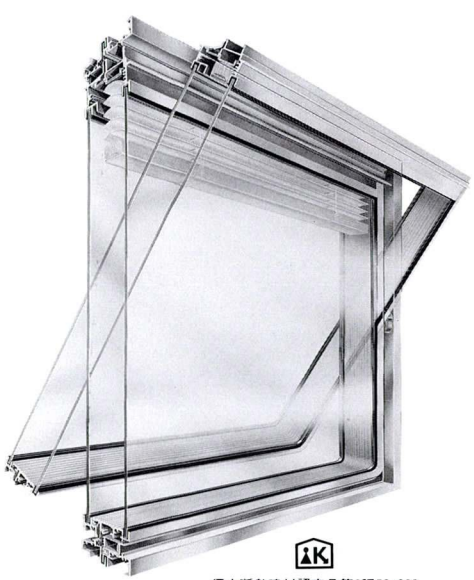
エルミン窓

ブラインド内蔵二重硝子回転断熱窓

意匠を活かす 先進の窓



本山真珠ビル
設　計／株式会社浦辺設計
施　工／株式会社松村組
窓仕様
窓寸法／1775(W)×1125(H)
仕　上／陽極酸化被膜



優良断熱建材認定品第2種59-009

現代建築に要求される窓開口部は、自然の光と風を豊かに採り入れた快適な住空間を創ることにあります。また同時に建物全体の美観にも大きな役割をもっています。しかも、省エネルギーの立場からは、高い断熱性が、快適空間としての光のコントロールや防音、更にはメインテナンスに手間がかからない点など、実に様々なファクターがあります。

エルミン窓はこれらファクターの全てに自信をもってお応えできます。空気汚染や騒音のひどい地域や、酷暑や極寒の地域でも建物の中には快適さをお約束します。

製品はガラスやブラインドの組込みまで全て工場生産、しかも施工も当社の責任施工ですので、安心してお任せいただけます。建物のグレードアップにエルミン窓をお役立てください。

二重硝子の間にベネシアンブラインドを内蔵させた回転断熱窓のエルミン窓は、スエーデンで開発され、全世界で圧倒的信頼を得ている国際品です。わが国では、当社が昭和39年に技術導入し、日本の気候風土に合うように改良した画期的な窓として、全国4,000件以上の建物に採用されています。

日本エルミンサッシ株式会社

本　　社	〒101 東京都千代田区岩本町1-11-2	TEL03-861-1891
大阪支店	〒550 大阪市西区京町堀1-7-9	TEL06-441-1978
札幌営業所	〒060 札幌市中央区大通西4-6	TEL011-222-3575
福岡事務所	〒812 福岡市博多区博多駅南1-2-3	TEL092-475-4820

◀ホテルオークラ神戸見学会

今、神戸港で注目されているウォーターフロント公園メリケンパークに、ホテルオークラ神戸が誕生しました。

メリケンパークは、神戸港発祥の地メリケン波止場と旅客船発着で賑わいポートタワーのある中突堤の間を埋め立てて一昨年につくられたもので、公園・広場のほかに既に海洋博物館、フィッシュダンス(レストラン、バー)はできあがっており、今回ホテルオークラ神戸が竣工することにより、メリケンパークの全体計画が完成することになります。

そして当ホテルは、神戸の国際コンベンションシティー開発構想の一翼を担うべく建設されたもので、500の客室、2,100㎡の大宴会場、大小宴会場16室、レストラン、結婚式場、ヘルスクラブ等の他に、ビジネスコーナー、文化教室など情報化時代に対応する機能をそなえています。デザインは、ホテルオークラの伝統を受け継いだ、日本的な落ち着いたものになっており、くつろぎと気品と重厚さを合わせ持つ内外観をつくり上げています。

港街神戸の新名所をこの機会にぜひご見学ください。

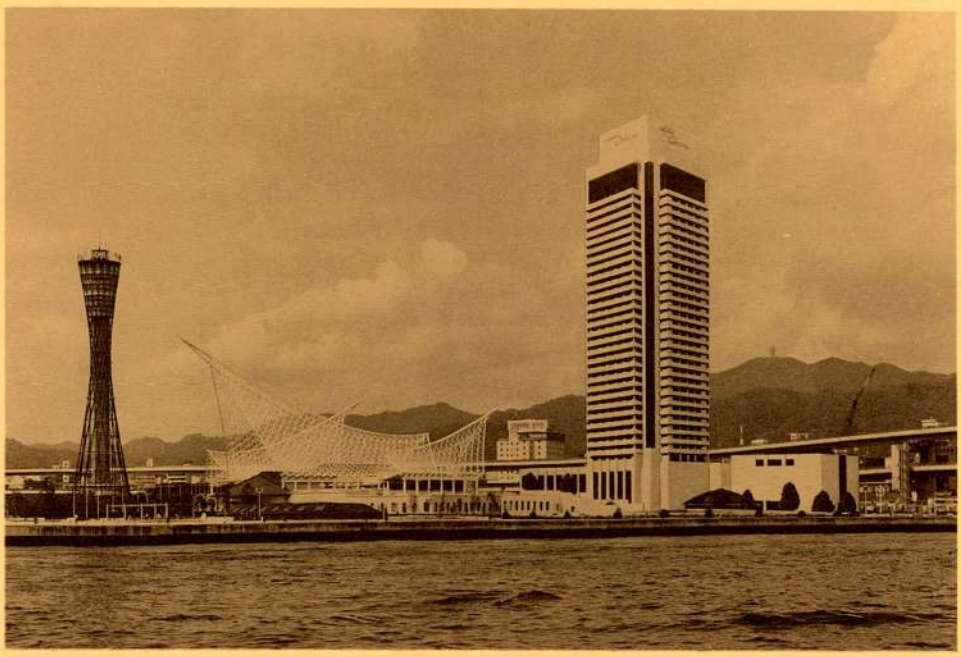
日　時　3月13日(月)
集合13:30—解散16:00

集合場所　現地　正面玄関
※ＪＲ・阪神電鉄「元町駅」から南へ約500ｍ

定　員　50名

参加費　会員 500円、一般 1,000円
※当日、受付にていただきます。

申込方法　ハガキかＦＡＸまたは電話で3月6日(月)までに日本建築協会事業課（〒530 大阪市北区梅田1-1 大阪駅前第3ビル21階、ＦＡＸ06-348-0634、☎06-348-0635）へお申込みください。催し名（ホテルオークラ神戸見学会）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。
※追って参加証をお送りします。なお、申込者多数の場合は抽選にて決定します。



メリケンパークにできたホテルオークラ神戸(左に見えるのは海洋博物館とポートタワー)

●建築概要

所在地	神戸市中央区波止場町48	構造規模	ＳＲＣ＋Ｓ、Ｂ２、35Ｆ、Ｐ２
設　計	観光企画設計社	高　さ	135ｍ
施　工	鹿島建設・大成建設・大林組・野村建設工業ＪＶ	外　装	高層棟　タイル打込ＰＣ版、一部アルミカーテンウォール 低層棟　御影石、インド砂岩、磁器タイル、アルミ化粧グリル
敷地面積	30,944㎡		
建築面積	12,800㎡		
延床面積	64,191㎡	工　期	1987年3月1日～1989年4月15日

◀図書室だより

●昨年12月、本会小会議室にスライド式書架を設置しました。

●正会員**水間秀三氏**から1月17日、図書室用として次のとおり、氏の蔵書の寄贈を受けました。整理の上、公開資料として活用させていただきます。誌上をもって謝意を表します。

建築雑誌(各月号、年報等) 106冊、新建築（各月号）41冊、単行本31冊、その他31冊　計 209冊

●利用状況（'88/11～'89/1）は次のとおり。（ ）内は'88/9からの累計

	会員	その他	計
閲　覧	2(5)	13(15)	15(20)
閲覧＋コピー	1(2)	6(10)	7(12)
計	3(7)	19(25)	22(32)

●主な閲覧資料

建築と社会、建築知識、a＋U、都市住宅

◀'89世界デザイン博覧会・建築デザイン競技——審査員決定と賞金の変更——

今年7月15日～11月26日に名古屋市で開催される標記博覧会の建築デザイン競技（日本建築協会後援）の下記項目に、決定と変更がありました。

■決定　審査員　内井昭蔵(内井昭蔵建築設計事務所)
高松　伸(高松伸建築設計事務所)
毛綱毅曠(毛綱毅曠建築事務所)
諸星和夫(世界デザイン会議実行委員長)
泉　眞也(世界デザイン博覧会総合プロデューサー)

■変更　賞　金　総額 500万円
最優秀賞　1点　200万円
優秀賞　2点　80万円
デザイン特別賞　2点　40万円
奨励賞　若干点

●ビデオ映写会●

アメリカのウォーターフロント開発

ニューヨーク、サンフランシスコ、サンアントニオ

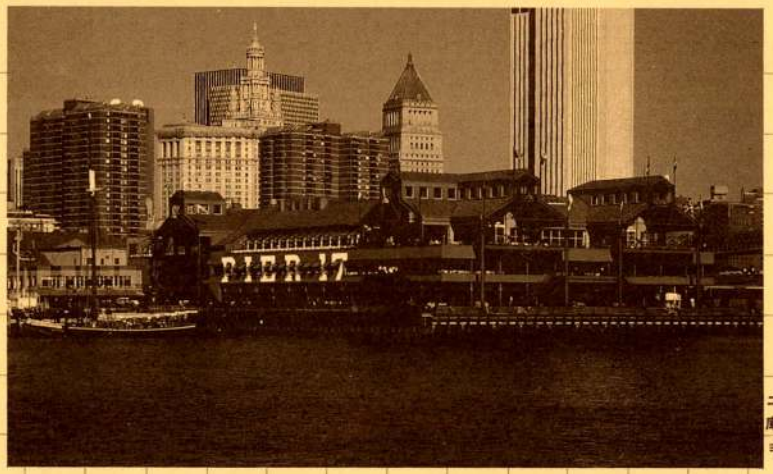
（制作：パル、ビジョンプロデュース、発売：総合ビジョン・ウォーターフロント映像センター）

高度成長を経た今日の都市の課題は、高度に複合的な機能を内包しながらも、アメニティーのある都市空間を創造することにあるといえましょう。特に最近は、海、川、湖の環境保全が注目され、美しく人間に潤いを与えるようなウォーターフロント開発が求められています。そこで世界の最先端を行くアメリカのウォーターフロント開発の事例を数点、ビデオを通して見てみたいと思います。

1
ニューヨーク
テレポート、24時間都市として、常に先端であり続けるニューヨークの最新の開発地区、バッテリーパーク、ロウアー・マンハッタン、スタッテン・アイランド等。

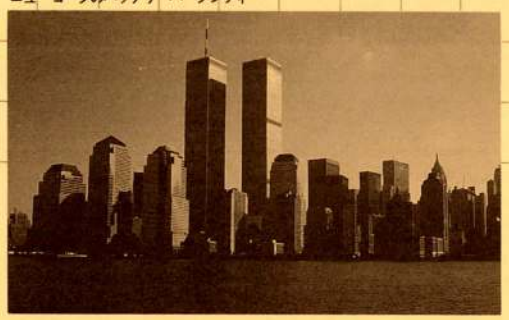
2
サンフランシスコ
フィッシャーマンズワーフ、リゾートタウンのサウサリート、住宅開発としてのフォスターシティ等。

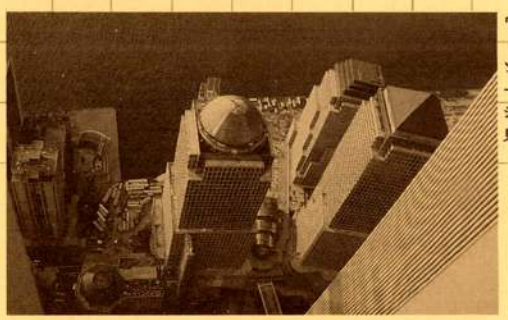
3
サンアントニオ
河川の利用を知的な戦略と緻密な配慮で進め、コンベンションシティーとして都市の価値を高めている。



ニューヨークのピア17、倉庫を改造してつくられたショッピング・レストラン街

ニューヨークのバッテリーパークシティー




ワールド・トレード・センターからハドソンリバー沿いのワールド・ファイナンシャル・センターを見下ろす

日　時　1989年3月18日(土)　14：00－16：00

場　所　㈳日本建築協会会議室（大阪駅前第３ビル21階）

参加費　一般 1,000円、会員 500円（含、資料、缶ジュース）

定　員　30名

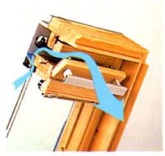
申込方法　ハガキかＦＡＸまたは電話で３月10日㈮までに日本建築協会事業課（〒530 大阪市北区梅田1-1大阪駅前第３ビル21階、FAX 06-348-0634、☎06-348-0635）へお申込みください。
催し名（ビデオ映写会・アメリカのウォーターフロント開発）氏名、一般・会員の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。
※追って参加証をお送りします。なお、申込者多数の場合は抽選にて決定します。



北欧生まれ。しなやかな白木素材のぬくもりと、伝統ある確かな技術。
ルーフウインドウは、世界のブランド「ベルックス」です。

VELUX®
ベルックス ルーフウインドウ

- あらゆる屋根材に対応でき、取付工事も簡単です。
- 内枠にはインテリア性豊かなスウェーデン産の白木(パイン材)を使用。外枠は耐久性にすぐれ、屋根材になじむアルミ外装板です。
- 断熱・遮音性にすぐれた**ペアガラス**を標準装備しています。
- **中軸180度回転**により、室内から外側ガラス面の掃除ができます。また、窓を閉めたまま上部フィルターを通して空気を流入させることができるので、雨の日等の換気に便利です。


ベルックスオリジナル換気システム

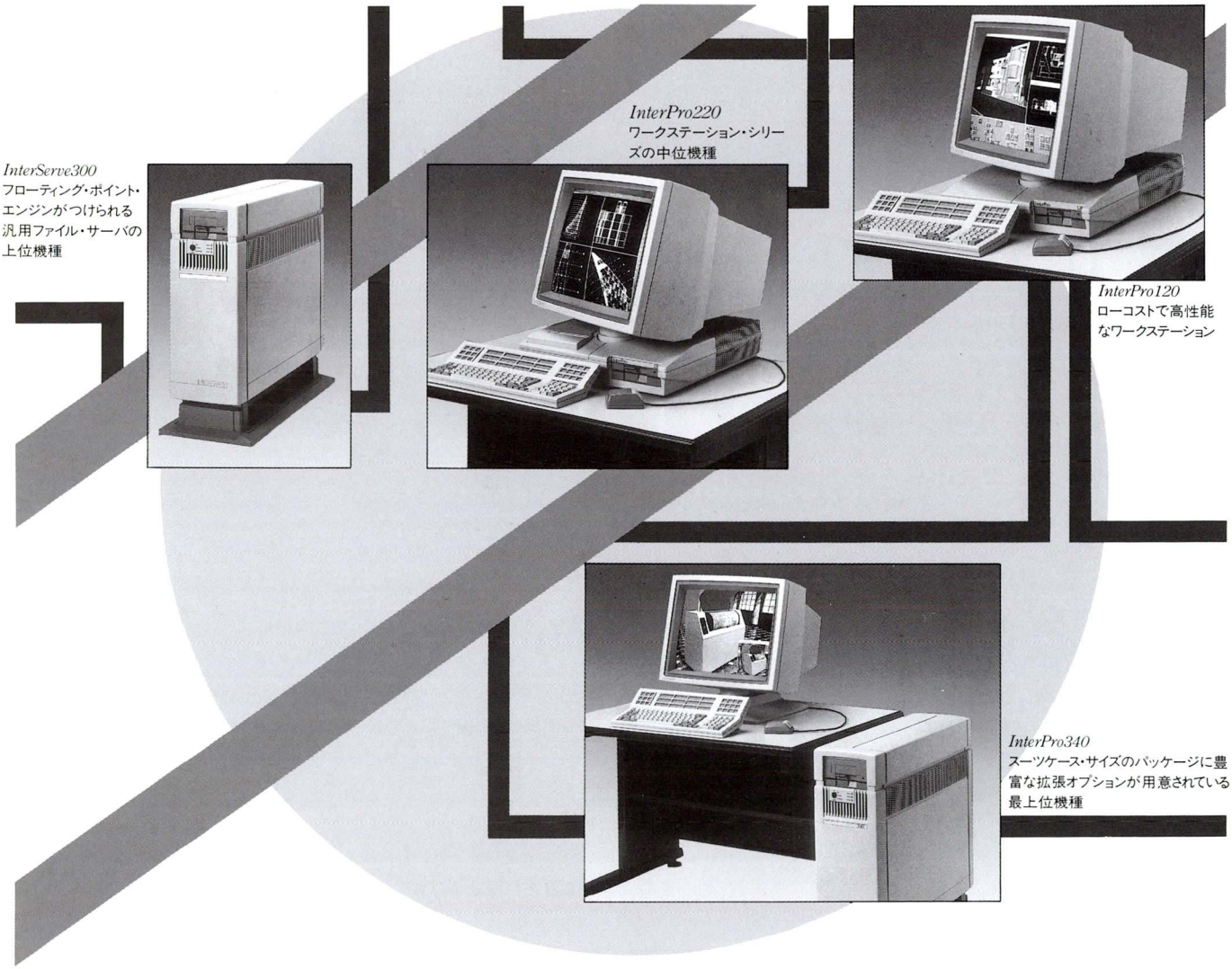
- **ブラインド、開閉キット**等のオプションも多彩に用意しています。

●お求めやすい価格です。¥48,000～¥101,000(雨押え含む)

VELUX 日本ベルックス株式会社
本社／〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-8-14 ホアリーナビル3F TEL.03(478)8141(代)
大阪／〒532 大阪市淀川区西中島3-10-13 物産ビル2F TEL.06(300)5036(代)

MUTOH

みえてくる、明日のかたち



InterServe300
フローティング・ポイント・エンジンがつけられる汎用ファイル・サーバの上位機種

InterPro220
ワークステーション・シリーズの中位機種

InterPro120
ローコストで高性能なワークステーション

InterPro340
スーツケース・サイズのパッケージに豊富な拡張オプションが用意されている最上位機種

エンジニアリング・ワークステーション

インターグラフから、新・EWSシリーズ誕生。

すべてのシリーズに、5MIPSの高速プロセッサ、CLIPPER™を搭載。さらに、業界標準（UNIX、XNS、TCP/IP、NFS他）を大幅に採用し、あらゆる作業環境・ネットワークで威力を発揮。今、EWSでも、インターグラフが最先端です。

100 SERIES インターグラフのEWSの中で、最も価格対性能比が優れたシリーズ。毎秒25,000ベクトルの描画速度と4096色中32色同時表示のカラー・グラフィック処理能力をもつGSグラフィック・プロセッサを搭載。

200 SERIES 全シリーズの中間に位置するバランスのよいモデル。インタープロ220と240、汎用ファイルサーバのインターサーブ200をラインアップ。インタープロ240は、ハードウェアによるグローシェーディング。毎秒100,000ベクトル以上の描画速度、1,600万色中512色の同時表示を実現するGXグラフィック・プロセッサを搭載しています。

300 SERIES 全シリーズ中最高の能力をもつ300シリーズは、インタープロ、インターアクト、インタービューの各々に340と360の2モデル、そしてインターサーブ300をラインアップ。360は22MFLOPSもの処理能力をもつ〝フローティング・ポイント・エンジン〟を搭載し、超高速グラフィックスや解析計算に最適です。



InterAct——200シリーズと300シリーズに用意されたデュアル・スクリーン・ワークステーション

INTERGRAPH

武藤工業株式会社 東京都目黒区中目黒4-6-1 〒153 TEL(03)760-6111(代)

●カタログを差し上げます。ハガキに希望製品の資料請求券をお貼りのうえ、左記住所総合企画室までご郵送ください。

資料請求券
INTERGRAPH

「建築と社会」2月号表紙

■作品名　「シェルドーム」
■作者　竹中工務店大阪本店設計部　■使用ハード　VAX 11/751、INTERGRAPH-INTERPRO220、Y.H.P. HP9000/350SRX　■使用ソフト　INTERGRAPH、自社製　■シェル型(貝がら)の高開放率を持つ竹中式開閉ドームを検討した事例である。レイトレーシングを用いて、ドームの透過性を表現し、一層側スタンドから観たドームと空との合成は、開放性を主題にしている。

■特集予告
3月号／色の復権
　／東海の文化と伝統II(仮称)
4月号／省力化のための材料・工法
5月号／まちづくりと法(仮称)
6月号／地方と博覧会(予定)
7月号／都市環境創造と設備 I

1917創刊
1989
70集

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

2 通巻803

会告
作品作風
Being
委員会だより
ブックステーション
私の読んだ本
若い会員の集いレポート
INFORMATION
レポート
新建材紹介コーナー
法令コーナー
GBRCニュース
建築の眼
特集
座談会
作品集
特集
序論
アンケート
プロローグ
アンケート
マップ
資料篇
弔文
構造の頁166
設備の頁168
施工材料の頁165
月報

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
　松村雄二・姜貸公明
編集委員会（昭和63年度）
■編集理事
金井　弘次
金多　潔
小島　雄
城　惠一
須賀　好富
竹中　錬一
長谷部朔郎
松村　慶三
若山　繁
渡辺　亮
■編集顧問
東　孝光
■編集委員長
長谷部朔郎
代行上田　信也
■特集小委員会
★計画系分科会
☆計画系
角島　健二
河端　秀直
小浦　久子
鈴木　克彦
高田　佳子
○田中　直人
平岡　博
吉村　英祐
☆建築計画系
江副　敏史
○加藤　晃規
○上杉　秀隆
北村　潤
鳴田　聖二
庄野　利博
巽　緋一
西川　純一
前川　治彦
牧野由美子
三宅　淳
＊森田　晴美
山中　恵子
山本　匡
矢野　裕芳
☆インテリア・住宅系
石倉　健彦
一ノ瀬満雄
大塚　慶子
○加藤　力
神谷　剛
北浦かほる
北山　喜与
駒田　哲男
細田　泰彦
増地　秀夫
★構造分科会
和泉　一義
清　孝好
辻岡　静雄
福山　国夫
○外園　隆
和田　勉
★設備分科会
○安信　浩一
石河　信治
石野　幸義
遠藤　進
梶井　宏修
河津　隆之
佐藤　秀彦
別所　清
村上幸三郎
★施工材料分科会
大木　利文
志水　史典
田添　寿昭
○松村　勝実
山田　敏捷
横井　征夫
★法令分科会
大前　博司
○笠井　精二
広瀬　丈洋
南出　和延
■作品作風小委員会
荒川　朱美
遠藤　公介
岡本　隆
北澤　修一
玉崎　良和
○塘　伸夫
林　浩二
福地　一彦
松田　善弘
宮下　幹雄
＊水川　尚彦
宮崎ひろ志
■会員企画小委員会
赤井　富弘
伊藤　郁郎
稲木　裕子
＊今井　邦夫
北村　恭一
佐伯由紀子
柴田　厚
○高田　光雄
高橋　麗子
塚口　明洋
冨永　明子
堀畑　裕一
増渕　昌利
溝口　正人
■広告企画小委員会
池渕　俊男
佐野　寛志
＊下村　甫
中川源治朗
原田　常介
○藤田　孝吉
山下　修司
○渡辺　亮
○印 副委員長と幹事　＊印 同代行

印　刷　平成元年2月20日
発　行　平成元年2月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　電　06—348—0635
　振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
　電　06—606—1111㈹
　サン総合印刷株式会社
　電　06—454—1481㈹
　青葉印刷株式会社
　電　06—351—5428㈹
定　価　950円（送料共）

特集● 竹中工務店創立90周年記念/リゾート事情

SPECIAL FEATURES ON THE 90th ANNIVERSARY OF TAKENAKA CORPORATION, & THE RESORT

ホテルオークラ神戸見学会，図書室だより，'89世界デザイン博覧会・建築デザイン競技一審査員決定と賞金の変更一，ビデオ映写会・アメリカのウォーターフロント開発，—— 1
下関市立中央病院 —— 設計：山下設計　設計監理：下関市，山下設計 —— 6
施工：大林組・熊谷組・間組・佰野組・友田組・福永建設共同企業体
基礎化学研究所 —— 設計監理：日建設計 —— 8
施工：清水・大林・鹿島・熊谷・大成・竹中・戸田共同企業体
ノーリツ八王子基礎研究所・商品研究所 —— 設計監理：昭和設計　施工：鹿島建設 —— 10
赤松ビル(天王寺東映ホテル) —— 設計監理：広谷建築綜合事務所 —— 12
施工：熊谷組大阪支店・福川建設ＪＶ
黒崎輝男(空間エディター)／田中初芳 —— 14
出版委員会—'88年の総括と'89年の方向—／山田修 —— 15
「仙巌園茶席」「世界の台所博物館」「建築と新素材」「PERS－TECH」「居住者のマンション管理」「インテリジェントハウス読本」「フレッシュ建築人をめざして」「成熟期へ向うニューメディア」— 16
「アメリカンホームの文化史」などについて／有村桂子 —— 17
みどり学習会・チンチン電車で帝塚山／宮野道雄・田中康 —— 18
第11回情報・システム・利用・技術シンポジウム，シンポジウム「建築物のリニューアルに関する諸問題と解決事例」，「二色の浜集合住宅コンペ」最優秀決定と応募作品展示，下町再生案，全国から募集，「災害弱者の安全を考える」論文募集，照明デザインコンペ —— 20
INAXの拠点—上野事業所３工場を訪れて…／牧田顕治 —— 21
吹付タイル面の総合改修システム「フレッシュマスト」／長谷川宏 —— 23
再開発地区計画制度の創設／加藤照男 —— 24
部門だより—構造物試験室・企画室— —— 25
コーポラティブ住宅の将来性／住田昌二，六つの風土とともに—丹波／松田泰典，
平成に思う／中嶋龍彦，先手管理／入江恂一 —— 26

竹中工務店創立90周年記念

建築の風雪と社会性と—東孝光氏を囲んで—
—— 東孝光／狩野忠正・柏木浩一・向井久夫・松下明子・増田俊哉 —— 28
梅田センタービル／ワールド本社ビル／北野阪急ビル／六甲パインモール／播磨屋本店円山店／赤福本店五十鈴茶屋／ベルウィング／ニッケパークタウン／ナビオ阪急／吉本ビルディング／オー・エム・ホテル日航ビル／松蔭女子学院大学・短期大学／池田五月山教会礼拝堂／神戸山手女子短期大学３号館／京都センチュリーホテル／アシックス本社ビル／ＵＣＣコーヒー博物館／千里中央パークヒルズ／四条通アーケード／神戸ポートピアランド／新神戸オリエンタルシティ・C_3 —— 31

リゾート事情

総合保養地域整備法の制定の背景 —— 林　洋 —— 78
リゾートを語る
リゾート事情論—リゾート模様29・プロローグ——田中直人—— 80
それなりにリゾート／遠藤剛生，日本のリゾートの難しさ／北村隆夫，自然を助ける心／上川禎彦，遊びは自分でつくりたい／坂田種男，島のリゾート／河野博之，文化の産業化，ないしは精神的価値観の商品化／西尾直，行きたい人と行ける人／宮崎洋司，地球をいとうアプローチ／稲田純一，リゾート地としてのサントリーニ島／北村陸夫，ある提案／松下良一，余暇利用の実践的報告／廣岡利貞，東洋の地中海へ／松村一男，"自己発見の場"としてのリゾート／池上俊郎，リゾートと日本人のレジャー／加藤弘治，海外旅行における日本人のリゾート志向／小川洋一，百年の計をいまこそ真剣に／稲葉好勝，クラブメッド，初めにソフトありき／川村清，楽しい時間の創造／乾和夫，都会の中に心のリゾートを求める／杉上宣正，交通事業でのノウハウを生かして／沖洸三，都市機能を備えた非日常空間の提案／田中正二郎，リゾートは企画なり／菅原宏夫，地域経済の中でのリゾート開発／西田吏利，『三重サンベルトゾーン』構想／小川益司，"燦"黒潮リゾート／前晴夫，琵琶湖リゾートネックレス構想／田中健晴，マイカントリー・リゾート事情／山上庄一，『宮崎太陽海岸都市』の創出／長山登志男，六甲アイランド『ウォーター・ワンダー・ワールド』／浅野高史 —— 82
日本列島リゾート開発構想 —— 93
総合保養地域整備フローチャート／リゾート整備構想一覧／総合保養地域整備法— 95

木下正利氏逝く／白井周二，故設楽貞三さんを悼む／東畑謙三 —— 112
米国の構造設計—ニューヨークでの設計体験より—／中村俊治 —— 113
氷蓄熱システムとその採用／行藤三男・栗山知広 —— 114
スレート式地中梁型枠工法／加藤宗男 —— 115
日本建築協会月間の動き（昭和63年12月分） —— 116

下関市立中央病院

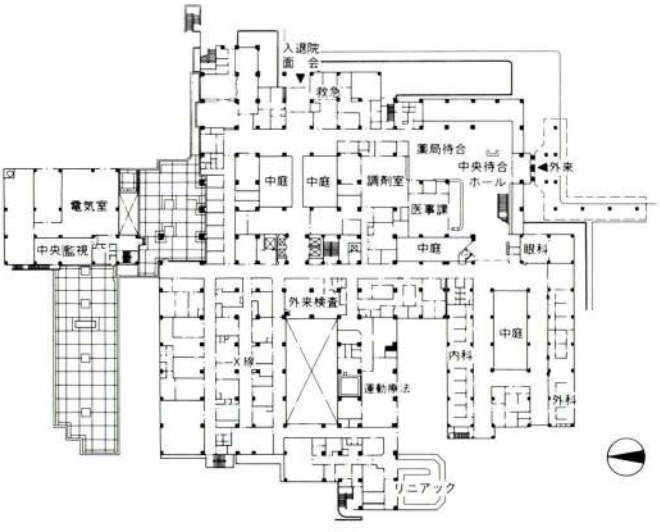
設　　計　山下設計
設計監理　下関市　山下設計
施　　工　大林組・熊谷組・間組・栢野建設・友田組・福永建設共同企業体

旧下関市立中央病院は昭和25年に前身２施設の統合によって発足し、市域住民の信頼に応え多くの実績を残してきたが、老朽化、機能拡充による狭隘化が深刻化してきたため、今回全面建替えとなったものである。

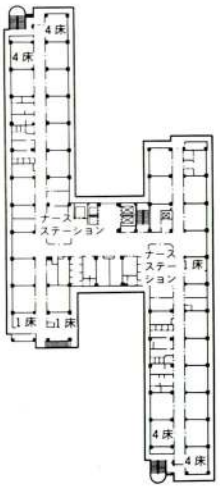
敷地は市中心部の運動公園内、旧市営下関球場跡地が当てられ、旧病院からも近く理想的な新築移転が可能となったのである。周囲は緑に囲まれ、眺望は海にまで広がり交通は至便と、病院の立地条件としては最高の環境にある。当病院の役割は①高度特殊先駆的医療の確保、②臨床研修を担当する病院、③総合保健医療センターとしての機能の確保、④地域の医療従事者のための情報交換、施設の相互利用等についての中心的役割等である。

敷地周辺道路は南側を起点に北側で4.5m下って取付いているため、この高低差を利用して敷地を二段に造成し、南側を１階来院者に対するメインアプローチレベルとし、北側を地階サービス用レベルとして利用している。玄関ホールは２層吹抜けとしてカーテンウォールで覆い、受付から１、２階に亘る外来診療部への誘導を明快にすると同時に中央待合いホールが明るく落ち着いた環境に保てるよう計画されている。外来待合いは植栽を施した中庭を囲んでゆったりとしたスペースを確保し、病棟は中廊下として各室が外部に面するよう配慮するなど全体に亘って極力自然環境を取り込む建築構成としている。

医療面での特徴としては救命救急医療に重点がおかれ、救急部門・中央手術部・血管撮影室・ICU等の関連を明快に整理し、迅速かつ安全な処置が行えるような動線計画としている。２階の医局管理部には隣接して講堂・会議室・図書室等が設置され、研究研修の場として地域の医療従事者の利用をも考慮した計画となっている。設備面では設備階を設け、病院の成長変化メンテナンスに対応している。カルテ搬送にはコンピューター制御によるベルトコンベアーシステムを採用している。　（菅野宗武／山下設計）



１階平面図　1:1600



病棟平面図　1:1600




外観(南東面)


中央待合ホール

所 在 地　山口県下関市向洋町１－13－１
敷地面積　27,742.68㎡
建築面積　 8,104.74㎡
延床面積　25,682.83㎡
構造規模　RC及びSRC、ＢＩＦ、６Ｆ、ＰＩ
工　　期　昭和60年12月～昭和63年１月
最 寄 駅　新幹線 新下関駅、JR下関駅

撮　　影．SS九州



外観(東面)


外来待合


手術室


ICU

正面外観

基礎化学研究所

設計監理　日建設計
施　　工　清水・大林・鹿島・熊谷・大成・竹中・戸田共同企業体

所 在 地　京都市左京区高野西開町34－4
敷地面積　3,306.82㎡
建築面積　1,073.21㎡
延べ面積　2,926.64㎡
構造規模　RC、一部S、3F、一部4F
工　　期　昭和62年７月～昭和63年５月
最 寄 駅　京福電鉄出町柳

撮　　影　島　修一、SS東京 末廣久詔



財団法人 基礎化学研究所は、1981年に福井謙一博士が、わが国初めてノーベル化学賞を受賞されたのを機会に、化学の基礎理論分野の研究を充実させることによって、わが国の科学の発展に寄与することを目的として設立されたものである。運営体制は、専任研究員を少なくし、客員研究員による、いわゆるプロジェクト方式に重きをおいた、国際的に開かれたシステムをとり、理論研究を主とした施設として、大小の研究室、コンピュータ室、図書室、セミナー室などを充実させている。

敷地は、京都市内の高野川左岸沿いの閑静な処で、正面には２本の楠の大樹が既にあり、京都大学などにも近い恵まれた環境にある。

建物は、これらの楠を中心に配置した妻入りの形をとり、玄関部は２層吹抜のピロティと、その上部の大セミナー室からなり、一方、内部では、吹抜、スカイライト、屋上庭園、ラウンジなどを中心に研究諸室を並べて、視覚的な見通しを良くすることにより、研究員のコミュニケーションがうまく計られるように心懸けた。

（水嶋勇郎／日建設計）

ロビー　タピストリー「SUPER LATTICE」作 安東早苗



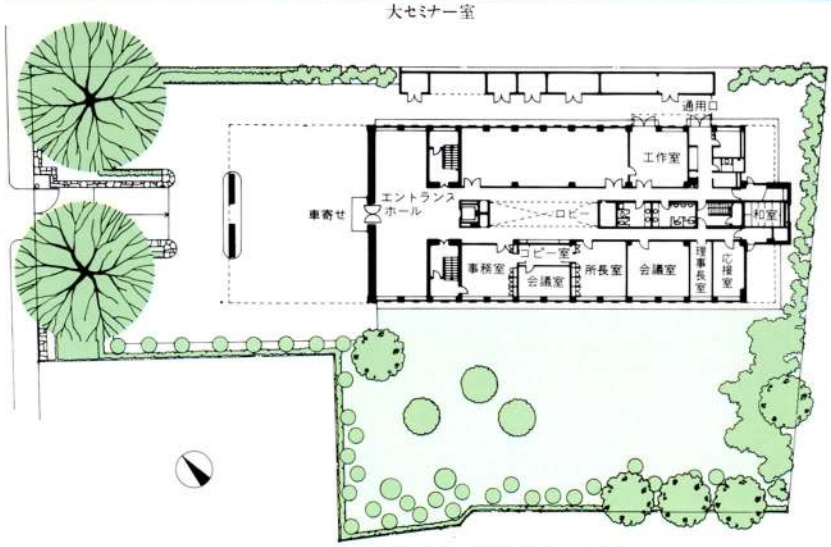
大セミナー室



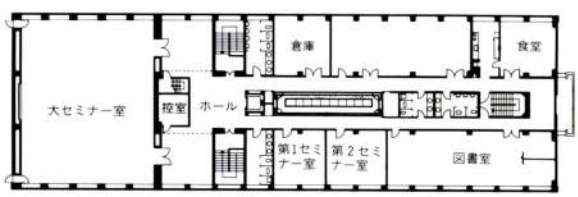
研究室



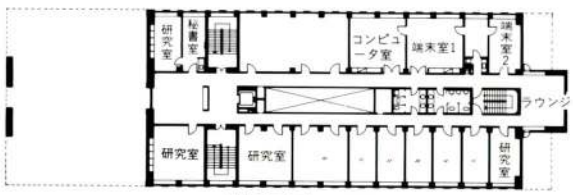
和室　書「回」篠田桃紅



配置図・1階平面図 1：800



3階平面図 1：800



2階平面図 1：800



基礎研究所エントランス





階段室吹抜



展示室



配置図　1:1000



全　景

ノーリツ八王子基礎研究所・商品研究所

設計監理　昭和設計
施　　工　鹿島建設

所 在 地　東京都八王子市石川町728－1、8
敷地面積　4,124.71㎡
建築面積　基礎研究所 408.55㎡、商品研究所 649.822㎡
延床面積　基礎研究所 719.18㎡、商品研究所 1,455.788㎡
構造規模　基礎研究所 S、B1、IF、商品研究所 RC、B2、IF
工　　期　昭和62年1月～昭和63年10月
最 寄 駅　JR横浜線八王子駅
撮　　影　SS東京

当施設は、神戸に本社を置く総合住宅設備機器メーカーであるノーリツ㈱の関東地域の新しい研究所である。
計画地は、古くから織物の町で有名な八王子市の中心から北西へ約4kmで、都道153号、八王子・立川線に面している、近くには国学院大学等がある、ぶどう畑跡地の利用で、南斜面の敷地で前面道路よりの高低差が約12m程度ある。
建物は2棟あり、燃焼関係の研究・実験を主とした基礎研究所と、新製品の開発と展示に重点を置いた商品研究所である。
設計にあたっては、快適な生活空間と新しい生活情報の提案をする、先端産業の企業としてのイメージをアピールすることに留意した。
外観デザインはメタリックでシンプルな印象をあたえることを意図し、水平方向の構成を主とした、外装はアルミパネル張り、横長の連窓アルミサッシを取付けた。ポイントは半円径とした階段室で、内部は吹抜とし、外部はアルミカーテンウォールに全面ハーフミラーガラス張りとした部分である、
民家や小学校と隣接し傾斜地ということもあり、2棟とも最下階はドライエリヤをまわし地中に入れることで、建物全体の高さを低くおさえ周辺の景観にも配慮した。
外部環境は、緑が多かった旧ぶどう畑のイメージをこわさないよう、また周辺にあたえる影響を考えて、植栽を積極的に行った。擁壁部も植樹のできる特殊ブロック擁壁を利用し、"緑の復活"につとめた。

（湯地龍一／昭和設計）

赤松ビル（天王寺東映ホテル）

設計監理　広谷建築綜合事務所
施　　工　熊谷組大阪支店・福川建設JV

所 在 地　大阪市天王寺区悲田院町81－3他
敷地面積　1,357.44㎡
建築面積　950.85㎡
延床面積　9,345.80㎡
構造規模　SRC、B2、13F
工　　期　昭和62年4月～昭和63年11月
最 寄 駅　JR、地下鉄天王寺駅

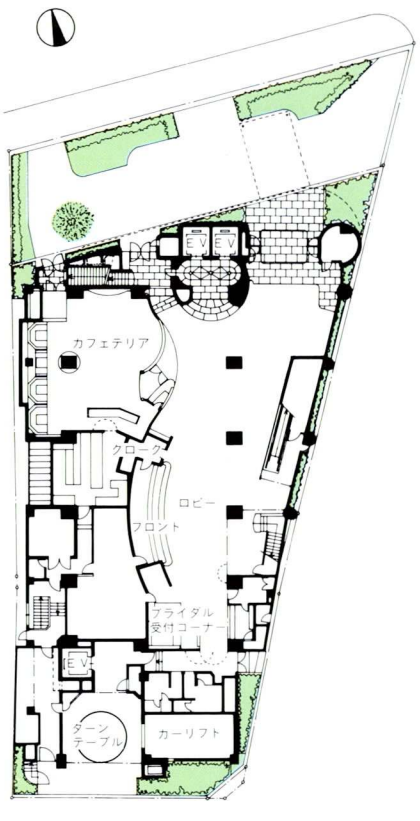
撮　　影　島修一、SS大阪



エントランス



全　景



1F平面図　1:600

天王寺駅は大阪の南の玄関口として、古くから大阪駅と並んで大阪のターミナルとして発展してきたが、新幹線開通と大阪万博の大プロジェクトを契機に大阪北部の急激な開発が進み両駅周辺の経済地盤も大きな格差ができた。それに伴ない大型ホテルも大阪駅周辺に続々と誕生し、いまや天王寺周辺は完全に取り残された感があった。
だが近年関西新国際空港の泉州沖決定により、ようやく大阪南部も芽をふき返し、今や鉄道、道路都市開発を含め大阪の開発の中心は完全に南部に移っている。
そんな中、天王寺駅は新空港へのメインアクセスの表玄関口となり駅周辺は大きく脚光を浴び大変身をとげようとしている。
駅北口に駐車場を経営されていた赤松種苗㈱が土地有効利用の一環としてまた地域社会のアメニティなコミュニティプラザの提供と国際ビジネスマンの宿泊施設としてホテル建設を計画された。
ホテルは㈱東映が東映ホテルチェーンとして一括賃貸し運営にあたる。
計画に際しては雑多な暗い雰囲気の駅北口のイメージを払拭すべく、外観に曲面を多用しラスタータイルを貼ることにより変化のある明るい親しみやすい存在感のある外観とし、機能的には会員制スポーツクラブ、ブライダル関連、会議室、宴会場、コーヒーラウンジ、レストラン、宿泊室を備えた地域社会におけるアメニティ、コミュニティプラザホテルを目指した。
建物壁画は前面道路より後退し前庭を設けることにより、車道からの騒音を少しでも和らげ視覚的にもゆとりを設けた。
1階はロビー、フロント、ブライダルコーナー、カフェテリアを設け、またビジネスマンのためのビジネスコーナーを設置しファックス、ワープロ等の利便を考えた。
地下1階は東急不動産経営の東急スポーツオアシス天王寺が女性専用のスポーツクラブとして出店され開業前より大変な人気を博している。2、3階は宴会場として可動間仕切りにより大小区画可能とした、4階はブライダルフロアーとして結婚式場、写真場、衣裳室、美容室、チャペル転用会議室を配した。式場前に庭園を設け荘厳な儀式の雰囲気造りをした。
5階より12階は和室を含む宿泊室フロアーでシングルルームはダブルベッドを使用し、ゆったりとしたバスユニットで国際派ビジネスマンの一時の安らぎと疲れの回復を計れるよう配慮した。
13階はトップレストランとしてレストラン、ステーキハウス、和食コーナーを設け、窓面のバルコニーに植込を配することにより遠望する生駒連山と一体感を持たせた。
このホテルの存在が起爆剤となり、周辺の再開発が促進され、愛され、大阪南部の発展とともに、このホテルが地域のシンボルとしていつまでも成長してくれる事を願ってやみません。

（廣谷成一／広谷建築総合事務所）



北東面見上げ



１Ｆロビー



２Ｆ宴会場

being 11

空間のエディター

KUROSAKI TERUO

黒崎輝男

建築とは形となりうる夢である

空間プロデューサーと呼ばれ、パーソナルだが研ぎ澄まされた情報ネットワークを持つ彼らが、混沌とした都市におけるその夢の実現者として現われ始めている
そんな空間プロデューサーの１人　　黒崎輝男

"家具のエディター"と彼は自称する

なるほど気に入った家具を輸入し、気に入った作家に家具を製作させるという正業はあれど、相談の持ち込まれた建築プロジェクトを、溜り場と呼ぶ彼のオフィスに賑集している建築家・デザイナー・アーティスト等の情報発信者に、コンセプトに合わせたテーマを与え、形に興し、統合する様は、"空間のエディター"と称したい

週に一度学生となる

日本建築のバックグラウンドを知る為に、そして何年か先に独自の建築計画論を出版する企てを持って、週に一度京都大学巽研究室に学ぶ
「町家にも惹かれている」というその街京都の三条通りにこの冬、彼の手でエディットされた商業ビル「SACRA」が竣工し、過ぎた時代の景観を新しいものとして今に漂わせている

（田中初芳／志野陶石）

黒崎輝男
昭和24年　東京生まれ
早大応用物理卒
ヨーロッパよりアンティーク家具輸入
"イデー" IDEEブランドでオリジナル
家具プロデュース開始
高松　伸・フィリップスタルクの家具生
産を始める
京都大学建築学科巽研究室研究生

「SACRA」ビル内 "Bar 花"　プロデュース／黒崎輝男　設計／水谷壮市デザイン事務所　撮影／HIROYUKI　HIRAI

出版委員会だより

'88年の総括と'89年の方針

山田　修

'88年12月16日㈮17:00～18:00、協会の小会議室で'88年最後の委員会を開きました。

最初に吉田隆氏（学芸出版社）より最新の「プロのノウハウ」、「建築技術選書」の経過報告がありました。編集進行中のものは、①～④です。

①「**コンクリート工事の現場学**〈プロのノウハウ〉加賀秀治著」

項目を100に分け、資料の多い写真・図表を本文と引き合わせ中、12月中に著者の手元に初校刷りを届ける。著者は「正月休み返上」で校正をして、1月下旬に校正原稿を送り返す。89年4月発行の予定。

②「**建築と緑**〈建築技術選書特装版〉瀧光夫著」

写真・図版と本文のからみが複雑で編集者は頭を痛めている。一部にカラー写真をいれ二色刷りとする。著者は最新の情報をいれたいと奮闘中。1月中に完全原稿を引き渡す。「花の万博」を控え、期待のもたれる本で、当書を使った講演会を予定している。「著者に頑張って貰おう」という委員の声が多かった。89年5月発行の予定。

③「**場所打ち杭の設計と施工**〈建築技術選書特装版〉阪口理著」

本文原稿が足りず追加原稿を依頼する。学会指針に合わせ加筆訂正は完了した。原稿一式は受けとるも、一部の写真・図版は未受領。目下、本文を組み上げ中。本書を使った講演会を予定している。89年5月発行の予定。

④「**デザイナーが学ぶ構造計画**〈建築技術選書特装版〉須賀好富著」

88年脱稿・89年5月発行予定のもとで作業を進めている。ベテランの筆者だから心配することはない。写真・図版を豊富に入れ、デザイナー向きの本に仕上げて貰う。

続いて、その他の本の進行状態を話し合いました。

「**雨仕舞のトラブル50**：細谷栄一著」

全体の60%ができた。鋭意努力中である。

「**建築照明の設計と実際**：東宮傳著」

88.12.13付ハガキ回答：写真・資料・データを整理しています。設計業務に追われ原稿がなかなか手につきません。山田先生には時折りお電話を頂戴し恐縮しています。本年早々に執筆計画を立て、実行に努力致します。

「**インテリアコーディネート100**：町田アカデミー著」

88.12.12付ハガキ回答：前回のお問い合せの時に、脱稿予定を'88年12月末で連絡いたしました。そのために鋭意努力をいたしておりますが、現在約2/3程度まで進行中です。誠に申しにくいのですが、今後1～2ヶ月ご猶予下さい。

「**和風建築を美しくつくる方法**：二村和幸著」

'88.12.13付ハガキ回答：当初計画していた分の原稿を8月に入稿しました。ちょうど和菓子店舗2件を設計施工中ですので、もしお許し頂けるならこれらの竣工を待って資料として入れたいと思っております。12月6日に撮影が完了し現像仕上げを待っています。いましばらくご猶予をお願いいたします。

「**杭基礎の設計**：八尾真太郎著」

88.12.13付ハガキ回答：返事が遅れて申し訳ありません。数年来、本企画の件で種々考えて参りましたが、小生自身が基礎構造の種々の分野に研究テーマを広めまして、研究成果が日進月歩である実状となって参りました。本としてまとめるには未だ熟し切れずの感が強く、一方これ以上貴委員会にご迷惑をおかけするのも心苦しく存じます。勝手ながら中断致すことにいたしました。ご了解戴ければと存じます。

以下のものは、未回答でした。

「**室内空気汚染と換気**：楢崎正也著」

「**建築写真の撮り方**：平井聖ほか著」

「**構造図面の描き方とチェックリスト**：川村佳則著」

「**鉄筋工事の現場学**：高橋久雄・佐藤一男著」

次に新しい企画として、下記のものが検討されました。

「**建築法規の知識と学び方**：高木任之」

山田委員が著者と会って細部を相談し、目次・内容を決めてくる。ベテランの著者だから、意外と早く仕上がるのではないか。89年6月脱稿を目指す。

「**アスベスト問題と処理の実際**：㈱アスクの斉藤課長著」

市嶋委員と吉田隆氏にフォローして貰う。監修は大学の先生、もしくはアスベスト協会の方とする。資料・データは豊富にあるが、どのようにまとめるかを検討している。

「**店舗設計とインテリア**：乃村工藝社著」

市嶋委員を通じて目下交渉中。どのように展開していくかは未定。

「**法規関係の面白いテーマ**（本名は未定）：大阪府または大阪市の建築行政担当者（複数でも可）著」

鮫島委員を窓口にして折衝して貰う。どうなるかは未定である。楽しみでもあり苦しみでもある。

「**日本近代・現代建築構造変遷史**：片倉健雄著」

須賀委員長を通じて片倉先生のところまでは話がいっている。その先の展開は不詳。

「**クリーンルーム**：清水建設㈱　安永著」

検討中。

「**コンピューターのトラブル〈パソコン入門書〉**脇山広三著」

極めてむずかしいテーマである。検討して貰っている。

「**住宅のリフォーム**：谷山紀子著」

資料は受けとったが本にすることが困難である。検討中である。

＊　　＊　　＊

いつものことながら、著者探しにはない知恵をしぼっております。末記の委員が情報を交換しながら、各委員がお願いしやすい著者に最初のお伺いを立てています。多忙な方にお願いしていることもあって、必ずしも予定通りには進んでおりません。

出版は、著者と編集者が対等の立場にたって、相助け相励まし合いながら「知的生産物を生み出す創造的作業」です。簡単に進む仕事ではありません。その喜びと苦しさは、表裏一体に形成されています。それゆえに、委員は著者に対する呼びかけをちゅうちょしています。

ちゅうちょを乗りこえ著者を激励するのもわたしたちの仕事だと考えています。呼びかけを受けられた著者の先生がたには、力強いご返答をいただきますれば幸いです。

最後になりましたが、今後いろんな方に出版委員が執筆を依頼するかと存じます。その折には、どうぞよろしくご検討下さい。出版委員名を下記に記しておきます。

委員長：須賀好富（近畿大学）、副委員長：山田　修（工芸高校）、委員：市嶋久嗣（大林組）、川道麟太郎（関西大学）、川村佳則（川村建築構造）、鮫島　浩（大阪府）、谷川康信（大阪工業技術専門学校）、牧野　茂（竹中工務店）、松尾恭治（松村組）、安田　孝（摂南大学）、京極迪宏（学芸出版社）、吉田　隆（同）、松田至弘（建築協会）、森本　勉（同）。

（やまだ　おさむ　出版委員会副委員長）

学芸和風建築叢書〈1〉
仙巌園茶席
広間・小間・立礼席の詳細

監修 和田精一　写真 高城楢三郎
企画・編集 建築フォーラム

学芸出版社　1988年11月15日刊　6,800円　176頁



名勝磯庭園、仙巌園茶席の意匠と技法を詳細な図版と写真によって紹介した画期的な一書。ここには数寄屋普請の伝統を支える現代の匠のあくなき探究と修練が結実されている。名工から名工へと受けつがれる伝統的和風建築の精神と技が図譜一巻として見事に結晶。

居住者のマンション管理
関西分譲共同住宅管理組合協議会の活動に関する記録

監修 梶浦恒男
関西分譲共同住宅管理組合協議会 編

都市文化社　1988年12月1日刊　1,900円　296頁

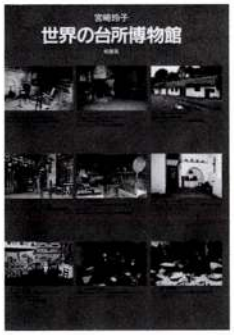


マンションの管理組合の連絡組織「関住協」が、7年間にわたるマンション管理の経験と交流をまとめたもの。補修問題、災害と保険、区分所有法と組合規約など、マンション居住者が直面する様々な問題に対し、本書の「記録」は説得力をもって迫る。待望の書の登場。

世界の台所博物館

宮崎玲子 著

柏書房　1988年12月10日刊　2,000円　106頁



北から南、世界50ヵ国余の〈台所〉がこの一冊の中に納められている。云く、〝北の国は鍋を吊り、南の国は鍋を置く〟このユニークな仮説も豊富な事例、写真、著者自身の挿図によって見事に実証されていく。現地取材30年、建築家の手による一大食空間図誌。

インテリジェントハウス読本
暮らしと情報の明日をひらく

郵政IH研究会 編

ビジネス社　1988年12月15日刊　1,200円　272頁



本書の帯に「未来をカタチにした〝夢の住空間〟その全貌と無限の可能性を紹介」とある。郵政関係者の自主的な研究会によってまとめられたユニークな読本。インテリジェントハウスのシステムや設計上のポイント等をたのしい挿絵とやさしい言葉で説明。読後、夢の住宅の足音がきこえてくる。

建築と新素材

樫野紀元 著

鹿島出版会　1988年7月10日刊　2,500円　214頁



建築が要求する性能と条件に対して、建築素材はどこまで対応し得るのか。また、その導入範囲はどこまで可能かなどについて、適切な事例を挙げながらまとめられた本書は、まさに建築への新素材導入の格好の道案内書。〝これからの建築〟を考える上でも示唆深い。

ここが違うプロ達の生きざま
フレッシュ建築人をめざして

山田　修 著

学芸出版社　1988年7月30日刊　1,600円　240頁



建築設計・構造・パースの各事務所、建設会社、職人道(左官業)など「建築業界の専門職種の実態」を大胆にかつ分りやすく記述された『業界虎の巻』。ここには建築人の生の声と生き様が綴られており、「活力溢れた建築人の誕生を」と願う著者の熱き思いが込められている。

PERS-TECH
パーステック

宮後　浩 著

学芸出版社　1988年11月15日刊　2,800円　104頁



パースを身につけたい人のために！とパース教育20年のキャリアをもつ著者がおくる待望のテキスト。パース技法のノウハウとチェックポイントをわかりやすく紹介し、カラフルなイラストと簡潔な解説で構成され、まさに、〝飽きることなく確実に学べる〟パース決定版。

成熟期へ向うニューメディア
——高度情報化社会とニューメディア Vol.4

産業開発調査会 編

産業情報　1988年10月刊　24,000円　741頁



21世紀へ向けてますます進展する高度情報化社会の今後を展望する上で、重要と思われる最新の政府関係資料を編集したもの。郵政省の「電気通信高度化ビジョン」をはじめ、各省庁の地域情報化施策の動向などを豊富な事例と図表で紹介。ニューメディアの「白書」。

●私が読んだ本

『アメリカンホームの文化史』などについて

有村桂子

私の読書生活は大きく四つにわけられる。一つはその時々の設計している施設に関連のあるもので、現在は小学校の計画を進めており、多くの参考図書の中で面白かったものは、長倉康彦先生の『開かれた学校』と子安美知子さんの『ミュンヘンの小学生』であった。『開かれた学校』は一斉授業に加えて児童の個性を生かすための教育、色々なヴラエティに富んだ教育の展開を可能とするための施設内容のあり方について熱をこめて語られている。五年前にも読んで感激したが、今読みかえしても先生の熱意がひしひしと感じられる。

『ミュンヘンの小学生』は、ミュンヘンのシュタイナー学校で娘さんを学ばせた体験記である。子供の能力発達にあわせた、楽しげで、芸術的な生活の中から知的な興味を引き出していく学校生活の様子がひしひしと伝わってくる。子安さんはご専門がドイツ文学であるため、シュタイナー学校の建築や室内空間に関して、この著書では実際に生活したお嬢さんや、P.T.Aとして学校にかかわった著者の感想や言及が少ないのは多少残念であるが、「DIE WALDORFSCHULEBAOT」を一緒にみながら考えると、羨ましい教育環境である。

二つ目の読書生活は、趣味の生活と専門の生活の中間領域に属するもので、文化人類学や文化史系統、歴史系統の本を読むことである。

最近読んだもののうち面白かった本の一つに、尊敬する名編集者、建築評論家植田実氏の企画・編集による『アメリカンホームの文化史』がある。著者奥出直人氏は、専門が社会学でアメリカ研究である。この本においてアメリカンホームの変遷について、コロニアル様式のヴァナキュラーな住宅やイギリスの影響をうけたジョージアン様式の成立から語り起している。19世紀前半に資本主義が発達していくにつれ、ブルジョワジーが登場し、家は単なる住む場所でなく、道徳的経済的な成功を誇示する象徴として考えられ、歴史上の様式をリバイバルさせた住宅をアメリカンホームと考えた。そのような歴史的文化的背景への言及は、社会学者の幅広い視点が展開されており興味はつきない。続いて、19世紀後半から20世紀前半にかけて、巨大企業の誕生と多くの移民の流入という社会的背景の中で「悪趣味な大衆」が作り出したクィーンアン様式の住宅や、この過剰装飾の悪趣味な消費欲望を改善しょうという意図で考えられた理性あるアメリカ市民のため住宅〝バンガローハウス〟の成立や、戦後の消費社会が活発化し、ホームオーナー氏とコンシューマー夫人の住い〝ランチハウス〟の成立の事情、都市化の進行によるパッケージ・サバーブという郊外住宅地の成立と80年代の特定の様式が主導権を握ることなく、ポスト・モダニズムの影響をうけつつ、過去の様式が登場してきている情況の分析も、日本の住宅事情の歴史的展開と考えあわせて考えると大変面白い。ただ残念なのは、建築の生産技術史的視点をいれてもらえると、事態の把握がもっと明確になったのにと思いながら、世界の博物館シリーズのうち『アメリカ歴史技術博物館』をもう一度開いてみた。

もう一つかなり面白かったものに石毛直道氏の『食事の文化論』がある。氏の著作『住居空間の人類学』も大変参考になったが、『食事の文化論』も興味ひかれる本であった。米食の問題、日本人の食生活にパンが日常化していく過程、飲酒の変遷、ブランデーの水割がどのような情況の中から出て来ているのか、食事作法の変遷、古代ローマの貴族は、奴隷を飼料にして、人肉で養殖したウツボの料理を賞味したという記録があるという、あくなき食の快楽の追求は、そら恐ろしいところまで行きつくという話、〝食事文化の変容と場の関係〟など住居の問題を考えるにしても都市の問題



を考えるにしても重要な示唆を与えてくれている。ただ将来の方向として現在の食料生産の工業化がもっと進むだろうと述べておられるが、当然のことだが夢がない。都市緑化とあわせてベランダ農園や屋上百姓のような方向がないものだろうか。

続いて興味深かった本として『移民の日本回帰運動』がある。著者前山隆氏はサンパウロ大学に留学し、そのままブラジルの地で結婚し、三児の父となり10数年生活してきた人である。現在は筑波大学におられる。ブラジルへの日本人の移民の生活を紹介しながら、異文化と異文化のぶつかりあいの中の精神構造の変容過程や、生活の中から出てくる種々のエピソードは、外来文化を受け入れ続けて近代化をとげてきた私達の生活との比較において考えると興味深い。しかし世界の各都市の出来事が同時進行的に電波を通じ、映像として生活に直接入ってくる情報化時代の中で、異文化と異文化の接触による文化の変容は、また新たな展開と課題を残していっているのではないだろうか。

三つ目の読書生活は完全に趣味の世界に属する。最近の売れっ子、上野千鶴子さんの歯切れのよい数冊の評論集は、読むことに多少気恥かしさを覚える。しかし読み終った時その楽天性に励まされる。私の友人に熱烈な千鶴子ファンがいて、何か少しでも批判的なことをいうと、「それはあんたの勉強不足や、反省せんとあかん」とやっつけられる。聞くところによれば熱烈な千鶴子ファンが、彼女には数多くいるらしいが、そのカリスマ性はこの不確定な時代の中で彼女のもつ明快な論理性と楽天性にあるのだと思う。評論が人を感動させた時代と異なり、言葉自体があまり意味をもたなくなっている現代の情況の中で稀有のことといわねばならない。

四つ目の生活は、小説を読むことである。私は短編小説が嫌いで、小説は長ければ長い程よく、長くて面白い小説に出会うと、本当に生きていてよかったと思うぐらい嬉しい気持になる。パール・バックの『大地』や、A・デュマのモンテクリスト伯や、司馬遼太郎の長編歴史小説やレ・ミゼラブルは何度読んでも面白い。延々と続く人生や事物の移りかわりや、生活のディテールの展開がわくわくさせてくれるのである。もう一つのわくわくしてしまう小説は、フリーマントルやクィネル、初期のフレデリック・フォーサイスの一連の小説である。国際政治の舞台裏で生きるやさしいスパイ達の知力をつくしたゲーム。風邪を引き、上り下りする熱に浮かされながら1日中暖かい寝具の中で読む幸せがどこにあるだろうか。

最後に、最近古本屋で偶然手にいれた Brian Froud と Alan dee による『Faeries』という美しい本が私の机の上に置いてある。人間の空想力の楽しさ、豊かさを十分表現してくれる様々な『Faeries』のイラストと解説はユーモラスだが邪悪だったり、子供達をミステリアスな世界へ案内してくれる Faeries の生活とディテール、空間はM・エンデの本以上に私を楽しませてくれている。

（建築家・神戸山手女子短期大学講師）

ありむら　けいこ

1942年　大阪市生まれ
1967年　大阪市立大学家政学部住居学科卒業
1968年　神戸大学大学院工学研究科修士課程修了
　　建築ジャーナリズム研究所入社
1972年　象設計集団に参加
　　東京造形大学講師
1973年　目白女子短期大学講師
1977年　芸術選奨文部大臣賞受賞（グループ）
　　都市計画学会賞石川賞受賞（グループ）
　　淑徳女子短期大学講師
1978年　象設計集団神戸アトリエ開設
　　神戸山手女子短期大学講師
1981年　いるか設計集団開設　代表取締役

主な作品

松阪市働く婦人の家、脇町図書館、
ドーモ・エ・チーロ、プチホテルアウゼ

昭和63年度・第2回若い会員の集い

みどり学習会(第13回)

チンチン電車で帝塚山

――〝まち〟、〝みち〟、〝いえ〟のみどりの景ぶらりぶらり――

レポート

数日来の寒さに加え、木枯しの吹く午後1時半、集合場所の天王寺駅前歩道橋上に参加者全員が勢ぞろいした。この日は雲行きもいまひとつはっきりしなかったにもかかわらず、当日参加の方もあり、担当委員、事務局も合わせると40名の大部隊となった。参加者は、建築、地域計画、造園の専門家から主婦まで実に幅広く、とくに主婦が多かったのが特徴的であった。また、企画が帝塚山の住宅地を歩きながら、現地のみどりに親しもうというものであったためか、見学コース周辺に居住している方々の参加が多かった。

さて、見学の部は、まず上町線に乗って帝塚山3丁目へ移動することから始まった。40名もの人達が一度に電車に乗り込むので混乱が心配されたが、担当委員の適切な運営もあり、全員スムーズに現地へ降り立つことができた。

徒歩での見学の前にコースの地図など資料の配布、説明があり、いよいよ出発。今回の企画には、見学コースの途中にいくつかのスポットが設けられ、その地点にある樹木の名称当てクイズが組み込まれていたため、各スポットでは参加者同士が情報交換をしたり、ちょうど、植木の剪定をしていた職人さんにカンニングをするちゃっかり組が現れるなど、楽しい場面もみられた。また、古くからこの地域を知っているという参加者からは、付近の変貌の様子を聞きながら歩くこともできた。

見学コースが上町台地の南の縁に位置しているため、台地の上や谷底部にまたがり、地形的にも変化に富んでいて、生活の中のみどりにもお屋敷町風から下町風までいろいろな顔があった。途中、街路樹の枝がおとされ、名称あてにとまどうハプニングがみられたりしながら、終点の阿部野神社に到着した。

引きつづき、会場を西成区民センターへ移し、大塚守康氏による講演が行われた。大塚氏は本業のかたわら、大阪芸術大学で講師をされているだけに、非常にわかりやすい語り口で、1時間にわたり「総合的設計としての風景・街・生活」と題して話された。

氏は、まず建築と造園の違いを、前者が外に対して防衛的であるのに対し、後者は外側に向けてややソフトであるとした上で、「造園家は総合屋であれば良い」との立場から、みどりが風景・街・生活の中で果たす役割などについて語った。講演の中でとくに印象に残ったのは、「都市計画によりつくられたニュータウンは画一的であり、ゆらぎが必要である。大阪のニュータウンには熟成が不足している」との言葉であった。泉北ニュータウンに住む身晶屓からすると、泉北は千里ニュータウンにくらべ、大分ましではないかと思うのだが。いずれにしろ、人工的な緑地の熟成には、メンテナンスのための人間の手をいかに加えるべきか、難しいところであろう。

なお、今回の企画では、講演後大塚氏も交え、飲み物とスナックを楽しみながらの懇親会が行われた。氏は、この席でも参加者の質問に熱心に答えられ、和気あいあいのうちに時間が過ぎていった。楽しいひとときを過ごして会場を出ると、外は雨であった。

レポータ 宮野道雄／大阪市立大学生活科学部住居学科講師



図―1　ウォッチングカード



チンチン電車で帝塚山三丁目へ到着

企画を終えて

今回の企画にあたっては、「みどり学習会」が13回目を迎え、内容がマンネリ化しつつあるのではということや、「みどり」というものを、建築とか造園とか一つの分野にこだわらずに新しい視点でとらえていく、という点に留意しながら分科会で討論を重ねていった。

私見ではあるが、これまで12回行われた当企画の内容を大別すると、一つは「造園作品の見学」、もう一つは「植物学的なみどりの学習」の機会を設けてきたように思うのである。ただ、これらの企画の批判をするつもりは毛頭無く、もう一つ別の異なった側面から、みどりというものを捉えたいというのが私の願望であった。

私は、造園設計事務所においてみどりを専門の職業としているが、正直なところその実体については終始量りかねている有様である。それは、みどりというものが、それが置かれた環境や、捉える視点の違いによってさまざまな「あり方」を示すからである。たとえば、大自然において生態系の一つを構成する植物もみどりであり、家庭の庭先に花をつける草花もまたみどりなのである。そして建築設計において、一つの「住宅」が設計者にとっては「作品」であり、住み手にとっては「住まい」であるというようなことが、造園の設計においてもしばしば問題となっている。

ここで、この実体のつかみ難いみどりについて、造園学、植物学、生態学等の枠を超えた一つの視点を紹介したい。

それは、「みどりが私たちの生活にどのような係わりを持っているか」という、人々の生活を尺度にしてそれを見てみようという視点である。

今回の講演をお願いした大塚守康氏は、「造園設計とは、単に樹や物や空間をデザインするのではなく、そこで繰り広げられる人々の生活をデザインすることである」と述べている。つまり、樹に関して言えば、森の中にある樹と神社の境内や庭先の樹では、それらの持っている人々の生活に対する役割や、人々の樹に対する愛着や感情等、樹と人の係わり方が大きく異なるというわけである。

私は、この「人々の生活との係わり」を視点としたみどりの学習を、今回の企画として提案した。

企画・運営に当たった分科会では、どの様にすれば参加者に対して、企画の主旨である「みどりと生活の係わり」について理解を深めてもらえるかについて討論が重ねられた。そして、まず人々の生活に密着したみどりということで、植物園等の特定の施設を対象とせず、街の中のみどりを見学し、その後で前述の大塚氏を招き、みどりと生活に関する内容の講演会を行うということに意見がまとまった。そして見学コースについては、高級住宅街から下町まで景観に変化があり、さまざまなみどりのあり方を見ることができ、その上に参加者をつのる際、アピール性に優れているということで帝塚山界わいが選ばれた。またこの企画をより魅力あるものとし、広く一般の人々が参加しやすく、親しみのあるものとするため、帝塚山までの交通機関に路面電車の上町線を利用し、「チンチン電車で帝塚山」というタイトルのもとに展開することとなった。

しかしながら、ここで景観や建築に関して予備知識のない一般の参加者が見学の際、街並みやみどりに関心を示しながら歩くことができるかという懸念が生じた。そこで、一つの試みとして、街並みを見る方法のガイドとなるウォッチングカード（**図－1**参照）を6枚（6スポット）用いることにした。これは、見学コース上の風景の写真と、景観の感じ方を表現するいくつかの形容詞対から↗なり、参加者が見学途中でカードと同じ風景を発見し、その風景をどのように感じるかを、前もって用意した形容詞を用いて表現してもらうしくみとなっている。

このカードを使用することによって、参加者が注意深く風景をとらえ、それをどう感じるかを、自分自身に問いかけてもらうことを目標とした。

またアトラクションとして、カードの写真の中に写っている樹木の名前当てクイズを行い、見学の楽しみを付け加えるとともに、よりいっそう樹木に親しみを持ってもらえるよう工夫を加えた。このウォッチングカードの使用は、特定の対象のない街並みの見学に関して、かなりの効果を上げたのではないかと自負するところである。

当日のレポート

当日は、11月下旬にしては大変寒く風の強い日であり、見学会のコンディションとしてはかなり悪いものであった。そのため、多数の欠席者が出るのではないかと内心不安であったが、集合時間内には、申し込み者のほぼ全員が集まり、予定通り開始することができたのは幸いであった。

天王寺からチンチン電車に乗って帝塚山3丁目まで移動した後、帝塚山ミューズコート前で資料を配布し、見学コース、ウォッチングカードの記↗入方法等の説明の後、スタートした。

マンション化が進む帝塚山の顔とも言える邸宅街を抜け、中層団地、低層密集住宅地というさまざまな街並み形態を呈するコースを参加者は、自分の関心のある建築や風景にカメラを向けたり、樹木名クイズに頭を悩ませたりし、時おり吹く強風に身を震わせながらも、思い思いに街並みウォッチングを楽しみながらゴールの阿部野神社へ向かった。スタートからゴールへの移動は、綿密な下見の成果があり、時間通りスムーズに行われ、途中「ドムール北畠」等、いくつかの著名建築にとくに見学時間を持つことも可能であった。

阿部野神社から西成区民センターに移動後、大塚守康氏による「総合的設計としての風景・街・生活」というタイトルで講演が行われた。

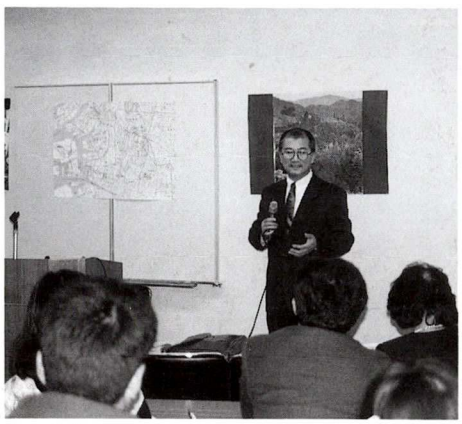
氏の講演内容は、造園家の立場から、造園の設計・計画の話を交えながら、樹木から街づくりまで、普段人々が広く係わる問題を帝塚山、住吉、港区等具体的な地区を題材にしながら、専門的な内容を解りやすく話され、一般参加者に対しても、十分に内容の理解できる興味深いものであった。

講演終了後、樹木名クイズの成績優秀者に対し、賞品が授与され、ひき続いて、飲み物を飲みながらのフリートーキングが行われ、なごやかな談笑のうちに閉会の時刻を迎えることとなった。

今回の企画を通じて、みどりのあり方を追求する一つの方法にチャレンジし、一応の成果は収めたつもりではあるが、まだまだ追求の余地があったことも事実である。今後このような企画の場合、対象となるテーマや参加者の設定について、もう少しターゲットを絞った方がより目標に近づけたであろうと考えている。また、見学会の開催については、気候の良い時期を選ぶことが大切であることを身をもって知った一日であったことを付け加えておく。　**田中　康**（若い会員の集い小委員会委員）


樹木当てクイズに頭を悩ます


帝塚山の新名所


大塚守康氏の熱弁


いよいよクイズの結果発表


まさか自分が!!

日　時　昭和63年11月26日(土)　集合13:30→解散18:00
講　師　大塚守康氏（株式会社大塚造園設計事務所所長）
参加者　40名
主なスケジュール
13:30　上町線で帝塚山三丁目へ移動
14:00　挨拶及びスケジュールの説明
14:10　帝塚山界わい見学
16:00　講師紹介
16:05　講演「総合的設計としての風景・街・生活」について
　　大塚講師　於大阪市立西成区民センター
17:05　質疑応答及び簡単な懇親会
18:00　閉会・解散
企画担当　本会若い会員の集い小委員会委員
　　田中康・手島広行・宮崎良彦

◀第11回情報・システム・利用・技術シンポジウム —日本建築協会後援—

日本建築学会主催の標記催しは、従来の「電子計算機利用シンポジウム」を改称したもので、今回は特別テーマとして「都市データの利用」を取り上げ、都市データ利用に関するビデオも上演します。

記

と　き　1989年 3 月15日(水)～3 月17日(金)
ところ　建築会館ホール（東京都港区芝5－26－20）
参加費　会員（主催・後援団体会員）　9,000円
　　会員外　15,000円　　学生　4,500円
申　込　現金書留に60円切手貼付の返信用封筒を同封して、２月末日までに、日本建築学会（〒108 東京都港区芝５－26－20 電話 03－456－2051）へ申し込んで下さい。

■３月15日　AM９:00～PM５:00
・諸問題と建築計画／桑形松夫（デルファイ研究所）、寺井達夫(建研)ほか
■３月16日　AM９:00～PM５:45
・構造と環境工学／桜井譲爾(早大)、藤井修二(東工大)ほか
・特別講演（PM４:15～５:45）
「電脳住宅・電脳ビルから電脳都市へ」／坂村健(東大)
■３月17日　AM９:00～PM６:15
・都市計画／高辻秀興(東工大)ほか
・ＣＡＤ米国視察報告／檜山卓夫(竹中工務店)ほか
・都市データ／笹田剛史(阪大)ほか
・パネルディスカッション「都市情報の料理法：売れる都市情報を生み出すノウハウ－地形図からインフォメーションマガジンまで－」
司会：沢井健(プラスワン)／秋山実(国土地理院)／林秀美(ゼンリン)／矢野元久(講談社)／角野幸博(電通大阪支社)

◀シンポジウム「建築物のリニューアルに関する諸問題と解決事例」—日本建築協会協賛—

都市文化やまちづくり、あるいは建築経済やビル経営に触れつつ、国内外の実践例の紹介をふまえて、リニューアルをめぐる諸問題を解明しようとするシンポジウムで、日本建築学会近畿支部建築経済部会の長年にわたる研究成果をベースにしています。

記

と　き　1989年 3 月17日(金) AM９:30～PM５:00
ところ　建設交流館・８階グリーンホール
　　（〒550 大阪市西区立売堀2-1-2　電話 06－543－2551）
定　員　300名
参加費　日本建築学会会員10,000円　協賛団体会員11,000円
　　学生5,000円　その他12,000円（いずれもテキスト代含む）
申　込　郵便振込または現金書留にて、３月10日(金)までに主催の日本建築学会近畿支部（〒550 大阪市西区靱本町１－８－４ 電話 06－443－0538）へ申し込んで下さい。ただし定員になり次第締め切ります。

・リニューアルが拓く新しい建築の世界／三村浩史(京大)
・建築物の用途変更事例調査／福原裕治(大阪市)
・リニューアルの経済性／小林清周(元 大阪工業大学)
・「都市の装置」による町づくり／國本喜之(リエゾンオフィス)
・カーニバルプラザ／奥井敬治(奥井設計工房)
・神戸市内の実例を通して保存活用をさぐる／武田則明(武田建築設計事務所)
・ナブラッド京都・ナブ堺萬／上原正行(竹中工務店)
・海外事例について／藤本佳子(大谷女子短期大学)
・パネルディスカッション「建築物の修復と再生の諸問題」

INFORMATION　お知らせ

「二色の浜集合住宅コンペ」最優秀決定と応募作品展示

大阪府貝塚市二色の浜パークタウンの一部で、大阪府主催のまちづくりコンペ「二色の浜集合住宅コンペ」が昨年７月に実施され、審査委員会の審査（委員長：高橋靚一大阪芸術大学教授）を経て、12の応募作品の中から、にしき環境創造体の案が最優秀作品として本年１月27日に発表された。

この案は、平成元年度から５年度の事業期間を予定して、大阪府とにしき環境創造体によって事業化されることになる。

なお、応募12作品の展示会は、２月20日からの４日間、大阪国際交流センターで催される。

*

■作品展示会（入場無料）
と　き　1989年２月20日(月)～23日(木)
　　AM10:00～PM５:00（23日は12時まで）
ところ　大阪国際交流センター・１階ギャラリー
　　（大阪市天王寺区上本町8-2-6 電話 06-772-5931）
内　容　下記応募作品の模型、図面、提案趣旨等

■応募者（順不同）
にしき環境創造体〈住友信託銀行㈱ほか12社〉
Ｒ・Ｎ・Ｓ・Ｈ企業体〈リバー産業㈱ほか３社〉
戸田建設・日興不動産グループ〈戸田建設㈱大阪支店ほか１社〉
大京、白水、新井、共同企業体〈㈱大京大阪支店ほか３社〉
住友不動産グループ〈住友不動産㈱ほか１社〉
二色の浜KOSMYグループ〈近鉄不動産㈱ほか４社〉
りんくうバウ21グループ〈大成建設㈱大阪支店ほか５社〉
積水ハウスグループ〈積水ハウス㈱ほか１社〉
大宅・大住協グループ〈大阪府不動産事業協同組合連合会ほか6社〉
東急・鹿島・住商グループ〈東急不動産㈱関西支社ほか２社〉
二色の浜Ｍ.Ｍ.Ｕ.グループ〈三井不動産㈱大阪支店ほか２社〉
丸紅グループ〈丸紅㈱ほか４社〉

下町再生案、全国から募集

神戸市は、同市のＨＯＰＥ計画の一環として、インナーシティでの住宅、住環境改善の指針となる「いきいき下町づくり提案」を全国から募り、今後の町づくりに反映させる。

提　案　●第１部門　**下町づくりアイデア**
住みたくなる下町のイメージを求める。神戸市内の実在の区域を想定し、文章は400字詰原稿用紙３枚に、イラスト・漫画はＡ３判１枚程度にまとめる。
●第２部門　**システム・設計**
インナーシティー再生のシステムや、街区・住宅の具体的モデル設計を、Ａ２判１～２枚に文、概念図か建築図面で表す。
賞　金　第１部門—特選10万円、入選２万円
　　第２部門—特選30万円、入選５万円
応　募　兵庫県建築士会（〒650 神戸市中央区北長狭通５－５－18　電話 078-351-2800）へ、３月20日～31日に持参か郵送する。

詳細は、神戸市住宅局住環境整備課（電話 078－331－8181）へ。

「災害弱者の安全を考える」論文募集—神戸市消防局—

神戸市は、老人、心身障害者、身体障害者等の災害弱者の安全を確保する施策・対策を立て推進するために必要な提言、アイデア、事例報告の論文を募集している。本年７月に入選発表後、最優秀・優秀作は、本年９月14日に神戸市で開催する「1989年災害弱者・国際防災シンポジウム神戸大会」会場で入賞者本人により発表することとなる。

*

テーマ　部門Ⅰ　人命安全を目指す施設づくり
　　部門Ⅱ　災害弱者と住環境
　　ほかに、「老年者の疾病とその対策」、「災害と地域ネットワーク」部門あり。
規　定　論文は、Ｂ４判縦書き・400字詰原稿用紙５～７枚(図表除いて)・黒のボールペンか万年筆による手書き。ワープロも可。別紙に表題、部門別、住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号を明記すること。
賞　最優秀作１編10万円、優秀作数編５万円、佳作若干３万円、ほか記念品。
締　切　1989年４月末日（当日消印有効）
応募先　神戸市消防局庶務課（〒650 神戸市中央区加納町６－５－１　電話 078－333－0119）

いま、大スパン木構造が変わろうとしている／—大・中規模木造建築物の設計・施工講習会—講演・葉祥栄「木造のかたち」ほか
３月15日(水)10:00～16:50 於・建設交流館(大阪市西区立売堀2-1-2) 一般 5,000円、学生 3,000円、申込は新日本建築家協会近畿支部(TEL06-229-3371) へ

●建材委員会工場見学会レポート

INAXの拠点
上野事業所3工場を訪れて…

INAX上野事業所
昭和38年に設立された上野地区の工場で本社工場の創立以来はじめて愛知県外に建てられた工場で全国に14ヶ所ある工場のなかで上野事業所はタイル工場・外装工場・住器工場・小田工場の4工場を有する大規模な生産工場として本社工場に次ぐ生産量を有している。
（上野事業所案内リーフレットより）

と　き　昭和63年11月15日(火)
ところ　㈱INAX上野地区工場
　　三重県上野市三田及び上野市緑ヶ丘
参　加　25名

昭和63年晩秋の一日建材委員会では25名の出席で、株式会社INAX上野地区工場の見学会を催すことができました。
この見学会の準備と打合せなど細々（コマゴマ）とした配慮は、建材委員会委員藤野鐵三氏（現・藤木工務店四国支店副支店長）に大変お世話になりました。

秋深い近鉄大阪線を特急で名張駅まで乗りましたが、沿線には、ススキや、セイタカアワダチ草が、午前の秋の太陽のやさしい光に、サンサンと照らされ、山あり、川あり、谷あり、緑あり(針葉樹)、黄あり(いちょう)、紅あり(ケヤキ)、の一幅の絵画をみるようであり、またススキの枯葉が、やがて冬の到来を告げるようなうすら淋しさも感じさせました。

八木を過ぎる頃田は完全に刈り取られ茶黄色一色であった。車窓からは、当麻寺とか、国宝大日如来とか、奈良仏教文化の匂いのする看板が見受けられ車中でコーヒーを飲みながら悠々の一時を過していると車中で隣席のお年寄夫婦がこの辺は大阪通勤圏だねと話し合っているのを聞いた。私は名張からでも通う人がいるんだからこの辺は勿論通勤圏だと思ったが、新しい住宅地に住む人達の古いコミュニケーションに相対しているんだなと感じながら疎外感のない生活を送ってほしいと思う。上本町駅発9時10分—名張駅10時02分着……INAX関係者の出迎えを受け、駅前よりタクシーに分乗して10時40分頃上野タイル工場に到着した。

●上野タイル工場

ここは昭和38年操業開始、従業員430名、24時間三交代フル操業中であった。ここでは商品名アガトス（ギリシャ語で大きくて立派という意味）を生産している。寸法は900角、600角、300角、外に300×600、450×600、と製品寸法がある。耐寒性、全天候性でありモルタル塗下地にエキポシ樹脂を貼付け、またはPC板に組みこみもできる、また石造りと同じ方法でダボ使用もできるものである。原料は中国産の自然石でそれを粉砕して製造するものである。
さすがタイルの専門工場だけあって、清潔で能率的で立派な製品の連続流れ作業による製造過程である。

役物や曲げ物もそれぞれ造られており、入念な施工方法の研究がなされており信頼の十分できるものでなるなと感じた次第である。

●上野住器工場

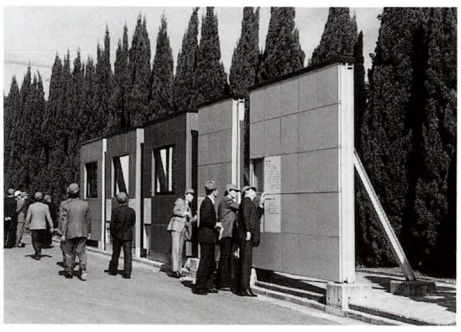
ここでは浴槽、ユニットバスの他パラボラアンテナも造られている。浴槽については最初はポリ浴槽を造っていたが24年の歳月と経験により新しい人造大理石の製品マーベリーナが生産されていた。
従業員数230名、協力工場の人200名、合計430名が働いているという。
月商20億円(営業渡し)でユニットバス部門は、過当競争により赤字ということであったが、厳格な製品検査(艶、丸み、凸凹等)が実施されており、信用を重んじる会社の社風が感ぜられた。
帰り際メタセコイヤの紅葉が美しい白い工場に映えて印象的であった。

●上野外装工場

この工場はモザイクタイルが主体で、まず田辺工場長の概略説明があり、従業員230名、月産18万㎡、売上11億円（月産）ということであった。昭和40年に操業開始以来外装、床タイル、モザイクタイルを専門としてきた。7％の含水率のある粉末を型に嵌め1300℃で焼くと約1割の縮みが出来るということであった。説明をしてくださった皆様も各工場とも親切で実直で、明快でとても良い印象であった。

夕陽が西の山際に沈む前のたそがれを受けながら名張駅をあとにして特急で一路帰途についた。紙面をかりて㈱INAXに厚くお礼申し上げます。

牧田顯治／建材委員







アクリルゴム壁面防水化粧材

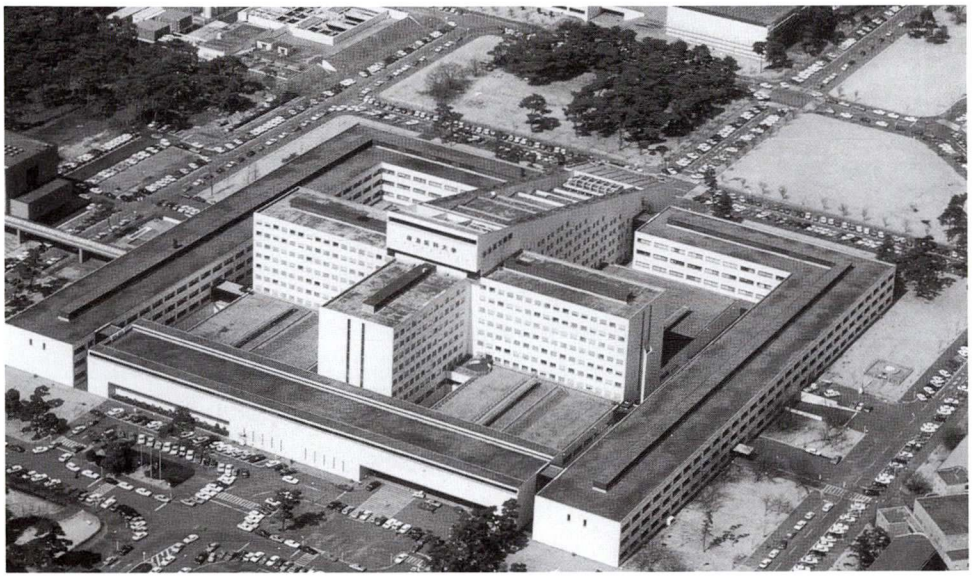
セブンウォール®

SEVEN WALL

JIS A 6021
許可番号387117

JIS A 6910
許可番号387116

新設面および改修面の外壁防水化粧



吹付タイル面の改修工法

吹付けタイル面の総合改修システム フレッシュマスト **MAST**

《特　徴》
①新しい外装に甦ります。
②下地補修から仕上げまでシステム化されています。
③躯体保護機能が優れた工法です。
④耐久性に優れた工法です。
⑤複層塗材の劣化状態に対応した工法が選べます。

信頼あるセブンCRシステム会会員に御用命下さい

A C 建材㈱	大阪府高石市高師浜3-2-33	0722-63-0321	大阪工業㈱	大阪市西区南堀江3-13-11	06-531-4814
大阪中央建材㈲	大阪市西区江戸堀1-8-15ニューエドバシビル	06-443-6765	㈱サンキット	神戸市東灘区御影塚町1-4-1	078-811-8881
富士技研興業㈱	大阪市東区本町2-25ビジネスビル	06-261-5222	サンプラス建材㈱	大阪市北区東天満1-2-2 タナカビル	06-358-3616
㈱金沢塗装工業	京都市北区大宮北箱ノ井町12-9	075-491-2973	セキシュウ技研㈱	大阪市東淀川区菅原2-11-35	06-326-1088
黒住防水工業㈱	倉敷市連島町連島4153	0864-66-0378	鈴木興業㈱	京都市左京区聖護院川原町12	075-761-1226
松美化建工業㈱	大阪府茨木市太田3-22-14	0726-26-6111	竹林塗装工業㈱	大阪市淀川区新北野1-12-2	06-301-9281
㈱三木塗装店	大阪市住吉区苅田2-9-35	06-699-6565	㈱特殊技研	大阪市北区末広町3-21 星和地所扇町ビル	06-315-0700
㈱小野工建	大阪府摂津市千里丘4-14-32	06-389-2831	東洋シポデック㈱	大阪市東区高麗橋1-2-1 高麗橋東洋ビル	06-227-1571
㈱大阪防水建設社	大阪市天王寺区餌差町7-6	06-762-5621	㈲和研防水工業	和歌山県西牟婁郡白浜町1075	0739-43-1116

株式会社 セブンケミカル

本　　社　〒160 東京都新宿区西新宿7-18-5 中央第7西新宿ビル302号
TEL.03(366)2616㈹　FAX.03(366)2619
大阪営業所　〒550 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-15 ニューエドバシビル4F
TEL.06(448)5661㈹　FAX.06(448)5662
九州営業所　〒812 福岡県福岡市東区馬出1-2-21 第2岡部ビル2F
TEL.092(651)5748㈹　FAX.092(651)5264
埼玉事業所　〒355 埼玉県比企郡滑川町大字都25-43(東松山工業団地内)
TEL.0493(56)3195㈹　FAX.0493(56)4238

吹付タイル面の総合改修システム

フレッシュマスト

株式会社セブンケミカル
本　　社　〒160 東京都新宿区西新宿7丁目18番5号（中央第7西新宿ビル3F）　TEL 03(366)2616代 FAX 03(366)2619
大阪営業所　〒550 大阪市西区江戸堀1－8－15（ニューエドバシビル4F）　TEL 06(448)5661代 FAX 06(448)5662
九州営業所　〒812 福岡県福岡市東区馬出1丁目2番21号（第2岡部ビル2F）　TEL 092(651)5748代 FAX 092(651)5264

●はじめに

建築物の内外装表面仕上げ材として、薄塗材(リシン)、複層塗材(吹付けタイル)、厚塗材(スタッコ）などが過去から大量に用いられてきている。これらの材料は、比較的簡易に種々の模様、自由な色彩が得られ、建物を装い、また保護できるが、経年による材料劣化は避けられず、美装上からも、建物の保護機能上からも、適切な時期に改修することが、建物の維持保全上および耐久性向上の見地からも重要である。

仕上塗材の耐用年数（適切なメンテナンスまでの期間と解釈して）を、通常10～15年と見なすと現在までの改修工事においては、過去の仕上塗材の需要動向から砂壁状吹付材（薄塗材：リシン）が旧表面仕上げの主体であった。しかしながら昭和40年代のおわり頃から急激に複層塗材（吹付けタイル）の需要が伸びており、今後は、複層塗材の改修が主体となってくると判断される。

このような状況から、今回吹付けタイルの改修システムとして“フレッシュ・マスト”(Maintenance Audit System of Tile-like Coatings)が開発されたのでここに紹介する。

●特　長

①新しい外装に甦ります。
②下地補修から仕上げまでシステム化されています。
③躯体保護機能が優れた工法です。
④耐久性に優れた工法です。
⑤複層塗材の劣化状態に対応した工法が選べます。

●フレッシュマスト工法の概要

複層塗材仕上げ面は、経年により様々な劣化状態を示しており、改修仕様をつくる上で、旧仕上材の劣化度に対応していることが重要である。このため旧仕上材の劣化度を3段階としている。

劣化度Ⅰは、比較的軽微な状態で、上塗材または、旧仕上材表面のひび割れを被覆し保護するサーフェーサー層と、上塗材との組合わせたもので、旧仕上塗材の模様を生かしつつリフレッシュする工法を選定している。

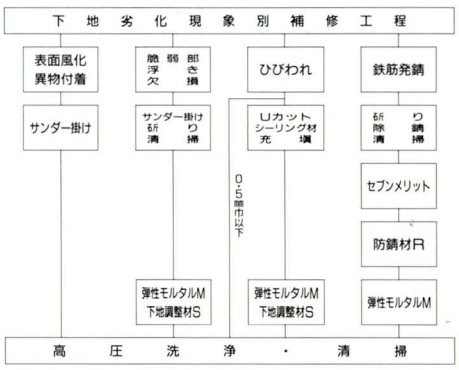
劣化度Ⅱは、旧複層塗材の劣化がかなり進んだ状態で、全体として旧仕上材自体、活膜を保持しているものの部分的には、ふくれ、はがれ、付着力低下を生じている段階である。この場合、不具合部をケレン修復し、保護仕上げ層を形成することになる。改修仕様としては、防水仕上げするもの、より大きなローラー模様を形成するもの、可とう性のある埋め戻し層と新たな耐久保護層を組合わせたもの、などがある。旧仕上材の劣化がかなり進行しているので、いずれの改修仕様も新たに保護機能を付与し、耐久面でも優れたものを選定している。

劣化度Ⅲは、旧仕上塗材の劣化が広範囲であり、接着力低下もかなり大きい状態という。この場合は、一般に素地自体もひび割れ、欠損、鉄筋露出、その他の劣化現象がかなり見られることが多い。この段階では、旧仕上塗材自体の今後の耐久力が期待できないため、旧仕上塗材を全面ケレン除去する必要がある。ケレン方法には、サンドグラインダ掛け、はくり剤による薬液処理、超高圧水洗浄(1500kg/㎠)、ウェットサンドブラストなど各種考えられるが、標準として、はくり剤処理法を選定した。表面仕上げには躯体保護機能が高く、耐久性の優れた仕様としている。これらの概要について**表1**に示す。

複層塗材の経年による劣化状況については、単に紫外線、熱、水などの劣化外力による自然劣化だけでなく、むしろ新築時の下地乾燥条件、施工時の気象条件、材料調合条件、所要量など、当初の施工時の条件が適切でない場合に、著しく劣化進行する傾向にあるため、経過年数のみによる改修仕様決定は危険であり、今回のように劣化状況に合わせて改修仕様を選ぶこととした。

改修時には、表面仕上げ材のみの選定では、不十分であり、下地の補修も十分行って、仕上塗材との組合せが適切なものでなければ、改修以後の美装保護機能、耐久性向上などを望めない。したがって下地補修材と仕上塗材を組合わせた改修仕様をつくり上げているのがフレッシュマストの特長である。補修方法については、**図1**に示す。

図1　下地劣化補修方法

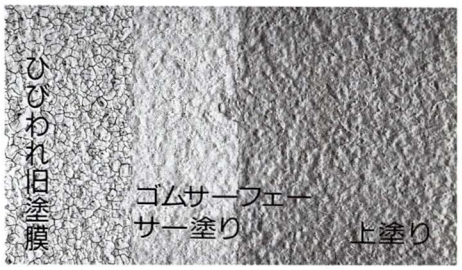


本システムにおいて選定された補修材、仕上塗材は、全般的に可とう性のある材料で統一されており、改修材が高強度のため、下地、旧仕上げとの強度差を生じ2次的な不具合を生じるのを避けている。また改修材料は補修材、仕上塗材とも、セメントとポリマーの複合タイプを主体としており、ケレン補修部、旧仕上塗材の両者に相性が良く、しかも耐久性面でも良好なことに留意されている。

特に奨めたいものとして、劣化度Ⅰ程度の場合では、今後のメンテナンスサイクル延長と、長く美装性を確保するため、ゴムサーフェサー処理後の変成シリコーン上塗材(セシセブントップMS）塗り**（写真・1）**があり、劣化度Ⅱ、Ⅲでは、下地調整材S処理後、無機/有機複合形仕上塗材(セラセブンスーパー）塗り**（写真・2）**がある。

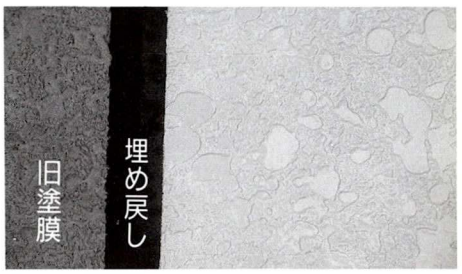
（長谷川宏／建材委員）

MB工法　写真1



ひび割れ処理後の上塗りによるリフレッシュ

ME工法　写真2



埋め戻し後、新たな仕上げ

表1　フレッシュマスト各工法の概要

	工法名	工法	内容
劣化度Ⅰ	MA－1工法	軽度の劣化面に対する簡易なトップコートによるリフレッシュ	セラセブントップAC（弾性アクリルエナメル）塗り
	MA－2工法	軽度な劣化面に対しての超耐候性トップコートによるリフレッシュ	リフティング防止用にセブンメンテシーラー処理後、超耐候性のセラセブントップMS（弾性変成シリコーンエナメル）塗り
	MB－1工法	旧塗膜のヘアークラックを処理してトップコートによるリフレッシュ	セラセブンゴムサーフェーサー(可とう性ポリマーセメント系)処理後セラセブントップAC塗り
	MB－2工法	旧塗膜のヘアークラックを処理して、超耐候性トップコートによるリフレッシュ	セラセブンゴムサーフェーサー処理後、超耐候性のセラセブントップMS塗り
劣化度Ⅱ	ＭＣ工法	防水形複層塗材による機能性付与	セラセブンTS（防水形複層塗材E）塗り
	ＭＤ工法	厚付けローラー塗りによる新たなパターンへのリフレッシュ	セラセブンパット（可とう形厚付けローラー塗材）塗り
	ＭＥ工法	旧塗膜を弾性モルタルにて埋め戻し、耐久、保護仕上げ	下地調整材Sにて埋め戻して平坦化し、セラセブンスーパー（無機系防水形複層塗材）塗り
劣化度Ⅲ	ＭＦ工法	劣化旧塗膜をはくり剤等で除去し耐久保護仕上げ	旧塗膜をカッティングし、リムーバー（はくり剤）で処理除去後、セラセブンスーパー塗り

●このコーナー拡充のためのご意見・ご要望等お聞かせください。　（社)日本建築協会建材委員会(増田)

法令コーナー

編集委員会法令分科会

234

再開発地区計画制度の創設

再開発地区計画制度が、「都市再開発法及び建築基準法の一部を改正する法律」により創設された。本法は、昭和63年5月20日に公布され、同年11月15日に施行されている。ここではその概略について説明したい。

近年の状況

近年、経済、社会構造の変化に伴い、重厚長大型産業の停滞等、産業構造の転換が進んでいる。また、物流、交通体系の近代化も急速に進みつつある。これらの変化に伴い、その拠点としての大規模工場や、鉄道操車場等流通施設用地などにおいて、低利用・未利用地が多く発生してきている。

これらの土地は、比較的交通の便がよく、工業系土地利用のため土地が低度にしか利用されていず、道路公園など公共施設が不十分であり、さらに土地がまとまっているなどの特徴がある。

また、これらの土地のある地域においては、その産業の停滞により、地域の活性化を求める声が強く、地域の実情に応じた公共施設の整備、地域の活性化に資する施設の導入が課題となっている。

再開発地区計画制度は、このように発生してきた低・未利用地の一体的かつ総合的な市街地の再開発を行うことにより、都市機能の更新をはかるとともに、住宅、宅地供給の促進と、地域の活性化を進めようとするものである。

再開発地区計画制度の概要

（性格）

都市計画として市町村が決定する。再開発地区計画は「地区計画等」に組みこまれた。**（都市計画法第12条の4第1項）**

（対象地区）

次の条件に該当する区域で一体的かつ総合的な市街地の再開発を実施することが適切であると認められる区域**（都市再開発法第7条の8の2第1項）**

①現に土地の利用状況が著しく変化しつつあり、又は著しく変化することが確実であると見込まれる区域

②十分な公共施設のない区域

③当該土地の高度利用を図ることが都市の機能更新に貢献できること

④用途地域の定められた区域

（再開発地区計画に定める内容）

（同法第7条の8の2第2項）

①種類、名称、位置及び区域、面積

②再開発地区計画の目標並びに土地利用に関する基本方針、その他の整備及び開発の方針

道路、公園その他の施設の配置及び規模（都市計画施設及び③の地区施設を除く）

③主として街区内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の施設（地区施設）及び建築物等の整備並びに土地の利用に関する計画（再開発地区整備計画）

さらに再開発地区整備計画については、次のうち必要なものを定める。**（同法第7条の8の2第3項）**

(イ)地区施設の配置及び規模

(ロ)用途、容積率、高さ、壁面の位置等、建築物等に関する事項

(ハ)その他の土地利用に関する事項

容積率の最高限度については、用途地域に関する都市計画で定められている一般の容積率を超えて定めることができる。

（行為の届出等）

（同法第7条の8の3）

①再開発地区計画が定められている区域内において建築物の建築等を行おうとする者は、市町村長に届け出なければならない。

②市町村長は届出があった場合、その届出に係る行為が再開発地区計画に適合しないと認めるときは、設計の変更等を勧告することができる。

（再開発地区整備計画についての要請）

再開発地区計画の区域内のうち、建築物及び、公共施設等の整備を行うにふさわしい相当規模の土地の所有者等は、その全員の合意により、建築物及び公共施設等の整備を内容とする協定を締結した場合は、再開発地区整備計画を定めるべきことを要請することができる**（同法第7条の8の4）**

（条例に基づく制限）

再開発地区整備計画が定められた区域内において、建築物の敷地、構造等、又用途に関する事項で、再開発地区計画の内容として定められたものを、条例で、これらの制限として定めることができる。**（建築基準法第68条の2）**

（制限の緩和）

再開発地区整備計画の定められた区域内においては、

①その再開発地区整備計画の内容に適合し、かつ特定行政庁が交通上、安全上、防火上、及び衛生上支障がないと認める場合は、同法第52条の規定（一般の容積率制限）は適用しない。**（同法第68条の3第1項）**

②敷地内に有効な空地が確保されていることなどにより、特定行政庁が交通上等の観点から支障がないと認めて許可した場合は、同法第56条の規定（斜線制限等）は適用しない。（許可に際し建築審査会の同意が必要）**（同法第68条の3第2項、第3項）**

③再開発地区計画に定められた土地利用に関する基本方針に適合し、かつ当該再開発地区計画の区域における業務の利便の増進上やむをえないと認めて許可した場合は、用途制限の特例が認められる。（同法第48条ただし書運用による）**（同法第68条の3第4項）**

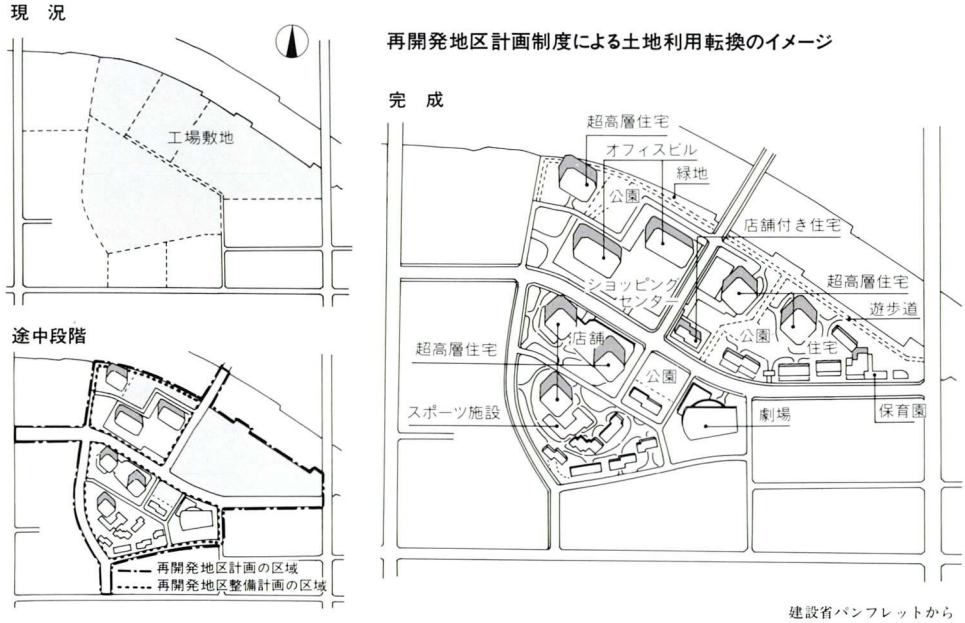
有効な活用に向けて

最近の地価高騰対策として、各方面において種々の対策が講じられてきたが、国においても昭和63年6月28日に総合土地対策要綱が閣議決定され、土地対策への取り組み方向が示されている。その中で、宅地対策、住宅対策等の推進として都市再開発、住宅地開発の促進や、低・未利用地の利用促進を図るとされている。また、その中において、地区計画制度、再開発地区計画制度の効果的な活用を図ることとされている。

今回創設された再開発地区計画制度により、既存の事業制度、法制度等によるまちづくりにさらに新しく効果的な手法を加えることになった。この制度が、都市機能の更新や土地問題など種々の課題に対し有効に活用されることを期待したい。

（大阪市計画局計画部都市計画課地域係長　加藤照男）

再開発地区計画制度による土地利用転換のイメージ



建設省パンフレットから

部門だより

構造物試験室・企画室——

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1　〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
土曜：9：00～12：00

構造物試験室

1.構造部門

受託業務の傾向

(1)　高層ＲＣ架構用部材の開発研究に関する試験

近年、ＲＣ造高層建築構造物の開発研究が設計・施工分野で精力的に推進されてきており、これを受けて高強度材料を用いた高層ＲＣ架構用柱、はり、柱はり接合部の耐力と変形性能を確認するための大型模型（縮尺1/3～1/2）試験依頼が増えています。高強度材料の使用に伴う装置の大容量化が求められる傾向にあります。また、これから高層ＲＣの開発を手がけようとしている企業からの実験研究計画の相談にも応じています。

(2)　非耐力壁等の変形追従性試験

プレキャストコンクリート製カーテンウォール、それと軀体との接合部ファスナーの製造・施工に当って、その変形追従性能確認のための試験依頼が従前よりやや多くなっています。この試験は、準静的加力法のみでなく、動的加力法によっても行われる場合が多くなっています。

(3)　その他の試験・調査

鋼構造柱はり接合部、コンクリート充填鋼管柱、合成床、太径鉄筋使用ＲＣ実大ばり、型枠コンクリートブロック造壁体、鋼製継手を有する集成材柱はり接合部等々の、最近開発が進められている各種構造部材の力学性能確認のための縮小・実大模型加力試験受託と、既存建物の耐力診断の問合せ・受託の増加も最近の特徴です。

2.風洞部門

受託業務の傾向

(1)　大規模建物建設に伴う周辺風環境予測の風洞実験

縮小模型を用いた建物周辺気流の測定で、最近の市街地再開発、高層マンション等大規模建物建設ブームの中で、この種の風洞実験受託が増加しています。制御・計測システムの改良がタイムリーに実施され、実験が正確かつ迅速に行えるため、実験結果を設計にフィードバックできる点で、好評を博しています。

(2)　高層建物に作用する風圧(力)予測の風洞実験

縮小模型を用いた建物壁面の風圧及び風力測定で、高層建物や形状が特殊な大規模建物についての実験受託が増え、上記と同様の理由で、設計の初期段階でフィードバックが可能になっています。

(3)　超高層建物の風による振動の風洞実験

この実験の受託は、これまで殆んどないが、最近この方面への関心が高まっており、この実験の受託に対応する技術を修得するため、当部門の研究員が現在、京都大学で研修を受けています。次年度から受託できる見込みです。

3.土質・基礎部門

当部門は、次の基本目標を掲げて本年度開設し、既に土質試験、基礎地盤関係の診断等の受託業務を実施しています。関係各位の全面的なご支援ご協力をお願いします。

基本目標（５ヶ年計画）

(1)　土質・基礎関連の試験・計測結果の解析・判断能力の修得。

(2)　これを支援する手段としての土質試験原位置試験設備の整備と同試験法の開発。

(3)　研究員の拡充強化と実験室の開設・整備。

企　画　室

1.現状

専任２名と兼任２名が業務に当っています。昭和47年に新設された当室は、これまで、本来の企画，広報宣伝業務よりも、建築技術安全審査の事務局として、またJIS工場の公示検査の担当部局としての業務など、事業業務に専念せざるを得なかったのが実状で、今後は本来の業務、特に企画業務に力を注ぎたく考えています。

2.審査等の受託業務紹介

１）建築技術安全審査委員会

当委員会の最近の６年間の受付け件数は**表-1**の通りでこのところ、評価案件数が増え、建設業界の動向が反映されているようです。なお、この「評価」とは、建設省住指発第96号の通達に基づく、高さが45ｍを超え60ｍ以下の高層建築物の構造安全性の審査のことです。

２）国際花と緑の博覧会(花博)出展建築物等評定会議

来年鶴見緑地で開催予定の花博の仮設建物等の防災評定と構造評定を花博協会より要請され、昨年の４月、当所に標記の会議（議長：横尾義貫京大名誉教授、防災評定委員長：寺井俊夫京大教授、構造評定委員長：若林實当所所長）が設置され、昨年12月末日現在、防災17件、構造２件の案件を受付け、委員のご協力を得て、順調に評定作業が進められています。

３）公示検査

通商産業省の依託を受けて昭和56年度から実施しております。当所の担当は、大阪通産局管内のうち建築・土木関係で、工場数は**表-2**の通りで、現在３名のスタッフがこの業務に当っています。

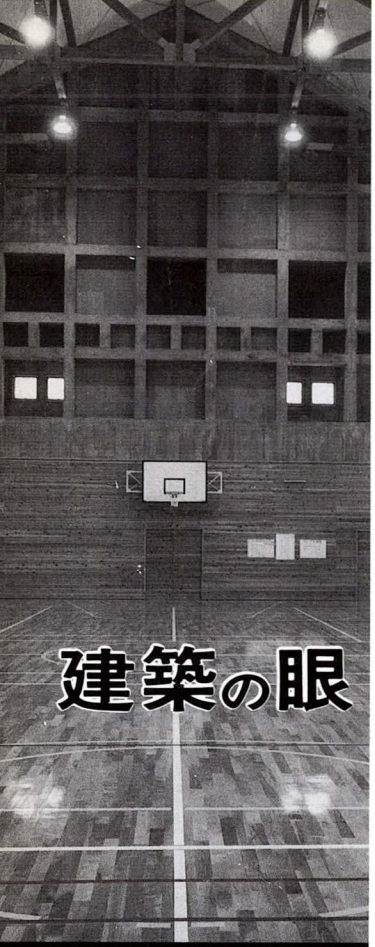
表-1

年　度	58	59	60	61	62	63＊
審　査	8	10	12	18	9	10
評　価	5	7	2	5	11	13

＊63年12月末現在

表-2

年　度	58	59	60	61	62	63
品目数	13	9	22	4	5	8
工場数	34	133	84	11	27	134



建築の眼

住田昌二
大阪市立大学教授

松田泰典
兵庫県都市住宅部営繕課長

中嶋龍彦
中島龍彦建築事務所

入江恂一
オテルオークラ神戸建設ＪＶ工事事務所所長

1月号から6月号まで上記の4氏が執筆

写真は龍神村民体育館
設計 渡辺豊和建築工房

コーポラティブ住宅の将来性

家を建てたい人びとが、集まって組合をつくり、協同して集合住宅を建てる方式（コーポラティブ住宅）が、首都圏や近畿圏を中心に草の根的に広がりだして、十数年になる。今日までで約二百組合、延べ五千戸の住宅と推定される。この方式のメリットとして、ふつう三つの点がよく指摘される。一つは各戸が好みの設計の住宅を実現できること、二つにリーゾナブルな価格で取得できること、三つ目は建設段階でお互いに気心が知れ、住み始めて付き合いがスムースにいくことである。

上の三点のうち、参加者が最初に動機として飛びつくのは、はじめの二点であるが、住んで後の感想は、三番目の点を評価する人がひじょうに多い。“コーポラティブ”は協同という意味で、個人の自由を認めながら、必要に応じて助け合っていくという点が育ちつつあるのは喜ばしい。これから日本が高齢化社会に進んでいくこと考えるとき、社会原理とすべきキーワードは「相互扶助」の精神ではなかろうかと思う。最近私たちは、びわ湖湖西の公団団地で、日本で始めての戸建住宅のコーポラティブづくりの支援をしているが、参加者は偶然にも、七十歳の世帯主を筆頭に、老・壮・青の世帯バランスからなっていて、各世代から、地域づくりのおもしろいアイデアがつぎつぎ生まれている。きっとユニークな地縁社会が育つのではないかと楽しみにしている。（S.S）

六つの風土とともに——丹波

かつて高度成長期、公営住宅や学校などの公共建築が、大量に供給することを目標として全国的に画一化された時期があった。こうした中で、兵庫県営繕は、地域、建築の個性をテーマに内部設計を維持しながら活動してきた。それが低成長期と言われるようになってからは、地方の時代とか村おこし、町づくりというように、一展、失われつつある地域性の再評価がなされるようになってきたのだが、昔日の努力を思うと感慨深いものがある。

「村おこし、町づくり」と言えば、昨年ホロンピア博覧会が開催された丹波篠山は、特徴的な街並みを軸に、地域の方々が一体となって観光の街として活性化を図りつつあるところとして注目されている。妻入り商家群や武家屋敷跡などの伝統的建築群、多紀連山に囲まれた自然環境、松茸、黒豆、山芋やボタン鍋などの特産品、丹波夜能で知られる城下町らしい文化からデカンショ祭りの庶民文化など、その特性は実に豊饒であり、魅力的である。このように豊かな地域の住民の全生活を、その歴史や地理的条件を含めて分析し、鋭い洞察力により内的関連まで把握する作業は、困難を極める。さらにそれをどこまで建築行為として昇華できるか、その手法も多様である。その努力がうまく行くかどうかは、場所の特性を凝視し続ける、創る側の姿勢次第である。結局のところ、その人の思想性と“確かさ”の問題であろうと私は思う。（Y.M）

平成に思う

建築をこころざす誰もが思い出として持っているもの、それはこのことを始めた頃のなかば狂信的ともいえる創作に対する思い入れと、あれもしたい、これもやってみたいといった貪欲な冒険心、手当り次第に見つけたものに対する衝動ともいえる試行心であろう。それもやがては年を経るごとにうすれ本当は何を創りたかったのか思い出しても訳のわからない時代を経験している。

今、昭和の幕が降りて振り返えればなつかしく想い出される人も多いことであろう。戦前の昭和は将にこういったいわば思春期であり、その思いあがり、思い入れがあのいまわしい戦争へと駆り立てたものともいえる。結果は惨憺たる目にあい又これではならじと奮戦して馬車馬の如くあえいだ結果高度成長を経て今日の爛熟期を迎えたといえるのではないだろうか。頃も折、世界的とはいいながら、昨今の建築にみる馬鹿げたはしゃぎよう、本来の建築が持つべき姿から遊離し一人歩きし出した惨さは何も建築に限ったことでは無いのだが嫌な気分になり掛けていた。特にジャーナルの馬鹿げた一種のアジとの思えるはしゃぎようが気になって居た。今昭和という時代が歴史の中にその記録を止めるに当り改めて心することとしたい。（T.N）

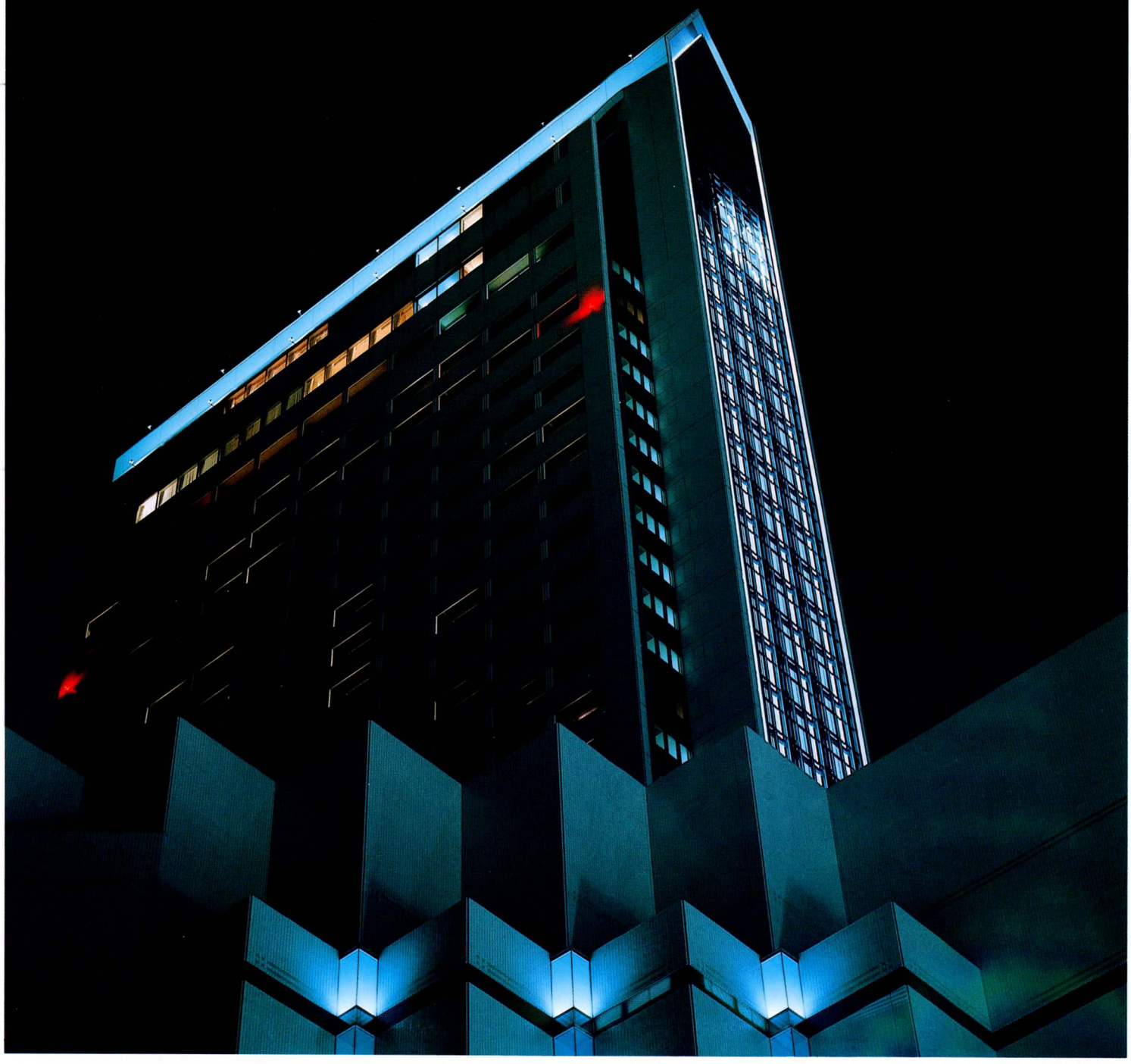
先手管理

建設工事を施工管理するための方針として、先手管理に徹すると言うことを物事の判断基準にしている。例えば我々の周囲の施主、設計事務所、近隣、諸官庁等に対して出来るだけ相手の立場に立って物事を考えて、その考えにそって行動するように務めている。そうすることによってお互いの信頼関係が生じる。逆に一方的に、自分の都合ばかり押付けていてはどうしても、相手方に不満が残り、クレームも出て来る。一旦不信感を持たれた場合なかなかその先入観を取去るのは難しいことである。自分のやりたいことを実現するためには先ず相手の立場に立った、痒い所に手の届くような気配りで接し、さらに相手の望むことを言われる前に実施する、その後に自分のお願いを聞いてもらう、これを私は現場に於ける先手管理と言っている。先手の状態を保っているときは少しの失敗位は大目に見てもらえるが、これが逆に後手の状態の場合はうまく行って当り前で少しでも失敗したら厳しい追及が待っている。

先手管理は広い意味では、施工管理だけでなく、人間関係すべてに言えることだと思う。私は常に相手の立場を考えると言うことを物事のスタートと考えている。（J.I）

TAKENAKA

TIME SPACE SOCIALITY



建築の風雪と社会性と

――東孝光氏を囲んで――

出席者

東　　孝光　（建築家・大阪大学教授）

狩野　忠正　（竹中工務店専門部長）
柏木　浩一　（竹中工務店設計課長）
向井　久夫　（竹中工務店構造課長）
松下　明子　（竹中工務店意匠課員）
増田　俊哉　（竹中工務店設計課員）

住宅でも社会と関わりあっている

狩野　初めに、東先生はたくさん住宅を作っておられますが、集合住宅と戸建て住宅との設計上の違いというような点からお話を展開していただきたいと考えますが…。

東　自分でも、いつかは集合住宅をやってみたいと思ってきたのですが、そう思い続けて20年になります。若いときに公共建築もいろいろ担当し、最後に広場をやって、一応設計の勉強は卒業させてもらえるかなと思って、独立したんですが、そのとき、一度住宅という原点に戻ってみよう。そして、住宅で得たことを、また公共建築に戻していきたいと思っていたのです。それが20年たってもまだ問題のまわりを回っている状態ですね。その間、マンションをやりませんかとか、集合住宅をやってください、という話もあったのですが、住宅の場合は、発注する人と使う人が一緒ですから、あらゆることは施主と向かい合えばできますね。ところが、集合住宅になると、途端にそこに住む人と会えないわけですね。だから、もし一戸一戸の住戸の住人と会えるような形で設計ができれば、集合住宅も納得できるようにできるんじゃないかと思って、架空のプロセスでそれを書いたこともあるんです。それがいまのコーポラティブにあたるようなやり方で、作る前からまず住む人が集まって、というようなやり方だったのですね。

しかし、考えてみると、住む人の夢とか目標とか悩みというものを把握して、体内にたくさん蓄積していけば、住む人が目の前にいなくても、ある程度は想定してできるようになるだろう。そうなれば、やってみたい。いままでの集合住宅の私の不満は、上の階の人も下の階の人も同じプランで、ちょっとずつ満足できるけれども、ちょっとずつしか満足できないという、その範囲でやらざるを得ないんですね。それを打ち破る方法はないものか、と。ですから、この間も訪ねていったルシアンクロールの参加型の住宅とか、コーポラティブをやってる大阪の都住創の人たちとか、そういう仕事にはいつも興味を持っているんです。大学で、若い人に建築の話をしたり、広場とか道路とか公園とか、そういう話もしなきゃいけない立場にあるんですけど、人間としての喜びとか哀しみを建築に置き換える技術は同じだ、という気持ちでいるわけですね。

狩野　そうすると、建築主との関係はかなり直接型ですね。

東　そうかといって、直接建築主とやることはプライベートなことであって、一般の建築が公共の不特定の人に対しても、いろんな影響を与えることを配慮しながらやらなきゃいけない――それとは世界が違うんだ、という意見も聞こえてくるんですけれど、それは一寸違うのではありませんか。

たまたま僕が、自分の建築のやり方を住宅からもう一度やり直してみようと思った時期が、日本人の生活が大きく動いてきた時期で、非常に条件がシビアだった。お金にシビアだというのはもちろんあるんですけれど、土地問題とか都市問題、それから自然と人工をどう考えるか、というようなことで世の中が大きくゆれ動いていたわけですね。安保で政治体制も揺さぶられていたし、住む人も生活を必死に切り開いていかなきゃいけないという、そういう時期でしたから、いまのようにお金も充分あり、材料とかも充分整ってきた状況じゃなかったので、割合苦しい中でやっていくという意味では、かえって非常に建築主と設計者にも共感が得られたわけですね。

もう一つ大事なことは、住むことはプライベートな領域だけれど、それは、一人だけでぬくぬくと成立しないんですね。隣とも折り合いをつけなきゃいけないし、役所にも掛け合わなきゃいけないし、お金は銀行から借りるよう頼みに行かなきゃいけないし…というように、結局、社会との関係はみんなあるわけです。そこが大事だと思うんです。それは、商業建築でもありますよね。会社の方針とか狙いは陰に陽に出てくるわけでしょ？それを設計者とどういうふうに切り開いていくかという対応はあると思うんです。だけど、そこでも、銀行がウンと言わないとか、客が買ってくれないとか、我々はこうしたいけれど、お客さんの考えでこうできない、という悩みもあります。そういう形で、一軒の住宅でも社会と絶対つながっているんですね。そういうことを考えながらやってきたんですけれどね。

狩野　オーナー論の話が出ましたけれど、大変なときに独立されていかがでしたか。

東　独立の前の最後の仕事として、坂倉事務所で広場の仕事をやったんですが、このときは、東京都の人とか電鉄会社の人と、ほとんど毎日喧嘩でしたね。広場になるべく陰ができないようにとか、浮

浪者が来ないようにという狙いもあると思うんですけど、通行人が早くスムーズに通れるようにとか、そういう類いの話がほとんどなんですね。広場で待ち合わせをするとか、人垣ができるとか、自分が学校で習ったこととか、本を読んで、広場のデザインを夢みていたのと正反対のことを言われるので、一体自分は誰のためにデザインしているのだろうか、と突き詰めて考えるようになったわけです。あまり言うと、おまえたちは、そんなことをやらなくていいんだ、要求をきれいなカーブでデザインすればいいんだ、と。そういうことを言われるわけです。非常に考えさせられましたね。ですから、独立するときには、普通の仕事のベースではなかなか見えてこないものに接したいという気持ちが強かったですね。それと、60年代半端という時期は、みんながやらされている生活は何かおかしいんじゃないか、という気持ちが社会全体にあったわけですよね。

向井　いまおっしゃられました役所の公園の仕事というのも、集合住宅と発注先は同じクライアントなんですけど、住宅と違うところは、発注者自身そこに住んだり、体験したりするという直接的なクライアントと、極端な話、役所の予算をそこそこ処理していこうというような形と、大きな違いがありますね。

東　善良な管理者なんだけれども(笑)、事なかれ主義というか、事件が起きなければいいみたいなところがありますからね。それからすると、いまは随分よくなっているとは思いますよ。

向井　人間的な欲求を満たす部分が見直されてきてはいますね。



表現に「苦しみ」や「哀しみ」も

東　これは、きょう、私が言いたいことの一つなんですが、建築とか空間というのは、楽しいとか、快適なとか、使う人間のハッピーな面だけではなくて、「苦しい」とか、「哀しい」とか、「ギラギラした」とか、そういう面も出てきて、一人前のような気がするんですね。そういう建築物の方が味わいのある表情が出てくるし、人に感動を与えると思うんです。そういう意味では、楽しさの演出の中に、哀しさとか苦しさも入れた演出にしていってもらいたい。

僕たちが学生の頃の竹中工務店の――小川さんとか岩本さんの時代の仕事には、楽しさだけじゃなくて、何か苦しさも入っていたような気がするわけ。グサッと、どうだ、と突き付けられるような力がありましたね。その頃の竹中は、仕事もそんなにたくさんはなくて、これというものに集中できたときであったのかもしれない。たくさんやられてくると、何となくハッピーなものが多くなりますね。それは社会もよくなっていくし、会社の規模も大きくなるし、作りやすくなるから、どうしても出てくる部分かもしれないんですけど。

増田　安藤忠雄さんは「厳しさ」ということをよくおっしゃいますね。住宅という空間の中にも厳しさを求めないといけないと…。

東　僕は「厳しさ」というときには、住む人は厳しさの向こうにいると思うんです。それは建築家と住まい手が対峙している構図ですね。僕が求めたいし、いつも頭の中に描くのは、苦しいとか、つらいとか、哀しいとか、苦(にが)いとか、そういう使う人が自分の想いをうつし出す建築の表現としてなんですね。

狩野　それは、東先生が重視される住宅というのは、対相手がいて、相手の哀しみなどが直接伝わってくる仕事ですね。ところが、集合住宅にしても、商業建築にしても、全部それが均されてしまって、平均点以上が浮かび上がってきている。本当は哀しみが出たらいいんだけど、平均点で狙うものだから、なかなかそれができないという面がありますね。

私も、いま広場に非常に関心があるんですけど、最近できる広場の中に、印象に残る広場がないですね。それは、いま言われたように、ただ楽しさだけじゃなくて、哀しみというか、表に出てこない裏の世界、一人一人に焦点を当てると、実際は哀しみがあるんですね。アトリウムに入っていても、華やかに会合などで来てる人もおれば、非常に打ちひしがれて来てる人も当然いるわけで、あそこの空間の作り方というのは、ハッピーな人だけに満たされるようになっているということは言えると思いますね。

東　そうはいっても、じゃあ、苦しさをどう表現したらいいかと言われるとわからないんだけれども、住宅をやりながら、施主から叱られたり、思ってもみないような不満が出てきたりして、ああ失敗したなとか、こういう目に遭いたくないな、というのが結構ありますね。ひとつにはそういうものが体内に蓄積されて、そこから何かが出てくるんでしょうね。これは僕なんかも、老人の世界に一歩足を踏み込んできたから、そういう見方になるのであって、希望に燃えた女性ならそうは思わないかも知れないですね(笑)。でもやはり、建築とか空間というのは、そういうひと味が加わってくる必要があると、最近思うんです。そのことは、個人でも会社でも同じじゃないだろうか。

松下　おっしゃる意味はよくわかります。そういう意味では、平均点か平均点より少し上という感じで、決して優はとれないという感じもしますね(笑)。

狩野　本当はそれが入って、空間として飛躍をするのだろう。

東　広場、ビル、住宅、いろんなものをやる中で、いろんな経験をして、苦い経験もして、やがて熟していくものでしょうからね。

柏木　組織の中では、クレームの歴史であったと思うんですね。例えば、住宅ですと、クレームが直接入り込んできて、それに対して何かをすれば、必ず反応があるわけです。集合住宅にしても、広場にしても、不特定多数の人が使うものは、クレームがあればそういうことは出てくるんですけれども、いい場合は黙っている。我々の場合は、いろんな人が回りにおりますから、結構、情報は入ってくるんですね。また、技術にしても、その通りやればできるよということですけれども、それを一つ確立するのに、先輩達が非常に苦しんで作っている。だから、いま非常に恵まれているのは、過去において非常に苦しみながら作ってきた技術を気軽に使える。あるいは、それを組み合わせるとか、組み合わせてまた付加価値を付けるという形で……。

東　ホッと気が抜けるときですかね(笑)。次にまた、すごく苦しいときが来ると思うんですよ。

柏木　先生のおっしゃる「哀しみ」の定義がよく分からないんですけれど、それは建築家サイドの哀しみなのか、それとも使い手である住人の哀しみなのか、その辺はどうなんでしょうか。

東　両方ですね。僕の理想は、それが一体化していかなきゃいけないわけですよ。

狩野　建築を通じて、「人生」ということですね。

松下　それが最終的には「形態」に表れるということなんですね？

東　そうです。例えば、僕なんか、小さな住宅でトップライトをやるでしょう。木であれば、腐らないようにステンレスをかぶせてと

か、いろいろやったわけですね。それで雨が漏ったり、木が腐ってきたりして、またアルミにやり替えたりしてやっていって、段々シンプルになっていくわけです。そして、最後はコンクリートにガラスをはめるだけ。誰も、「哀しみ」とは受け取ってくれないかもしれないけれど、そこには自分では長い道程があるんですよ。

柏木　基本的に、幸せだけでやると、何か欠けるものがあるんじゃないか。それを「哀しみ」というふうにとらえていいんでしょうか。

東　そうです。いまの日本って、掛け声だけのような感じがするんですね。GNPが世界一とか、利益がたくさん出ているというけれど、みんな必死に働いているだけですよね。余裕がないでしょ？社会の反映、個人の哀しみ、この辺が表現に加わってくればもっと奥行きのある見え方ができるだろう、と思うんです。

この間、私も例の香港上海銀行を見てきたんです。あちらこちらにすごいディテールがあって、これは一体技術が劣ってるんだろうか。それとも、技術が進んでるんだろうか、どっちなんだろうか、という気がしたんですね。私たちもある時期まではいかに美しいものを作るか、それを支える構造は、技術はどうするかということで、その範囲内でディテールを考えるわけです。やがてそれを越えて、ある程度危険を冒してでも、それを社会全体が支えるというか、そういう価値感が出てくるのだろうか。例えばあの建物は、各所に非常な無理があるんだけど、それは価値のある無理として、支持されているんだという感じがしましたね。



香港上海銀行をつくるということには、いろんな意味があると思うんですよ。中国に返還になっても、銀行は残っているんだというシンボル性であるとか、あるいは世界のトップレベル技術を導入し得る力がまだ香港の経済界にはあるんだとか、そういうことを精一杯表現していると思うんですよ。それは、建築家の表現というよりは、ノーマン・フォスターを使って、彼のデザインを受け入れて、いろんな知恵や技術を集めてやらせるという、そういうクライアント、香港という社会の表現でしょうね。建築を使ってそういう表現をしているんだろうとか、いろんな意味で、違った見え方がしてくると思うんですね。

狩野　香港という場所と時代と、登場するノーマン・フォスターと、それがタイミングよく邂逅したから、あれが成立するということがあると思いますね。それとよく似たのが、関西新空港旅客ターミナルビルの設計コンペですね。あれはまさに、日本を象徴してると思うんですね。ああいうふうにプランニングが決まって、なおかつデザインが右往左往している。そういうときに、どういう手をとるか。ああいうふうにとっさに方向転換してやらないといけないという、そういう時点で、レンゾ・ピアノが登場するというのは、非常に象徴的ですね。

東　非常にうなずけるというか、結果を見て、なるほどなという感じがありますね。コンペにすると、非常に面白いけどどう使うんだろうか、という空間の案も出てくるでしょうね。社会に余力があれば、そういうのも面白い。大阪のシンボルとしてひとつやってみよう、ということにもなるんでしょうけど、それを選ぶのは恐ろしいし、コンセンサスを得られないので、まずいと。だからコンペに出す前にめちゃくちゃにならないように、しっかりコンセプトを決めて、あとは格好だけをやってもらうというところに、すでに切なさがありますね。

狩野　日本の社会の切なさですね(笑)。

東　日本は、一生懸命技術を蓄えてきて、その技術の上に何かを乗せようとしている時期だと思うんだけれど、本当に我々に余裕ができ、蓄積ができてくれば、今回は構造的に未知数があっても、思い切ってやってみようとか、オーナーも決断しなきゃいかんわけですよ。

メンテナンスを通して生きていく

向井　関西新空港で僕が二つ感心したのは、レンゾ・ピアノの案が、地中海の島々の緑豊かなところへ——つまり、非常にローカルな空港に降り立ったというイメージがある、と。3層構造になっていまして、真ん中が国内線、そして、国際線の発着という中に、かなり緑を入れてるという話なんですけど、それは、技術的な問題から言えば、メンテナンスの世界だと思うんです。それと、あの空港は、埋め立ててから基盤が4メートルぐらい沈むらしいんです。建物の全長は、ほぼ1.4キロほどあるらしいんですけど、構造的にいえば、たいした難しい問題じゃないんですけど、土地が動くという問題があるわけですね。それを常にジャッキアップといいますが、レベルを調整するような機構を組み込むというふうに聞いているんですけど、要は、建物も技術的にメンテナンスしなければならない。そういう施設を運営していくために、莫大なメンテナンス費用が必要だということですね。

東　メンテナンスというのも、建築の根源にかかわる問題だと思いますね。伊勢神宮のようにガタガタになる前に壊してつくり直していくというのもあるし、法隆寺のように代々大工を周囲に住まわせて、何百年でも修理しながらもたせるというのもあるし、文化の形態ですよね。それが形とか表現に即つながっていくわけです。構造も、一つの体型で頑張って、どれだけ大きくできるかとか、どれだけ複雑にできるかという段階から、今後のピアノ案のように、サーカスのようにひょいひょいとつなげながら、そして大きな空間を作っていくという、そういう段階の価値感を理解し、気がつかないといけないでしょうね。

狩野　歴史観でとらえると、メンテナンスができなかったら、文明は滅びていくんですよね。古代都市がみなそうです。ところが、これと全く反対に、メンテナンスを必要とすることは、裏側から考えると、日本的美学でもあるんですね。

東　戦後、一生懸命僕たちが勉強してきたのは、いかにメンテナンスを少なくして、安心して施主に渡すかということだったわけですけど、それをやると、いつかはドカッと壊さなきゃいけないわけで、本当にいい状態かどうか。建物が古びていきながら、部分的に更新して、生き延びていく。その状態がいいと思うんです。それが陰影のある建物を生み出すわけですね。それと、メンテナンスをオーナーがやることで、建築を使い、建築との関わりを長く持たせる。いろんなことが関わってると思うんです。ですから、メンテナンスの要らない建築というのは、理論的にもあり得ないし、あってもそれはおかしいでしょうね。昔、タイルが落ちて外装をやり変えたビルもありましたね。最近はどう考えておられますか。

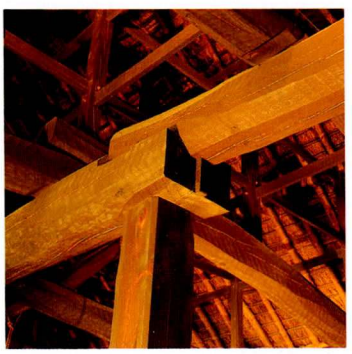
狩野　どうしてもタイルでなければ建築になりえないのもあります。そういう場合は、なぜタイルが落ちたかということで、剥離しないタイルにチャレンジしていく。それは、文明のレベルでのチャレン

ジですね。タイルでイメージしたものはタイルで守っていく、ということが心要でしょうね。

時間の変化を計算に入れる

東　戦後のタイル建築の初期の頃は、いつもきれいで、いつも同じ状態を保つということで、タイルが使われたんですね。ところが、我々の先輩が石とかを使ったのは、いつまでも長くもつように、ということだけではなかったんじゃないか、ということに最近気がつくわけです。つまり、性能は心配なくて、段々古びていくとか、古びて陰影が出るような形に石を使うとか、時間による変化というものを計算に入れた作り方というのも入ってくるんじゃないですか。

向井　淀屋橋に住友銀行本店がありますね。重厚な石を使ってるんですけど、排気ガスなどで汚れたので、7、8年前に全面的に洗いをかけたんですね。そうすると、洗いをかけたあとのテクスチャーは、全部が全部きれいになるわけじゃないですから、ある所の目地は昔の汚れが残っている。でも全体的に、このビルはよく手入れされて、行き届いているなとか、この建築は大事にされているなとか、そういう感じを受けるわけですね。だから、タイル張りにしても、窓ガラスはどんどん洗うけれども、汚れはそのままだというビルもあるわけですね。我々は当然、メンテナンスフリーを目指しているわけだけれども、筋目筋目にある程度の手をかけることは必要だと思いますね。



狩野　大事にされるかどうかというのが、建築と建物との分岐点かもしれませんね。

東　私たちは建築的に価値があれば自動的に愛されると思っていたけど、どうも100%そうではない。それは建築が生まれるときに、そのクライアントがどれくらい関わったかということと関係するんじゃないかと思ってるんですよ。

柏木　メンテナンスの項目の中に、ペンキのやり替えとかエレベーターの点検とかいろいろありますが、それと同じように建築主の建築に対する思い入れという項目があれば、ひょっとするとメンテナンスフリーになるのかもしれませんね。最初から自分がそれでいいと思ったんだから、朽ちてきてもメンテナンスされなくていいんだ、と。そういう部分がメンテナンスフリーの言葉の中に抜けてるような気がしますね。

教育とは組織の倫理を伝えること

狩野　教育のお話をお聞きしたいんですが、建築の教育ということについては、どんなふうにお考えですか。

東　まず、その専門分野の組織が「後進を教育しなければいけない」という危機感を持つかどうかですよね。学校が怠慢だから、危機感を持つという構図があるわけですけど、建築家の「職能」ということを考えた場合、昔から僧侶、宗教家が、プロフェッションとして、一般の仕事と違って、早くから社会的認知を得た職業ですね。それから法律家、医者。そして建築家も西洋ではそういう職能を持っている。「職能」の定義を本で読んだのですが、一つは、王様が何と言おうと、領主が何と言おうと、毅然として、そういうものに影響されないで自分が行動するという「倫理的な綱領」を持っていること。法律家にしても、昔は政治家と同じぐらいの力を持っていたわけです。権力とか外部から指図されない大事な倫理綱領を持っていた。自分で自分の行動を決める哲学を持っていたわけですね。もう一つは、組織の内部に、そういう倫理を持つ芽を育てる「教育的なシステム」を持っていること。この2つを持っているのが職能だ、と。建築家というのは、個人の人格である場合もあれば、組織全体として建築家としての役割を果たしている場合もある。個人の建築家でプロフェッションのそういう概念ができたのかもしれないけれども、組織の中に、他の会社はどうあろうと、私たちはこうします、という倫理的な綱領を持っているかどうかということと、私たちはこういうふうに生きるんだということを絶えずみんなで確認し、教育していく教育的システムを持っているかですね。「倫理」と「教育」は裏表なんですね。

狩野　いま学校では女性が優秀だといわれますけれど。

東　一応優秀だと思いますよ。男性はフラフラしているけれども、女性は一心不乱に勉強するでしょう。講義はよく聞くし、よく頭に入れているし、答案もちゃんと書ける。でも、いまのところ女性は、図面にしてもまだ自由奔放さがないし、デザイン能力という点では不満ですね。訓練の問題かも知れないけど。

松下　「脳を育てる」という本――権威のある先生が、脳についてわかりやすく書かれたものですけど――を読んだんですけど、人間の脳には古い皮質の脳と新しい皮質の脳があって、新しい皮質の脳が前頭葉に当たるらしいんですけど、それが生まれたときから、男の人の方が新しい皮質の脳が発達していて、女の人は古い皮質の脳が発達しているらしいんです。それが微妙な違いがあるようで、新しい皮質のところが、創造力をつかさどっているらしいんですね。

東　変な図面を書いているけど、何かおもしろいところがあるとか、素直に、知識を吸収するだけでは、なかなかそれが出てこないんですね。

松下　それは私も感じますね。努力するとか、生命力なんかは女の人の方が絶対あるんです。生きる能力が発達しているらしいんですね。ですから、そういうタイプの建築家にはなるけれども、抜きん出たアイデアを出してというところは欠けるのかもしれませんね。あまりそんなことを言うと、怒られるかもしれないですけど…。

東　しかし、一方では、時代のせいもあるんでしょうけど、いまは女の人の方が未来に対して期待を持ってるわけですよ。男は期待を持っている部分が少ないですね。そういう意味では、翔ぶ可能性は持っているんですけどね。

松下　いまは、多少私の時代とは違うのかもしれませんけど、私より上の年代の人は、多少気負いがあって、男の人より頑張らなきゃいけないとか、そういう気持ちが根底的にあるように思いますね。

増田　僕は、自分で学ばないタイプなんですね。何かがあるからやるというタイプなんですけど、一応若いですから、その若さがひょっとしたら何かを投げ返してるんじゃないかな、という気持ちはありますね。大変おこがましいですけど…。

柏木　確かに、ある年代を過ぎたときから、自分の世界の範囲が何となく見えるわけですよ。そのときに、若い人なんかを見ていると、価値感も違うし、やっぱりおもしろいわけですね。一定年齢を過ぎた人と一緒に仕事をしていると、こっちばかりが変なことを言って、

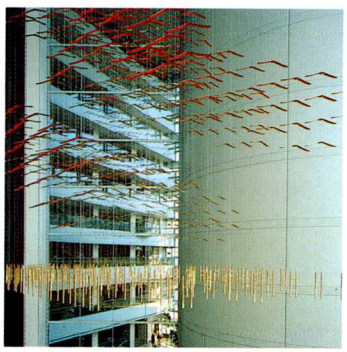
彼らが諭してくれる感じなんですね。ところが、若い人なんかの場合だと、価値感の歪みを、歪みというのは、ある角度から見れば正しいんでしょうけど——コントロールするだけでいけるわけですね。自分にない新しいものを持っているという意味で、僕は、若い人と仕事をするのは、ものすごく好きですね。

狩野　私は、あまりジェネレーションというのは感じないんですよ。若い人であろうと、年上であろうと、物理的な年齢は意識するかもわからないけど、仕事をする上では、あまり気にしない。

東　ところで、いまの若い人は作業所であまり痛めつけられると駄目になりますか。

向井　建築という世界以外で、ズタズタになってしまうことがあるんですね。というのは、学校で詰め込みで覚えたことに対して、それに対する回答を出せばいいという人が多いわけですから、バランスのきわどい線で会社に入ってきていますね。そうすると、ある程度自信を持ってから鍛えられてもまだ立ち直る機会があるんですが、最初にドンとやられてしまうと駄目なんですね。

東　設計者としての意識をはっきりつぎ込まないで現場に放り込まれると、問題が出るかもしれませんね。僕、最初に郵政省に行ったんですけど、それは設計部からの出向としてですね。だから、施工の人から随分怒られるけれども、設計はこうしたいんだからといって、多少突っ張られる心の支えがあるから、めげないでやれるわけですね。それなしというのは、つらいですね。



増田　竹中はちょっと違うんですね。建築会社の設計部でありながら、ある程度設計の意見を尊重してくれるところがあるなということを実感しつつあるんです。

向井　私の課の中にも、一人だけ若い人がおりまして、僕が若い彼に言ったのは、設計者の考えるままにやってやれ、と。一作づつ作ることが、すごい経験になってると思うんですね。

東　例えば、我々だって、小さなアトリエ事務所でもチームでやってるわけで、チームとして一緒にやりたいわけですね。だけど、最終的には、自分の作品を作るために生きてるんだから、一緒にやってるといっても、分担するというんじゃなくて、最後は僕が決めるよ、と言わざるを得ないですね。だけど、なるほどなと思って決まったのに従うか、そうかなと思いながらやってるのは、ありありとわかりますから、何とかして、なるほどなと思わせようということはありますね。

哲学と形の間にある世界

柏木　自分自身で言い聞かせているのは、モノの世界で若い人と闘わないようにしようということなんです。例えば、若い課員が、形を円にしたい、と。僕は絶対四角しか駄目だ、ということは言いたくないんですね。円なら円でいい。そうじゃなしに、建築をする姿勢なり、哲学的な概念を高く引き上げたいし、それにどこまでついてきてくれるか、これが私にとっての闘いなんですね。

東　だけど、円でも三角でもいいというわけじゃないでしょ？

柏木　極論ですが、円が四角になって、その建築がもし駄目になるなら、当初の構成なり大きなところの話が欠けてるんじゃないかな、と私自身は言い聞かせているわけですね。

東　ちょっと異論があるのは、その建物の哲学でもいいし、大きなコンセプトでもいいですが、それがあって、それから円か四角かという世界があって、その間があるわけですよね。構成と言ったらいいのかな？これが日本の設計の世界で弱い部分だと思うんですよ。哲学もあるし、最後の感性的な部分もやるんだけど、その哲学がなぜ円でなければいけないとか、その部分を補強するべきだと私は思っているんですよ。

柏木　哲学、構成、コンセプト、そこの話は課員ともとことん話をするんです。形が自分に不本意なものであっても、それはある程度許容していこうという努力は必要だと思うんですね。そうしないと、若い人と一緒にやる意義がないんじゃないか、という感じがするわけですね。

増田　組織の不定性というのが、非常にいいところだと思うんです。異分子がそこそこに存在していることによって、これは違うぞと思わせることにもなるし、感じさせることにもなると思うんです。それが組織のよさだと思いますね。

狩野　円か四角どっちでもいいというのは、あり得ないんですね。急に円とは言わないけども、円は徹頭徹尾円でいかないと、四角の方に行きだすと、駄目だと言うべきだと思うんです。

東　僕もどっちかというと、そうなんです。なぜ円でなきゃいけないかということを説得させる努力が、我々の闘いなんです。

柏木　あるプロジェクトの例ですが、私は、形の上で気に入ってない部分はたくさんあるんです。でも、大きい流れは課員と全く一心同体でやっているわけですね。外観は生理的に多少嫌いなところがあります。しかし、それが課員の持ち味なんですね。そこを消し去って、真っすぐにすると、全体が違うものになってしまうんじゃないかという気がして、私は許容しているわけですね。あえて、円、四角どっちでもいいというのは、そういう意味なんです。

松下　そこまで嫌いなのを許せる人というのは、珍しいんじゃないですか。

柏木　それを許さないと、それ以外のものも潰してしまうでしょうね。

狩野　竹中らしさということですけど、らしくないというのが、らしくなるんですね。らしくなったときは、寿命が来てるわけですよ(笑)。竹中らしくないやつが社会に受けて、それが竹中らしくなるんです。

東　社会が前向きのことをやろうとするときに、それを設計者にやらせようとするわけですね。

個を殺さずに、いかに組織が生き延びるか

向井　竹中というのは、少数の設計事務所の集まりという感じは受けますね。部課長制というのがありまして、課長というのは、4人か5人ぐらい徒党を組んでるわけです。

狩野　いかに個を生かしながら、組織で動いていくかということですね。

東　僕が言いたいのも、そのことなんです。組織というのは、いかに個を殺さないで、組織が生き延びるかを考えるのが組織ですよね。

組織が生き延びることだけを考えたら、組織は生きないんですよ。

狩野　東先生は、商業建築というか、コマーシャリズムというのを避けておられますけど、竹中はコマーシャリズムのウエートは高いわけですよ。建築におけるコマーシャリズムというのは、建築オーナー論と建築家と社会性を介在した相手との関係で、これはどういうふうに捉えておられますか。

東　僕は、住宅と集合住宅の場合でも、区別しないでなるべく連続的に捉えたいんです。コマーシャルの建築とか公共的建築とかも、あまり区別して考えていないんですよ。ユーザーのことを考えると同じでしょ？不特定の人が出入りするという意味では同じなんですよ。住宅も極端に言えば同じですね。出入りする人は、家族だけではないですね。だから、あまり区別して考えなくてもいいと思っているんです。しかし、商業建築でも、公共建築でないといっても、オーナーの好き勝手にしていいということではない。オフィスビルでも、飲食店ビルでも、銀行でも、できるだけ同じ見方で話をしてほしいし、それができるのが竹中です。そういうことをやってくれなきゃ、何のために竹中が存在するかわかりませんから。

狩野　竹中らしさということで問題のところを中心にお話しいただけませんか。



東　時代が変わり、竹中さんの機構が大きくなり、役割が重要になったから、そうなったんだろうけれども、個人の顔がなかなか見えにくくなったということでしょうか。もうひとつはその企業らしさということですね。たとえば竹中というのは、何かにつけて頑固なところがありましたね。タイルばかりやるとか。職人的な頑固さと言ってもよいでしょうか、良い意味で。それは時代が変わったからといって、要らないものじゃないんですよね。それと、ないものねだりになるかもしれませんけど、いままでの竹中のよさというのは、冒険しないということだったような気がするんですよ。保守的な意味じゃないけど、やりたいという気持ちがありありとあって、一歩手前でやってるという感じがありましたね。それが非常によかったんですが、たしかにそれを保っていると、今度は企業としてはダウンすると思うんです。だから、それを越えなきゃいけないわけですね。これからはハラハラするようなものを、つまり緊張感の漂よう作品を時にはやってもらいたいですね(笑)。

狩野　恐い感じを持つというのも大事なことですね。

価値感が変化しても残るもの

柏木　住宅を作る場合に、住い手との話し合いの中から、良い建築を求めていくというお話がありましたけど、住宅といえども、何十年かもつわけですね。その間には、当然、オーナーも年をとるし、新しい世代が入ってくる。そのときに、当初、話し合いの中で作った二者の合作であった空間が、住まい手が変わったときにその建築の寿命はどうなるか。最初の思い入れとのズレをどういうふうに考えていけばいいのでしょうか…。

東　10年以上前に、新建築に「一つの仮説」という論文を書いたことがあるんです。設計者である限り、建築家である限り、自分が作ったものが長い年月愛されて、使われていってほしい、とみんな思っているわけです。そのためにはどうしたらいいかということを考えて、できるだけメンテナンスフリーであるとか、コンセプトをはっきりして、使いやすくとか、いろいろ努力してるわけですよね。一つ抜けているのは、使う人をどれだけ関与させるかということだったように思う、と。長い年月使われて、ちっとも価値の減らないのは、アノニマスの建築でしょ？これはなぜなんだろうか。それは建築家が我を張ってやってないということが一つあるけれども、その状態を長く保つ強制をされていない。それと、価値感が変化しても、変化しない何かを持っている。それはどうも住み手が長く関与するような形と関係があるらしい、ということで、「仮説」と書いたんです。ですから、僕はできるだけ、設計者として長く変わらずに使ってほしいと思うからこそ、作るときの経過とか、作るときにどこを大事にしようとか、そういう記憶をクライアントに植え付けておく。そういうやり方をするんです。ビシッと隅から隅まで決める、そういう状態は無理だということがあるわけですね。枝葉が変わっても、価値感が変わらず残るものは何か、というのをしっかり植え付けておきたい。そのために、構成とかコンセプトとを考えるということもあります。

狩野　設計者もいなくなるし、建築主もいなくなっても、そのときの思いというのは、かなりの深度があったら、100%とは言えないとしても、相当のパーセントは持続できるということはあると思いますね。

東　そういう思いが深ければ、それは建築の形に反映されると同時に、社長の考え方や会社の営業方針にも影響して、何かの形で伝わっていくだろうと思うんですね。

増田　永続して、人の心に残るものは構成だというお話しでしたけれど、例のポリフォニックな空間ということについて、具体的にお話を伺いたいのですが。

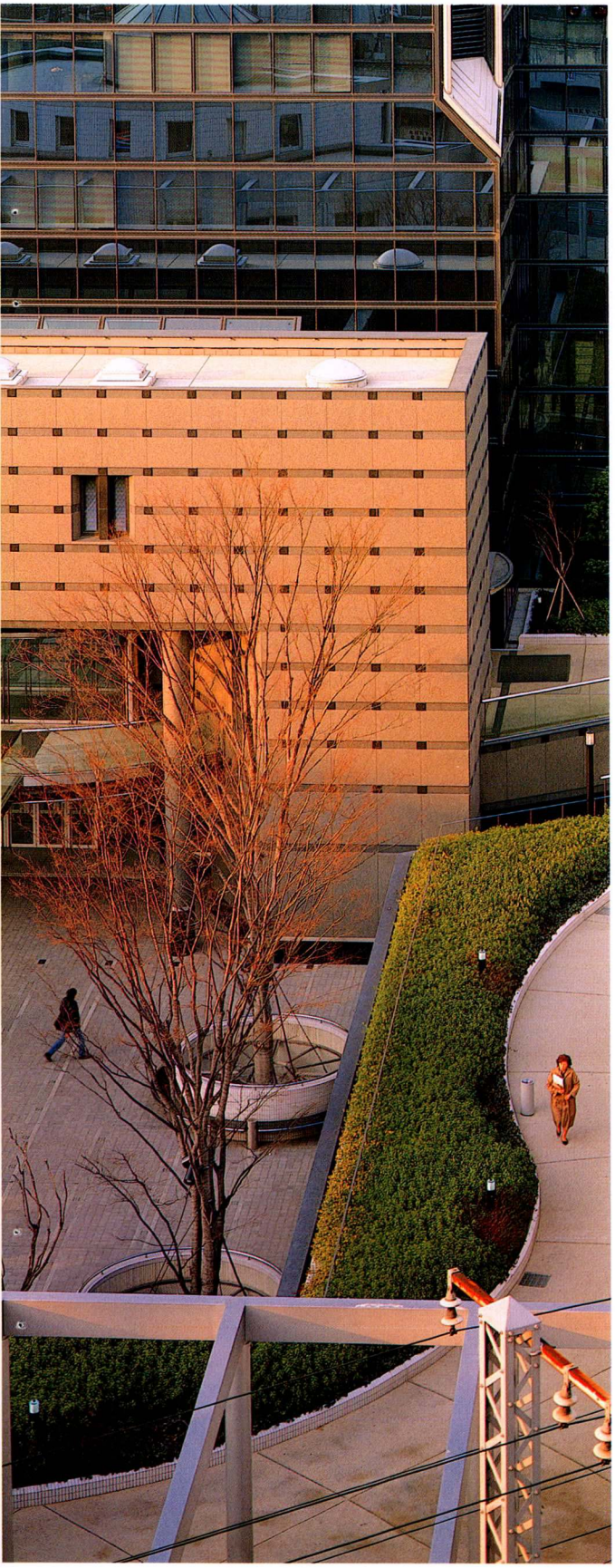
東　ポリフォニーというのは、いろんな人が別のことを一つの場で共有するわけですね。そのときに、企業の思いとか、社会が要求したこととか、建築家の思いとか、いろんな思いがあって、完全にお互いは統合されていない。多少バラバラな思いで、それが何かで一つにつなぎ合わされていくわけですね。建築家というのは、そういうバラバラな思いをつないで、一つの構成物にする役目だと思うんですね。そして、その状態がポリフォニーということだと思います。作曲家ですね。受け取る人が事業家であれば、そのビルを見て、形が美しいというよりは、こういう商売の仕方があるのかというところで建築を見るでしょうし、建築科の学生は、こういう材料、こういうディテールがあるんだなと見るでしょうし、ライバルは、この会社はこういうところに力を入れてるんだなという見方をするでしょう。一つのものに対して、いろんな見方ができるわけです。そういうふうに、できるだけたくさん、なるほどなと感じられるものが、深みのある建築だと思うんですね。

もっと言えば、哀しいときでも、その建築を見てなぐさめられるし、嬉しいときには嬉しいように応えてくれる。哀しいときにも、嬉しいときにも応えてくれるのが、いい建築じゃないかと思うんです。そういう意味で、楽しいときにも、哀しいときにも使えるような建築であってほしい。私のポリフォニー論には、そういう思いがあるんですよ。

狩野　建築は哀しみの中に喜びの変容があるということでしょう。本日はどうもありがとうございました。



都市の中のサンクンガーデン



1 梅田センタービル



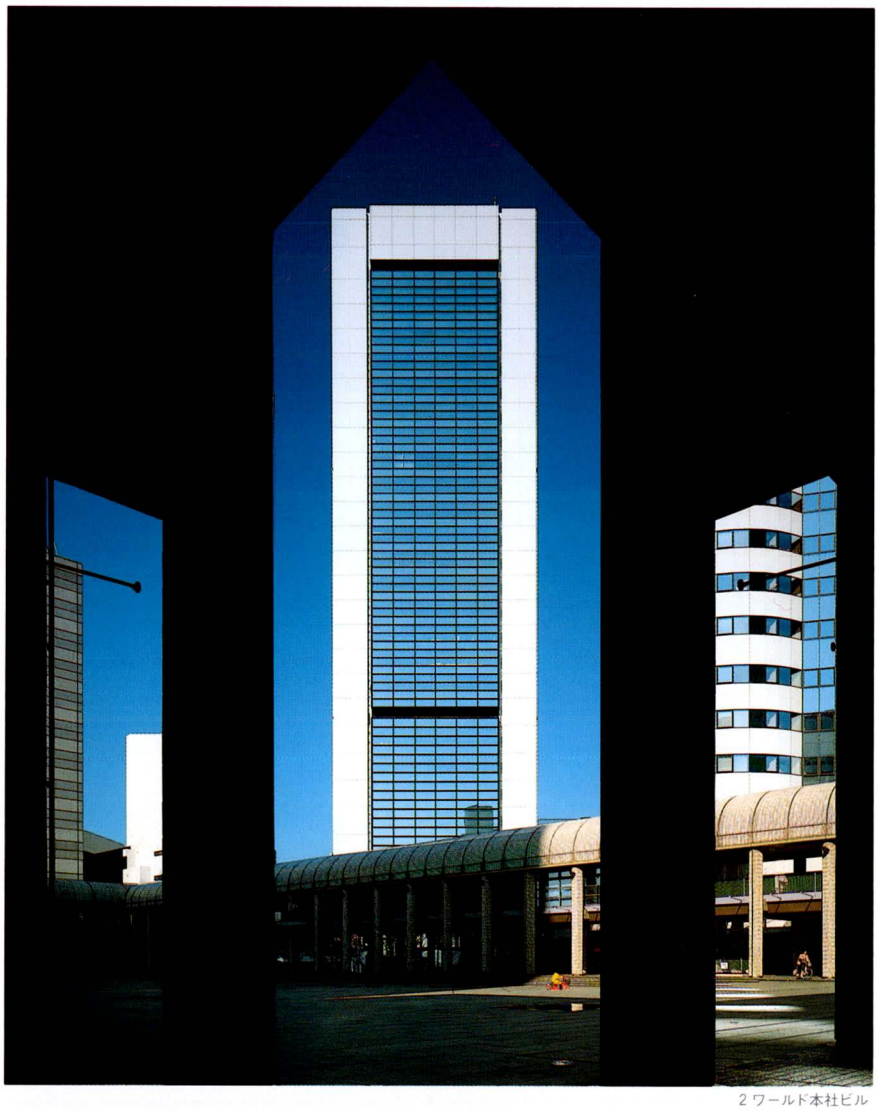
1 梅田センタービル



1 梅田センタービル



1 梅田センタービル



2 ワールド本社ビル

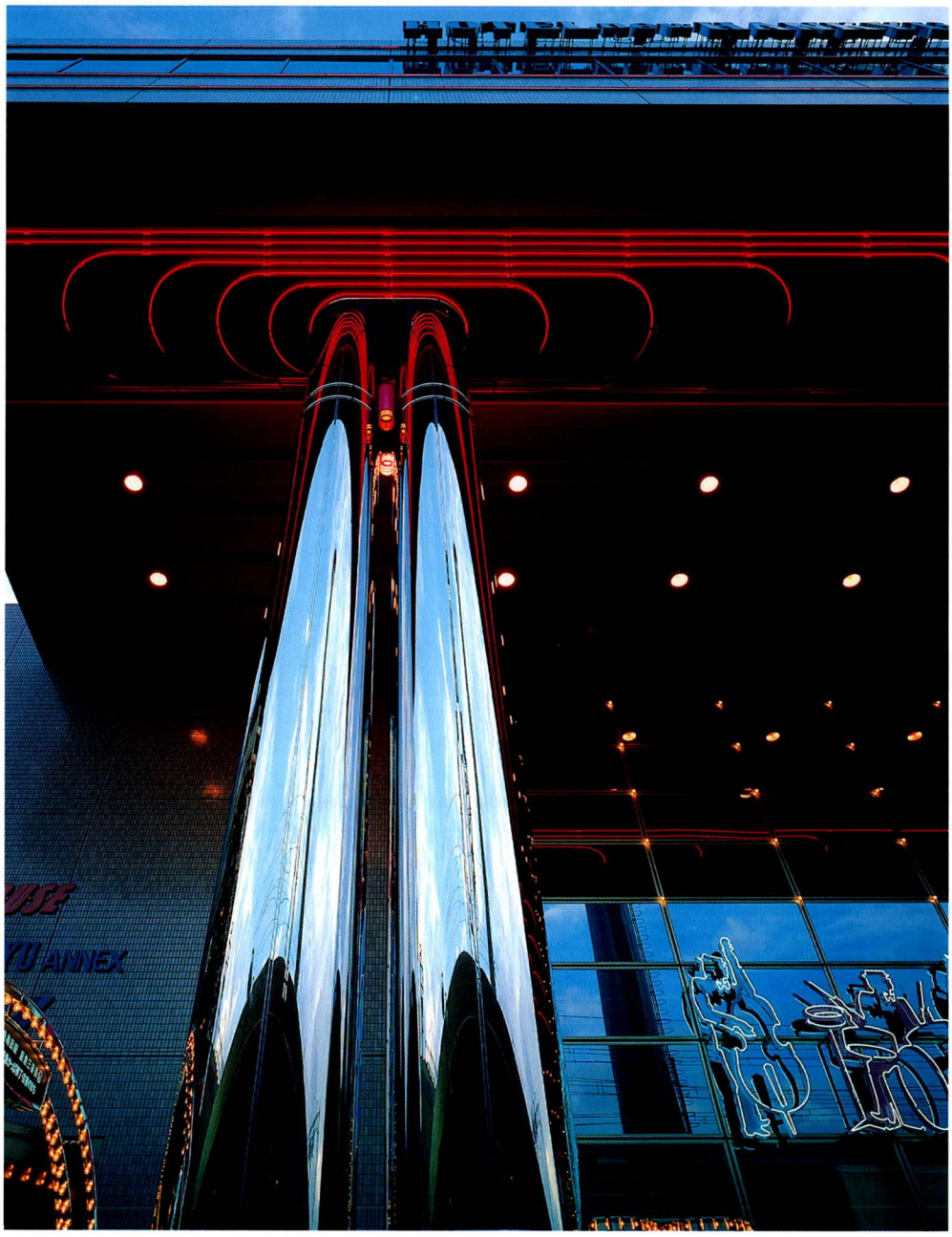


2 ワールド本社ビル

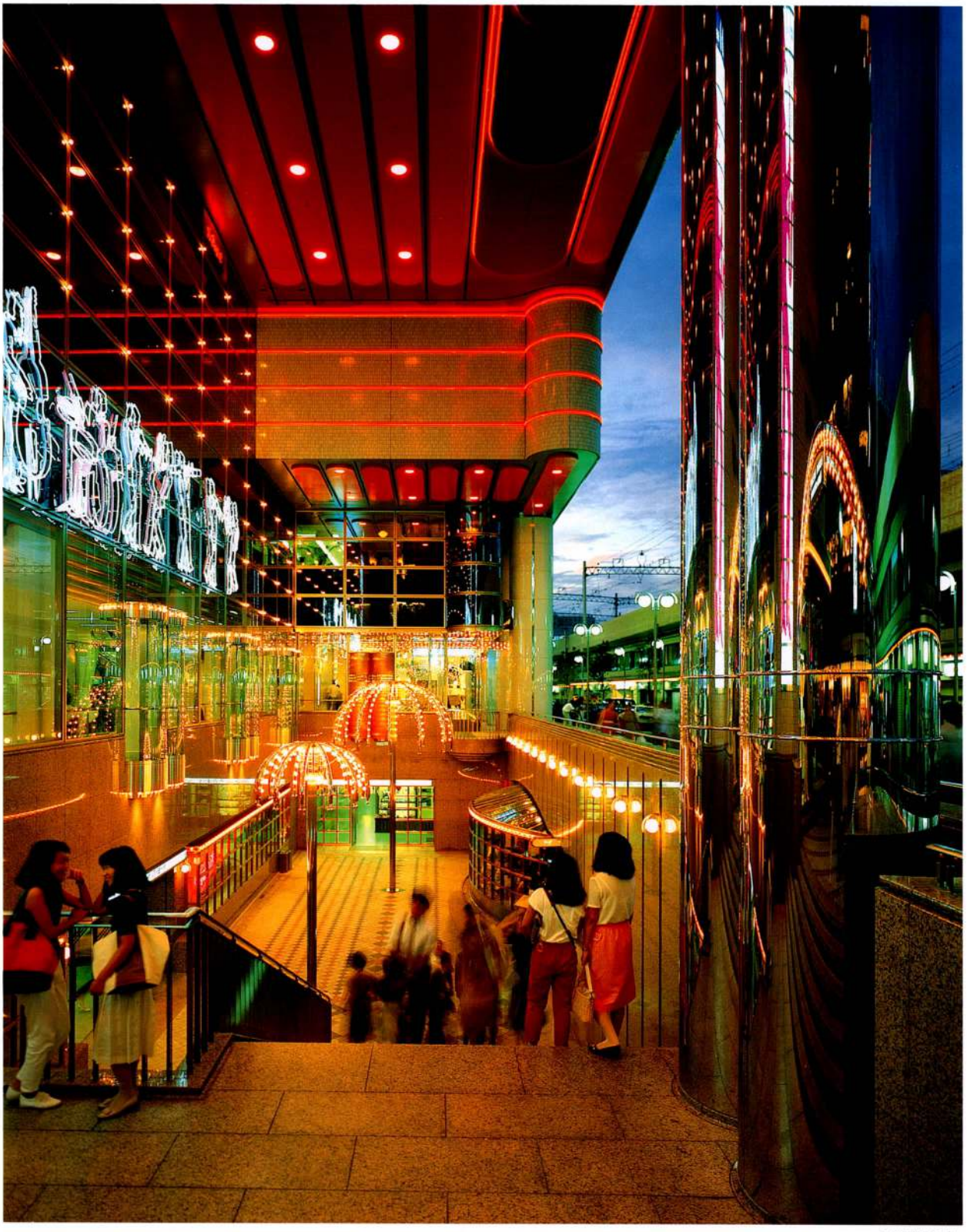
光のための影



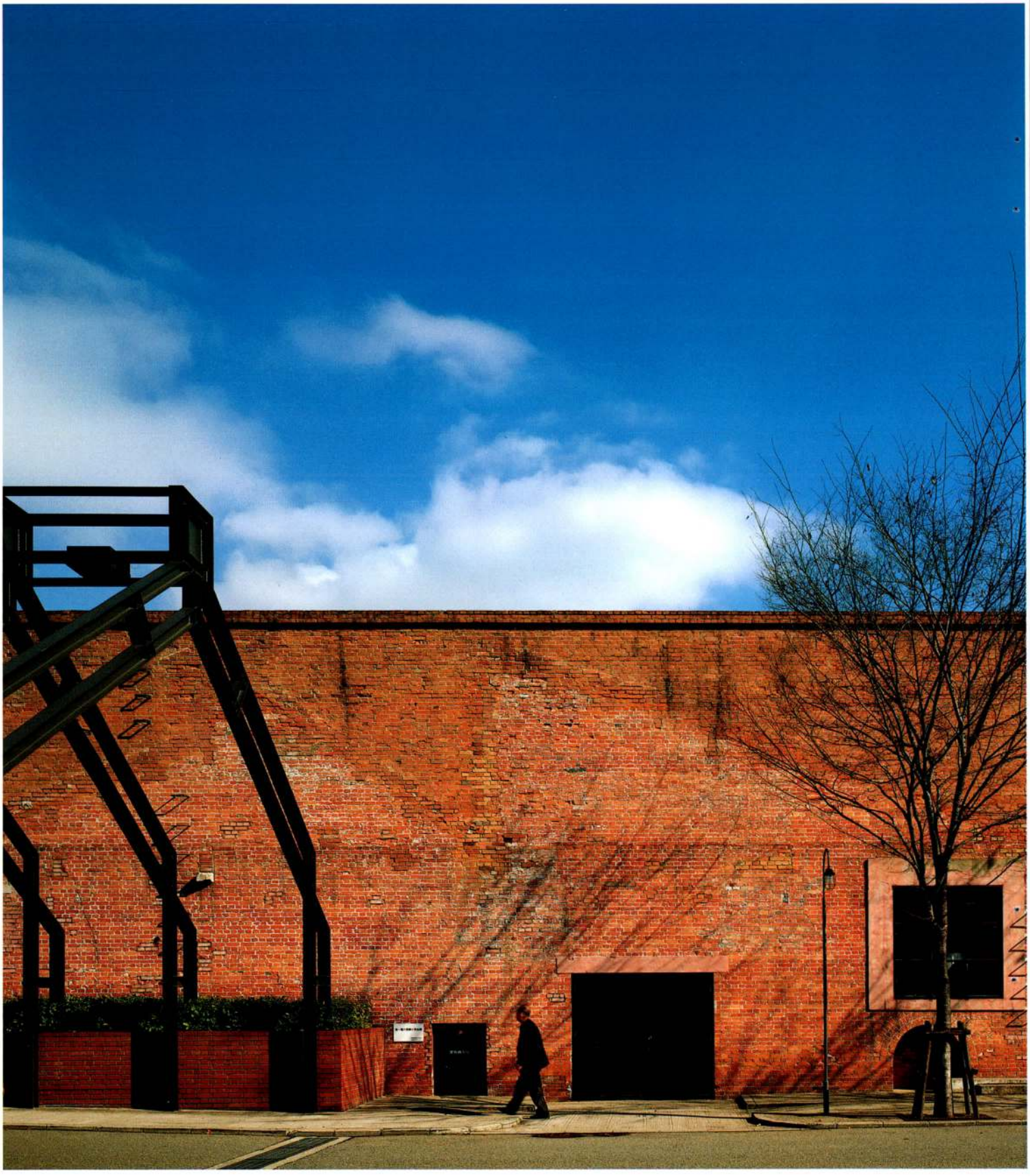
2ワールド本社ビル



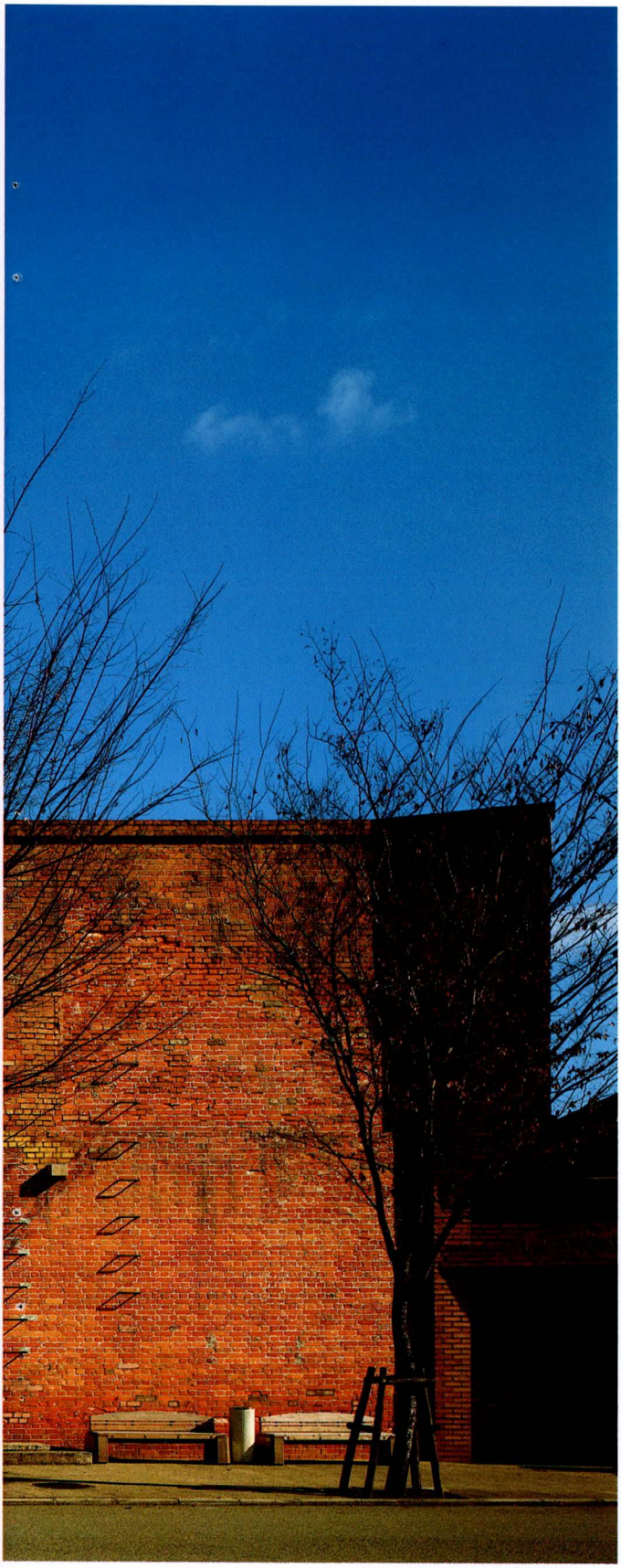
3 北野阪急ビル



3 北野阪急ビル



古い建物の再生



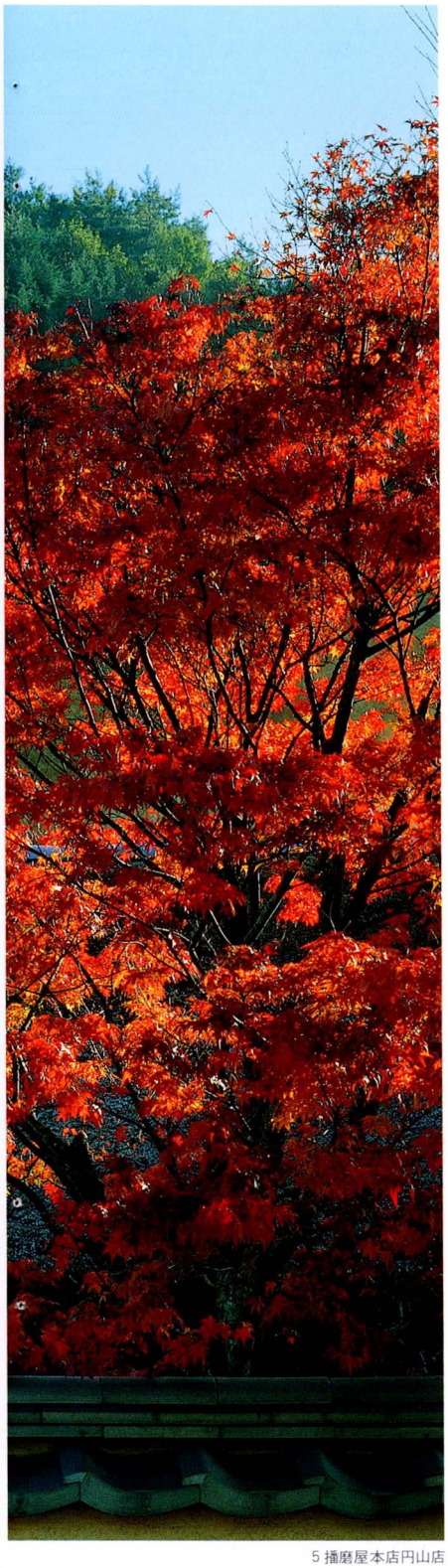
4 六甲パインモール



4 六甲パインモール



歴史の検証



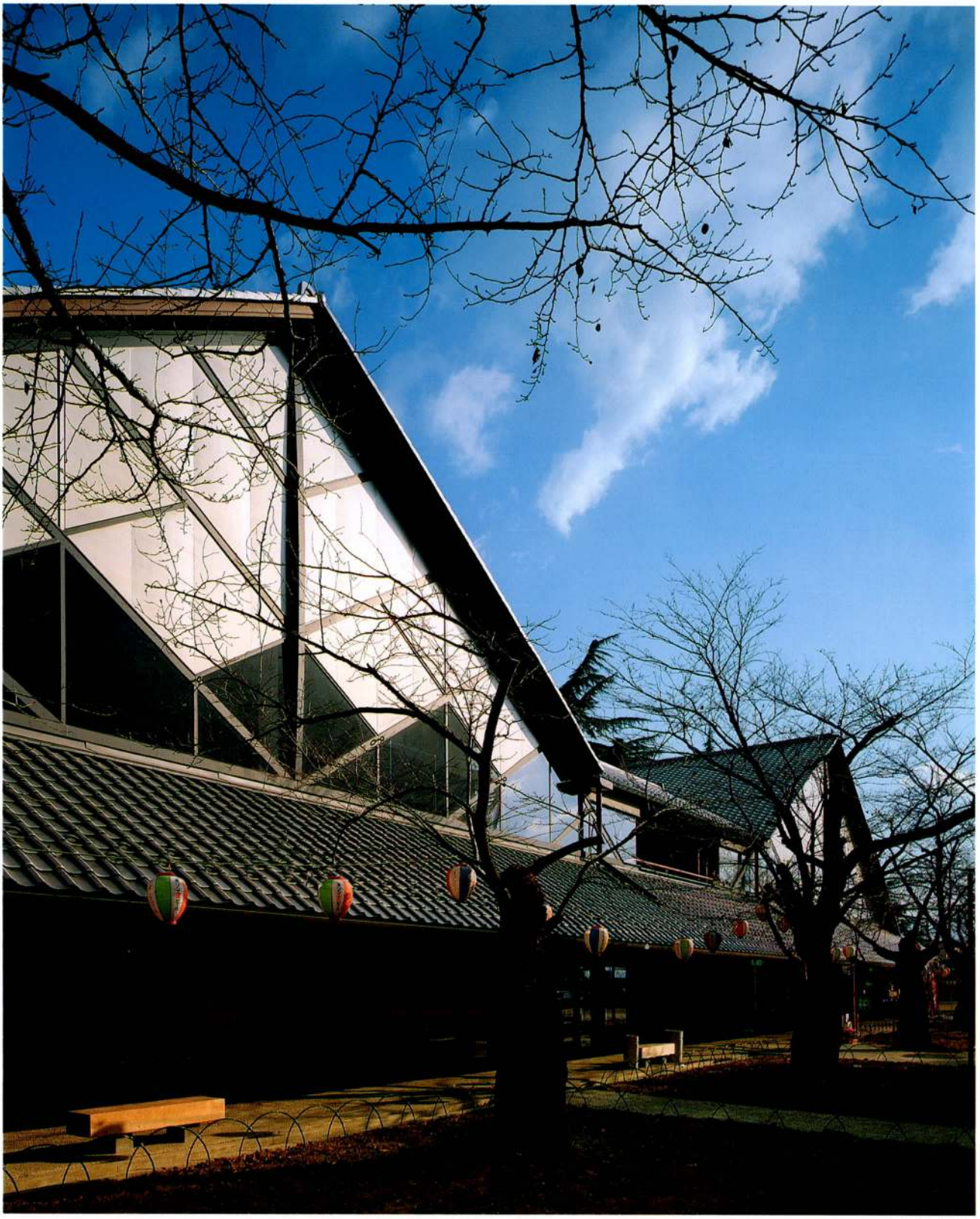
5 播磨屋本店円山店



5 播磨屋本店円山店



6 赤福本店五十鈴茶屋



7 ベルウィング

深いひさしのある店屋



8 ニッケパークタウン

日本の光のさす広場

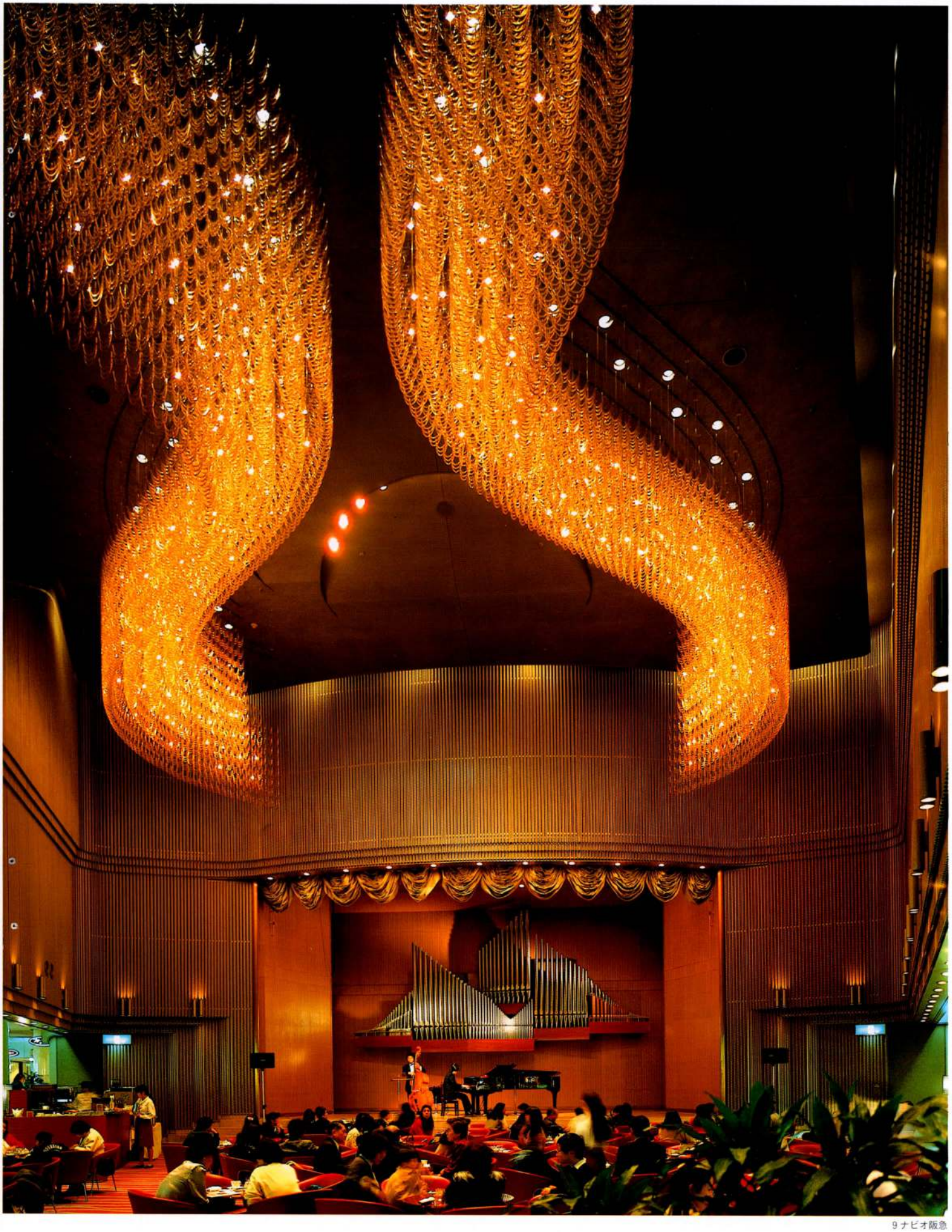


8 ニッケパークタウン



9 ナビオ阪急





9ナビオ阪急



10 吉本ビルディング

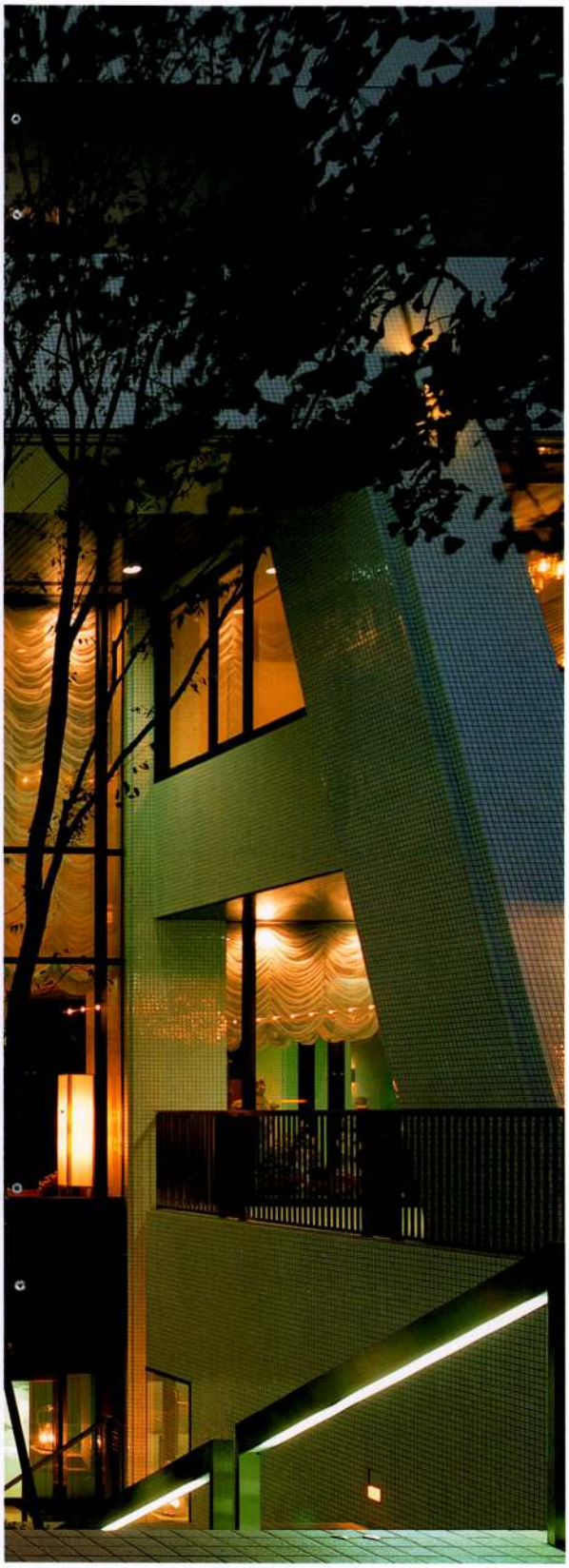
公開空地のアトリウム



10 吉本ビルディング



開かれた回廊



11 オー・エム・ホテル日航ビル

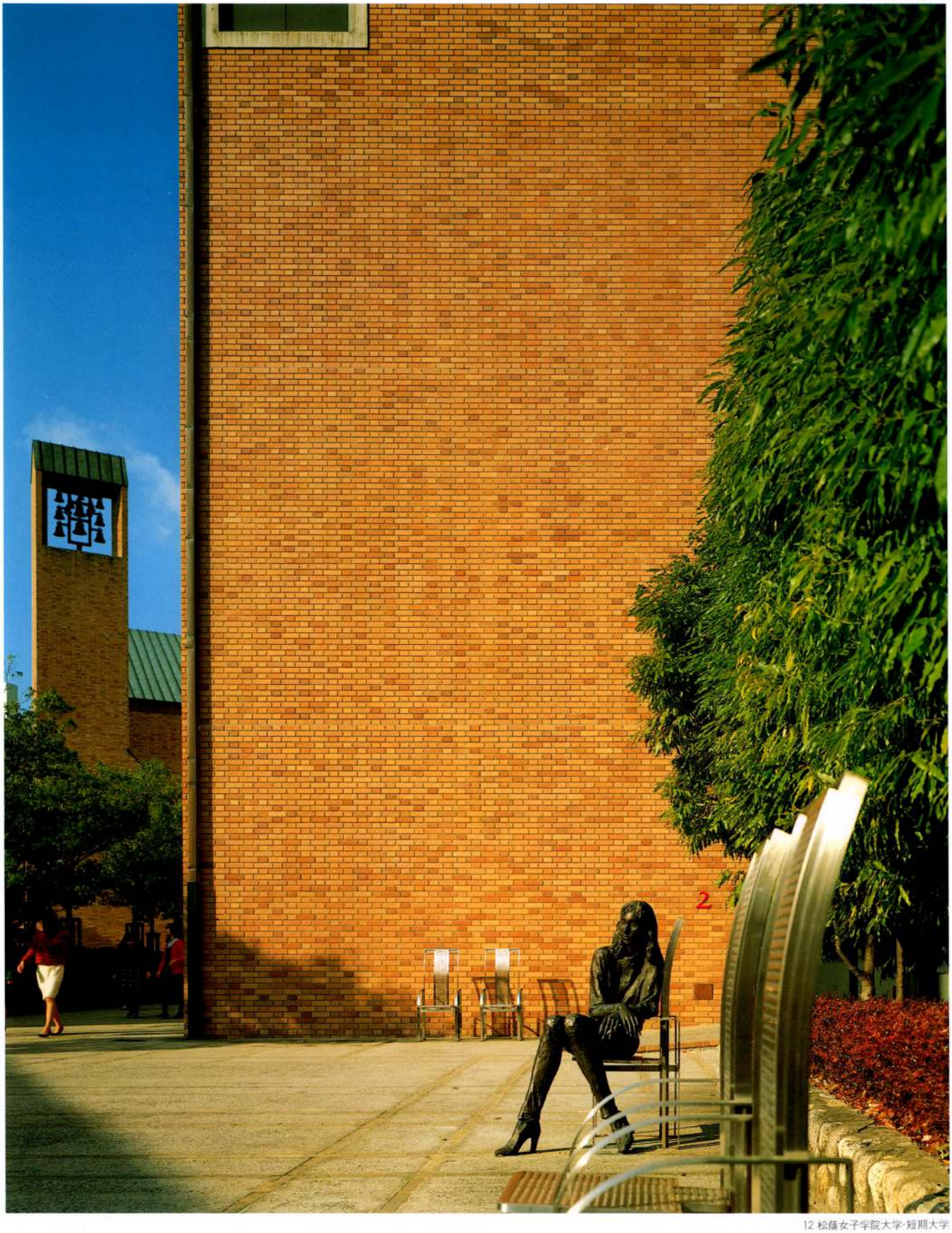


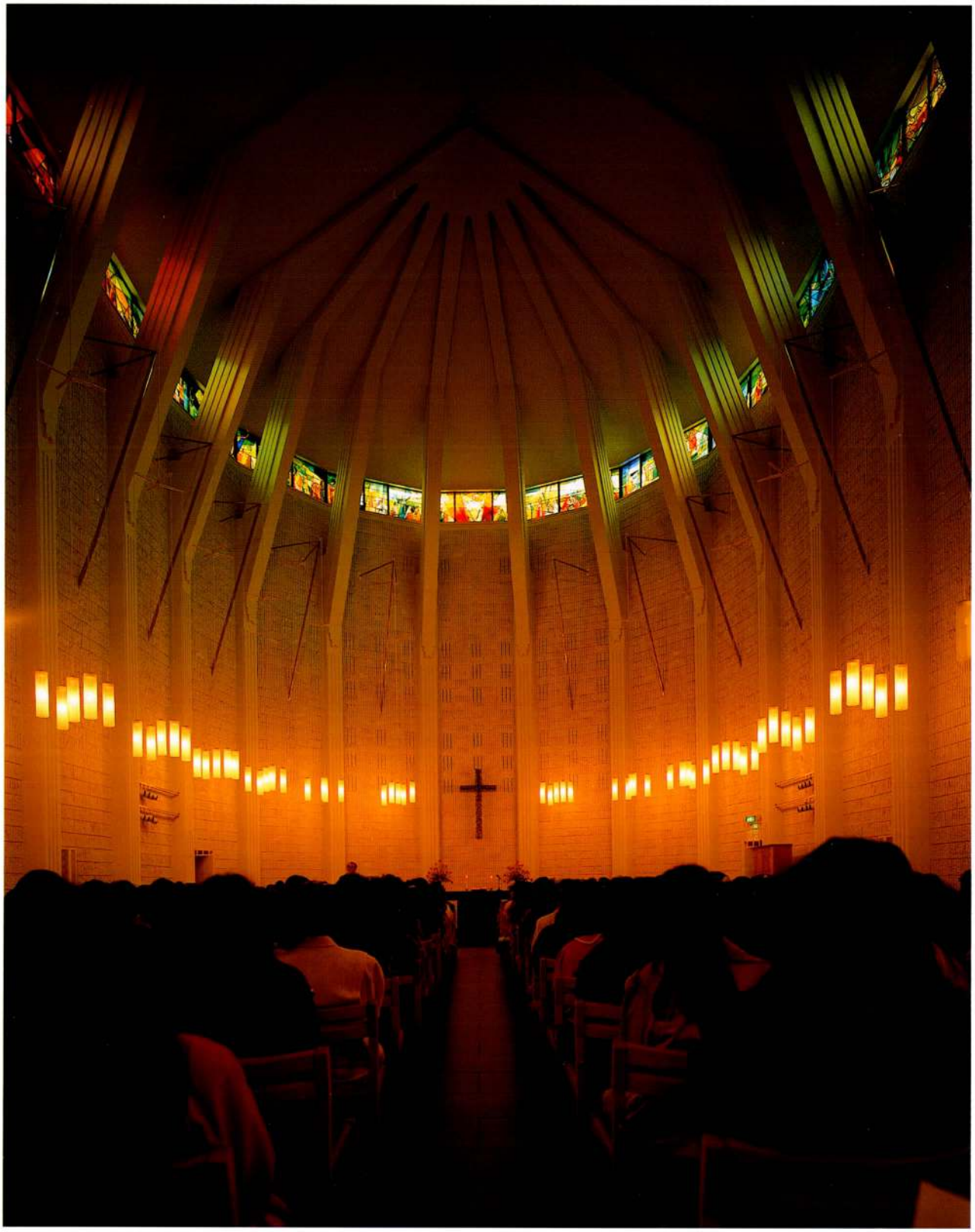
11 オー・エム・ホテル日航ビル



12 松蔭女子学院大学・短期大学

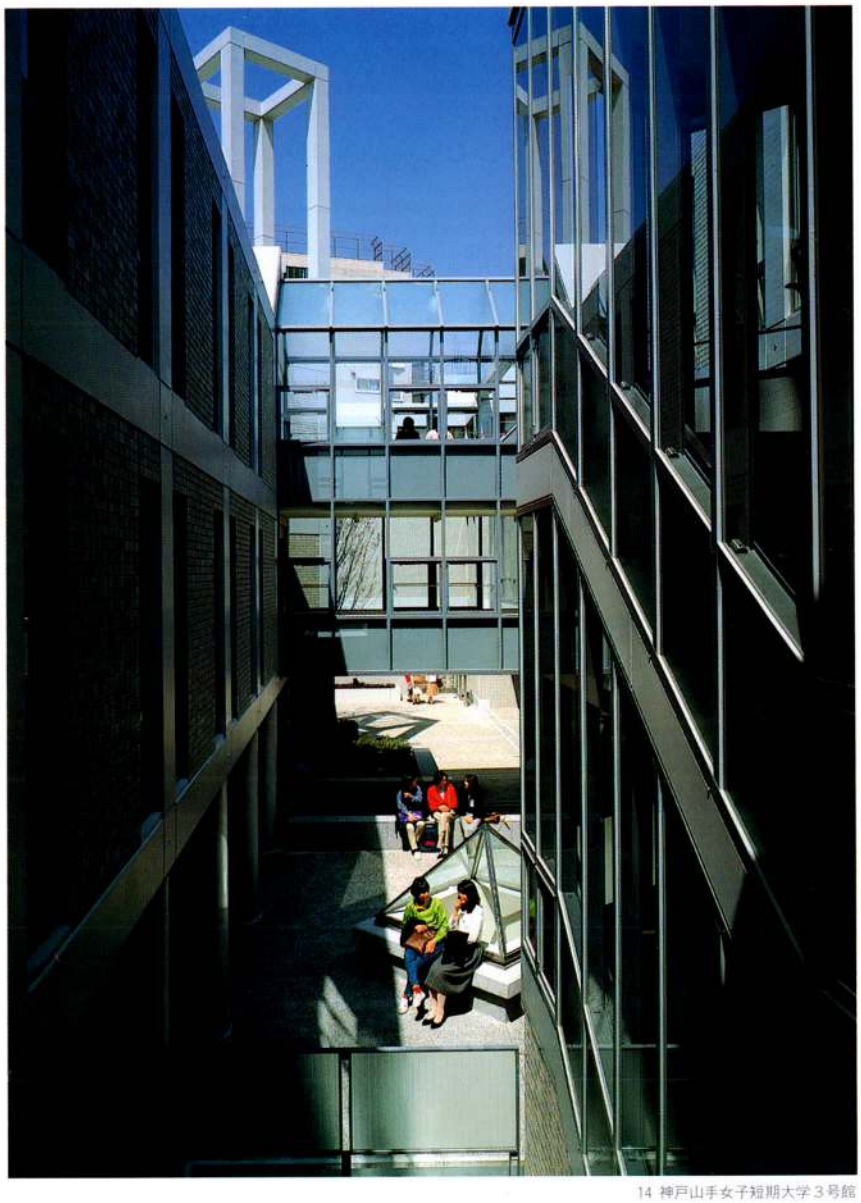
アートのあるキャンパス







13 池田五月山教会礼拝堂



14 神戸山手女子短期大学３号館





14 神戸山手女子短期大学３号館



15 京都センチュリーホテル

吹き抜けの劇中劇



16 アシックス本社ビル



17 UCCコーヒー博物館

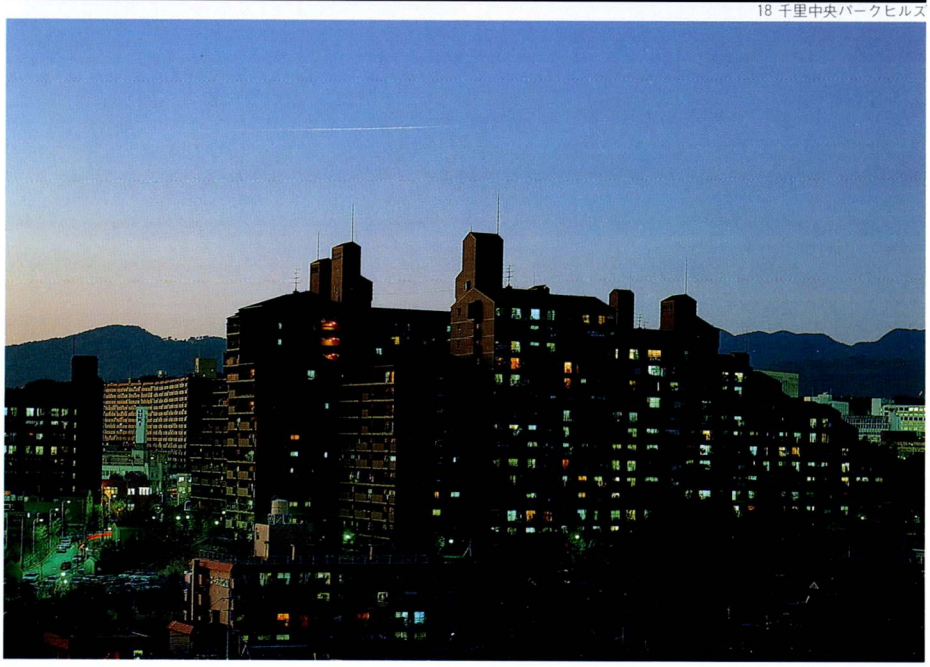
イスラム幻想



17 UCC コーヒー博物館



18 千里中央パークヒルズ



18 千里中央パークヒルズ



18 千里中央パークヒルズ



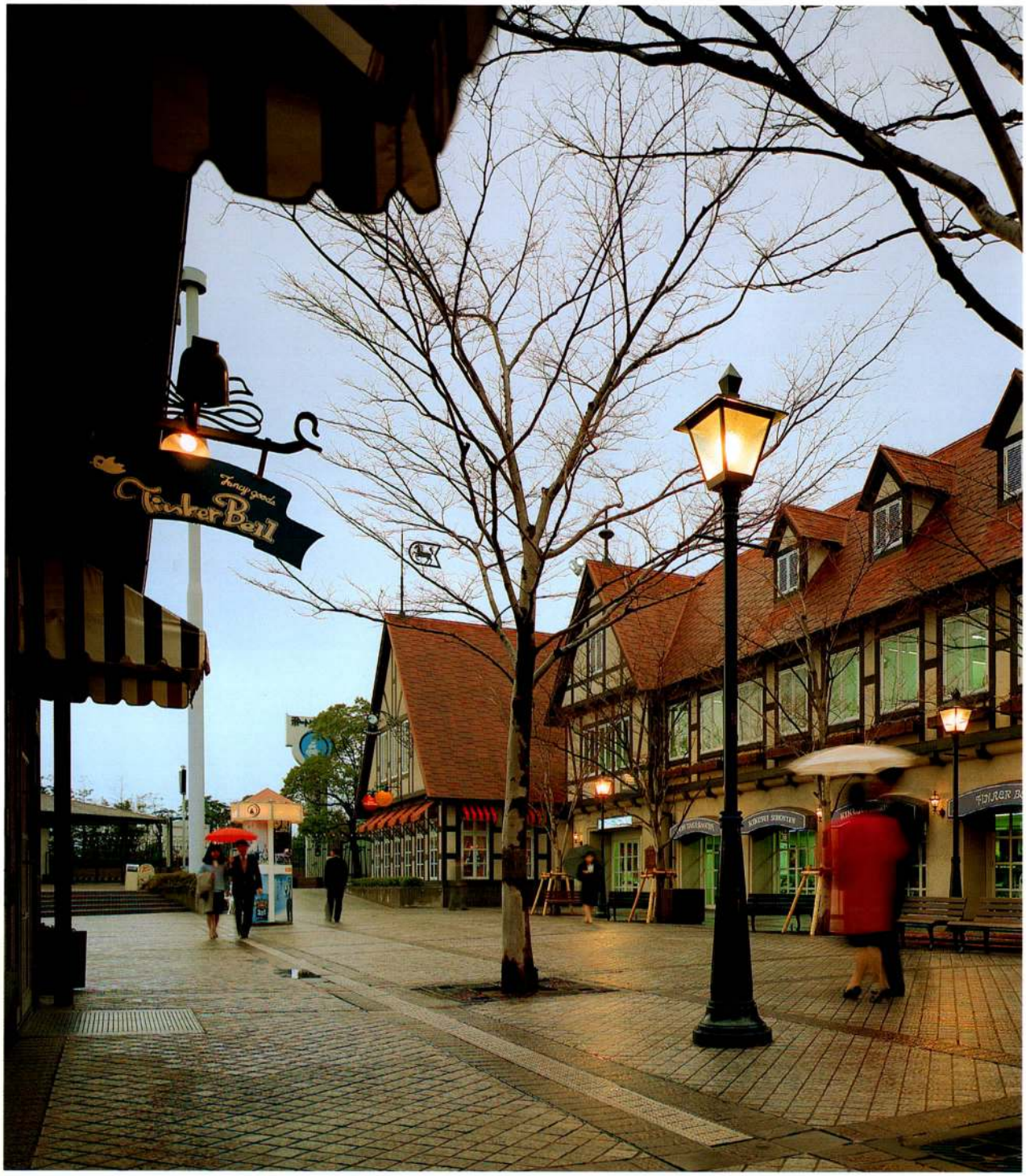
古都の飛翔



19 四条通アーケード

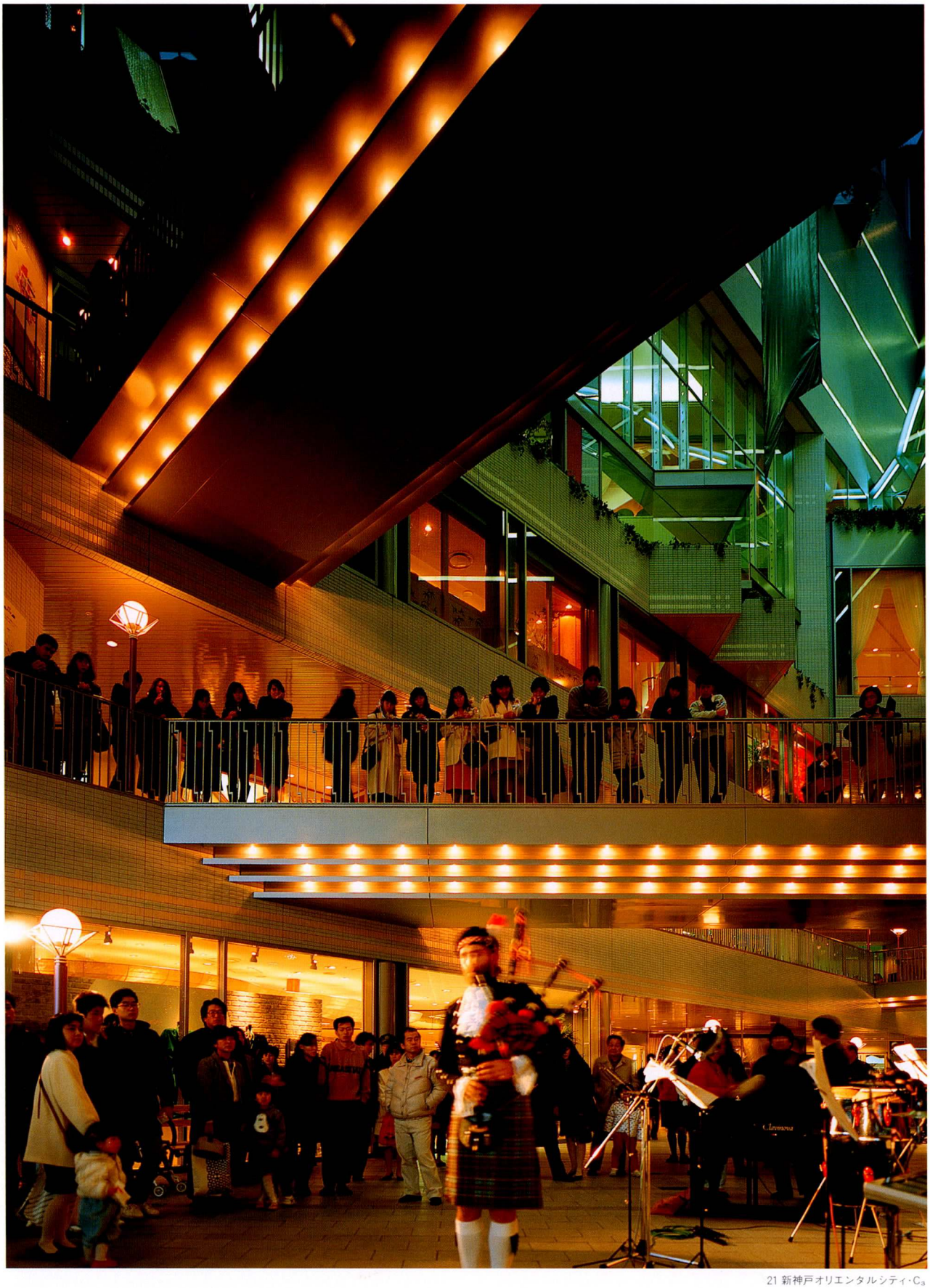


19 四条通アーケード

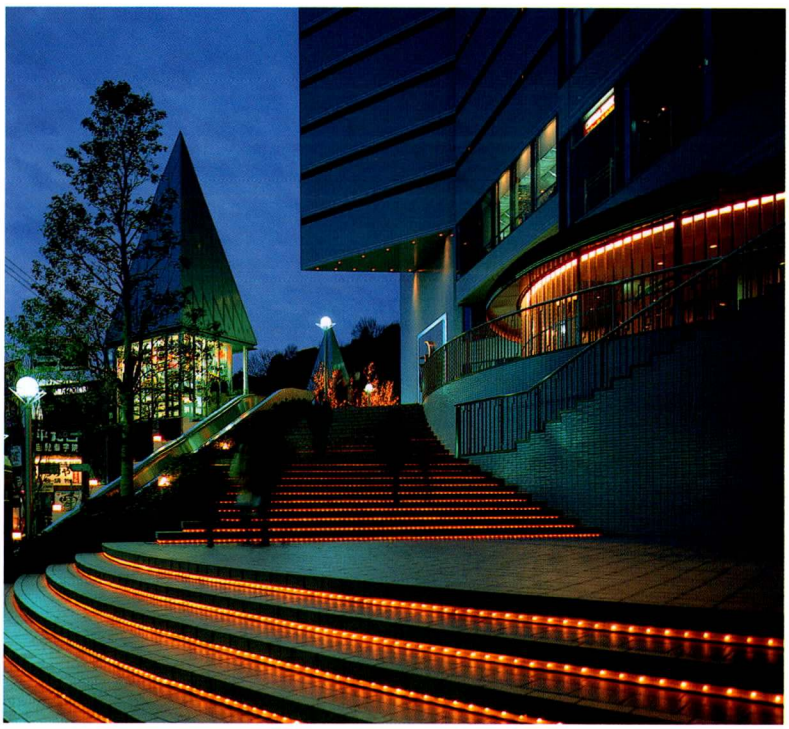


20 神戸ポートピアランド

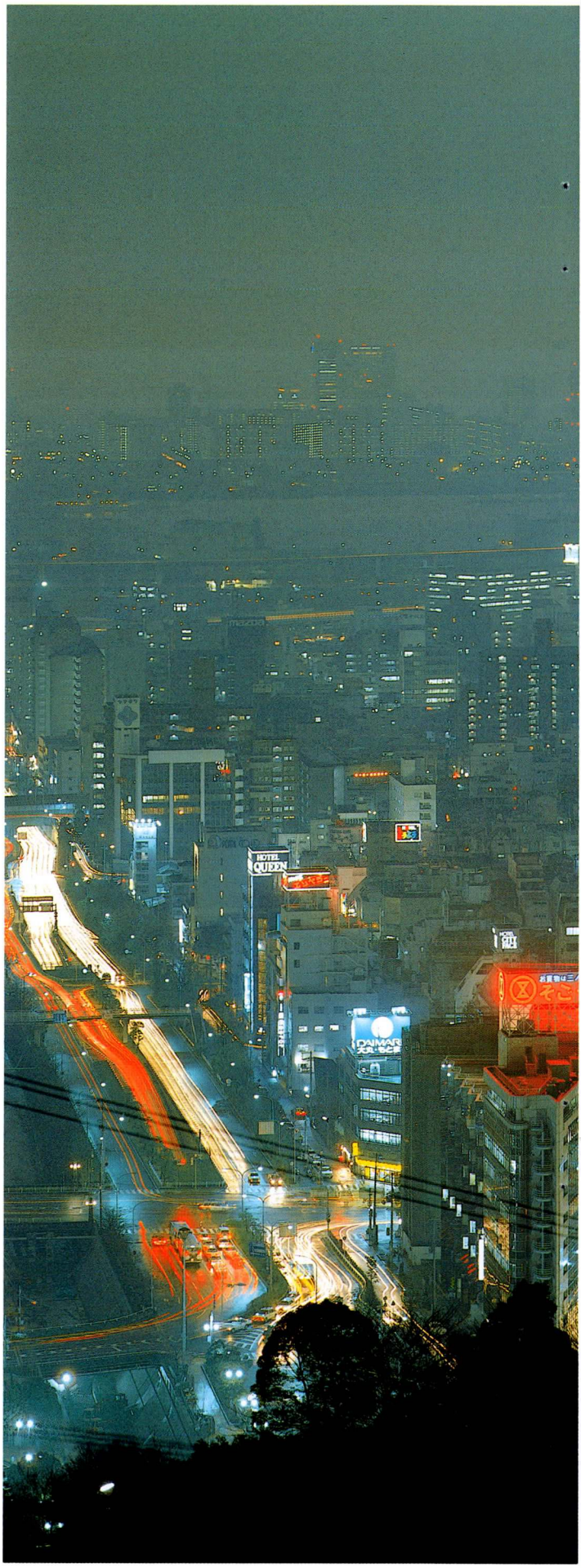
ハーフティンバーの町



21 新神戸オリエンタルシティ・C_3



21 新神戸オリエンタルシティ・C_3





21 新神戸オリエンタルシティ・C3

1	梅田センタービル	都市の中のサンクンガーデン
2	ワールド本社ビル	光のための影
3	北野阪急ビル	広がりのある空間
4	六甲パインモール	古い建物の再生
5	播磨屋本店円山店	歴史の検証
6	赤福本店五十鈴茶屋	街並への調和
7	ベルウィング	深いひさしのある店屋
8	ニッケパークタウン	日本の光のさす広場
9	ナビオ阪急	街角のかたち
10	吉本ビルディング	公開空地のアトリウム
11	オー・エム・ホテル日航ビル	開かれた回廊
12	松蔭女子学院大学・短期大学	アートのあるキャンパス
13	池田五月山教会礼拝堂	光のリズム
14	神戸山手女子短期大学３号館	シティキャンパス
15	京都センチュリーホテル	吹き抜けの劇中劇
16	アシックス本社ビル	オフィスの深呼吸
17	UCCコーヒー博物館	イスラム幻想
18	千里中央パークヒルズ	ニュータウンのスカイライン
19	四条通アーケード	古都の飛翔
20	神戸ポートピアランド	ハーフティンバーの町
21	新神戸オリエンタルシティ・C_3	北野町の記憶



梅田センタービル

所在地　大阪市
敷地面積　11,606㎡
建築面積　3,766㎡
延床面積　80,088㎡
構造規模　S、SRC　B2、32F、P1
工　　期　'85 3月～'87 3月
用　　途　事務所ビル

1



ワールド本社ビル

所在地　神戸市
敷地面積　8,303㎡
建築面積　4,101㎡
延床面積　34,664㎡
構造規模　S、SRC　B1、27F、P1
工　　期　'82 3月～'84 2月
用　　途　事務所ビル

2



北野阪急ビル

所在地　大阪市
敷地面積　4,515㎡
建築面積　3,230㎡
延床面積　28,846㎡
構造規模　SRC　B2、17F、P3
工　　期　'83 1月～'85 7月
用　　途　ホテル・店舗

3



六甲パインモール
所在地　神戸市
敷地面積　20,210㎡
建築面積　5,411㎡
延床面積　5,213㎡
構造規模　W　1F
工　期　'81 9月～'82 3月
用　途　店舗
4



ベルウィング
所在地　長野市
敷地面積　1,995㎡
建築面積　691㎡
延床面積　841㎡
構造規模　S　2F
工　期　'87 7月～'87 12月
用　途　店舗
7



吉本ビルディング
所在地　大阪市
敷地面積　7,005㎡
建築面積　5,315㎡
延床面積　88,029㎡
構造規模　SRC、RC、S　B4、34F、P2
工　期　'83 12月～'86 9月
用　途　ホテル・店舗
10



播磨屋本店円山店
所在地　兵庫県朝来郡
敷地面積　3,586㎡
建築面積　523㎡
延床面積　320㎡
構造規模　W　1F
工　期　'87 9月～'88 3月
用　途　店舗
5



ニッケパークタウン
所在地　兵庫県加古川市
敷地面積　49,733㎡
建築面積　17,332㎡
延床面積　41,256㎡
構造規模　SRC　3F、P1
工　期　'83 5月～'84 2月
用　途　店舗
8



オー・エム・ホテル日航ビル
所在地　大阪市
敷地面積　4,809㎡
建築面積　3,834㎡
延床面積　58,871㎡
構造規模　SRC、S　B4、32F、P1
工　期　'80 2月～'82 8月
用　途　ホテル
11



赤福本店五十鈴茶屋
所在地　三重県伊勢市
敷地面積　1,389㎡
建築面積　662㎡
延床面積　961㎡
構造規模　W　2F
工　期　'84 6月～'85 10月
用　途　店舗
6



ナビオ阪急
所在地　大阪市
敷地面積　6,156㎡
建築面積　4,892㎡
延床面積　48,141㎡
構造規模　SRC　B2、10F、P2
工　期　'77 11月～'80 10月
用　途　店舗
9



松蔭女子学院大学・短期大学
所在地　神戸市
敷地面積　49,953㎡
建築面積　9,676㎡
延床面積　26,630㎡
構造規模　RC、S　7F、P2
工　期　'78 12月～'81 9月
用　途　学校
12



池田五月山教会礼拝堂

所 在 地　大阪府池田市
敷地面積　1,331㎡
建築面積　　76㎡
延床面積　　340㎡
構造規模　RC　B2、1F、P1
工　　期　'84 7月～'85 3月
用　　途　宗教施設

13



アシックス本社ビル

所 在 地　神戸市
敷地面積　6,615㎡
建築面積　3,822㎡
延床面積　18,892㎡
構造規模　RC、S　B1、8F、P1
工　　期　'84 3月～'85 7月
用　　途　事務所ビル

16



四条通アーケード

所 在 地　京都市
敷地面積　6,883㎡
建築面積　6,883㎡
延床面積　6,883㎡
構造規模　S　1F
工　　期　'87 5月～'88 9月
用　　途　アーケード

19



神戸山手女子短期大学3号館

所 在 地　神戸市
敷地面積　2,944㎡
建築面積　1,530㎡
延床面積　5,817㎡
構造規模　RC、S　B1、3F、P1
工　　期　'85 4月～'86 3月
用　　途　学校

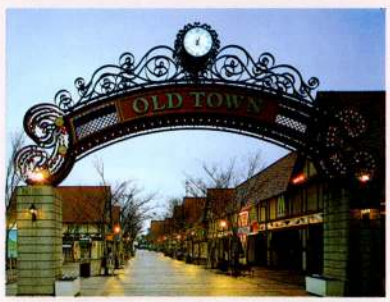
14



UCCコーヒー博物館

所 在 地　神戸市
敷地面積　1,664㎡
建築面積　　848㎡
延床面積　1,980㎡
構造規模　S　B1、3F
工　　期　'87 1月～'87 8月
用　　途　博物館

17



神戸ポートピアランド

所 在 地　神戸市
敷地面積　47,383㎡
建築面積　6,770㎡
延床面積　8,408㎡
構造規模　S、RC　2F
工　　期　'80 1月～'81 3月
用　　途　娯楽施設

20



京都センチュリーホテル

所 在 地　京都市
敷地面積　3,595㎡
建築面積　2,878㎡
延床面積　19,640㎡
構造規模　SRC　B2、10F、P2
工　　期　'79 4月～'81 3月
用　　途　ホテル

15



千里中央パークヒルズ

所 在 地　大阪府豊中市
敷地面積　62,245㎡
建築面積　15,470㎡
延床面積　105,800㎡
構造規模　SRC、RC　3～15F、P2
工　　期　'80 10月～'83 3月
用　　途　住宅

18



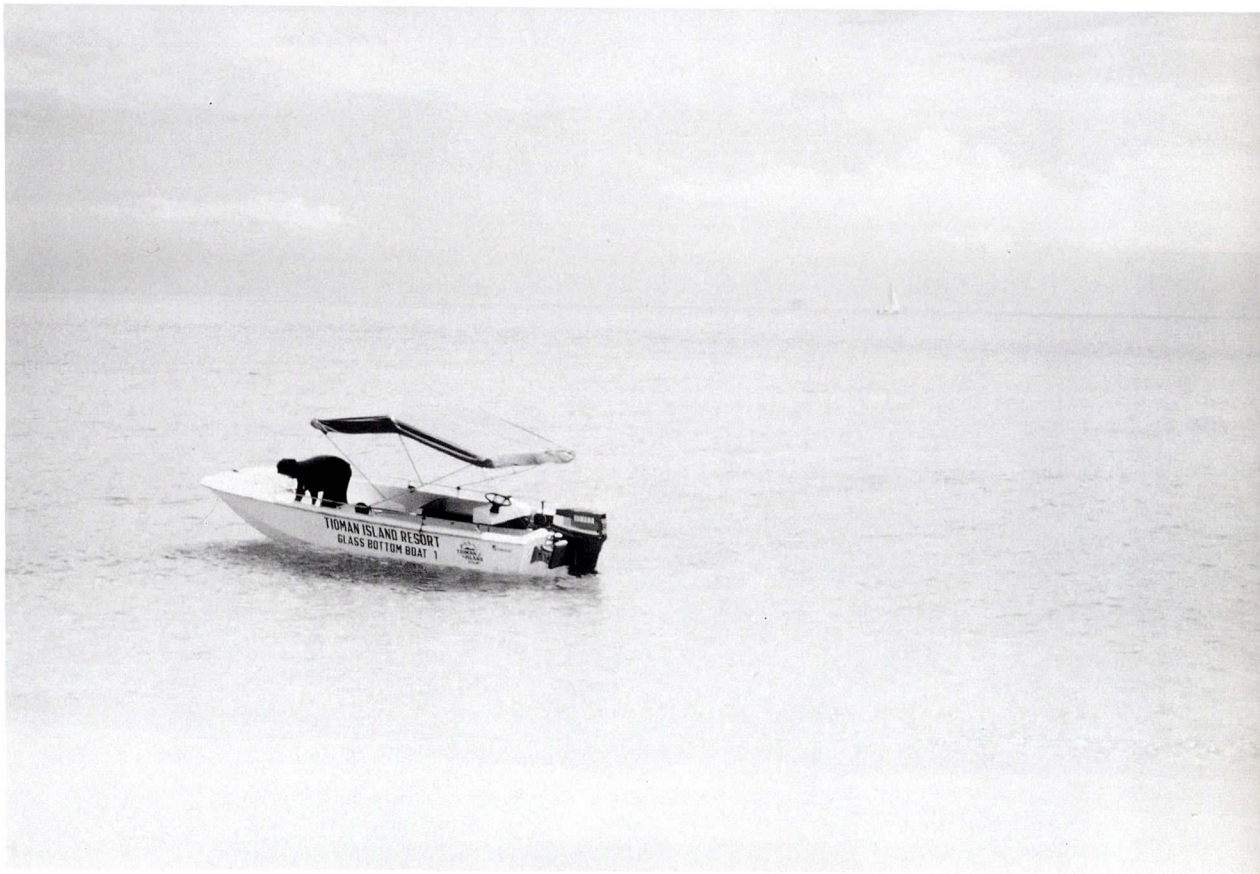
新神戸オリエンタルシティ・C_3

所 在 地　神戸市
敷地面積　18,190㎡
建築面積　10,837㎡
延床面積　136,510㎡
構造規模　SRC、RC、S　B3、37F、P1
工　　期　'86 3月～'88 9月
用　　途　ホテル・店舗・劇場

21

Photographs by Kiyohiko HIGASHIDE

特集　リゾート事情



稲田純一氏写真提供

■序論　総合保養地域整備法の制定の背景／林洋
■アンケート　リゾートを語る
●リゾート事情論－リゾート模様29・プロローグ／田中直人
●遠藤剛生／北村隆夫／上川禎彦／坂田種男／河野博之／西尾直／宮崎洋司／稲田純一／北村陸夫／松下良一／廣岡利貞／松村一男／池上俊郎
加藤弘治／小川洋一／稲葉好勝／川村清
乾和夫／杉上宣正／沖洸三／田中正二郎／菅原宏夫／西田吏利
小川益司／前晴夫／田中健晴／山上庄一／長山登志男／浅野高史
■マップ　日本列島リゾート開発構想
■資料篇　総合保養地域整備フローチャート／リゾート整備構想一覧／総合保養地域整備法

本号特集編集幹事：角島健二／河端秀直／小浦久子／鈴木克彦／高田佳子／田中直人／平岡博／吉村英祐

総合保養地域整備法制定の背景

林　　洋

リゾート地域整備の背景と意義

わが国は、今日、経済社会の一大転機を迎え、今後21世紀に向けて調和のとれた発展を図るため、新しい産業、生活文化の創造が求められている。

こうした中で、新しいリゾート空間の創出は、ゆとりとうるおいのある国民生活を実現し、未来に向けての社会の活力を確保するという観点から重要な政策課題となっており、また、地域経済を活性化し、内需の拡大に資するものとして大きな期待がもたれているところである。

このようなリゾートに対する期待の高まりは、余暇活動を重視するライフスタイルの定着、経済のサービス化等社会経済の変化によるものであるが、これを概観すればつぎのようなことがいえよう。

(1)　自由時間とライフスタイル

わが国の年間総労働時間は、現在約2,100時間強となっており、欧米諸国に比較して依然高水準にあるが、今後国民生活の質的向上の観点からも、国際的な調和の確保の観点からも、その短縮と自由時間の増加が重要な政策課題となっている。

一方、自由時間の増大と価値観の変化に伴い、国民生活の中におけるいわゆる余暇の占めるウエイトはきわめて大きくなっており、生活の中で仕事と余暇活動を同等に重要視し、これを充実させようとするライフスタイルが定着しつつある。

(2)　高齢化と余暇

わが国の高齢人口は、2000年には15.6%と欧米並みの高水準に達し、さらに、ピーク時には20%を超えるものと予想されている。このような本格的な高齢化社会の到来は、リタイヤ人口の増大により国民全体の自由時間を増大させるとともに、余暇需要そのものの質を変化させるものと考えられる。

また、こうした高齢者の余暇における健全な活動を確保することは、社会の活力の維持という観点から重要な政策課題になるものと考えられ、高齢者が安全で快適に自由時間を過ごすことのできる場の創出が強く求められるものと考えられる。

(3)　産業構造の変化

わが国の産業経済は、就業者数、生産額等あらゆる面でサービス産業のウエイトが高まり、いわゆる経済のサービス化が進むものと考えられる。その中で、増大する余暇需要に対応するリゾート産業の拡大は、こうした傾向を支持するものとして、今後その大きな成長が見込まれる。

また、円高に伴う産業調整の進展と対外直接投資の増大は、国内雇用を減少させ、産業の空洞化をもたらすことが懸念されるが、これに対応する国内雇用の受け皿としてのサービス産業、とくにリゾート関連については、今後大きな期待がもたれるところである。

(4)　地域経済

わが国の地域間の経済格差は、昭和54年以降再び拡大する傾向にあり、国際化・情報化の進展、産業構造調整の進行等を背景に、東京圏の地方部に対する優位性は今後ますます増大するおそれがある。こうした状況下で地方部における地域産業の振興・育成による経済社会の活性化が一層重要な課題となっており、従来のような工業開発を中心とした地域開発に加えて、景気に左右されることの少ない第三次産業、とくに成長の見込まれるリゾート産業の展開が期待されるところである。

すでに余暇活動は、単なる息抜き、暇つぶしではなく、人間性回復、自己充実のための活動であり、生活の重要不可欠な要素であると認識されており、余暇活動の場も、従来の通過型の観光地ではなく、居住・滞在し、生活の営みを行いうるハイレベルの生活機能を備えた空間であることが求められる。こうした要件を備えたものがリゾートであり、新しい余暇空間であるといえる。

リゾートは、まさに豊かで質の高い生活を実現するための居住・生活空間であり、国民の心身健康の維持増進、社会の活力の確保、社会のさまざまな活動の中における交流の促進等多様な機能を負うものであり、そこにおける生活を支えるさまざまな活動により地域の経済・社会の活性化を図りうるものであると考えられる。

リゾート地域整備への取り組み
—総合保養地域整備法—

このような新しいリゾートの整備を進めていくに当たっては、とくにつぎのような点について留意することが必要である。

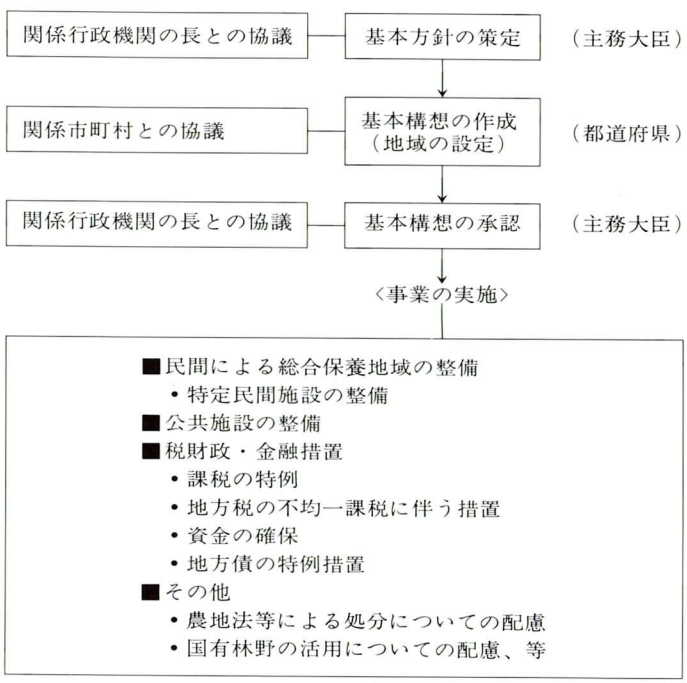
まず第一は、単なるリゾート施設の整備ではなく、基盤となる公共施設の整備、関連産業の振興等を併せて行うことにより、国民の多様かつ高度な要請に応える質の高いリゾート地域の総合的な整備を行うということである。

第二は、民間活力の活用に重点を置くということである。リゾート整備に当たっては、民間のノウハウ、能力の活用が重要であり、とくに、多様かつ高度な国民のニーズに応えるリゾートの形成を図っていくためには、市場原理に対応した財・サービスの供給が不可欠と考えられる。

第三には、フレキシビリティの確保である。リゾート開発は、社会経済情勢の変化に影響されやすい分野であり、また、地域の特性・条件に応じた展開が必要とされることから、公共部門による計画を先行させるだけではなく、より柔軟性を確保しつつ、民間をはじめ各事業主体がそれぞれの能力に応じて的確に事業を進めていくことが求められる。

こうした基本理念にたって、国民のニーズに応えうる新しいリゾート空間を民間活力を活用しつつ整備する総合保養地域整備法—いわゆるリゾート法—が、建設省をはじめ、国土庁、農林水産省、通商産業省、運輸省および自治省の6省庁を主務省庁として、一昨年6月に成立した。

本法の骨子は**図－1**のとおりであり、主務大臣（6省庁）が策定する基本方針に基づき、リゾート地域整備を行おうとする都道府県が基本構想を作成し、主務大臣の承認を経て、民間活力を活用しつつリゾート地域整備を進めることとしている。また、事業の実施に当たっては、民間事業者のリゾート施設整備に対する税制、金融上の特別措置やリゾート地域整備に必要な関連公共施設整備の促進などの支援措置を講じることとしている。



図－1　総合保養地域整備法の骨子

リゾート地域整備の展開

総合保養地域整備法に基づき、主務6省庁は、一昨年10月、これからのわが国におけるリゾート整備のマスタープランであるとともに、基本構想の承認基準ともなる基本方針を策定、公表（官報告示）した。

これを受けて、各都道府県においては、基本構想の承認に向け、積極的な取り組みがみられるところである。

基本構想の作成に当たっては、都道府県は事前に基礎調査を行い、その内容について主務6省庁で検討を行うこととしているが、昨年10月末までに基礎調査の提出を行ったのは17都道府県（三重、宮崎、福島、兵庫、栃木、新潟、群馬、埼玉、秋田、千葉、長崎、岩手、北海道、広島、福岡、大分、京都）にのぼっている。

このうち三重、宮崎、福島の3県については昨年7月9日付けで、兵庫、栃木の2県については10月28日付けで、それぞれ基本構想を承認したところである。また、新潟県については基本構想の承認申請を10月12日に行ったところであり、群馬、埼玉の2県については、基礎調査の検討を終え、近く基本構想の承認申請の見込みである。さらに他の道府県（秋田等9道府県）については、基礎調査内容を主務6省庁で鋭意検討中である。

なお、これら17道府県の基本構想、基礎調査の概要は、後掲（p 96）のとおりである。

各都府県からは、今後とも順次基礎調査の提出および基本構想の作成、承認申請が行われるものと見込まれるが、建設省としては、基本構想の承認に向けて引き続き極力迅速な対応を図っていくこととしている。

また、承認した基本構想に基づくリゾート地域整備を円滑に推進するため、民間事業者のリゾート施設整備に対する税制、金融上の特別措置等と併せて、とくに「複合リゾート関連施設整備計画」に基づき、所管公共施設等の一体的、重点的な整備を推進することとしている。

（はやし　よう　建設省建設経済局調整課事業調査官付課長補佐）

アンケート

リゾートを語る

設問【A】

1．「リゾート」という言葉を聞いて、何を（あるいはどこを）イメージされますか。
2．リゾートがより一般的になるためには、経済的余裕や休日の増加、休日の過ごし方に対する意識の変革、リゾート地の充実などが必要と考えられますが、貴社はどのようにお考えですか。具体的にお聞かせ下さい。
3．リゾート地の開発・経営の基本戦略あるいはノウハウについて、ハードとソフトの両面から差し支えない範囲で、できるだけ具体的にお書き下さい。
4．リゾート法（総合保養地域整備法）制定によって、今後のリゾート開発がどのように変わるとお考えですか。
5．現在、貴社が開発中あるいは計画中のリゾート地について、お尋ねします。
☆リゾート地の具体的な場所
☆その主要施設、目玉施設
☆他のリゾートと違う点、セールスポイント（ハード、ソフトの両面について）

設問【B】

1．好きなリゾート地と、そこでの過ごし方
2．外国のリゾートと日本のリゾートとの違い（施設の設備や過ごし方の違い、日本に本当のリゾートはあるのか）
3．あなたにとってのリゾートとは？「リゾート」に寄せるあなたの思いを自由にお書き下さい。

設問【C】

1．貴社が力を入れている海外のリゾート地の紹介
2．人気のあるリゾート地のはやりすたり
3．旅行商品の開発上の工夫、苦労
4．旅行者にリゾートを楽しんでもらうためのノウハウ

*

リゾートを楽しむ人、否定する人、リゾート開発をする企業、それを受け入れる自治体等々、それぞれの立場での〝リゾート〟にかかわるお話を聞き、改めてわれわれの、そして自分自身にとっての〝リゾート〟を考え、さらに日本ではリゾートはどのように展開していくのか手がかりを得たいと、上記三つの質問を設け、対象者別に設問を指定してアンケートをしました。
寄せられた29回答は、アンケートのプロローグをはさんで、掲載いたします。貴重なお話をいただいた方々にはあつくお礼申し上げます。（編集部）

リゾート事情論
―リゾート模様29・プロローグ―

田中直人

〝リゾート〟という言葉が氾濫している。〝リゾート〟が何であるかの定義はさておき、ここには何となく開放的で楽しいニュアンスがある。官民を問わず〝リゾート〟の計画や構想、開発プロジェクトが、日本列島各地で目白押しである。背景として、わが国が戦後の工業社会を経て情報化社会へ移行し、モノからココロへの価値観の変化に対応した、ライフスタイルへの反省があろう。働くことを美徳とする倫理観に支えられた勤勉さは、昨今、欧米諸国からは、働きバチの指摘の通り、ネガティブな方向で把えられるようになっている。増大する余暇時間を有効に活用し、来るべき高齢化社会の健全な社会環境整備に向けての施策が求められている。

こういった中で産業構造の変化にそなえ、地域の経済・社会の活性化を図る必要性から、一昨年6月には総合保養地域整備法（いわゆるリゾート法）が成立した。

今、この〝リゾート〟を、一つのブームとしてだけ把えるのではなく、建築と社会のかかわりといった視点を探る意味合いにおいても、より多くの関係者からの意見を求め、内在する現状での問題点や課題を浮かび上がらせようと試みた。各回答者に示されたアンケートの設問は左記の通り、〝リゾート〟に対する現状と今後にかかわる認識や問題点、提案、事例紹介等を求めたものである。これらの回答内容を構成するいくつかのkeywordを抽出し、これにそって〝リゾート〟の事情を概観してみたいと思う。

キーワード1 時間

労働時間の短縮と自由時間の増加は、国際的バランスからの要求もあって、今後ますます進んでいくものと思われる。週休二日制や長期休暇制度の拡大、あるいは祝日の見直しによって、絶対的休暇時間は増大する。この時間を自己のライフスタイルの中でどのように活用し、使いこなしていくかが問われる。

しかし現実的には、まだまだ休みを取ることを遠慮したりして、ごく一部の階層を除いては、長期休暇というのは実現し難い事情のようだ。正月、ゴールデンウィーク、盆といった、オーソライズされた休暇に集中するため、限られた交通手段や施設への競争が激化するのが現状のようである。当面、この点に関して求められるのは、西欧のような長期バカンスが伝統的に保証されていないわが国の現状にあっては、せめて週休二日制に対応した、〝リゾート〟の工夫をせこく実現することであろうか。〝リゾート〟が必ずしも長期にわたり、どこかへ行くことと限定されないのであれば、この「時間」に対する概念から、その人に合った〝リゾート〟のパターンがあるかもしれない。回答者の中にも、このような視点から、生活上のあらゆるステージをリゾートという表現で楽しんでいる方があった。

やはり、非日常的体験の中で、精神解放し、自由を楽しむという視点からすれば若干の異論があるかもしれない。

いずれにせよ、「時間」に対する生活上の哲学が、より重要なものとして認識されてくることには間違いない。

キーワード2 欧米型と日本型

すべての事象を語るとき、いつも引き合いに出されるのが外国とどう違うかである。この〝リゾート〟についても、同様のパターンで多くの回答者がその違いを指摘されている。リゾートに割く日数の違い、リゾートを生む背景となる生活パターン、施設の充実度の違い、企業と個人の意識の違い、楽しみ方の違い等々である。旅行代理店のセットしたメニューをあたふたと消化し、疲れ切って帰ってくる典型的日本型リゾートは、西欧のリゾートからは、およそリゾートとは言えないものであろう。勤勉な日本人は、リゾートのときにも、精一杯がんばって一生懸命やるのが美徳であり、また充実した余暇だと考えてしまうのであろうか。やたらカメラのシャッターを切ったり、ブランド商品の店にさっとうする姿からは、真のリゾートの創出への道のりは長いと言わざるを得ない。しかしボーとしていて何もしないのがよかった人が増えてきたという報告は、ようやく芽ばえてきた日本人のゆとり志向を語るものであろう。

施設面で、「場所の特性を最大限に活用し、利用者の独自性を生かしているのが欧米型、そのコピーにやっきになって、施設メニューの豊富さとハードの豊かさを競っているのが日本型の一つの特徴」という遠藤氏の指摘は、楽しみ方の意識、価値観の違いがそのまま施設面へも反映しているものと考えられる。

キーワード3 自然

〝リゾート〟のイメージについて、多くの人が語っている。さんさんとふりそそぐ太陽、どこまでも広がる海原、目にしみる緑の輝き…、大自然と素晴らしい四季折々の姿…、リゾートとは自然と人間が共生していくものである。「山地を切り開いたスポーツグラウンドやテニスコート、巨大な宿泊施設などは本当の意味のリゾートの姿といえるのか」「リゾートにマイカーを入れてはいけない」「徒歩がいやだという人は、リゾートへ来なくてよい」という上川氏の意見は、自然に対する愛情からの強い表現になっている。「自然を破壊するのは人間である」と。

美しい自然、かけがえのない自然とどのように付き合っていくかは大きな課題である。

キーワード4 開発

全国各地で展開されようとしているリゾート開発は、本号資料篇にもあるように、大規模にかつ集中的にプロジェクト化されてきたものである。大企業や自治体は、地域の活性化と住民の文化的向上という大義名分のもとに、構想を打ち出している。具体的な事業としては、公共と民間が協力していくパターンが目立つが、民間活力導入という方針で民間の資本力やノウハウにまかせたプロジェクトも多い。事業としての採算性や収益を高めるために、デベロッパーとして、最大効率を達成する手法の検討も必要であろうが、真のリゾートの創出のために、どのようなことをなすべきかが問われる。開発のための開発ではなく、自然と共生し、美と機能が有機的に結合しうるランドスケープ上の配慮も必要であろう。文化や精神的価値観を単純に産業化したり、商品化しただけの施設づくりにほん走することは、経済効果のための自然破壊行為につながる。計画の策定にあたり、全国画一的な開発プログラムでなく、地域の個性や現状をよく把握した上でのプログラムを目ざすべきであろう。

そういった意味で、各関係官庁をはじめ、行政の計画上の指導力や手腕が問われてこよう。抽象的キャッチフレーズの領域から一歩進んで、これからのリゾートのあり方を具体的に予感させるものを、地域に創出することが大切である。先に制定されたいわゆるリゾート法が、真の目的とするところで機能するか、各企業の乱開発に口実を与えるものになるかは、ある意味で今後の具体的運用で決まるともいえよう。行政からの回答としての構想には夢のある楽しい内容がいっぱいで大いに期待されるが、今後の動向が注目される。

キーワード5 ハードとソフト

リゾート開発となるとすぐ施設づくりの話になりがちだが、川村氏の地中海クラブでの当初からの考え方には感銘深いものがある。「おい兄弟、何もないけど楽しくやろうぜ」の精神が、人と人との出会いの気分が創りあげたリゾートのソフトに結実しているような気がする。立派なハードもさることながら、人々の価値観や志向の多様化の中で、きめ細かく対応していくソフト面の充実が重要になってくるという加藤氏の指摘もあった。「常に新しい企画を外部からも求め、いつも人々にとって魅力的なソフトの開発が求められている」ということである。同様に「リゾートは企画で決まる」という菅原氏の意見も、事業を具体的に担当されている立場からの迫力ある言葉である。アメリカ、カナダのスキーリゾート開発の事例から、「総合的な施設づくり、街づくりの巧みさ、オフシーズンの幅広い事業企画、行い届いたゲレンデサービス、そしてホテルサービスなどソフト面での素晴らしさ」を指摘されている点が注目される。建築と社会のかかわりでいえば、まさに建築そのもの以前の社会とのかかわり、しくみ、あるいは建築を運営していくソフト面をしっかり把握する必要があるという基本的なことが改めて認識される。

*

改めて感じたことは、〝リゾート〟の概念が、何人かの意見の中でも若干異なっているということであった。西欧でいうところのリゾートあるいはその具体的な行動パターンをそのままリゾートというのでなければ、日常的リゾートといってよいのかあるいは都会型リゾートといってよいのか、別のフレームがイメージされてくる。都会の中でのリゾート感覚をという室内スキーゲレンデの紹介は、都会の中へリゾートを入れようとする例といえるだろう。またリゾート地にいろんな都会での楽しみを取り入れようとする最近の風潮は、リゾートの中へ都会を入れようとする例といえる。これらはいずれも本来のリゾートではなく、ボケーと何もしないで何日もすごせる素晴らしい大自然での生活がリゾートだという意見がまた最初に戻って出てきそうである。多様な価値観やライフスタイルの展開が予測される今日、一律の〝リゾート〟に対する概念規定は難しい。都会の生活感覚を入れたリゾートはいわゆる〝アーバンリゾート〟として区分された方がよいのかもしれない。本特集では、そのあたりのところを含めて語り合ってきたということであろう。

（たなか　なおと　神戸市役所／本誌編集委員）

1 それなりにリゾート

遠藤剛生

【設問B・1】

私個人は、日頃の仕事から離れ気ままに時を過ごせる旅が、また訪れる土地そのものが、リゾート地であり、その土地の中から自分の好みに合った日々を見つけ出すのが楽しみです。

しかし今回のテーマは、今日的テーマであるリゾート開発の本質を見つけ出すことであり、そのテーマに沿って話を進めたいと思います。

好みから言えばリゾート施設は、ハード中心というよりもハードを含んだ山や海、花や緑の風景が作り出すリゾート的アメニティーの豊かさづくりだと思います。それと同時にそれらを運用するソフトと、参加性の高さが重要だと考えています。たとえば、グアム島のような南国ムードの環境の中で適当に開けたリゾート地や（建物ごとのアンバランスさと、スカイラインのまずさには目を覆いたくなりますが）、ワイキキの浜を少し離れた山のふもとの辺りにあるリゾートホテルでは、「適当な自然」と「適当な都会性」、「適当な施設」、「適当な管理」が用意され、多少もの足りない部分もありますが、全体的にはのんびりしていて評価できると思います。ごちゃごちゃした押しつけがましい構えや、ひねり廻したサービスはこんな場所には不似合いです。

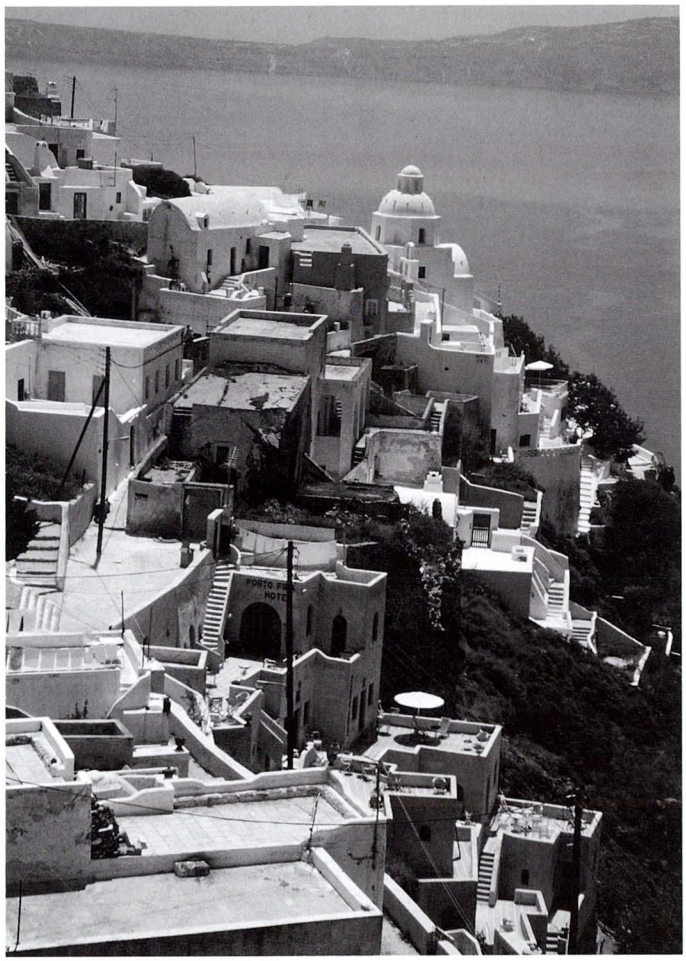
リゾート地を利用する立場からしても、テニスをしようと思えば適当に、また一日中プールサイドに寝そべって本でも読めれば最高です。読書にあきれば、何度おこしても風に倒される、慣れないウインドサーフィンを楽しんだり、どこまでもつづく遠浅の珊瑚礁の海を散歩としゃれてみるのも好きな楽しみ方の一つです。

【設問B・2】

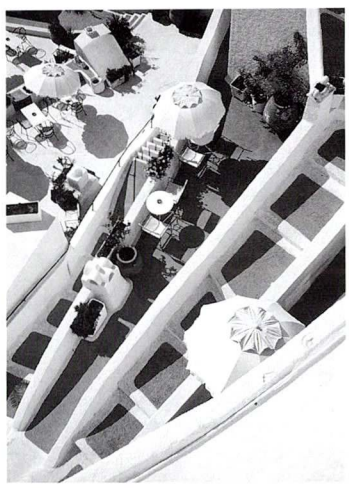
難しい質問ですが、外国のリゾート地として思い浮かぶのは（グアム、ハワイ等は日本のリゾートエリアの一部と考えています）、十字軍とその歴史の島ロードス、過酷な自然の中で生きてきたサントリーニ、ラビリンスの集落ミコノス、ナポリ湾とベスビオスの風景の美しいソレント、商都ベニスの運河と館と都市国家の歴史、太陽と白い砂浜のバレンシア周辺の海等々数えあげたらきりがない地中海の海と島で、これらの地域は、古くはギリシア、ローマ時代から、中世スペイン、ジェノバ、ベニスを中心とする海運都市の時代の歴史や文化、風俗、習慣、とともに今日のリゾートエリアを形成していますが、これらの地域に共通することがらは、豊かな自然と、人間の生活が、混然一体になって魅力の大部分が生まれていることです。

夏ともなれば、北欧やドイツ辺りから老いも若きも、金持ちも、それなりの人々はそれなりに、好みに合わせて自分のバカンスを楽しみに来ます。

大部分の人々は長期滞在型であり、安いペンションや、レンタルハウス、人によってはホテル住まいと多様ですが、そのほとんどが、



サントリーニ島―フィラの街―、海の見える段状のホテル



海の見えるキャフェテラス―フィラの街―



イヤの街の教会と別荘の屋上テラス



サントリーニ島―イヤの街―集落やレンタルハウス、別荘等

のんびりと浜辺やキャフェテラスやプールサイドに寝そべって一日を過ごします。一方、日本のそれは休暇の長さにも関係するのですが、持ち前の勤勉さも手つだって、昼はゴルフに夜はナイトショー、次の日はテニスとショッピング、その次の日は……と朝から夜までかけ廻り、目先が変わらなければ安心できない。これが現在の日本におけるリゾートライフの実体でしょう。

これらの施設の比較をすれば、場所の特性を最大限に活用し、利用者の独自性を生かしているのが欧米型なら、そのコピーにやっきになって、施設メニューの豊富さとハードの豊かさを競っているのが日本型の一つの特徴だと思います。

【設問B・3】

英和辞典によると〔リゾート〕は、しばしば行く所とか保養地といった意味がありますが、これらはリピート性の高い行楽地の概念を表していると思います。リゾートライフとは、日常的な生活から離れ、自由な時間を持つことによって心身ともにリラックスできることが第一義と考えます。今後の日本のレジャーが長期滞在型へと移行するであろう流れの中で、刺激の強いアイディアばかりを求めるよりも、精神を解放して自由でのびのびとリゾートライフが送れる、個別性の高い環境づくりをすることが、いく度となく訪れたくなるリゾート地づくりにつながるものと思います。

（えんどう　たかお　株式会社遠藤剛生建築設計事務所）

2
日本のリゾートの難しさ

北村隆夫

東アフリカの海岸は素晴らしい。まばゆく白い海浜が、紺碧の印度洋と緑に群生した椰子林を区切って何十哩と続いている。風の音、波の音と自然のリズムが心地良い午睡に引き込む。見つめると案外と人影もあり、三々五々と波打ち際に、椰子の木蔭に遊んでいる。私は大きなかや葺屋根の下、ホテルのテラスで寝転がり、冷えた飲み物を握っている。周囲は赤、白、橙のブーゲンビリヤが咲き乱れ、浜風が通り抜けるので、ここが南緯4度の熱帯とは思えない。夕やみが迫ると珊瑚礁でできた洞窟に灯が入り、バーが開く。バーカウンターでは珊瑚の壁に向かって腰をかける。壁の小さな穴から時どき臆病者のカメレオンが顔を出す(なかなか可愛いのである)。そして洞窟の冷気の中、しばしこの世の天国に心身をあずけることになる。

この海岸だけでもホテルは随分と建っているが、それぞれが相当の距離（一粁ぐらいか）を保ち、建築の高さは椰子の高さ以下に規制されている。賢明な人達である。前述のごとくホテルの姿は自然に調和し、周囲には環境を破壊するような看板の類はない。ホテルのサービスは行き届き、部屋やロビーも清潔だ。客のほとんどはヨーロッパからの避寒客とあって、多勢で話し合っていても大声にならない。彼ら独特の静かなざわめきと婦人を交えた和やかな雰囲気がただよっている。以上は、ケニヤ共和国モンバサ海岸ノースビーチでのひとときであった。

リゾートにはそれぞれ異なった特性があろう。スポーツに気持ち良い汗を流す場所もあり、楽しい歓声に日頃のプレッシャーを解放するところもあろう。しかしリゾートの基本に求められるものは、自然と文明のアメニティーがよく調和し、都会生活者に本当のレフレッシュを与える場であろう。前述の静かなモンバサ海岸のように、大声、異声の集団の前には瞬時に破壊されそうな自然とのデリケートな調和こそがリゾートの基本と考える。シャモニーの村は十年一日のごとくにしてこそシャモニーであり、サンレモのような地中海の町々はその美しさに歴史を重ねているゆえに有名なリゾートなのであろう。

さて、わが国に新しくリゾートエリアを創り出そうとするのは大変難しいことだ。現代の経済活動はあまりにダイナミックであり、投下資本と利益還元の規模はスケールメリットがなければ成立し得ない。より多数の利用者を必要とし、利用者のために一層巨大なアメニティーの建設を要する。日本の自然とは、すべてスケールアウトの出合いである。リゾート開発までもなく、経済効果のおもむくままに放置すれば、自然破壊は止まるところを知らぬ。気がつけば世界有数の海岸線を持つわが国に、どこに立つべき波打ち際が残っているのであろうか。

むしろ新しいリゾート地域とは自然に対する加工制限地域であり、アメニティー建設の制限計画区域であり、かつ利用者に社会的教養と文化の高さを条件づけてもよいぐらいである。利用者の厳しいセンスの目が見張られぬ限り、世に敬意を受けるに足るリゾートの創造は決して生まれないであろう。

（きたむら　たかお　株式会社竹中工務店常務取締役）

3
自然を助ける心

上川禎彦

私にとってリゾートという文字は、これまでとくに深い意味を持ったことはない。リゾートという言葉は、私達に大自然と、素晴らしい四季折々の姿を楽しませてくれる場所を連想させるが、今、このリゾートという言葉を考えなおしてみると、景勝の地を、人間が、ある意味では必要に応じて、自然破壊をして経済的な面で使い分けているのではないかと思う。今日まで、われわれ日本人は、本当の意味でのリゾートを育ててきたといえるだろうか。私にとってリゾートとは、自然と人間が共存共栄してゆくものでなくてはならない。

あるリゾートが出来上がれば、多数の人々が、そこに集まって来る。私達は、集まって来る人々が何を求めてやって来るのか、よくこれを見極める必要がある。山地を切り開いたスポーツグラウンドやテニスコート、巨大な宿泊施設などは本当の意味のリゾートの姿といえるのか、非常に疑問である。集まった人々の考え方にも問題

はある。自然から与えられることだけを望み、自然を助けることを考えないし、助ける方法を教育されていない。

リゾートにマイカーを入れてはいけない。自然の中に自動車道を設けることは自然を破壊することである。遊歩道などを作り、人々は徒歩で宿泊施設などへ向かうが良い。徒歩がいやだという人は、リゾートへ来なくてよい。都会に住む人、仕事のストレスを解消したい人が、そこへ行く。自然を満喫したいのだろう。そうすればよい。リゾートでの数日間はサバイバル的に生活するのもよいだろう。動物達ともつき合う。馬に餌を与え、牛の体を拭いてやる。山羊を引き出して、陽当たりの良い所へつないでおく。そうすると山羊は乳を沢山出してくれる。子供達にも、畑を耕やしたりイモ掘りをさせる。本当の意味のリゾートが存在し、自然は保護される。

子供達が自然とのつき合い方を体得すれば、次の世代の教育もしやすかろう。海も楽しめる。海水浴での甲羅干しだけが能ではない。近頃は育てる漁業の時代である。音波で管理されているハマチや、フグに餌を与える。寄ってくるハマチの餌を取るすさまじさは大人にとっても驚きとなる、そこには本物の自然があるのだ。

草も木も、鳥も花も、愛さなければならないし、愛する心がなければならない。自然を破壊するのは人間である。動物や草木は、そんなことはしない。リゾートを利用する人々すべてを、自然の良き理解者として教育するのは難しい。とくに日本人は、イギリスやヨーロッパの人々に較べると、自然を愛する心が不足しているように思えるのだが……。リゾートを運営管理する点でも、民間企業や第三セクターにまかせっきりではいけない。とくに自然保護の面では過干渉的に見据えることが必要である。車がなくては動けない人は、リゾートへ来なくてもよい。車が来ると、将来自然が去っていってしまうのだから。各地の景勝地がすでに形を変え、消えさろうとしている。リゾートに施設を設け、運営しようとする者は、そこのところの基本的な姿勢について、よく考える必要がある。

一昨年、総合保養地整備法が制定されたが、その運用においては、国、地方自治体等がしっかり監督しないと、法の名のもとに、自然破壊が、活発化しかねない。非常に心配である。日本は経済的には非常に富んできた。人々は余暇が増えた。しかし余暇だけが増えても、人々の心が豊かになりはしないのである。草木を愛し、動物を愛す、そんな心の余裕がないと、リゾートに集まってくる人々は、自然破壊の集団となりかねない。

リゾートという英語の持つ意味は、少なからず反自然的である。また開発されたリゾートも現実にそうなる。そこのところをよく理解しないと、私達の日本の美しい自然が、1ヵ所また1ヵ所と、枯木の山や汚水にまみれた川となってしまう。そうならないためには、私達は何をしなければならないか。単に建築にとどまらず、根本に立ちもどって考えることが必要だ。それがとりもなおさず、新しいリゾートの整備の根源となる、と思うのだが。

（かみかわ　よしひこ　上川建築研究所所長）

4
遊びは自分でつくりたい

坂田種男

わが国におけるリゾート開発は、昨今の日本人の働き過ぎからくる海外からの批判も含め、より良いレジャーを生活環境の中に取り入れるために、政府施策の一つとして、いわゆるリゾート法が制定され、国民に健康的で楽しい休暇と遊びができるように、その開発が進められていると言えよう。そのために海外からのリゾート情報が高級なイメージで紹介されたり、自然の美しさを賛美する名文句が利用者の心をくすぐる。その目的のために、ホテルや各種のレジャー施設をつくることをレジャー産業の一つの目標としていることは、これからのリゾートの考えかたに問題を残すことになるのではなかろうか。確かにこれらの波にのって、道路網は整備され、宿泊設備が充実し、四季の旅行に楽しいレジャーを過ごすことができるが、遊び方を知らない人達も多いと言われている。

もう数年前のことになるが、ツアーで30人ぐらいの人達とノルウェーの住宅環境を視察したことがあった。バス旅行でフィヨルドなどの雄大な風景を見ながら、川はあくまで澄み、鮭の滝のぼりを見ながら小さな町を訪れたとき、ほとんどわれわれで満室になるような小さなリゾートホテルに入った。普段なら明るいのですぐに街に繰り出して行く若い人達も、一向に動こうとはしなかった。夕食まで外出をしましょうと誘っても、何か行くところがあるのですかという返事。こんな山の中では何も見るものはないという考え方であった。そう言えば、日本の若い人達の中には遊ぶ施設がなければ遊びができなくなってしまっている人もいる。一杯飲みましょうと言ったときには、歓楽街の紅い灯が連想機能として働く。そう言えばゴルフ場、テニスコート、ゲートボール、パチンコ、遊技機械まで準備されたつくられた施設の中で、はじめて楽しさを見いだすように習慣付けられてしまったと言えよう。それは自分で遊びをつくることができなくなってしまっているとも言えよう。

また、同じ頃、北海に浮かぶフェローアイランドに行く機会があった。気象の関係で空港から街までタクシーで2時間もかかり、島づたいにタクシーに乗り、さらにフェリーをつかって、島の中で一番大きな街トーションハウンまでやっとたどりつくような島で、街には交通信号もなく、文明とは余り縁のないような所であった。そこからまた船で小さな漁村を訪ねた。タクシーは夕方迎えにくると言って霧の中に消えて行った。その村のはずれの、ある婦人の世話になる。その婦人は案内をしてくれながら、道端に落ちている木片を拾い、それを前掛けの下にかくし持ち、家に戻ると一本の板は彼女の子供に、一本はストーブの中へ。そんな行為が何を意味するかと思っていたが、それをもらった子供はすぐ鋸で切り、箱をつくって車をつけ、夕方には丘から滑り下りて遊んでいた。彼女いわく、あれが私の教育だと。昔はコペンハーゲンに住んでいた。街に出れば子供たちのためには遊園地もあり、プラモデルも売っているが、それは決して私の教育ではないと言っていた。自分で遊ぶものをつ

くり、自分で遊びを考える、これがこのあたりの人達の哲学であったようだ。

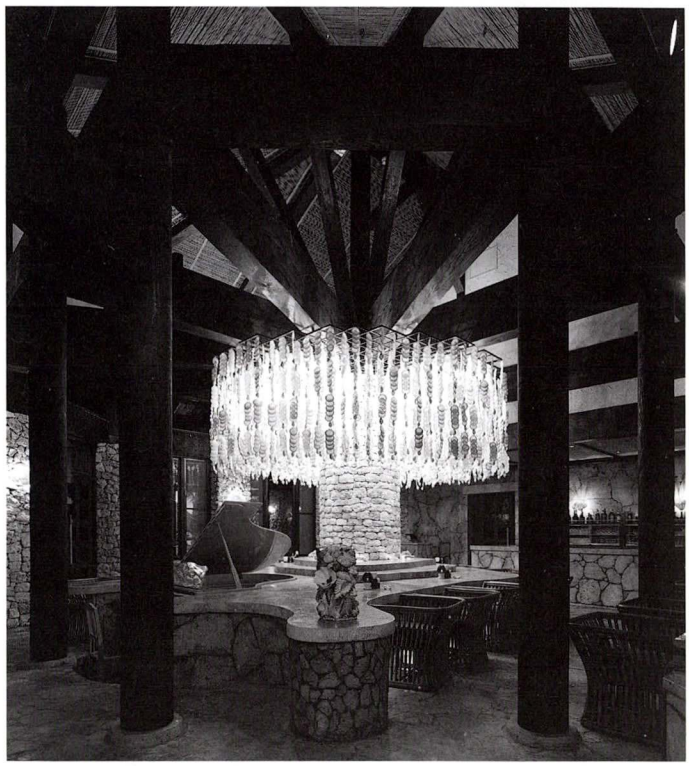
もちろん、フランスのニース、カンヌのような、またドイツのトラデミュンテなど大きなレジャー施設にはカジノやナイトクラブの施設があるが、自然の環境の中に都市でまにあうような施設は考えたくない。自然を破壊せず、誰をも楽しませてくれる憩いと遊びの場所は、このあたりの真の意味を理解することであり、施設や建物よりも、リゾートを使う人達のマナーと施設の一体化が、これからの問題であろう。

（さかた　たねお　千葉大学工学部講師）

5
島のリゾート

河野博之





4年ほど前、私は宮古島東急リゾートの新設を機に、仕事ではありましたが、宮古島を訪れる機会を得ました。宮古島は沖縄本島から南西へ約290キロ、太平洋と東シナ海に挟まれたこの島への認識はほとんどありませんでしたが、地図上で見る、ともすれば流されそうなこの小さな島の存在そのものに、大変興味をそそられるものがあったことを覚えています。

遠く望むホテル棟は、一面のさとうきび畑の中で、まるで大きな鱗をつけた大魚が横たわっているように見えてきました。今日では決して大規模とは言えない、中規模とも思えるホテル棟が、この島には限度いっぱいのようにも思えました。郷土色豊かな資材を使って作られている各施設は、大変快いものを感じるところがありました。その後、最近になってゴルフ場が建設されたと聞きます。

滞在中、一日の撮影を終え、民宿に投宿。湯の入っていない浴槽を横目に、少ないシャワーの水で体を洗い、食事。本土から来たと言うダイバー達と、取って来た見なれぬ魚を突き、泡盛りをすすり、民宿の主人の話を聞きながらの毎日の夕食でした。いつの夜でしたか、25～26の若い女性が訪ねて来て、民宿のおかみさんと何やら相談事をしているのを見て、どういう人かと尋ねましたら、数年前に大阪から越して来た奥さんとのこと。別に郷里でもなく、親戚もいるわけでもないこの島に、突然の移住だとのことでした。夫婦で、ここの民宿の主人が作るさとうきび畑で働いているらしく、すでにその若い奥さんの顔は真っ黒なのが印象的でした。

島の地域性からくる、遠く離れた孤独感。また、南の島特有の明るい開放感等、さまざまなことがこの地から私に伝わってきます。また、地元の人々の会話から、この島への新しい印象も生まれてきます。巨大な都市社会への理解に限界を感じる者にとって、数日で島の人々と友人になってしまいそうなことや、島の高台に立てば、すべて見渡せそうなこの限られた空間のようなものが、私にとって非常に快いものに感じられてなりません。

リゾートに寄せる思いは、何かそんな快いものを求めてと言うんでしょうか。島に住む人と、単なる旅行者である私の島に対する関係はどうあれ、そこに集まる人々の出会いの場が、ここなんだと言うものであってほしいと思っています。そして、だからと申しましょうか、リゾートは、私の毎日の生活から心情的に遠く離れてあるものだと思いますし、何かと満たされた生活から飛び出して受け入れてくる地ではないかと、そんな気がしてなりません。

帰路の機内より、小さくなってゆく宮古島を見ながら、若い夫婦のことを、ふと思い出していたことを覚えています。もちろん、あの澄み切った宮古の青い海も忘れはしませんが……。

（かわの　ひろゆき　建築写真家・西日本写房福岡代表者）

6
文化の産業化、ないしは精神的価値観の商品化

西尾　直

たとえば、水溜まりを作ってボウフラをわかす。蚊をいっぱい発生させてから、蚊取り線香を売る。有名な経済学者の定義を拝借すると、これがかつてのＧＮＰの仕掛けなのだが、人々の暮らしに必要なモノを作るというよりも、売るためにモノを作らねばならぬ時代の経済は、この発想が支えている。だから、高度成長の行き止まりと、ソフト化への対応という新たな経済環境に当面して、商品そのものの質と価値が大きく変換した現在も、マーケティング思考の根本は、さして変わったわけではない。

1970年代の半ばから、人々の間に定着した「モノからココロへ」のうたい文句は、こうした工業社会から情報化社会への時代の大きな流れを背景とする必然なのだが、これが必ずしも物質的満足よりも精神的充足を尊重するきわめて人間的な心優しい思想の表現とは限らぬ。実は、そうではなくて、モノを売りつくした経済の、次の標的として、人間のココロの領域までコントロールしようという、産業社会のサバイバル戦略のスローガンであることは、少なくともこの分野に生きる人の初歩的認識のひとつ。物質的な危機感とはおよそ無縁の消費社会において、サービスや情報といった無形の価値の商品化は、すでに常識だが、マーケティング開発の主要課題は今や感性の記号化であり、システム化である。言い換えれば、精神的価値観の商品化にほかならぬ。

少しさかのぼって、'60年代の後半には、物質的欲求をほぼ満たされた人々が、フリータイムの充実に目を向け始める。レジャーというコトバが日本語になり、情報化への転換がリクツではなく現実の社会現象となった。レジャーの日常化であり、同時にそれは経済の次代の主流となるべき情報産業あるいはサービス産業台頭のキザシである。水溜まりと蚊取り線香の関係で言えば、リゾートへのマーケティング開発の種まきは、この辺りから始まっている。

'60年代のレジャーブームに匹敵する'80年代のイベントメディアの隆盛は、新たな情報開発型マーケティングの展開による成果である。どちらかと言えばレジャーに関するモノ開発に比重のかかった前者に比べて、コトの演出という情報環境をプラスしたイベントには、さらに大きなエレメントが加わる。地域とのかかわりである。乱立する博覧会を例にとれば、テーマこそ違え、「地域の活性化と住民の文化的向上」という画一的だがもっともなコンセプトがあって、これが、ここ数年来、文化を錦の御旗とする地方自治体の経営戦略に絶大な効果を上げる。このことは、情報化社会の象徴的現象である文化の産業化、あるいは商品化を意味しているのである。

今、注目を集めるリゾート開発を、こうしたイベントと同列に扱うつもりではないが、地域ぐるみのマーケティング開発という意味では、その成果を一過性のイベントではなく、長期的、継続的な開発商品として、地域に定着させる試みと言えなくはない。

芽を出したレジャーに、イベントというコヤシをたっぷり与えたのだから、水やりさえ間違えなければリゾートの花見頃は近い。

ところで、アンティとヴオコさんご夫妻は、週末になるとヘルシンキから東へ、車で２時間ほどのシーサイドにあるセカンドハウスへ行く。電気も水道も引かず、サウナパーティなども季節がよければそのまま海へ飛び込んだりして、自然が日常の中にある。孝朗君と節子さん一家は、夏休みになると蓼科の別荘へ行くことになっている。彼らがここを使うのは一年にせいぜい１週間ぐらいだが、留守中の面倒と、行く前の電気や水道の開栓などは、管理会社がキッチリやってくれるし、スーパーも近くにあって普段と同じ暮らしができる。だから、自然はむしろ非日常的な舞台装置なのである。

「なるほど」と、キョンさんは言う。「フィンランドより、日本の方がススンでいるのだナ」

（にしお　ちよく　大阪芸術大学教授・デザイン社会学）

7
行きたい人と行ける人

宮崎洋司

リゾートライフに余り馴染みがない小生にとっても、仕事上通り過ぎたものの中にも、いいなと思うリゾートは少なくない。しかし、好みから言えば、伊豆急の「伊豆高原」である。温暖で、まち自体が熟成し、自分好みのリゾートっぽさがそこにはある（ように見える）。だが自身は伊豆半島突端に近い白浜に行くことが多い。白砂がきれいだ。子供の夏休み最初の日から二～三泊し、ただ泳ぐだけという貧弱なものである。頭の中には過ごし方の多様な思いがあるが、気持ちの余裕がなく、それ以外の時期は行けない。余裕がないから思い切って行くべきと頭の中では思っている。

外国のリゾートは全くと言ってよいほど知らないが、外国のリゾートと日本のものとの違いは、主につぎの五つである。一つは、日帰り客や一泊程度の宿泊の団体客を主な顧客と当て込んでいるが、一見でその地のローカリティを味わってもらうことを考慮していないのが日本的なものである。二つ目は、目指すはフランス的な長期バカンスというより、日本では週末利用を頻繁化する利用パターンとなろうこと。三つ目は、企業保養所に代表される法人需要（家族で企業保養所利用あるいは同僚等との利用）は、企業の中での個人のあり方の見直しにより変質するであろうが、日本では形の上で当分存続するであろうこと。四つ目は、週末利用とも関連するが、片道２～３時間以内のインシティリゾートが立地的には中心となり、地元需要を一定以上見込んだものが増えそうなこと。五つ目は、家族とその中での夫婦のあり方（たとえば子供用の別施設があり、親とはリゾート滞在中別行動が可能）に対する考え方の違いである。

恐らく一つ目のものを除き、以上の違いは、日本の独自性を活かしつつ外国の長所も取り入れたリゾートをつくってゆく上での基本スタンスとなるはずである。

現在リゾートは、ツインホーム的利用が盛んに推奨される風潮に

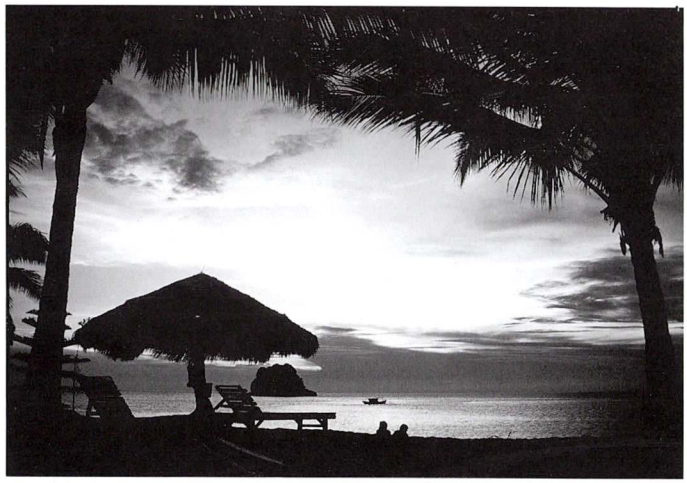
ある。しかしツインホームには、強い戸建て持ち家指向のいびつな現象という面が少なくなく、「代償行為」とも言える。そのことは、この現象を利用者とリゾートとの関係でみると分かりがよい。すなわち「A；行きたい人が行けるリゾート」、「B；行きたい人が行けないリゾート」、「C；行きたくない人が行けるリゾート」、「C；行きたくない人が行けないリゾート」の4パターンである。

Aパターンは、早くから自身ないし親譲りで別荘等を保有し、いつでも利用できる少数派である。Bパターンは、改めて説明するまでもない。Cパターンは、積極的に行きたいわけではないが（かつて投資目的に買ったり企業施設であったりして）、行けるリゾートはあるというパターンである。Dパターンは、最近のリゾートマンションブームにすでにその兆しがあるが、開発業者が顧客のセグメント等と称して投資と一部の特殊な実需を当て込んだリゾートに見られる。ツインホーム政策は現状では、Dパターンに対応しているのである。

言うまでもなく「行きたい人が行けるリゾート」が国民的厚生の増大からみて望ましいのは、何もリゾートに限らない。しかしリゾートには行きたいが、少し高いと感じることは必要であろう。高い質に対し価値を認め、「金」と「時間」を消費することに少々の決断を要するようでないと、繰り返し利用されるはずがない。それが常態化したところに、リゾートがあると言っていい。

小生の好みから言えば、豊かな自然と、異日常の「生活」がそこにあれば良い。普段はじっくり選べないもののショッピングができ、長時間本を読めるカフェテラスがあって欲しい。さらに言えば音楽家や画家が集うに相応しい雰囲気があって、実際に住んでいればなお良い。もちろん単に健康的な「生活」のみでなく、田中康夫的な少々のスキャンダラスさや色香の気配もあり、あるいはそうした情景が似つかわしい「まち」でなければ、リゾートとは言えない。

（みやざき　ひろし　株式会社プラス社会計画センター所長）





8
地球をいとうアプローチ

稲田純一

ここシンガポール周辺には、多くの東南アジアのリゾート地が点在しておりますが、家族で行ったインドネシアのバリ島とマレーシアのティオマン島を、私なりのリゾートをテーマとして紹介します。

両島とも、飛行機を使いますと当地からは2～3時間の行程で、リゾートの真っ只中に到着します。熱帯海洋性リゾートにとり、最も重要な澄んだ青い海、まぶしいほどに輝く砂浜、海岸線を埋めつくして植わっているヤシの林、サンサンと降りそそぐ太陽……。残念ながら珊瑚礁の多くは茶色に変色してしまっている状態ですが、まだまだ、私達のリゾートに寄せる期待を十分に満足させてくれます。モンスーンの時期をはずせば、ほぼ一年中、写真のようなランドスケープが目の前に展開します。





私が訪れましたリゾート地は、幸いにしてその施設レイアウトも環境のもつポテンシャルに優しく対応していて、決して大胆に、不必要に海岸線に突き出たり、むやみな自己主張をしたりしていず、ランドスケープアーキテクトであります私の目から見ましても、随分と心地よいものでした。このような立地でのリゾート開発計画においては、やはりランドスケープアーキテクチュラルなアプローチが重要視され、ちょうど、私達日本人の先達が自然を思い、自然との共生の中に美と機能を創造してきた手法が、見直されるべきでしょう。そうして、このことはとりもなおさず、ディベロッパーの方々に対しても、リゾート開発事業の本質的、経済的な可能性を最大化し、永続化を約束することになります。

外国のリゾートと日本のリゾートを考えます折に、それぞれの国民がリゾートに割きます日数が、決定的に大きな相違点を生み出しているように思われます。また、リゾートを生み出す背景となります生活のパターンやら、施設の充実度の違いは、この数字を通しても、見えてくるようにも思われます。俗によく言われます、ヨーロッパ人のサマーバカンスは、果たして、本当に1カ月近くもとっていますし、元来、地中海エリアがそのバカンスの主要地であったものが、近年はモーリシャス、モルディブ、そうしてここ東南アジアのリゾート地に大挙して押し寄せてきています。以前、タイ国のリゾート地でありますプーケット島に行こうかと思い、トラベルエージェントに問い合わせましたところ、旅行の情報とともに、小さな子供さんがおられる場合は、ヨーロッパ人が集中する時期ははずされた方がよいのではないですか、と忠告を受けました。それは、どうしてですかと尋ねますと、その時期ヌーディストが大勢、浜を埋めますので、子供さんの教育上よくないと思われますが、とのことでした。

一昨年パリ市の公園局を訪問しました折に、パリの人々は、俗に言われているように、1カ月以上も本当にサマーバカンスをとるのかと聞きましたところ、彼らは喜々として、もちろんとる。1年も前から計画しないと、集中する時期にはよいところのリザーベイションができないくらいなのだ、と語ってくれました。

フランス人のバカンス好きは、とみに有名ですが、片や、私どもにはきわめて働き者で身持ちのよさそうに見えるスイス人の友人に同様に、サマーバカンスは普通平均どれぐらいとるのかと尋ねますと、最低1年に3週間の休暇はとり、人により夏に集中したり、2週間を夏、1週間を冬というようなとり方をするということです。このことはスイスのフランス語圏もドイツ語圏も同様だということです。それにつけ加えて、日常のスイスのオフィスワークは、当然に、完全週休二日制ですが、それがさらに金曜日の午後はもうみな仕事はうわの空で、週末のことを考えており、エグゼクティブが金曜日の午後3時頃にでも秘書にタイプを依頼しようものなら、来週にしてくれとつき返されるのが落ちだということです。

私どもの行きましたバリ島でも、私も含めて、われわれ日本人滞在はせいぜい長くても平均的には4泊5日前後なのに、知り合ったドイツ人の中年の二組のカップルを含め、押しなべて彼ら西洋人のグループは2週間、3週間の休暇を楽しんでおりました。日本人のリゾートに割く余暇時間は近年増大しているとはいえ、3週間の休暇はいつになったらとれるようになるのかと思われます。

有名な、小学校時代によく耳にしました「アリとキリギリス[*注]」の話は、私にとり、潜在的な労働に対する倫理観の一部になっているのかもしれませんし、また浦島太郎の話にしましても、龍宮城で乙姫様と遊びほうけた後に、玉手箱を空けて白髪になってしまう、そのくだりはどこか、遊びほうけたことに対する罰を受けたようにもとれる気がします。それも、農耕を生業とした私達の生い立ちは、秋の収穫までは決して油断を許さず、収穫後にはじめて、束の間の「ハレ」が訪れるという1年の生活のプログラムに、端を発しているのでしょうか……。〝昭和元禄〟などとも呼ばれる現在は、江戸時代にもまして文化、芸術の爛熟が期待され、アリ的倫理観も急激に変化しつつあるように思われます。

BBC放送のワールドサービスは、サッチャー首相自らのスティトメントもあり、ここ半年以上前よりきわめて頻繁に世界の環境問題をとりあげています。世界で最も先に産業革命を成し遂げた英国は、今、工業化がもたらした高い生産性の社会システムとの代替えに生じたさまざまな環境問題のジレンマに、本気で気づき、世界に警告を発しています。地球が地球号として有限であることが認識されて久しいですが、このカプセルで営まれるわれわれの生活は、地球の環境再生能力を越えて成立するわけではなく、同様に、自然立地型のリゾートは、自然環境をそのリソースとして成立するわけですから、周到な環境への配慮の上での計画がなされなくてはなりません。

リゾートにより、人間が人間性の回復をなし得ることは、まるで母なる地球の子供である人間が、その生みの母(＝豊かな自然環境)に抱かれて、本来のアメニティーを取り戻すかのようにも見えます。

二十一世紀が人間が人間らしく生きる世紀としますと、さらに複雑化するテクノ社会にとり、リゾートは不可欠ですし、それを保障する母なる地球に対する配慮は、最も根本的な課題かと思われます。

*注・イソップ寓話の「蟻と甲蟲」がルーツなのでしょうか…。(岩波版参照)

(いなだ　じゅんいち　ランドスケープ・アーキテクト〈技術士〉
シンガポール国家開発省勤務)

9
リゾート地としてのサントリーニ島

北村陸夫

エーゲ海の島々の民家集落、とりわけミコノス、サントリーニ島の集落は、その美しさにおいて、世界有数のものであろう。

B・ルドルフスキーの「建築家なしの建築」や二川幸夫の写真集「エーゲ海の村と街」で紹介され、われわれ建築家には少なからぬ衝撃を与えたものであった。私自身も十数年来の憧れの地であったが、昨年暮れ、ついに行くことができた。

*

「紺碧の海と空、真っ白の壁」それがサントリーニのピュアーなイメージであり、最近ではテレビのCFにも登場しているが、そのイメージ、それに変焦がれ、追いもとめて行ったのである。しかし観光化、俗化は聞いてはいたが、予想以上にそれは進行していた。真っ白であるべき壁はところどころ剝げ落ち、ベージュやピンクに塗られているところもある。看板やネオンサインも多い。おまけに空は薄曇り。ついに、鮮烈なるサントリーニ・イメージは見られなかったし、その意味では失望だったといわざるを得ない。

しかし、この島の民家集落の空間の魅力はなんら劣ることはないし、エーゲ海の島々を見晴らす景観の素晴らしさは、他に例えようもない。さらに、リゾート地としてこの島を見るならば、実にいろいろと考えさせられることが多く、リゾートには不慣れなわれわれ日本人にとって、この島から学ばねばならないことの多さに気づくことになる。

*

サントリーニ島は海底火山の噴火によって出来た島で、その後幾度となく地震が繰り返され、もとは環状の外輪山であったのが、西側半分が海底に沈み、残った三日月型、正確にはタツノオトシゴ型がこの島の形となっている。西側、もとの火口側は約200mほどのきりたった段崖絶壁であり、東側は外海に向かって、なだらかな平地となっている。このなだらかな平地はブドウなどの畑になっており、非常にまばらに民家も点在しているが、よくあるのどかな田園風景である。この島の中心の街フィラ、それともうひとつイアの街は西側の絶壁の上に、こぼれんばかりに建ち並んでいるのである。

つまり、この島では日常の生産や居住に適する平坦地を畑に明け渡し、建設するにも居住するにも困難と思われる崖縁を住宅地にするという、驚くべき逆転の構造になっているのである。

*

B・ルドルフスキーは敷地の選択という項目で、こう述べている。「鋭敏な精神は美を要求するものだ。人間が、魂を高揚させるような素晴らしい景観をもつ土地を選びとろうとすれば、どんな困難や

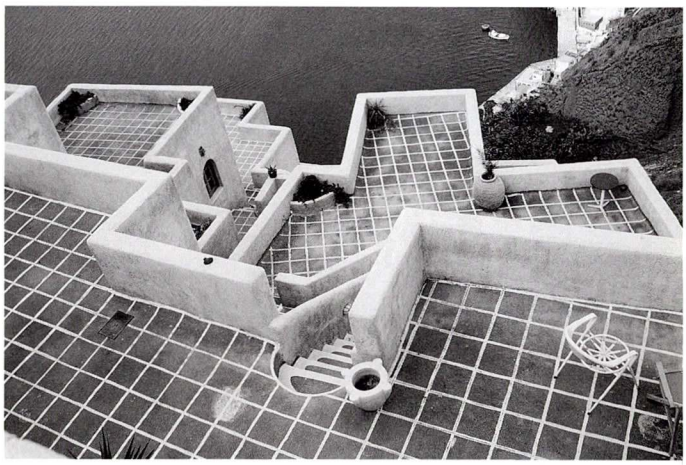
対岸より見たフィラの街



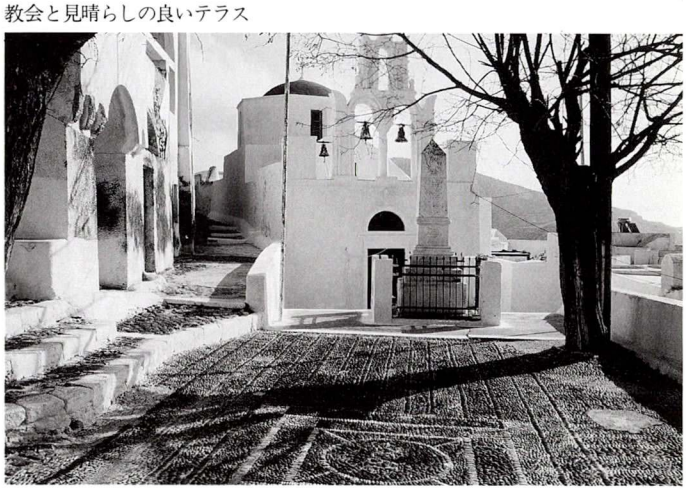
フィラの街と下の港をつなぐ、つづら折れの道



「創造の劇場のさじき席」



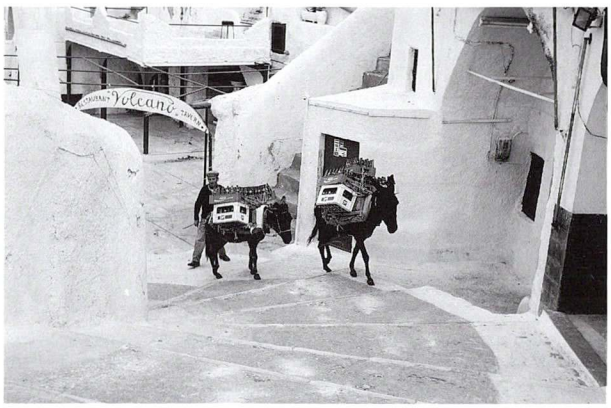
教会と見晴らしの良いテラス





海を見つめる犬

集落の中の重要な交通機関、ロバ



夕日を背にまどろむ猫



危険もそれを妨げることはできない」。「…フィラは創造の劇場のさじき席のようなものだ」。美の欲求のためにこの絶壁に集落を位置させたとの説であるが、かれら島民は、トルコあたりの異教徒からの迫害や侵略に備えるため、最も戦略的に有利な絶壁という位置を選んだのだという説もある。

いずれにしても、この島は尋常ならざるなにかが存在するような気がする。1956年の大地震ではこの島の民家は全滅状態になったのだが、島民は他に住居を移すことなく、同じ場所に同じように石を積み直したと言う。

また、ブルーにペイントされた小さなドーム屋根は教会であり、この集落の景観上のポイントとしてなくてはならないものである。しかし、このちいさな村に、何十カ所とあるのは、一体何を物語るのだろうか。

のどかにたゆとうエーゲ海、紺碧の空、この風景を切り裂くように荒々しい岩の断面を見せる段崖。太陽に照りつけられ目もくらむばかりの白い壁、わずかばかりの段々状のテラス。そして吸い込まれそうな奈楽の底。この島の魅力は、穏やかさと峻厳さ、美と危険、といったものの容赦のないせめぎあい、そこにあるのではないか。まさに絶景の地に、生命を賭けて人が住む。日常と非日常の境界線を生きる。このような人の生きることの意味を問いかえすような空間、この島が人をひきつけてやまない魅力はここにあると思う。

*

そういった意味で、この島はリゾートの根源的な資格を持っていると思う。

リゾートには、何もない、何もしない、ただただ退屈な時間の経過に身に委ねる、というコンセプトもありうる。しかしリゾートの基本的コンセプトは、ある種の非日常を生き、そしてまた日常に帰ってゆくということにつきるだろう。非日常とは、自然の中でのアドベンチャーであったり、人間関係の中でのアバンチュールかもしれないが、危険を孕んだものである。文明化され、日常の中に危機が排除された人間にとって、野生に帰ることは、心のバランスをたもち、創造性を得るためにも必然のことである。

サントリーニ島は本来の民家であることをやめ、リゾート地として、いわば用途変更してしまったわけである。確かに観光化、俗化してゆく部分もあるし、15年前二川氏が撮ってきたピュアーな民家集落の良さは少なくなってはいる。しかし、文化財として凍結的に保存され、旅行者のための展示物になってしまうよりは、どうせ近代化されるはずもないのだから、リゾート地として再び生かされるほうが良いと思う。

建築は骨董品ではないのだから、使いながら保存するということはもっと考えられるべきであろう。

この島の中心街、フィラの街は、ほとんどが旅行者のためのレストラン、土産物屋、ホテルなどになっている。もうひとつの街イアは、長期滞在者のための、レンタルあるいは分譲のリゾート・ハウスになっている。そのため、イアの街のほうがかつての民家の面影を良く残している。ちなみに、その分譲価格を調べてもらったが、100 m²、3ベッドルームで、約2000万円であった。日本円に換算すると以外に安い気もするが、為替レートの錯覚やギリシャでの所得レベルで換算しなおすと、約3倍の価値とみるべきと思われる。アテネの金持ちが持っており、ひと夏のバカンスをここで過ごすのだという。そして、それがかれらのステイタスでもあるわけだ。

*

サントリーニ島の民家集落は景観の芸術であり、文化財でもあるが、同時に、その空間的特性をそれほど壊すことなく、絶好のリゾート地になりおおせている。

先住の島民はリゾートというような概念はもちろん持ちえなかっただろうが、たくまずして、最高のリゾート地となるよう、運命づけられていたような気がする。（きたむら　りくお　建築家・ズーム計画工房）

10
ある提案

松下良一

私にとって〝リゾート〟とは何であるかと考えて見ると、やはり一般的日本人の一人として、休日の過ごし方、遊び方を知らない。終日ゴロ寝程度ではないかと思う。

今や日本は世界一の所得水準に達した、と言うが実感としてあまり感じない。それなのに世界中から、働きバチ中毒のように非難されている。われわれが豊かさを実感できないのは、住宅、土地問題のほかに、余暇の過ごし方を知らないということもあるのではないだろうか。

しかしわれわれ日本人と欧米人では、休日の考え方がまるで違う。欧米人にとっては、キリスト教的精神から労働とは罪悪であり、労働は人生を楽しむため、所得を得るための手段であると考えている。まして日曜日に働くなんてことはもってのほかである。日本人にとって労働は勤労であり、むしろ美徳の一つとされている。休日のレジャーは、明日の労働のための活力と言われているくらいである。

しかしこれからの日本人は、人生を見直し、人生を楽しみながら人間として豊かさを満喫しなければならない。消費は新たな需要を生みだし、雇用を拡げることになるだろう。

最近、週休二日制を実施する企業も増えてきた。また公務員も今年からその方向にある。将来、完全週休二日制、三日制とますます休日が増えていくであろう。従来の休暇の過ごし方は、家族づれで一泊二日で観光地を車で走りまわって高いホテル代を支払い、クタクタに疲れ果てて帰宅するパターンが多いようであるが、一ヵ所滞在型のレジャーが、本当のリゾート地での過ごし方ではないだろうか。しかし今のリゾート地に家族づれで一週間も滞在するのは、まず費用の面でサラリーマンにとっては不可能なことであろう。レジャー施設、ホテル等の料金の低廉化がのぞまれる。また行楽シーズンの5月の連休とか、7～8月お盆シーズン等に集中するため、予約を取ることも困難であり、長期滞在型のリゾート生活は一部の富裕階級をのぞいてまず不可能だろう。

そこで休日の取り方、リゾート地の施設の運営等について一つの提案をしてみたい。

一般的に、企業では年次休暇として20日程度の有給休暇を取ることができるが、同僚、上司に気がねし、本人も休んでも不安感が残るから、まず会社で年休を100％こなす人は少ない（一部の若い人は別だが）。管理職にでもなれば、まず不可能である。そこで企業に社員の年休を取ることを義務付ければ良い。会社には社員の年次休暇の残日数の比率にもとづいて、法人税の割増をするようにするわけである。会社も法人税を払うくらいなら年休を取ることを奨励するようになるだろうし、社員も気がねなしに休暇が取れるようになる。そして会社は業務の繁忙期をさけて、計画的な休暇の取り方をすすめるだろう。年休を取る社員も、家族の事情に合わせて、行楽シーズンをさけて、リゾート地の予約をとるようになるであろう。

リゾート地の施設の運営についても、年間平均して客が来るわけだから、施設の使用料も安くなる。ホテル料金も安くなり、おおいに歓迎され、わが国も滞在型のレジャーを楽しむ時代になるであろう。

リゾート地には、厚生省、郵政省関係等の保養所や休暇村等の国の施設が多く見受けられる。これらの施設をもっと、規則や資格等を緩和して、一般国民に開放し、低料金で運営してもらうと、民間施設も低廉化していくものと思われる。

これから、恐らくウォーターフロントのレジャー施設の開発はますます伸びるであろうし、リゾート地での内需拡大はもちろん、雇用関係も大いに伸びるであろう。むしろリゾート地の施設の従業員の休暇のあり方が問題になる皮肉な結果になるかも分からない。本当の意味のリゾート地の開発が進み、日本人も欧米人と同様なゆとりある、安息日が得られることをのぞみたい。

（まつした　りょういち　株式会社奥村組取締役副社長）

11
余暇利用の実践的報告

廣岡利貞

―人とリゾートをめぐって―というテーマに対して、九州に住む五十代の設計事務所所長のひとりとして、その現実の姿の報告をしてみたい。

【好きなリゾート地と、そこでの過ごし方】

逆説的かもしれないが、好きなリゾート地は我が家である。私が住んでいるのは、福岡市と北九州市のほぼ中間に位置する、宗像市日の里という郊外の住宅地であるが、ここがなかなかの好立地なのである。家から少し北へ行けば玄海灘が広がっていて、夏は海水浴を楽しめるし、一年中穫りたての新鮮な魚貝類が食べられる。歴史的に重要な史跡や有名な神社が近くにあるかと思えば、ゴルフ場も揃っている。空気は良く、食物はうまく、心身共にゆっくりできる。これ以上のリゾート地があるだろうかと心密かに思っている次第である。

さらに、いわゆるリゾート地へ行こうとしてもたいして時間がかからない。九州全体がリゾート地みたいなものだが、我が家から遠くないところに高速道路のインターチェンジがあり、日本最初の国立公園雲仙、雄大な自然の阿蘇、近頃流行りの湯布院に別府温泉、いずれも車で二時間から四時間くらいで行けるところにある。これで私の言い分が強がりではないことがおわかりいただけるであろうか。

【日本に本当のリゾートはあるのか？】

残念ながら答えはＮＯであろう。アメリカのディズニーワールドに行ったときのことである。普通一般のアメリカ人は、ディズニーワールドのまわりにたくさん建ち並んでいるツイン一泊五、六千円の部屋に泊まり、その安ホテルの近くのコンビニエンス・ストアで食料を買い込み、部屋に付いているキッチンで料理して食べ、ディ

ズニーワールドで、一週間から十日ぐらい遊んでいくのである。

一方、私はツイン一泊三万円の高級ホテルに泊まったが、スケジュールが詰まっていてディズニーワールドの中で過ごしたのは三時間だけであった。アメリカ人の友人からたった三時間と笑われてしまった。

安いホテルや民宿に長期間滞在して自炊し、ほとんど動かずのんびりと過ごすのが、欧米で言うところの本当のリゾートだとしたら、高価格のホテルに一泊か二泊して山海の珍味を飲み食いし、あたふたと見物し、目一杯遊んで疲れはてて帰って行くパターンが大部分の日本型のそれは、リゾートとは言えない別の何物かであろう。

良くも悪くも欧米型のリゾートには馴染めないのが、多くの働き盛りの日本人ではないだろうかという気がする。

【私にとってのリゾートとは】

ニューヨークや香港のような、観光だけではなくて今を生きている外国の街へ行き、その中で私流の過ごし方をすることが、私にとってのリゾートである。旅行代理店が用意した団体行動ではなくて、街に親しむような旅をするのが嬉しいのである。今度のホテルはどこにしよう、つぎはあの店であの料理を食べてみようというのから、チップはいつ、いくらやるのが効果的か、円高で交換レートがどうなったか、日本人観光客が増えてブランド品の価格がどのくらい上がったか、おみやげ品の製造国の移り変わり、そしてもちろん世界的な話題になっている建物の見学まで含めてすべて、ニューヨークや香港などの街の日々の動き、変わっていく姿に接するのが骨休めになるのである。

ちなみに日頃がんこな肩凝りで悩んでいる私だが、旅をしているあいだは、不思議とこれを忘れてしまっている。身も心も軽く楽しんでいるのである。活気ある外国の都市で過ごすことでいろいろな面でリフレッシュし、それがリゾートであると感じるのは、私が日本人である証拠のひとつであろうか。

（ひろおか　としさだ　有限会社広岡建築事務所代表取締役）

12
東洋の地中海へ

松村一男

私にとってリゾートとは、好きな音楽を家でしんみりと聞くことです。美しい山や川を眺めることであり、海岸を一人静かに歩くことであります。そして友人と楽しく会話することであり、自分なりの食事をするということです。キッサ店で友と語りながら雑誌や新聞を読むことです。また、懐かしい友の幸せを祈ることであります。

私は四国八十八ヵ所を廻っていますが、香川と徳島は終わり、高知と愛媛が残っています。事で参拝するのも良し、歩いて参拝するのも良し。その土地土地の人に少し道をたずねながら参拝していくことは、その土地土地の人情にふれ、心がなごみます。一昨年は母の勧めもあり、夏に高野山にバスで参拝しました。実に有意義な旅ができました。運転手さんやガイドさんには大変お世話になりました。百聞は一見にしかずと言いますが、そのとおりだと思いました。

また、自分が手掛けた建築を、車の中から眺めながらドライブするも私にとってはリゾートです。私は今鳴門で二つの工事を担当していますが、八分ほどの力を出そうと思っています。二分は余裕として残しておくことを常に考えています。私は若いときに仕事に夢中になったころがありました。そのころ私の行動を見ていた先輩の近藤さんから、「松ちゃ仕事に全力をつくすな、二分は余裕とし持っておけ、そうしないと、もし事があったときにどうすることもできないではないか」と教えていただきました。しかし、どうしても夢中になりがちです。時々思い出しては反省しています。それも私にとってはリゾートです。

家で静かに読書すること、人生における一大事、人生を人生として私たちに確認させるものは、一言でいうなら邂逅（かいこう）であると現代人生論の中に亀井先生は書いておられます。大河内先生によると学問上の偉大な発見は、一種の「着想」や「思いつき」と結びついて表れるものだということのようであります。たとえば、ソファーに腰をおろしてゆっくりとたばこをふかしているようなときとか、あるいはだらだら坂を漫然と登っているようなときとか、概してそうした気持ちのうつろなある瞬間に、思いもかけず突然に訪れるのが学問上の「思いつき」であり「着想」であると書いておられます。

ストリップショーを見るのもリゾートです。美しい女性の裸体を眺めることは男性としての本能だと思います。そしてまた、10年ほど前、私の友人が、ヨーロッパ旅行をして帰ったのでその様子をたずねたところ、町は美しかったと言ってカラーで写した写真を見せてくれました。私はヨーロッパには行っていませんが、美しい写真を眺めることもリゾートです。

テレビを見るのもリゾートです。映画を見るのもリゾートです。

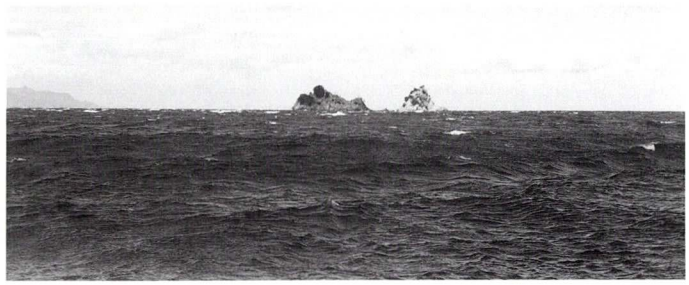
映画「戦争と平和」より、①単純素朴に生きることが真に生きることである、②すべての人を愛し、特定の人ではなく彼の生活が接触したすべての人々と仲良く暮らしたい。

私は瀬戸内海を、東洋の地中海にしたいと思っています。





私が住み、働き、歩く
香川県大川郡白鳥町と瀬戸内海



（まつむら　かずお　株式会社亀井組社員）

日本列島リゾート開発構想

●都道府県の大規模リゾート開発構想（表A）と、民間活力導入型大規模リゾート開発計画をプロットしてみると、日本列島はリゾート列島と化する。新たな自然破壊の引き金とならないような計画が望まれる。

●リゾートの目玉施設はスポーツ関連が圧倒的に多く、なかでもゴルフ場（18件）とスキー場（17件）が群を抜いている（表B）。

●民間活力導入型の事業形態は、純民間が6割以上を占め（41件、61.2%）、第3セクター（23件、34.3%）、官民共同（3件、4.5%）と続く（予定を含む）。しかし純民間のものは、既存施設の名称を変更しただけのものも多い。

（資料はNIKKEI REGIONAL ECONOMIC REPORT No.57, 58 1988より作成した）



記号凡例

- 都道府県の大規模リゾート開発構想
- ★ 純民間
- ▲ 第3セクター
- ■ 官民共同

（民間活力導入型大規模リゾート開発計画）

表A　都道府県の大規模リゾート開発構想

1. 北海道富良野・大雪リゾート地域整備構想（北海道）
2. 津軽岩木リゾート地域構想（青森）
3. さんりく・リアス・リゾート構想（岩手）
4. 栗駒山麓リゾート整備構想（宮城）
5. 八幡平・阿仁・田沢地域大規模リゾート整備構想（秋田）
6. 蔵王・月山地域構想（山形）
7. 会津フレッシュリゾート構想（福島）
8. 茨城総合保養地域整備（仮称）構想（福島）
9. 日光・那須リゾートライン構想（栃木）
10. ぐんまリフレッシュ高原リゾート構想（群馬）
11. 秩父リゾート地域整備構想（埼玉）
12. 房総リゾート地域整備構想（千葉）
13. 西多摩リゾート（東京）
14. 伊豆諸島・小笠原諸島アイランドリゾート構想（東京）
15. 新潟県大規模リゾート整備構想（新潟）
16. 能登リゾート構想（石川）
17. 加賀・白山ろくリゾート構想（石川）
18. 奥越地域観光リゾート構想（福井）
19. 北西部高原リゾート（仮称）構想（山梨）
20. 信州フレッシュエア・リゾートエリア構想（長野）
21. 飛騨・奥美濃リゾート構想（岐阜）
22. 富士・伊豆国際リゾート（仮称）構想（静岡）
23. 三河湾地域リゾート構想（愛知）
24. 三重サンベルトゾーン構想（三重）
25. 琵琶湖リゾートネックレス構想（滋賀）
26. 丹後リゾート構想（京都）
27. マリン・リゾート21構想（大阪）
28. 淡路島レクリエーション・リゾート構想（兵庫）
29. 南和地域リゾート（仮称）構想（奈良）
30. 紀の国・黒潮リゾート（仮称）構想（和歌山）
31. 大山山麓周辺リゾート構想（鳥取）
32. 三瓶石央地域リゾート（仮称）構想（島根）
33. 瀬戸内中央リゾート構想（広島）
34. サザンセト広域リゾートエリア（仮称）構想（山口）
35. 萩・長門広域リゾートエリア（仮称）構想（山口）
36. ヒューマン・リゾートとくしまの海の森構想（徳島）
37. 讃岐瀬戸内広域リゾート地域整備（仮称）構想（香川）
38. えひめ瀬戸内リゾート開発構想（愛媛）
39. 玄海レク・リゾート地域整備基本構想（福岡）
40. 佐賀県西北部地域複合リゾート基地（仮称)(佐賀）
41. ナガサキ・エキゾティック・リゾート構想（長崎）
42. 天草海洋リゾート基地構想（熊本）
43. 別府くじゅうリゾート構想（大分）
44. 宮崎・日南海岸リゾート構想（宮崎）
45. 沖縄トロピカルリゾート構想（沖縄）

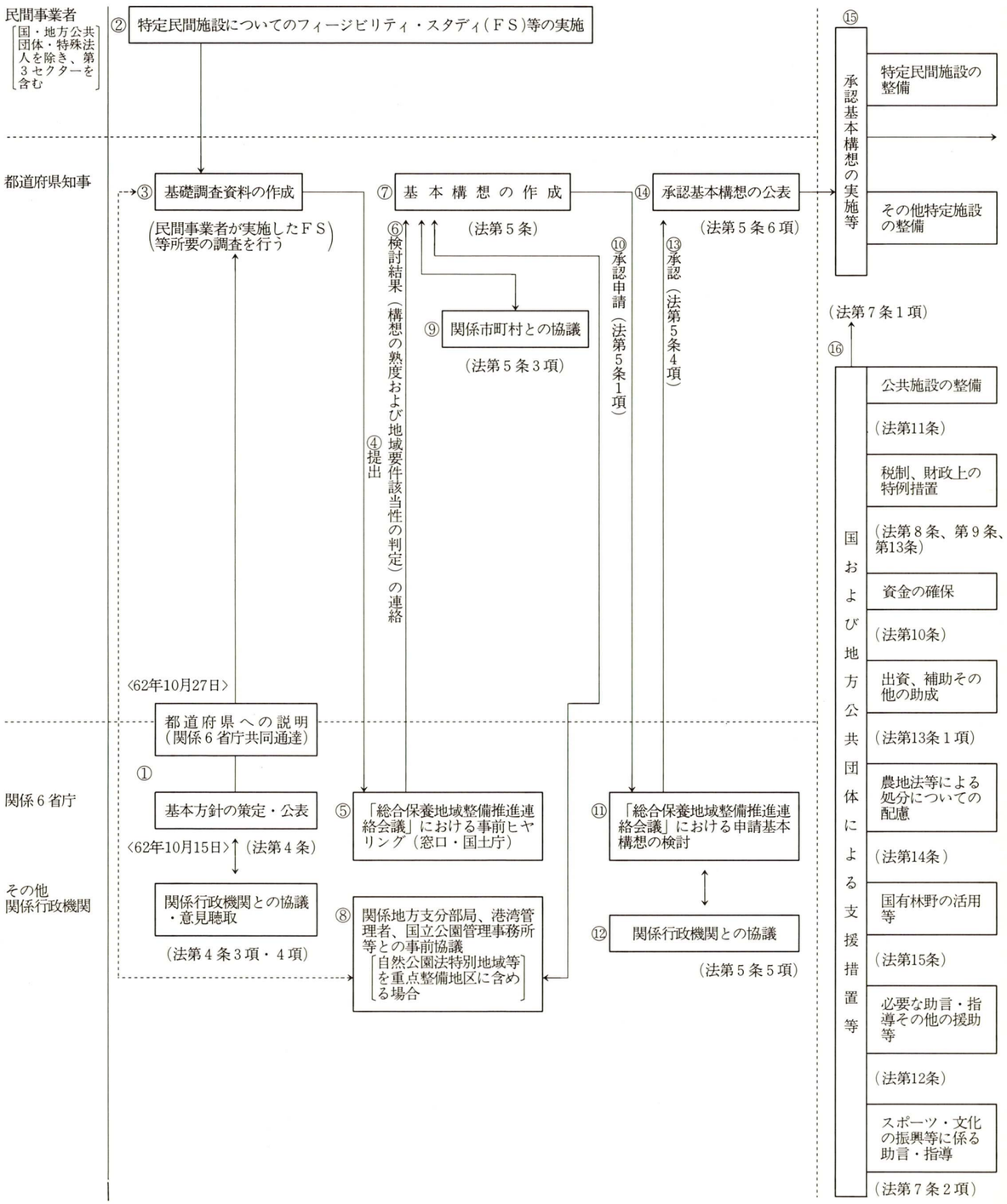
調整中：高知
未　定：神奈川、富山、岡山、鹿児島

表B　民間活力導入型のリゾートの目玉施設

ゴルフ場	18件
スキー場	17件
スポーツ施設	8件
街並み再現	6件
温泉・クアハウス	5件
マリーナ・ヨットハーバー	4件

総合保養地域整備のフローチャート

国土庁ほか監修「リゾート地域整備ハンドブック」（p12の図を転載）



リゾート整備構想一覧

昭和63年10末日現在

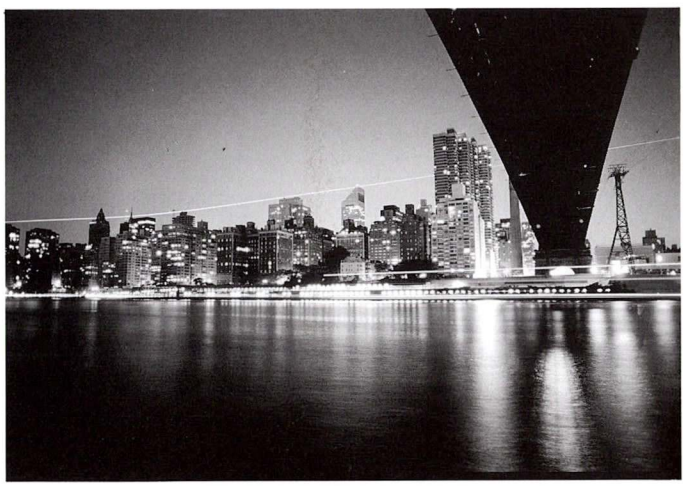
都道府県	構想名	特定地域面積(ha)	対象市町村名	重点整備地区	主な施設等	備考
三重県	国際リゾート「三重サンベルトゾーン」構想	156,000	明野町、玉城町、小俣町、伊勢市、二見町、鳥羽市等 4市17町2村	伊勢・二見地区等 8地区	ゴルフ場 マリーナ ホテル 芸術村 等	63. 7. 9 基本構想承認
宮崎県	宮崎・日南海岸リゾート構想	133,000	宮崎市、日南市、串間市等 3市5町	国際海浜コンベンションリゾート地区等 6地区	ゴルフ場 マリーナ 国際会議場 ホテル 等	63. 7. 9 基本構想承認
福島県	会津フレッシュリゾート構想	178,000	会津若松市、郡山市、田島町、下郷町等 2市5町1村	裏磐梯デコ地区等 9地区	スキー場 ゴルフ場 マリーナ 等	63. 7. 9 基本構想承認
兵庫県	淡路島リゾート構想	60,000	洲本市、津名町、淡路町等 1市10町	海洋スポーツ休養ゾーン等 9地区	マリーナ 国際会議場 観光農園 等	63.10.28 基本構想承認
栃木県	日光・那須リゾートライン構想	170,000	日光市、今市市、黒磯市等 3市3町1村	那須ブレリー地区等 9地区	スキー場 ホテル クアハウス 等	63.10.28 基本構想承認
新潟県	新潟県大規模リゾート整備基本構想	163,000	十日町市、川口町、堀之内町等 1市11町2村	魚沼丘陵地区等 7地区	スキー場 ゴルフ場 野外劇場 等	63.10.12 基本構想承認申請
群馬県	ぐんまリフレッシュ高原リゾート構想	175,000	中之条町、東村、吾妻町等 12市町村	嬬恋高原スポーツリゾート等 13地区	スキー場 アイスアリーナ 等	基礎調査段階
埼玉県	秩父リゾート地域整備構想	99,000	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀞町等 1市6町4村	長尾根地区等 4地区	埼玉ミューズパーク 人工スキー場 等	基礎調査段階
秋田県	八幡平・阿仁・田沢地域大規模リゾート整備構想	177,000	鹿角市、森吉町、阿仁町、田沢湖町等 1市4町1村	田沢湖畔地区等 9地区	クアハウス スキー場 ゴルフ場 ホテル 等	基礎調査段階
千葉県	房総リゾート地域整備構想	179,000	富津市、君津市、鋸南町、富山町、富浦町、館山市等 9市25町3村	富津地区（山と海の国際リゾート）等 11地区	ゴルフ場 マリーナ ホテル 等	基礎調査段階
長崎県	ナガサキ・エキゾティック・リゾート構想	145,000	長崎市、佐世保市、諫早市、大村市、香焼町等 4市19町	針尾・西海橋地区国際級リゾート・エリア等 7地区	ハウステンボス コンドミニアム ホテル 等	基礎調査段階
岩手県	さんりく・リアス・リゾート	173,000	大船渡市、陸前高田市、住田町、三陸町等 4市3町	椿の里（大船渡市、陸前高田市）等 7地区	マリーナ 水族館 オリンピアホール 等	基礎調査段階
北海道	北海道富良野・大雪リゾート地域整備構想	335,000	富良野市、東川町、美瑛町、上富良野町等 1市7町1村	旭岳地区等 8地区	リゾート大学 スキー場 ゴルフ場 観光牧場 等	基礎調査段階
広島県	瀬戸内中央リゾート構想	121,000	竹原市、三原市、尾道市、大崎町、東野町等 6市17町	新広島空港地区等 8地区	マリーナ 海洋ミュージアム ホテル 等	基礎調査段階
福岡県	玄海レク・リゾート地域整備基本構想	143,000	北九州市、福岡市、飯塚市、大野城市等 6市19町1村	糸島コースタルリゾートゾーン等 9地区	マリーナ スペースワールド 農村公園 等	基礎調査段階
大分県	別府くじゅうリゾート構想	149,000	別府市、杵築市、日出町、山香町等 2市10町	杵築・日出生きがい創造エリア等 9地区	クアハウス 明治維新村 スポーツランド 等	基礎調査段階
京都府	丹後リゾート構想	128,000	舞鶴市、宮津市、大江町、岩滝町等 2市11町	久美浜湾地区等 8地区	クアハウス 釣り公園 海上レストラン 等	基礎調査段階

13
〝自己発見の場〟としてのリゾート

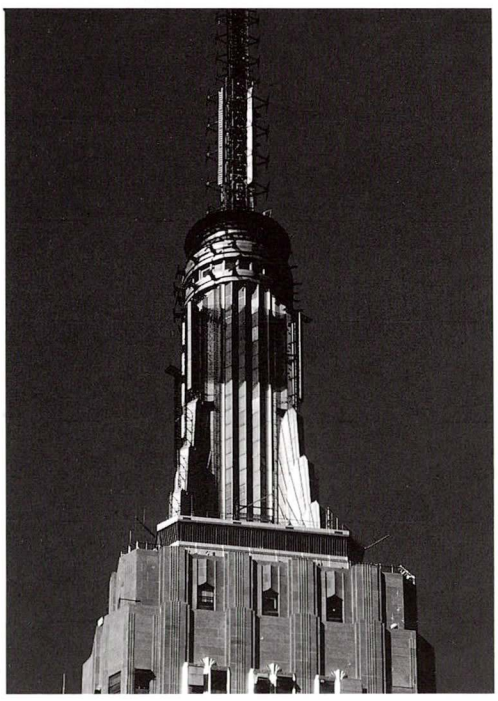
池上俊郎

リゾート。心安まる地。空間的継起＝シークェンスが機能と平行して存在すれば言うことはない。それが、内部空間、外部空間を結び、さらに四季の良さが季節を問わず体験できれば望ましい。〝リゾート地〟というのは、そうした桃源境のことであろう。しかし、〝リゾート開発〟は、ディズニーランドのコピーを造り、地域と遊離した、旅行代理店のクーポン販売先を作ることになりかけている。

私のリゾートというものがあるならば、〝個人的な発見の場〟である。ニューヨークは好きな街である。8年前にほとんど2カ月歩きまわった。危険地帯、安全地帯、夜中・明方、アップタウンもハーレムも。都市の魅力を24時間に詰め込んだ分厚いNEW　YORK



NEW YORK夜景



NEW YORK
EMPIRE STATE BLDG.,
頂部





SRINAGAR湖上風景—INDIA—

TIMESが発信する。時代も、文化も、現在も、近未来も、近過去も、一緒に。人種も、言葉も、おのぼりさんも、VIPも。世界の富の10%が集まり、決定権を握り、一方文盲、非教育が同居する。

私は、このアンバランスな刺激が好きだ。この都市は、ビジネスの場で、ここはリゾート地でないと人は言う。探検し、発見する、この深い知的冒険は、地図にさえ現れない奥行きを持って、現実にある。私の知人は、アップタウンのPENTHOUSEに住んでいる。住所を書いた紙片を持って、アパートを訪ねる。ジャバラ式のエレベーターにのって、15Fを目指す。この楽しみは〝なぞとき〟に近い。私のリゾートの一つの極みが、こうしたNEW　YORKである。

一方の極に、インドの北部カシミール地方がある。スリナガルは、湖のエリアである。フランス人達が、分厚い〝ラ・ダック〟と銘打たれた本を手に、一日を過ごしている。ここは、自然に包まれた桃源境である。湖に浮かんだ船が、ホテルである。小さな伝馬船が数百隻のホテルと町を結んでくれる。食物や、花や、いろいろなものが、小さな舟にのって運ばれる。人生が、ゆったりと流れる時間。高度4000mを越えた高い峰々に囲まれた、桃源境である。ただ身を自然にまかせる。シルクロードに近い小さな街には、政治も、経済も、歴史も、未来も、文化も、もちろん存在する。しかしそれ以上に、快適な、あるがままの自然空間に身をまかせることが旅人には可能だ。

なぞときのNEW　YORKと、あるがままのスリナガル。どちらも、私の心象風景の中にしか存在していない。しかし、RESORTのあり方のある極端を、提示しているように思う。

〝リゾート開発〟ブームも、単なるパッケージツアーの商品開発に終わらない〝自己発見の場〟作りを探って欲しい。

（いけがみ　としろう　建築家・アーバンガウス研究所所長）

14
リゾートと日本人のレジャー

加藤弘治

日本人の、いわゆるリゾート利用は決して上手といえないが、これは、今までそういうゆっくりした時間のすごし方をしたことがない上に、休暇も自由に取れない現状では、もっともなことかも知れません。しかし日本人が円高を背景に、猛烈な勢いで海外旅行を楽しみ出して、そう年月が経過していないにもかかわらず、旅行自体の楽しみ方は若者を中心に、かなりうまくなってきています。でもリゾート地で本当の創造的な旅なり、生活を楽しんでいるのは一部の人達、とくに時間的余裕のある人に限られているようです。

今のリゾート地の楽しみ方は、目的がはっきりしていないまま「良さそうだから、ゆっくりできそうだから！」その地に行き、そこに準備された施設や設備を利用して何日かをすごす、といったように割合奥の浅い表面的な利用の仕方のように見受けられます。まだリゾート地の楽しみ方自体がよくわからないのかも知れません。

およそ人間にとって、「自分の一生をどのようにすごすか」は、目的を持ち、自分という人間を社会の中でどう位置づけるかという意味で常に大きな課題です。昔と違い、健康でさえあれば誰でもある程度の心の余裕もでき、自分の希望する生き方が可能な時代になりました。自分が現状に満足せず常に前向きに生きるためには、自分自身の価値観をしっかりと確立せねばなりません。そのためには視野を広くするための勉強や読書も必要でしょう。最も鮮明に感じるのは、いつもの自分と環境を変えてみる、自分をいつもと違う場面に置いてみることです。たとえば小説の主人公となって主役を演じたり、いつも自分の頭の隅にある変身願望を実践してみたり、このような意外性との出会いや、胸のときめきの中に生まれる貴重な創造の経験がなければ、人生は楽しくないし、自分の向上もないような気がします。そんな意味で人間には、生きている節目ごとに、今までの自分をゆったりとした気持ちの中で振りかえり、また新たな勇気を生むための旅行が必要で不可欠ではないでしょうか。

クリエイティブな生き方のためには、旅をして新しい発見や出会いを知り、リゾートで心身をリフレッシュして創造的な自由な気分になることが大切です。

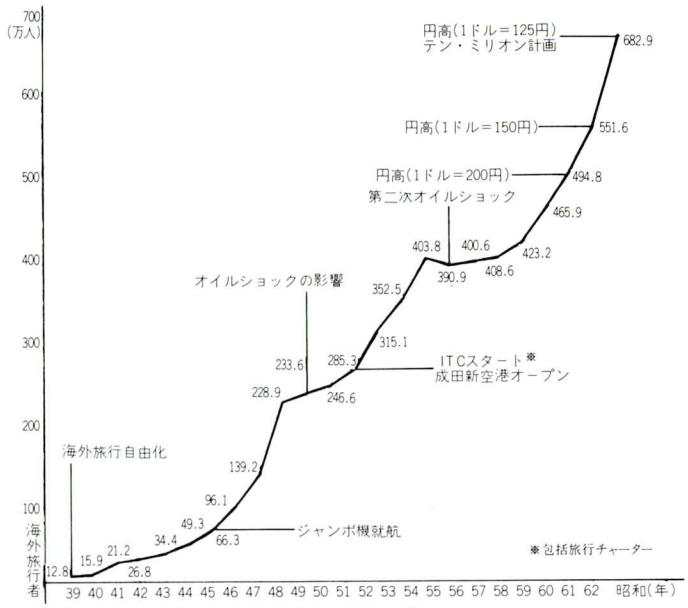
大企業の資本力・開発力で、国内・海外のあちこちに大きな資本が投下され、大規模リゾート開発が活発です。確かに日本人は豊かになり、自分達の生活をエンジョイすることに熱心になってきましたが、立派なハードさえあれば人が集まり、充実したリゾートライフがすごせるのでしょうか。大規模な開発で素敵な設備ができれば、行ってみたい欲求にはかられますが、そのリゾートへ一度行けば「もうわかった、知っている」で満足されるだけではまだ本物といえないのではないでしょうか。時間ができて人々が自分の価値観を強く持つことにより当然志向が多様化する中で、それぞれの人にリゾートとしてどのように対応できるかのソフト面の充実が重要になってくると思います。今までの日本人の、中味が濃く短い、忙しすぎるレジャーが、ゆったりと長い滞在型のレジャーに変わるのが大勢だとすれば、リゾートは立派なハードに加え、楽しさや創造性を常に提供する場でなくてはなりません。常に新しい企画を外部からも求め、いつも人々にとって魅力的なソフトの開発が求められていると思います。

われわれは、旅行業者として自由な発想のもとに、異業種との交流を深め、新しい企画を提供し、旅行を通して創造性と国際的なサービスの提供に努力して参りたいと考えています。

（かとう　こうじ　株式会社インターナショナルサービス）

15
海外旅行における日本人のリゾート志向

小川洋一



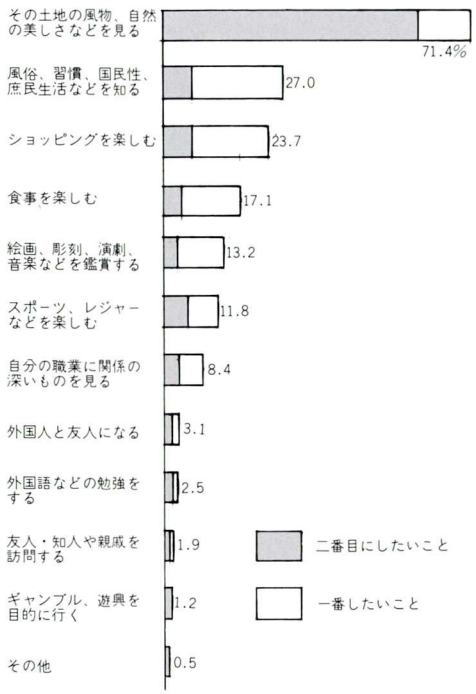
海外旅行の推移と背景

方面別海外旅行者数の推移

（単位＝千人）

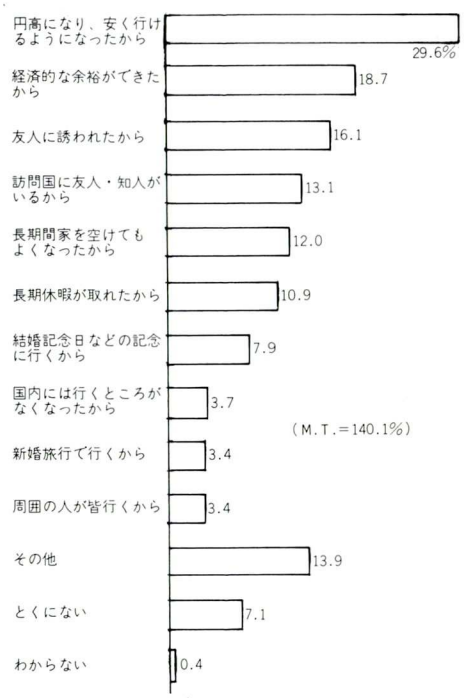
方面別 / 年度	ハワイ	グアム	オーストラリア	香港	台湾	韓国
52	447,900	154,600	32,187	473,485	569,679	595,000
53	490,001	167,310	34,621	485,804	646,239	681,596
54	592,166	198,310	46,863	507,824	678,775	611,802
55	568,190	233,700	47,411	450,690	642,774	448,842
56	690,400	259,400	56,035	526,149	579,782	523,852
57	718,000	269,530	63,924	514,263	578,477	510,623
58	729,000	299,216	74,290	516,643	606,828	528,631
59	816,000	300,328	94,766	599,937	631,521	594,477
60	856,000	298,364	115,300	633,738	616,841	656,928
61	944,000	357,561		733,162	722,880	821,101
62	1,170,000	457,639				

資料出所　各国政府観光機関



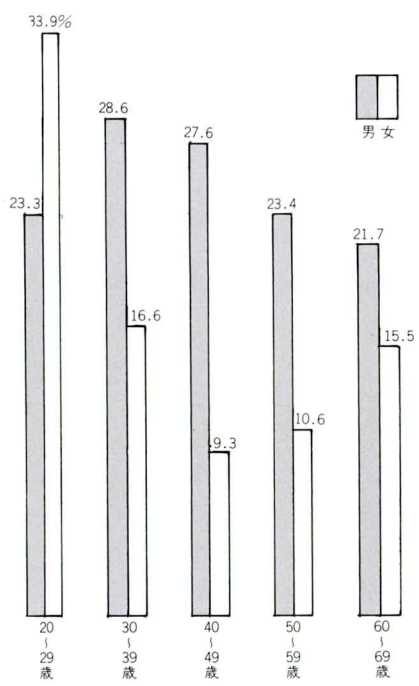
海外旅行の目的

（出典　海外旅行に関する世論調査　昭和62年11月）



海外旅行の動機(海外旅行の予定がある者267人に、複数回答)

（出典　海外旅行に関する世論調査　昭和62年11月）



海外旅行の経験

（出典　海外旅行に関する世論調査　昭和62年11月）

今、海外旅行が非常に伸びており、「リゾート」と言うとイコール「海外滞在型」というイメージが定着している。そしてこれまでの周遊型海外旅行に加えて、滞在型やリゾート型海外旅行も増えてきている。しかし、あいかわらず団体客、ブライダル客ばかりが大切にされ、個人旅行客は冷遇されがちな感があるが、個人の旅行者は今は少数派でも将来性のある客筋であり、また、リゾート型海外旅行のオピニオンリーダーというべき存在ではなかろうか。

リゾートで一番多い目的地はハワイである。旅行期間は５日～６日で、グアムの場合だと３日～４日が中心となり、もちろん７泊以上のパック商品もあるが、数からいくとまだまだ少ない。ハワイ以外のリゾートもいろいろあるが、やはり有名なリゾートのニーズが高い。オーストラリアのゴールドコーストやアジアではタイのパタヤ、インドネシアのバリ島などは初めて行く人には非常によく売れている。安全でクリーンだということも大切なポイントとなっており、政情不安なフィリピンなどはここ二～三年人気がない。客層はハネムーン、夏だと家族旅行が年々増えてきており、若い女性グループが中心である。

旅行目的は欧米人のようにのんびりするためでなく、ハワイ、グアムへの目的の１位はショッピングであり、観光で肌を焼くというのはハワイでは４位でグアムでは５位である。日本人の海外旅行の目的に「ショッピング」の占める割合が大きいということはまだ日本人は海外で保養、休養するという、いわゆるリゾートライフをエンジョイしている人の割合というのは少ないと言える。海外旅行経験のある方は問題ないが、初めて行ってみようという方々が自由にリゾートライフを楽しむというのはなかなかむずかしいようである。

しかしながらある調査の中で、海外旅行のタイプを二つに分けて、なるべく多くのところを回るツアーと、１、２カ所滞在型の方とどちらがいいかとの問いに、１、２カ所滞在型の方がいいという結果になった。これは全世代に支持されており、滞在型は今後ますます増えるのではないだろうか。

現段階では、国内旅行に比べると海外旅行の方がリゾートタイプのウエイトが高い。しかもますます高まってゆく傾向にある。客層としてはＯＬが中心だが、夏休みには家族連れも増えてきている。あるインタビューによると、グアムに行った人で「本当は万座ビーチ（沖縄）に行きたかったが、価格が高いのでグアムにした」という意見が圧倒的であった。これは、自分のイメージに合えばリゾートは国内外を問わないということではないだろうか。日本のリゾートもイメージをつくっていけばいいわけで、そのあたりでは海外のリゾートに負けがちのようである。

かつて日本人はせっかちで滞在型旅行に向かないとか、語学力のなさもあって引っ込み思案で現地の人たちにうまく溶け込めないとか言われたが、最近ではみなそれぞれにうまい楽しみ方を見つけている。とくに〝ボケーとして何もしないのがよかった〟という人が増えてきたことは、日本人のゆとり志向の高まりというか、ようやく日本人も余暇の楽しみ方が本当にわかってきたという感じがする。

これからは、海外リゾートライフを体験した人たちが、国内で今後開発されるリゾートでも、イノベーターの役割を果たしてゆくであろう。

（おがわ　よういち　旅行会社勤務・海外添乗員）

16
百年の計を今こそ真剣に

稲葉好勝

冬のリゾート地の代表格は何といってもスキー。スイスのマッターホルン、モンテローザの南斜面をご存知の方も多いと思いますが、昭和41年チェルビーニアのスキー場をチビッ子達32名で親善訪問したときの話をご紹介します。

ミラノまで飛行18時間。バスに乗り、トリノ経由アオスタバレーを過ぎ、クールマイヨール、モンブラントンネルをくぐり、シャモニーに通ずる高速道路を北へと走る。サンビンセントの街に入ると、もう目前に南アルプスの山肌が迫ってくる。標高2,050ｍのチェルビーニアまで３時間の路程です。日本より全日程で10日間、現地の小学生達との交歓会、家庭訪問、パスポートを持ってスイスのツェルマットへスキーツアーと、自閉症の子供達も親善を通じて帰国後は両親との対話もはずみ、私達は大変感謝されたものです。

ヨーロッパアルプスの南斜面は冬でも太陽をまともに受け、実に明るく、自然環境に恵まれた地形です。日本は春休み、欧州全土はイースター休暇で、最低２週間のヴァカンスを楽しむ人達で混雑していました。今も変わらぬチェルビーニア、美味しく安いイタリア地方料理、宿泊施設の素晴らしさとそのホスピタリティー、気候風土に合わせた設備、100年この方少しも変わっていないチェルビーニア、確かに自然を愛し自然の恐ろしさを知りつくした人達がもてる力で、最大限にその環境との調和を計って開発していることが伺えます。本当のリゾート地はすたれない。施設・設備の健全な経営とそのリフォーミングを適確に行えば、事故も発生することなく、本当のリゾートとして未来永劫に人々に愛されるものだと感じました。

欧州のリゾート地には、ノルマンディ海岸ドーヴィル、オンフルールのように、その素晴らしい自然環境が公害破壊され、人々はそのリゾート地を地中海のコートダジュールやプエダデルソルの海岸へと移動を余儀なくされた歴史を見ることができます。しかしこのモデルにあるように、人々は二度とその繰り返しをおかそうとはしていません。

チェルビーニアに７泊の経験をした子供達は、今すでに日本を支える立派な中堅社会人です。ゲレンデで読書に、またロッジで家族ぐるみで歓談しながら２週間は滞在している現地の人達を見て知っているはずですが、４泊６日間のパターン化した海外旅行で最もポピュラー化したハワイ旅行、これは一体何なのでしょうか。本当の日本人のレジャーは何なのでしょうか。現地での４泊は往復の苦痛な飛行時間より、またワイキキの浜辺で本当にのんびりしている他人種を見て次回訪れるときは「私は必ず10日間いや２週間は」と心に決めて帰国されたことと確信します。本当のハワイはそのとき初めて甦ると思います。

人生80年、世界最長寿国われわれ日本人の本当のリゾートライフを今真剣に再考するとき、生活や仕事をリクリエイトするために必要不可欠になっている本当のレジャーライフを、私達日本人は一生に一体何度味わえるでしょうか。これからの日本人が求める本当のリゾート地のあり方等々、リゾートライフスタイルはこの25年間でずい分と変わりましたし、今後も若者達の海外を見つめる眼がますます肥えるため、そのあり方が急速に変わっていくものと思われます。徳川300年の鎖国期はありましたが、日本人には2,000年の伝統と心があります。この機会に、あえて「心のリゾート開発」を提案したいのですが、本当のリゾート開発は時流に乗った乱開発では決してなく、旅行業者と異業種、いわゆるソフトとハードの両面開発に真剣に討議、十分な検討、調査を加えて、調和のとれた開発に取り組むべき時にあるのではないでしょうか。

一大転換期に当たる本年をリゾート再開発元年として、私の初夢をご紹介したく思います。それは日本建築協会の提案で大事業ですが成功している夢です。今後絶対に美しい瀬戸内海を環境汚染しないことを条件に、世界一大きな豊富な太平洋の黒潮の流れを世界一美しかった瀬戸内海に豊後水道より紀伊水道へ向けて１ヵ月間流し込んでいる光景です。現状持てる造船船舶業界、潮の流れを変える巨大なフェンス用の合繊業界各社、自治体と国政全庁等々、今私達日本の国力をもってすれば可能な夢ではないでしょうか。

（いなば　よしかつ　株式会社インターナショナルサービス代表取締役）

17
クラブメッド、初めにソフトありき

川村　清

1950年、第二次世界大戦終了から５年後、もう余暇を楽しとするフランス人達が地中海沿岸のビーチや島々に集まって来ていた。その中で、スペイン領マジョルカ島のビーチに、約2,000人の大きな集団があった。まだ物の欠乏している時代である。宿泊施設はすべて軍の払い下げの小型テントで、昼間は太陽と海、夜はキャンプファイヤーを囲んで語り踊りして騒いだ。ここでの人々との出会いは、彼らにとって欠くべからざる生活の糧でもあった。

「おい兄弟、何もないけど楽しくやろうぜ」

とお互いに言い言いした。自分が楽しみ人を楽しませるためには、物のない分だけ智恵を出し合わなければならない。

島まで来るのに途中の列車のコンパートメントは、いつも満員の８人がけであった。知り合った連中が、

「ちょうど、いいじゃないか」

というので、レストランのテーブルは８人がけということになった。

「ここまで来て、金（かね）の顔は見たくないよ」

というメンバーが多い。じゃあ金の代わりに何がいいだろう？が３色のビーズ玉を作りだした。

「子供は子供同士にしよう、俺達もその方が楽でいい」

こうして子供だけの天国、ミニクラブができた。

地中海クラブの参加メンバー数は５年目の夏には最初の６倍、延





G.O（=Gentle Organizer）とは
地中海クラブ独特のシステムであり、50ヵ国を超える人々で構成されたG.O.達は、バカンス村で客と共に24時間寝食を共にし、村全体の楽しさを客と共に創造し、分かち合う。

クラブメッドバリ（上）と同所でのG.O.によるショー

べ宿泊日数にして3,3000日から192,000日になったという。テントはストロー屋根の小屋に変わり、6年目にはスイスのレイザンに冬のスキーバカンス村ができた。

しかし、しかしながら創立にかかわった幹事達は、金を集めて会社組織にしようとしなかった。多少なりとも利益を得る確実な見通しはあっただろうが、それよりも、資本が入り企業になってしまうと「おい兄弟、楽しくやろうぜ」がなくなることを恐れたのである。

彼らはもう一年頑張った。メンバーは増え続ける。冬のバカンス村ができて、世話をするスタッフも一年中仕事があるようになった。時代もそろそろリゾートホテルとしての施設を要求している。

「ぼちぼちやるか」

という声が出始めた。人生を楽しむ陽気な達人達は重い腰をあげたが、なかにはパリのオフィスに入るのを嫌がってバカンス村に残る幹事が多かったそうである。そして1957年、株式会社地中海クラブが誕生した。すでに組織としての下地はできているし、有給休暇が法的に拡大されている背景もあって、一流の資本が投資された。クレデリヨーネ、バリバの両銀行、エドモンド・ロスチャイルド財団、ＵＡＰ保険会社等々である。しかし、当時の地中海クラブには、人気はあっても格別の資産はない。彼らの投資の根拠は、地中海クラブが持っている集団自然発生的ソフトが企業体となってもクラブを拡大発展させていくだけの魅力がある、との判断によるものであったろう。社会的な背景は違うが、それでもこのあたりの状況は現在の金余りであっても、日本の財界ではちょっと考えられない現象である。人と人の出会いの気分が創りあげたリゾートのソフトに、巨額の投資をするのか、どうか。

神がいて、それもギリシャ神話に出てくる人間臭いリゾートを司る神がいて、マジョルカ島のテント村に一人の男を遣わされた。アメニティ人間の多い中で、彼だけは仕事好きで、計数に明るく、経営に必要な判断と決断の能力を持っていた。天与の使命であるかのように彼はリゾート産業一筋の道を走り続け、頂点に登りつめた。

世界33ヵ国に113ヵ所のバカンス村を持つ地中海クラブの総帥ジルベール・トリガノは68歳の今も、新しいバカンス村の建設を決めるときには、裸足で砂を踏み、海に入り、泳ぐ。雪を踏んで冬山に登り降りする。そして、直接何かを感じとらなければ、最終のＯＫは絶対に出さない。

何かを感じとる。そのときのトリガノの脳裏には、マジョルカの太陽と海が去来し、篝火に照らされた笑顔が語りかけてくるのをきいているだろう。

「おーい、兄弟、楽しくやろうぜー」という声を。

（かわむら　きよし　株式会社地中海クラブ代表取締役西日本地区総支配人）

18
楽しい時間の創造

株式会社　遊時創造
乾　　和夫

労働時間の短縮、高齢化社会の到来によって、個人が自由にすることのできる時間は確実に増えている。よりよい明日を求めて、ひたむきに働いた時代は過去のものとなり、人々はより自由になった今日の時間を、いかにして充実させるかに心を配るようになった。

しかし、より多くの自由な時間を手にはしたものの、それを個性的に消費するための舞台装置が、いかにも貧弱なことがわが国の実状であり、人々がようやく手にしたこの自由な時間を、存分に充足させるための設備や制度を即座に整えることが、まさに国民的課題ではないかと思うのである。

リゾートと言えば、たとえばバリ島のヌサ・ドゥア・ビーチあたりで、何もしないままいつまでも寝転んでいる人達の姿を思い浮かべるのであるが、そうした時間の過ごし方も、確かに一つの方向ではあろう。しかし、そうした機会は、たとえ欧米の人達といえども年に何回も訪れるわけでもあるまい。それよりも、仕事から解放された後の夕方の時間、あるいは週末の一両日といった日常の暮らしに密接につながる都市空間の中にこそ、より豊かで充実した楽しい時間を創造するための仕掛けが、何にも増して必要だと考えている。

（株）遊時創造は、こうした時代の要請に答えるべく、阪急・東宝グループの共同出資により誕生したのであるが、阪急三番街を中心とした大阪・梅田の都市再開発や、東京中心部でのショッピングとレジャーの大基地とも言える有楽町マリオンや日比谷シャンテの建設、あるいは宝塚ファミリーランドや神戸ポートピアランドなど大規模レジャー施設の運営などによって得られた、豊富なノウハウを集結する場となることにより、都市に生活する人々が、より充実した楽しい時間を創造するための都市空間の再生に、斬新で果敢な提案を続けていくつもりである。

（いぬい　かずお　株式会社遊時創造専務取締役）

19
都会の中に心のリゾートを求める

鹿島建設株式会社
杉上宣正

リゾートという言葉からのイメージは、太陽の燦燦と輝く南の島の青い海、白い船…ですが、私を含む中年の日本人の多くは、いまだその快楽の園に身を浸したことは余りないようです。今日も、家族の非難の目に怯えつつも街に溢れる旅行パンフレットを横目に眺めているだけなのです。でも世の中は確実に余暇充実型に動いており、今風の社会トレンドを表現するとき「健康への欲求、生活水準の向上、本物指向、消費行動の変革、余暇時間の増大」等から、快適性の追求や個性の主張をキーワードに使うようになってきています。リゾートがより一般的なものになるためにも、より質の高い快適性と差別化された個性が必要と考えられます。

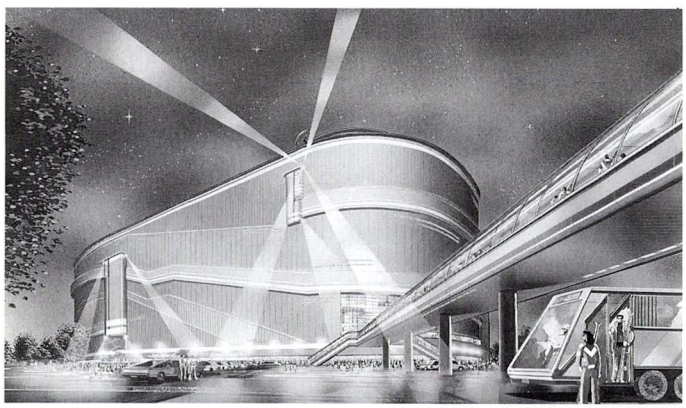
鹿島建設での最近のリゾートプロジェクトとしては、安比高原をはじめ、瀬戸内海直島開発、浅間スポーツアリーナ計画等、各地のリゾート開発計画をお手伝いさせていただいておりますが、一方、関連会社でもクリエイティブライフ㈱がテニスクラブ等のスポーツ事業を、鹿島リゾート㈱が蓼科高原チェルトの森の別荘地開発、㈱ホテル鹿島の森が軽井沢のホテル経営、ヒューマンライフサービス㈱がシルバー事業をと、今後ますます多様化するリゾートニーズに対応するため、鹿島グループ全体で企画・運営ノウハウの蓄積に努めているところです。

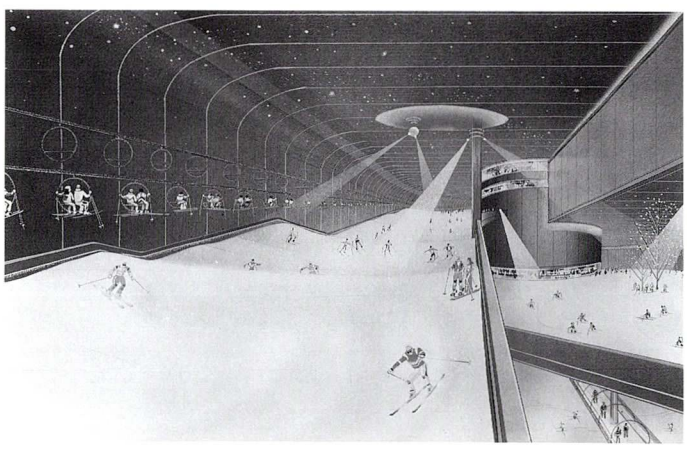
リゾート法の制定により、地方都市の活性化のための開発が、より多くなるでしょうが、そのためには、事前の環境アセスメント調査等による計画性をもって、貴重な自然および景観の破壊をできるだけ避け、保護する自然、利用する自然、育成する自然、と考慮していくことが開発計画者の使命であると考えています。経済的余裕や、心の余裕が生まれてきた今、その生活の中に、オアシスとしての心のリゾートこそ必要ではないでしょうか。

ここで現在、開発中の都会派・最先端のアミューズメントアメニティ、アーバンスラロームを紹介いたしましょう。この施設は、当社の若手社員らで作られた〝余暇施設開発チーム〟の発案から生まれたものの一つで、都市の中に創り出された巨大な完全室内型・スキーゲレンデなのです。もちろん雪もかぎりなく天然に近い良質な人工降雪で、最適にコントロールされた環境の中で、オールシーズン、オールタイムを、照明、映像、音響等により、まったく新しい空間が創出されるのです。3～4年先になるかもしれませんが、大阪湾ベイエリアに実現できる予定で、現在設備の実験中です。このアーバンスラロームの出現により、都会の中でのリゾート感覚に新しい時代を提供することができると考えております。

（すぎがみ　のりまさ　鹿島建設株式会社大阪支店開発部専門課長）

アーバンスラロームの外観予想図(上)と室内ゲレンデイメージ(下)





20
交通事業でのノウハウを生かして

東武鉄道株式会社
沖　洸三

【設問A・1】

欧米での、美しく整備されたリゾート地を思いうかべるとともに、そこで家族単位で数週間をのんびり過ごしている人々のライフスタイルを宿望してしまう。

【設問A・2】

リゾートの概念である「長期滞在の目的で、繰り返し訪れ、余暇生活を楽しむ」ことが、にわかに、広く定着するとは考えにくい。

自由時間は確かに増大しつつあるが、週休二日制が主な理由であるから、もっとまとめて休めるような体制がほしい。たとえば企業における夏休み、冬休みなどのほかに勤続○年記念の休暇など雇用者側が「出勤に及ばず」の期間を積極的に設定しないと働き蜂の意識改革は進まないだろう。

また、リゾートライフを普及させるためには、経済的な負担があまりかからないようにすべきだろう。道路、上下水道等の公共施設やオートキャンプ場のような低廉な宿泊施設については、公共サイドで積極的に整備し、利用料金が高くならないよう反映させたい。

なお、リゾート地へ行かなくとも居住地に近い場所でゴルフ、テニス、水泳などのスポーツや、カルチャーなどを楽しむ機会は現状よりも増大するだろうし、またリゾートを含めて余暇の過ごし方の多様化も進んでいる。そこで、スポーツクラブやアミューズメント



会津高原たかつえスキー場

パークなどさまざまな余暇事業を新規に展開あるいは企画中である。

【設問A・3】

東武鉄道は、鉄道・バスなど交通事業を基盤とした総合サービス業であり、生活に密着した流通、住宅、文化・スポーツ、観光・レジャー・リゾートなど、永年にわたり各種サービス業に係る諸々のノウハウを十分に蓄積してきた。また、地域社会と協調しながら共に発達することを経営理念としている。

交通事業として展開は主に関東一円であるが、観光・レジャー・リゾートの分野においては、おおむねつぎのように取り組んでいる。

• 当社鉄道終点一帯は、日光、鬼怒川・川治などわが国を代表する一大観光地であるので、従来から重点的に取り組んでいる。

• 昭和61年に開通した野岩鉄道㈱の会津鬼怒川線により、福島県会津地方は、首都圏から直結された。この地方は、雪、地形ともに一流のスキー場集積地帯になるポテンシャルを有していることから、スキー場を主軸としたリゾート地を目指している。

• 山形県蔵王地区、宮城県松島湾地区、谷川岳天神地区などは、リゾート地を目指して従来から取り組んでいる地域であるが、引き続き、ニーズに対応して施設の増設、新設を行っている。これらは、当社サービスエリヤ以外ではあるが、地域の方々と十分な協力関係が図られ、かつ、その地域が資源的にみて一級のリゾート地あるいは観光地となり得る資質がありそうな場合は、今後も新規の事業展開にも取り組む方針である。

【設問A・4】

リゾート法の制定で、全国にいくつものリゾート地が新たに誕生するだろうが、一般の方々のニーズを適確にとらえ、わが国らしいリゾート地づくりを企画する必要があろう。ハード面でいたずらにデラックスを志向し、欧米型を摸写することはよくないと考える。

【設問A・5】

• 栃木県日光、鬼怒川地区……ホテル等の宿泊施設、その他遊覧施設の収容力の増強、施設の近代化および国際的リゾート地の形成。

• 福島県会津地区……高杖スキー場、台鞍山スキー場等、スキーを主軸としたリゾート地形成。当社関連以外のスキー場も含めてスキー場集積地帯を目指す。

• 山形県蔵王地区……蔵王スキー場の拡張、施設の増設など、スキーを主軸としたリゾート地の形成。

• 宮城県松島湾地区……ホテル、遊覧船等の新増設により、松島湾地区の遊覧基地化を図る。

（おき　こうぞう　東武鉄道株式会社総合企画室参事役）

21
都市機能を備えた非日常空間の提案

大和ハウス工業株式会社
田中正二郎

大和ハウス工業は、住まいを通じて豊かな生活環境を提供し、さらに、総合生活産業として、よりよい生活空間を提供することを基本理念に、地域産業の発展に寄与してまいりました。

現在リゾート開発を担当しています開発部門は、約20年前に発足し、その前半10カ年は主として全国に「ネオポリス」と呼ばれる住宅地を開発し（その集大成となった「岡山ネオポリス」では「ランドプランニング」という新しい設計手法を導入し、歩車道分離を実現)、そこで「住まい方の提案」を行ってまいりました。そして、その開発のノウハウを活かし（ネオポリスの開発と平行してリゾート開発に一部はすでに着手していたが)、50年代に入るとリゾート開発に注力し、「健全な余暇生活」の場を提供してまいりました。

リゾート開発を進めるにあたり、当社単独の開発は極力さけ、地方自治体との協力のもとに、

(1)過疎地の開発
(2)雇用の促進
(3)地域の振興および活性化

をモットーに事業を推進し、国土の均等なる発展を図ってまいりましたが、これは、62年６月に公布された「総合保養地域整備法」(いわゆるリゾート法）の理念と同趣旨でもあります。

具体的に当社のリゾート開発を見ますと、リゾートとは都市機能を備えた非日常空間の具現であるという考え方のもとに、

(1)便利で快適な生活
(2)コミュニティー
(3)カルチャー
(4)非観光

を備えた空間、すなわちリゾートホテルを中心に、ゴルフ場・テニスコート・プール・多目的グラウンド・別荘地等があり、また、ロケーションによりそれにあわせた各種スポーツが楽しめる場を、約100万坪前後を基本に提供しております。その中心となるリゾートホテルは客室数250室から500室と大規模なものであり、その施設内容

当社のリゾート施設

1　鹿部（北海道茅部郡鹿部町）　ホテル・ゴルフ場・別荘地
2　八幡平（岩手県岩手郡松尾村）　ホテル
3　宮城蔵王（宮城県刈田郡蔵王町）　ホテル・ゴルフ場・別荘地
4　裏磐梯（福島県耶麻郡北塩原村）　ホテル
5　能登（石川県羽咋郡志賀町）　ホテル・ゴルフ場・別荘地
6　浜名湖（静岡県浜名郡雄踏町）　ホテル
7　長浜（滋賀県長浜市）　ホテル
8　伊勢志摩（三重県志摩郡磯部町）ホテル・別荘地
9　南淡路（兵庫県三原郡南淡町）ホテル
10　大山（鳥取県西伯郡岸本町）　ホテル・別荘地
11　土佐（高知県安芸郡芸西村）　ホテル
12　唐津（佐賀県唐津市）　ホテル
13　霧島（鹿児島県姶良郡霧島町）ホテル・ゴルフ場・別荘地
14　沖縄残波岬（沖縄県中頭郡読谷村）　ホテル


長浜


伊勢志摩


沖縄残波岬


能登

は、コンベンションホール・会議室・各種アミューズメント施設と、都市機能を十分活かしたものとなっています。また、そこで働く従業員のほとんどが地元採用であり、資材等の調達は地元を中心に行い、地域の発展に寄与できるものと確信しております。

昨今、わが国の巨額な貿易黒字による対外貿易摩擦解消のための内需拡大策、また、働きすぎに対する労働時間の短縮といった時代背景をもとに、リゾート情報が新聞、雑誌等を飾らぬ日がないといった状況の中、リゾート開発が一種のブームのようになっており、さらには、リゾート法といった追い風が、世の中をリゾート一色に染めてしまったような感があることはぬぐえないと思います。そういった状況の中で、リゾートとは本来、地域の住民が中心となり、

(1)地域の人々が生き生きとした暮らしができる。

(2)地域に生きることに誇りをもてる。

(3)地域の人々の心の豊かさが、リゾート客に心の安らぎと満足感を与える。

(4)官主導ではなく民間の意見を尊重し、地域の人々が主体性をもって開発する。

といったことを実現する場であると考え直す必要があると考えます。

(たなか　しょうじろう　大和ハウス工業株式会社常務取締役)

22
リゾートは企画なり

東急建設株式会社
菅原宏夫

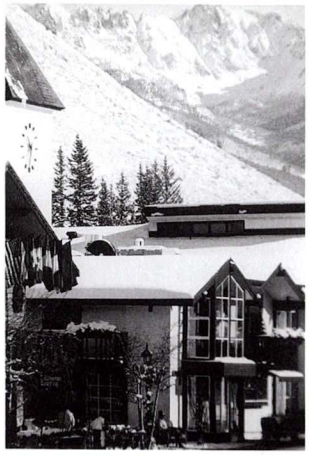
「ここにカッコイイ、シャイなホテルを造ってくれよ！」あるいは「君、こういうのを設計してくれたまえ！」と事例写真を見せられる。こうしたクライアントがよくいますが、そのような事業は失敗するケースが多いように思われます。最近では時代の要請で、私達建築設計家の携わる仕事にも、ソフト指向の強いものが増えてきていますが、なかでもリゾートはその最たる例であり、私は『リゾートは企画で決まる』と考えています。

事業を成功に導くための最初の仕事は、優れた企画チームをつくることでしょう。上述のような設計依頼がくるケースは、構成メンバーが偏っている場合で、その結果は往々にして施設、サービス、事業方針等がバラバラになる場合が多く、一方、逆のケースでは、多くの人が参画しすぎる余り、個性のない総花的な企画が出来やすく、いずれの場合も楽しいリゾート、成功するリゾートなどは期待できません。

つぎの仕事は、敷地の選定になる場合もありますが、一般的には顧客の特定でしょう。そして、対象の顧客をどう楽しませるか、施設、サービスなどのグレードはどの程度にするのか、特徴的な魅力づくりはどうするのか、シーズンオフ対策はいかにするのか、事業の見通しなど『ひとつのストーリーとしての企画』を立てることが重要であるものと思われます。国際化時代を迎えた今日、海外のリゾートに対抗し得る本格的リゾートは、明確なコンセプトを持つ綿密な企画に基づいたものでない限り、社会のニーズに応えていけるとは考えられません。

一昨年初めに、アメリカ、カナダのスキーリゾートを体験する機会がありました。アスペン、ヴェイル、スノーバード、ウィスラー・ブラッコームなど、北米を代表するスキーリゾートです。景観のスケール、魅力、ゲレンデの大きさ、アスピリンスノーと呼ばれる軽い雪など、やはり素材の持つ魅力には目を見張るものがありました。しかし私達を真に楽しませてくれたのは、恵まれた自然ばかりでなく、総合的な施設づくり、街づくりの巧みさ、オフシーズンの幅広い事業企画、行き届いたゲレンデサービス、そしてホテルサービスなど、ソフトの面での素晴らしさでした。おそらくこうしたソフトの充実は、リゾート歴の厚さ、緻密な企画、徹底した事業方針に支えられているものと思われます。事実、スノーバードのバス社長らとの現地での数回のヒアリングでも、各種イベントの企画、コンベンション客の誘致などは言うに及ばず、長期にわたる施設計画、街の景観維持、文化事業の主催など幅広い努力が払われていることが確認され、リゾート事業は企画時点からソフトと施設が一体となって計画されたものでなくてはならないことを痛感しました。

私達は今、ある大規模スキーリゾートの開発に、シティー感覚豊かな街づくりを提案しています。多目的ホールから、パブ、居酒屋、パチンコ、そして横丁のある街です。世界のリゾートにひけをとら



ヴェイルの街並み

ない日本らしさのある街、長期滞在に耐えうるヒダの深い魅力的な街です。大都市のような可能性を持つ、恵まれた自然の中の、小さな輝く都市です。街は、人々がいて、愛されて、楽しませて、初めて魅力ある生きた街になります。私達は、景観、施設、空間、時間、サービス、人々の動き、感動、そ



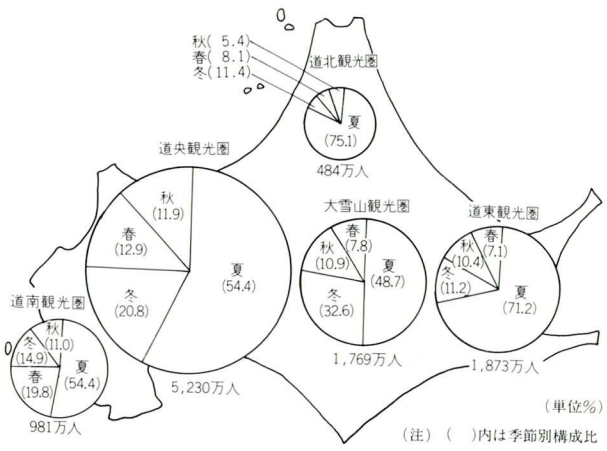
アスペン(スノーマス)ゲレンデ

してそれらを成立させるための事業的な裏付けなど、多くの事象が連動した綿密なシミュレーションをしつつ、今さらながらに、「リゾートは企画なり」と自問自答を繰り返しながら、企画を進めています。

（すがわら　ひろお　東急建設株式会社建築設計総括部参事）

23
地域経済の中でのリゾート開発

加森観光株式会社
西田吏利



新聞、雑誌の記事にリゾートという言葉を見ない日はなく、大衆紙から専門誌まで、さまざまな視点で取り上げられてはいるものの、レジャー感覚、ファッション感覚、消費者ニーズといった視点から見ると、一時のカフェバーブームと似た側面を持っているようです。消費者との遊離、流行商売、新規参入、既存施設との差別化、立地観、装置産業、話題性等々表向きと実態のギャップはまさにそのものです。

リゾート産業が情緒産業と呼ばれるとすれば、金太郎飴的な施設、合意にもとづく発想ではリゾート開発は困難と思われます。そこに、開発オーナーの夢、ドラスチックな行動力があってはじめて達成しえるものと思われます。

ルスツ高原においても北海道という地域経済の中で、昭和56年より開発を進め、現在語られているリゾート論とは異なった過程を歩んでおります。北海道の市場規模からいって、投資の回収を長期のスタンスをもって眺めるといった戦略はリスクが大きく、当社では即回収につながる開発を進め、今日に至っています。

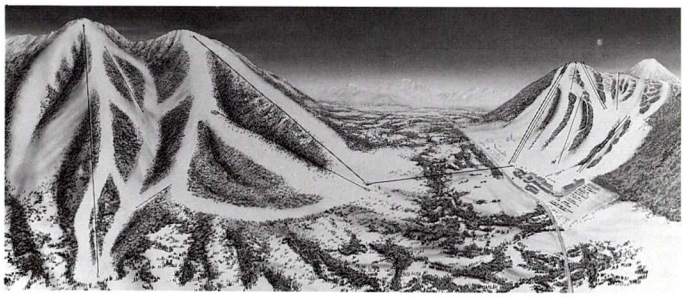
ルスツ高原は、札幌・函館をむすぶ主要幹線、国道230号線沿いに位置し、150万都市・札幌、北海道の表玄関・千歳空港、フェリーターミナル・室蘭・苫小牧へ車で90分の立地です。周辺には支笏・洞爺国立公園、ニセコ、定山渓温泉等の観光地、背景には北海道の秀峰「羊蹄山」、そして、その裾野に広がる雄大な自然を抱え、春は「花」、夏は「水」、秋は「味」、冬は「雪」と、誰もが憩い集えるオールシーズンリゾートです。

こうした恵まれたロケーションをベースに、北海道の550万人の老若男女が、四季折々に遊びに来られるレジャーランドづくりを目指してきました。道内の550万人が四季を通じて年4回訪れてくれることによって、道内市場は220万人と設定できるところから、対象市場も道内に絞って展開してきました。現在では、施設規模もフリーフォール、ウルトラツィスターほか5つのコースターも含め60種以上の遊機具を有する日本一の規模の遊園地です。

このほかにも、春は20ヘクタールに及ぶセタナリア（芝桜）の花畑、冬は5本のゴンドラリフトを備えたスキー場など、いずれも日本有数の規模を誇っております。尾崎将司プロ設計監修のゴルフ場、ジャンボプール、屋内レジャープール、テニスコート、乗馬などの附帯施設も充実し、これらの施設に対応するべく1,500名収容のホテル、カナダ製ログハウス6棟、コテージ8棟、140名収容のトラベルロッジ、1,000名収容のキャンプ施設等バラエティに富んでいます。

これからも、ゴルフ場108ホール、サッカー場11面、乗馬場の充実などスポーツゾーンの充実と直営ホテルの増築、リゾートマンション、保養所、民宿、ペンション等を誘致し、総計1万ベッドの大規模リゾートを目指しています。さらに、近い将来の滞在型リゾート時代に備え、ルスツ高原をベースとし、周辺の観光資源を組み込んだ日帰り圏内へのサテライト観光のための拠点づくりとアクセスの整備を進めるなど、時代を少しリードした展開を行っています。

リゾートなり、レジャー開発は投機を目的にできる産業ではなく、飽くなき投資の繰り返しによって成り立つ産業だと考えます。



（にしだ　つかとし　加森観光株式会社）

24
『三重サンベルトゾーン』構想

三重県国際リゾートゾーン推進室
小川益司

三重県では、全国に先がけて、総合保養地域整備法の適用を得て、海洋性を基調とした滞在・周遊型の国際的なリゾートゾーンの整備を進め、ゆとりある国民生活の実現に資するとともに、地域の活性化と県土の均衡ある発展を図ることとしている。

三重県の南東部の伊勢志摩地域、東紀州地域は海、山、渓谷などの自然景観、農林水産資源、歴史・文化的資産が豊富であり、県ではこの地域を、Sun—ふりそそぐ太陽、Ultra marine—紺碧の海、Natural green—自然の緑、に恵まれた地域としてサン（Sun）ベルト地域と名づけて、自然、歴史、文化、風俗、産業などの優れた資源と特性を生かし、民間活力を活用しながら、人間性豊かなリゾート空間を整備しようとするものである。

その整備の方針は、つぎの三つに特徴づけられる。

① 日本を代表するリアス式海岸等、海を舞台とした一大海洋性リゾートの形成

② 伊勢神宮等の歴史、文化、伝統芸能とふれあい、質の高いヒューマンライフを満喫することができるリゾートの形成

③ 国際コンベンション機能等の強化により、世界に開かれたリゾートの形成

この実現を図るため、それぞれ特色ある八つの重点整備地区を連珠状に配置し、相互に有機的に連携させることとしており、すでに鳥羽地区や奥志摩地区では民間によるリゾート事業が始動している。

施設の整備にあたっては、リゾート地域としての貴重な資源である優れた自然環境を損なうことのないよう緑地の保全・確保、周辺の景観と調和した建築物の色彩・意匠に配慮することにしている。

また、民間の施設整備と併せて、交通基盤、生活環境基盤、農林水産業の振興に必要な公共施設の整備も一体的、計画的に進めていくことにしている。これらの整備は、今後、おおむね10年間を目標としており、総投資額は民間約3,600億円、公共約5,000億円と見込んでいる。

一方、リゾートを本格化するためには、施設整備と並行して、それを利用する側の経済的、社会的な条件づくりが肝要である。

今後、労働時間の短縮により、西暦2000年には国民の自由時間は現在より25%増加すると予測されているが、現時点のわが国の労働時間は欧米と比較してまだ相当の較差がある。国民のリゾートを実現するためには自由時間の増大は不可欠であり、県としても国に対して国民に義務的ともいえる休暇を与える国民休暇法（仮称）の制定等長期休暇制度の創設を要望していくとともに、関係方面に完全週休二日制の普及を要請するなど、自由時間の増大に努めていきたい。

（おがわ　ますし　三重県国際リゾートゾーン推進室長）

奥志摩地区の中心・英虞湾の景観



25
"燦（サン）"黒潮リゾート

和歌山県企画部
前　晴夫

あさもよし　紀（き）へ行く君が　信土山（まつちやま）
越ゆらむ今日ぞ　雨な降りそね

—作者不詳。紀伊の国へ行く君が真土山（和歌山・奈良県境の山）を越えておいでと思われる今日だから、雨よ降らないでおくれ—

海のない大和の宮廷人たちは、黒潮寄せる陽光に輝く、紀の国の「海」に憧れた古代の旅に、心のひびきを詠んでいます。

遠く厳しい道程を紀の国に向かう旅人が、真土山の峠を越えて紀の川に沿って西へ向かい、初めて「海」に臨んだときの感激は、ひとしお大きいものがあったようで、数多くの歌がうたわれています。

昨春、和歌山県が作りました"燦（サン）"黒潮リゾート構想は、今なお万葉の面影を偲ばせる「和歌山の海」をテーマにしてリゾートの形成を図り、加えて和歌山県を取り巻く新しい潮流をとらえつつ、諸プロジェクトを推進することによって地域の活性化を図り、新しい和歌山県の建設を目指しております。

リゾートゾーンの4整備推進地区を万葉歌で追ってみます。

1．加太地区（和歌山市）

藻刈舟（もかりぶね）　沖漕（こ）ぎ来（く）らし　妹が島
形見（かたみ）の浦に鶴翔（たづかけ）る見ゆ

—作者未詳。藻を刈る舟が沖をこいでくるらしい。妹が島（友ヶ島）の形見の浦（加太浦）に鶴が飛んでいるのが見える—

淡路島を臨み、紀淡海峡は大阪湾への要路で船が行き交います。賑わう磯辺、威勢の良い漁師の声、咲き乱れる花菖蒲などの中で、いま関西国際空港建設土砂採取跡地250haに生まれる良質、多様な居住機能と空港まで十数粁という立地条件を生かしたリサーチ機能を併せ持つ国際リゾート都市「コスモパーク加太」を中心に、都市近郊型リゾートが誕生しつつあります。

2．和歌浦湾地区（和歌山市～海南市～下津町）

若の浦に　潮満ち来れば　潟（かた）を無（な）み
葦辺（あしべ）をさして鶴（たづ）鳴き渡る

—山部赤人。若の浦（和歌浦）に潮が満ちて来て干潟が無くなったので、岸辺の葦の生えているあたりをさして鶴が鳴きながら飛ん



〝燦〟黒潮リゾート構想予定地区

で行く―

海水浴客や釣り船、ヨットで賑わう現代でも松の枝越しに観る風景は訪れる人々を魅了しています。この和歌浦湾に65haの人工島「和歌山マリーナシティ」が出現し、1,000隻収容のマリーナやフィッシャーマンズワーフなどと居住・滞在施設が一体となって新しいコンセプトの海洋リゾート都市形成に向け胎動を始めています。和歌浦湾周辺に近代的なうるおいの景観が生まれるでしょう。

3．田辺・白浜地区（田辺市～南部町～白浜町）

月読の　光を清み　神島の
磯間の浦ゆ　船出す我は

―作者未詳。月読の光が清いので神島（田辺湾に浮かぶ。国の天然記念物）の磯間の浦（田辺市漁港）から舟出するよ、われわれは―

いにしえより交通の要所である中核都市田辺市と牟婁の湯として幾度かの行幸を仰いだ白浜温泉など、活気あふれるリゾート適地です。田辺湾の活用を柱に、青少年主体のスポーツ・コアや中高年向けの温泉保養滞在をコンセプトにして、南紀白浜空港のジェット化や海洋スポーツ施設等の整備を図り、アクティブなリゾートに生まれ変わります。

4．勝浦・太地地区（那智勝浦町～太地町）

荒磯ゆも　まして思へや　玉の浦
離れ小島の　夢にし見ゆる

―作者未詳。荒磯もすばらしい眺めだが、それ以上に懐かしく思うからか、玉の浦（勝浦・浦神湾）の離れ小島が夢に見えることだ―

奈良の都から幾山河の苦しい長旅（約300㎞）をいやす温泉にひたりながら接する「海」の素晴らしい情趣は今も変わりません。年金保養基地グリーンピア南紀の背後地270haに、熊野文化と温泉を取り入れた心身のリフレッシュの長期滞在型リゾートが形成され、訪れる人々に新しい活力を生み出す場を提供してくれるでしょう。

引用：「紀州路の万葉歌」、「紀の万葉抄」、「日本古典文学全集」

（まえ　はるお　和歌山県企画部地域振興課）

26 琵琶湖リゾートネックレス構想

滋賀県企画部
田中健晴

滋賀県では、琵琶湖と歴史・文化を生かし、「人と水」「水と歴史・文化」との多様な関わり方を、全国あるいは世界に提案していくことをリゾート整備の基本理念として「琵琶湖リゾートネックレス構想」の策定に取り組んでいる。

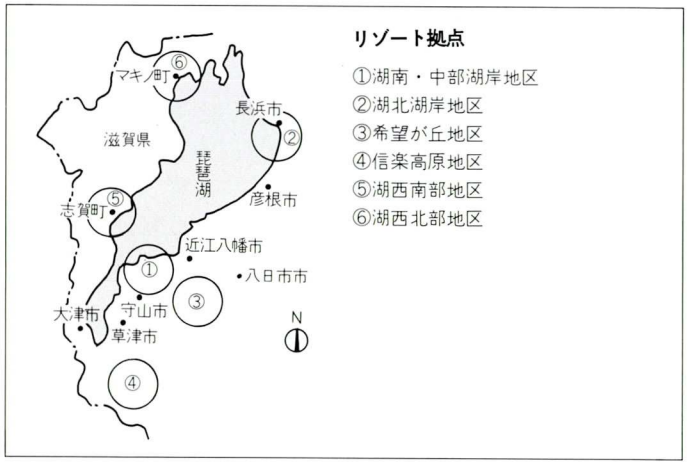
本県は、国土の中央に位置し、全国各地、とりわけ京阪神と中京の二大都市圏からの交通アクセスが便利であり、延暦寺や安土城址等の神社仏閣、城跡をはじめ優れた歴史・文化資源の宝庫である。また、美しく雄大な琵琶湖の空間は、温和で親しみやすく、多様なレクリエーション活動が楽しめる。

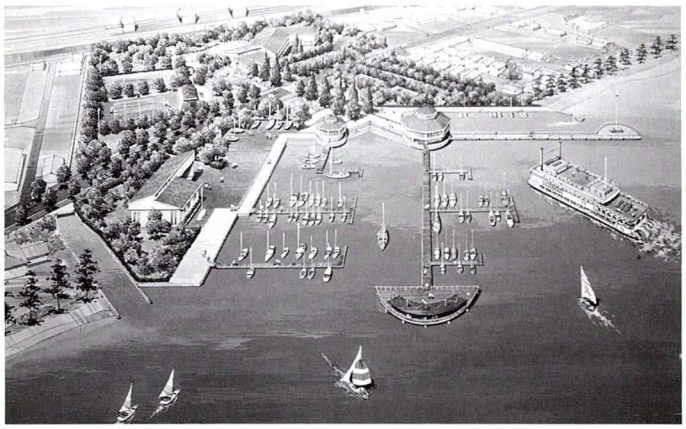
白砂青松の浜辺をもった広大な琵琶湖を中心に、のどかな田園や緑深い丘陵・高原からなるエリアをリゾート法でいう特定地域に設定し、この中で守山市を中心とした湖南・中部湖岸地区等、琵琶湖周辺部の4箇所に加え、丘陵部では陶芸の町、信楽地区および名神竜王インター周辺の希望が丘高原地区の2箇所、計6箇所（下図参照）をリゾート拠点（重点整備地区候補地）として、それぞれ1,000～3,000haのエリアについて地域の特性を生かした個性あるハイクオリティーなリゾート空間の整備をめざすものである。

たとえば、湖上交通や交通ネットワークの拠点としてシティー感覚あふれる本県リゾートのコアゾーンをめざす守山周辺の湖南・中部湖岸地区には、マリーナを中心にホテルやペンション等の宿泊施設を整備し、農業公園や水生植物園、オートキャンプ場の施設を配置し、「水と光のレイクサイドリゾート」地の形成を図る。

つぎに、湖から高原・山岳にいたるバラエティーに富む地形を有するマキノ・今津町の湖西北部湖岸地区はスキー場やマリーナ、ナッツランド等の施設を中心に、農業・漁業体験やスポーツ・レクリエーションを通じて都市住民にふるさとを実感させる「ふるさと体験リゾート」地の形成を図る。

また、高原性の恵まれた森林空間と紫香楽宮跡に代表される歴史文化環境の中で、伝統産業「信楽焼き」を核に据え、焼きものと人





とのふれあいをさまざまな角度から実現する信楽高原地区は彫刻の里、音楽の森、観光牧場、陶芸の森等の整備をめざし、「炎の里しがらき高原リゾート」地の形成を図る――等、各地区を特色ある魅力的な町づくりとする整備方向を設定し、「琵琶湖リゾートネックレス構想」としてはこれらの地区を琵琶湖を中心にネックレス状に結び、全体としてはまとまりのある広域的、複合的なリゾートエリアの形成を図る。

なお、琵琶湖の周辺ではかねてから、琵琶湖総合開発事業や琵琶湖条例、風景条例により良好な環境、景観づくりを全県的に推進しており、リゾート地としての要件の礎を築いているところである。

四季を問わず気軽に繰り返し訪れることのできる、質の高いリゾート地の実現をめざす。

（たなか　たけはる　滋賀県企画部地域振興室専門員）

27 マイカントリー・リゾート事情

高知市建設部
山上庄一

今、リゾートづくりの掛け声に、全国各地でリゾートと呼ばれるものが計画されようとしている。その数も全国に相当数にのぼる。その中の一つにわが高知県の提唱する「国民休暇県構想」がある。しかしながら、本県においては遅きの感も無きにしもあらずである。企業も少なく、というより少ないがゆえの過疎県であり、公共事業依存型の体質である。そのことから見れば観光産業等は本県の重要な産業に位置づけられてもおかしくはないのであろうが、それにもかかわらず企業誘致に躍起になっていたようである。しかし、昨今の国際経済情勢を見ると、よほどの条件でないと来るとは思われない。

それらのことを考えてか、県は昭和61年、「国民休暇県・高知」を宣言。政策の長期ビジョンの中に「個性ある高知」の構想を打ち出し、その具体的施策として、余暇時間の増大、価値観の多様化等の社会変化を背景に、当県の持つ自然、歴史、文化等の資源を最大限に活用し、心身のリフレッシュの場として全国の人々に提供しつつ、県全体のイメージアップと地域の活性化を図ることを掲げ、県全体を11のゾーンに区分し、それぞれの地域特性を生かした機能を持たせた配置をしたとしている。しかし現実には、まだまだ市民権を得ていないようである。マスコミには、「国民休暇県も笛吹けど踊らず」と言われ、全体的に歩調が合っていないようである。

最近注目されるようになった四万十川は、意識して保全したものではなく、なにもしないでいたものが、いつの間にか一番になっていた。それも周囲からの指摘により気が付いたのである。

その四万十川をもっと売り出そうと、一昨年トライアスロンを計画。準備を整え、全国各地から応募があったにもかかわらず、高知県警の交通上の問題で危険性があるとの反対により中止させられてしまった。折角地元の者が県外へ向けて国民休暇県の情報発信が出来ることをやろうとした矢先のことであった。警察は何のためにあるのだろうか。何が目的で、何が手段なのかと考えてしまうのである。そのほかにも、県外大手ホテルの進出計画が上がるとホテル・旅館等の組織は挙って反対運動をする。日頃は一致団結して観光客誘致のために何かをやるでもない。このようなこともあってか、瀬戸大橋開通後のゴールデンウィークには高知駅で野宿する客も出る始末であった。高知県にとって瀬戸大橋の開通までに何が出来るかが課題であったであろうが、実情は前述したようなことである。

県の構想には今一つ、コンセプトが明確でないと言えそうである。県外の人には「国民旧家県構想」と勘違いされることもあるという。

これからは企業誘致の時代は終わり、誘致をするのは人の時代である。たとえば熊本県の鈴木健二氏を見ればわかりやすいであろう。一人の天才が来ることによって、雇用を生み出すのである。その経



国民休暇県構想ゾーニング

済波及効果も相当なものがあり、そのことが企業創造へとつながることもある。そのためにも、人の来る、来たくなるまちづくりが必要になろうし、滞在型より定住型のリゾートを指向すべきであろう。

それではどのようにすれば人に来てもらえるか、正しくリゾートづくりである。構想の中でコアゾーンに位置付けられる高知市のリゾート開発の要は浦戸湾であろう。その開発を考えると、参考となるのがアメリカのリゾートではないだろうか。最近流行のウォーターフロント再開発と合わせて、まず思うのがサンフランシスコ湾である。そこへ行くにつけ、浦戸湾が宝物に見えてくる。これに類似した都市には、サンディエゴ湾、ボルチモアのインナーハーバー、それにボストン等があげられよう。詳細は述べられないが、これらの都市の単なるもの真似ではなく良い点を学び、人の来てくれる、来たくなるマイリゾートとしてのまちづくりを進めたいものである。

（やまうえ　しょういち　高知市建設部都市整備室都市再開発課）

28
『宮崎太陽海岸都市』の創出

宮崎県企画調整部
長山登志男

※リゾートとは

さんさんとふりそそぐ太陽、どこまでも広がる海原、目にしみる緑の広がりとその合間の自然と調和した住宅街。人々は、こうした快適な環境の中で、定住できないまでも、少しでも長く滞在し、生活そのものを楽しむ。これが、リゾートのイメージである。

したがって、リゾートづくりとは、多くの人々が住んでみたくなる快適な生活環境を有する街づくりであり、機能性重視の巨大都市の中で、忘れさられてきた自然とのふれあい、人と人との交流といった人間性の原点を大切にした魅力的な街づくりである。

※リゾートを支える社会意識の醸成

リゾートづくりを成功させるためには、これらを支える社会意識の変革と制度面での補完が必要となる。

高い塀や生垣で目隠しされた都市の住宅様式は、閉鎖的な空間を形成し、緑を放逐している。今、求められているのは、緑の中の広々とした宅地構成と開放的な家づくり、それに連動した都市機能の充実である。これは、一方では、宅地供給面積の大幅な拡大と住民のプライバシー感覚の変革を求めるものである。

また、リゾート利用の面においても、休暇制度の質的な充実とそれを認める社会風潮の醸成が必要である。

いうなれば、それは、日本人のライフスタイルや意識そのものの変革を内容とするものであり、国を挙げての取り組みが必要である。

※リゾート開発・経営の基本的な考え方

自然に満ちた快適な街づくりが進めば、自然に民間施設も整備されてくる。宮崎県では、こうした考えのもとに、新たな施設整備とともに、土地区画整理事業や街路事業などの導入による既存市街地の再編も進めていくこととしている。

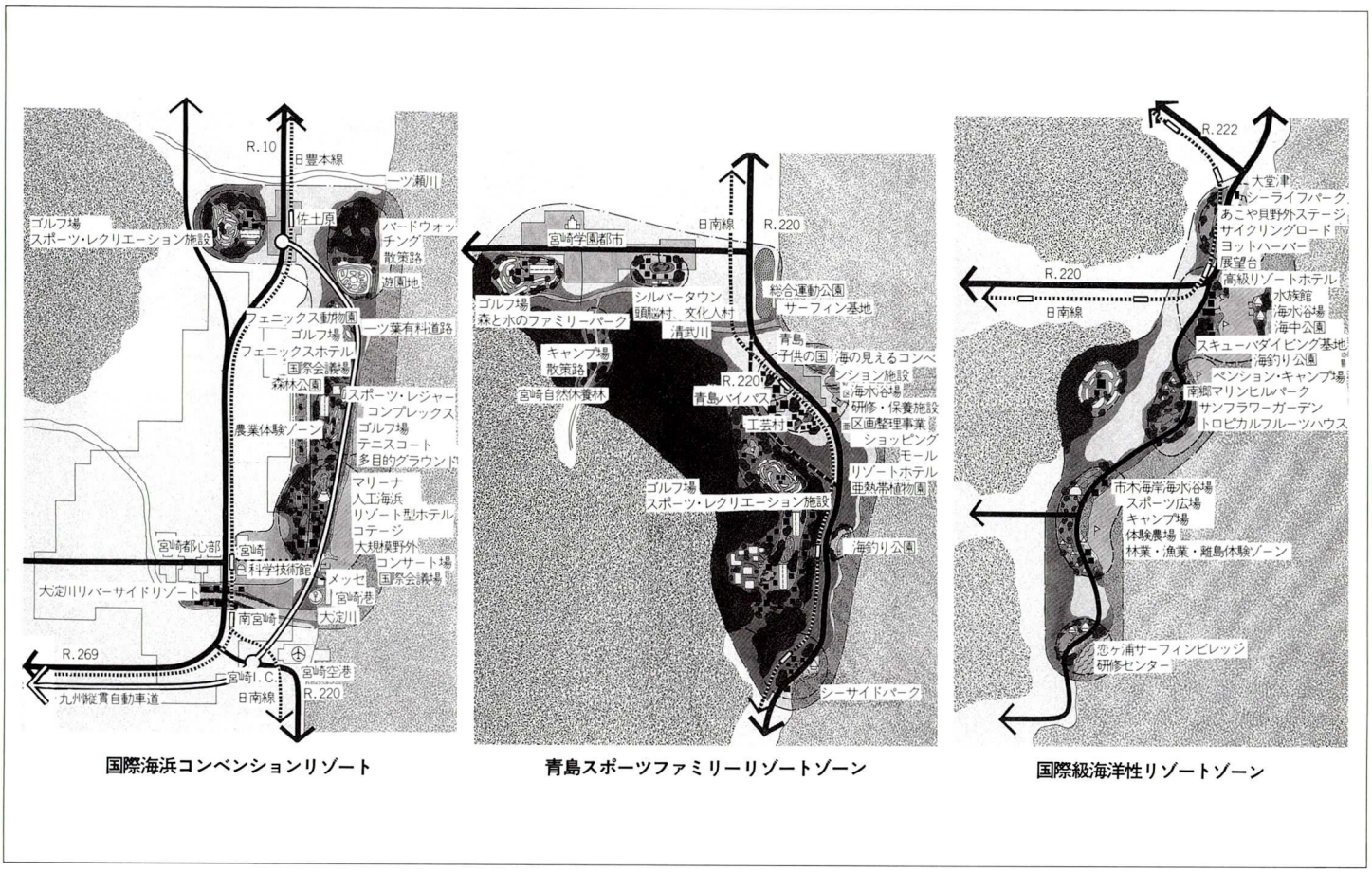
なお、大都市圏からの集客に当たっては、魅力あるイベントの開催、独自のサービスの提供、リゾートのシンボルとなる建築物の整備などその経営戦略を踏まえた施設整備が必要であり、民間の施設整備計画を基本とした構想の推進をめざしている。また、行政の関与は、自然景観との調和等街づくりの視点からの最小限のものとしている。

※リゾート法制定の効果

宮崎県では、昭和58年の亜熱帯性ベルトパーク実施構想を軸に、民間資本の導入による国際級海洋性リゾートづくりを進めてきている。

昭和62年の総合保養地域整備法の制定は、本県にとってはまことに時機を得たものと高く評価している。すなわち、リゾートづくりは、国民の社会意識の変革などもその内容として含むものであり、国の力強いリーダーシップのもとに、地方公共団体と民間が協力しあって、進めていくべきものと理解しているからである。

※宮崎・日南海岸リゾート構想の概要



国際海浜コンベンションリゾート　　青島スポーツファミリーリゾートゾーン　　国際級海洋性リゾートゾーン

宮崎・日南海岸地域リゾート構想は、日南海岸国定公園一帯の3市5町の区域で展開する。

それぞれの地域特性を踏まえた異なる魅力を強力にアピールする6つのリゾート拠点を整備し、全体として多様な魅力、機能を誇る宮崎太陽海岸都市を創出していくこととしている。

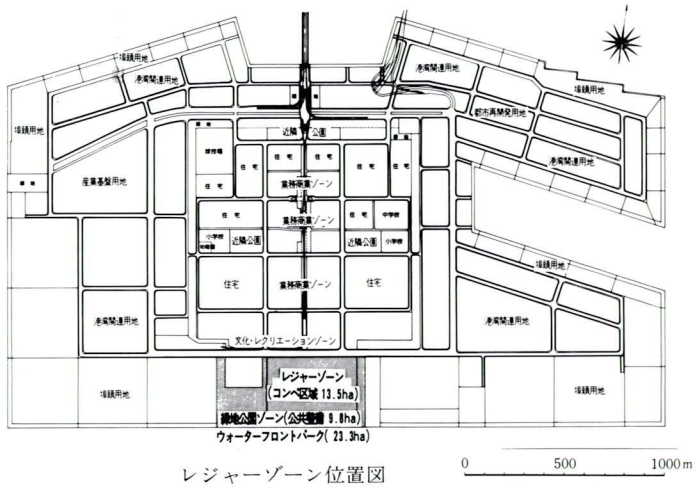
代表的な地区とその整備の方向等は、つぎのとおりである。

① 国際海浜コンベンションリゾート
〔主要施設〕コンベンションホール、ウォーターパーク、ゴルフ場、マリーナ等

② 青島スポーツファミリーリゾート
〔主要施設〕森と水のファミリーパーク、ショッピングモール

③ マリンスポーツ・レジャーを中心とする国際級海洋性リゾート
〔主要施設〕天然水族館、スキューバダイビングスクール等

（ながやま としお 宮崎県企画調整部リゾート推進局次長）



レジャーゾーン位置図

29 六甲アイランド『ウォーター・ワンダー・ワールド』

神戸市開発局
浅野高史

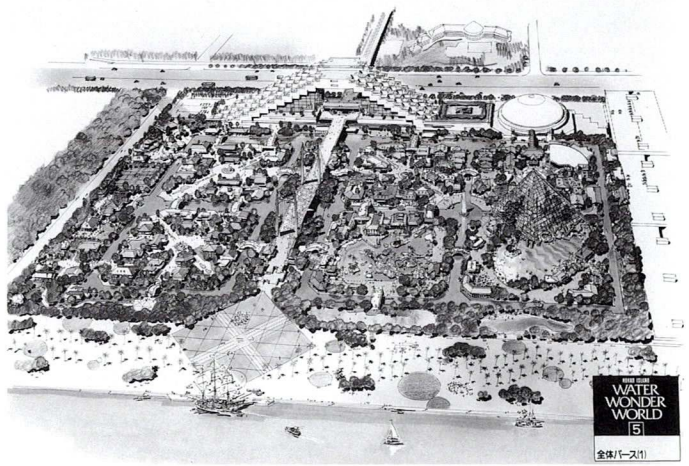
神戸市が「魅力ある新たな海上文化都市」をめざして埋め立て造成中の六甲アイランドは、総面積580haで、土地利用上、周辺部の港湾関連ゾーン等と中央部の都市機能ゾーンの二つに大きく分かれている。この都市機能ゾーンの南端23.3haはウォーターフロントパークと位置づけられ、公共で整備する緑地公園ゾーン（延長750mの水際線をもつ海辺のプロムナード。9.8ha）と、民間活力を導入し事業コンペ方式により整備するレジャーゾーン（13.5ha）とからなっている。

このレジャーゾーンを対象として昨年5月に事業コンペを実施し、同9月に西武百貨店関西が事業主体となることが決定した。西武百貨店関西の計画は「ウォーター・ワンダー・ワールド(仮称)」と呼ばれ、ゾーン内に総延長2kmに及ぶキャナル（水路）をめぐらし、遊覧船を運航させ、水とたっぷり楽しみながら、日常性から脱出して人間らしさを取り戻す施設展開をうたっている。

同計画の特徴は、まず第一に、ゾーンへの入場が無料で誰でも自由に出入りできる開放型で、隣接の緑地公園と合わせウォーターフロントパークの一体性が確保されることがあげられる。また、単なる遊具主体のレジャー施設とは異なり、「宿泊」、「体験」といった新しいコンセプトに基づく斬新なアイデアが盛り込まれた「滞在型」、「複合型」のアミューズメント施設であることも特徴である。さらに、西武セゾングループが所有する帆船を回航して係留するなど水際線の利用も提案し、また、キャナルでのカヌー＆水上自転車大会や帆船まつりなどイベント計画も多様である。

主な施設を紹介すると、つぎのとおりである。

①キャナル：幅8m、深さ1m、長さ約2kmの格子状水路。船を浮かべ、交通路兼イベント空間として利用する。また、キャナルに面して広場やレストランを設け、水辺を生かした環境づくりを行う。



完成予想図

②ゲートハウス：ゾーン入口部に位置する12階建ての階段状建築物。レジャーゾーンのランドマーク。たて28m、よこ43mの中空部分をもち、海への視界を確保。150室のホテル、ショッピング、コンベンション、レストラン等の機能をもつ複合施設。

③オーシャンデッキ：幅12～15m、長さ約200m(うち橋は50m)。ゲートハウスをくぐり抜け、海へまっすぐにつながる空中歩廊。

④アミューズメントパーク：敷地面積25,000㎡。アクアシアター(海底探検シミュレーター)、ライブシアター、ミニチュアランド、ハイポニカランド(水耕栽培)、マニファクチャー・ヴィレッジ等の「参加」「体験」「学習」型のレジャー施設。

⑤ウォーターパーク：敷地面積24,000㎡。急流下りの楽しめるガラスのピラミッド、サーフィンのできる造波プール、トムソーヤの冒険をイメージしたアドベンチャープールなど、リゾート性とアドベンチャー性を兼ね備えたウォーターレジャー施設。

⑥カーサヴィレッジ：敷地面積33,000㎡。テニスコートのある家、プールのある家等約60棟の住宅。ビバリーヒルズ風、ベニス風等の住宅・街並みを演出。新しい「すまい」のあり方を「宿泊」、「体験」によって提案――家族、グループ等で利用。レジャーゾーンの滞在拠点。

なお、レジャーゾーンの総事業費は480億円、年間集客数は450万人が見込まれ、1991年5月の開業が予定されている。

（あさの たかし 神戸市開発局民間活力推進室）

総合保養地域整備法

昭和六十二年法律第七十一号

（目的）

第一条　この法律は、良好な自然条件を有する土地を含む相当規模の地域である等の要件を備えた地域について、国民が余暇等を利用して滞在しつつ行うスポーツ、レクリエーション、教養文化活動、休養、集会等の多様な活動に資するための総合的な機能の整備を民間事業者の能力の活用に重点を置きつつ促進する措置を講ずることにより、ゆとりのある国民生活のための利便の増進並びに当該地域及びその周辺の地域の振興を図り、もって国民の福祉の向上並びに国土及び国民経済の均衡ある発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第二条　この法律において「特定施設」とは、次に掲げる施設（政令で定める公共施設であるものを除く。）であって前条に規定する活動のために必要なものをいう。

一　スポーツ又はレクリエーション施設
二　教養文化施設
三　休養施設
四　集会施設
五　宿泊施設
六　交通施設（車両、船舶、航空機等の移動施設を含む。第五条第二項第四号において同じ。）
七　販売施設
八　熱供給施設、食品供給施設、汚水共同処理施設その他の滞在者の利便の増進に資する施設

2　この法律において「特定民間施設」とは、特定施設であって民間事業者が設置及び運営をするものをいう。

（地域）

第三条　この法律による第一条に規定する整備を促進するための措置は、次の各号に掲げる要件に該当する地域について講じられるものとする。

一　良好な自然条件を有する土地を含み、かつ、特定施設の総合的な整備を行うことができる相当規模の地域であること。
二　自然的経済的社会的条件からみて一体として第一条に規定する整備を図ることが相当と認められる地域であること。
三　特定施設の用に供する土地の確保が容易であること。
四　産業及び人口の集積の程度が著しく高い地域であって政令で定めるもの以外の地域であること。
五　特定民間施設の整備の状況及び見込み並びに国民の利用上必要な立地条件からみて相当程度の特定民間施設の整備が確実と見込まれる地域であること。

（基本方針）

第四条　国土庁長官、農林水産大臣、通商産業大臣、運輸大臣、建設大臣及び自治大臣（以下「主務大臣」という。）は、前条各号に掲げる要件に該当する地域についての第一条に規定する整備に関する基本方針（以下「基本方針」という。）を定めなければならない。

2　基本方針においては、次の各号に掲げる事項につき、次条第一項の基本構想の指針となるべきものを定めるものとする。

一　第一条に規定する整備に関する基本的な事項
二　第一条に規定する整備を行おうとする地域（以下「特定地域」という。）の設定に関する事項
三　特定地域のうち、特定施設の整備を特に促進することが適当と認められる地区（以下「重点整備地区」という。）の設定に関する事項
四　特定施設の設置及び特定民間施設の運営に関する事項
五　公共施設（特定施設であるものを除く。以下同じ。）の整備の方針に関する事項
六　第一条に規定する整備の一環として推進すべき産業の振興に関する事項
七　自然環境の保全との調和、農林漁業の健全な発展との調和、居住機能との調和、観光業の健全な発展、地価の安定その他第一条に規定する整備に際し配慮すべき重要事項

3　主務大臣は、基本方針を作成するに当たっては、あらかじめ、第一条に規定する整備に関し、スポーツ及び文化の振興並びに社会教育に係る学習活動の推進を図る見地からの文部大臣の意見を聴かなければならない。

4　主務大臣は、基本方針を定めようとするときは、環境庁長官その他関係行政機関の長に協議しなければならない。

5　主務大臣は、基本方針に定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

6　主務大臣は、情勢の推移により必要が生じたときは、基本方針を変更するものとする。

7　第三項から第五項までの規定は、前条の規定による基本方針の変更について準用する。

（基本構想の承認）

第五条　都道府県は、基本方針に基づき、当該都道府県内の地域であって第三条各号に掲げる要件に該当すると認められるものについて、第一条に規定する整備に関する基本構想（以下「基本構想」という。）を作成し、主務大臣の承認を申請することができる。

2　基本構想においては、次の各号に掲げる事項について定めるものとする。

一　特定地域の区域
二　第一条に規定する整備の方針に関する事項
三　重点整備地区の区域及び当該区域ごとの整備の方針に関する事項
四　重点整備地区において整備されるべき特定民間施設（重点整備地区間を連絡する特定民間施設である交通施設を含む。）の種類、位置、規模、機能及び運営に関する基本的な事項並びに特定民間施設以外の特定施設（重点整備地区間を連絡する特定施設である交通施設を含む。）の設置に関する基本的な事項
五　公共施設の整備の方針に関する事項
六　第一条に規定する整備の一環として推進すべき産業の振興に関する事項
七　特定施設及び公共施設の整備に必要な土地の確保に関連して実施される農用地の整備に関する事項
八　自然環境の保全との調和、農林漁業の健全な発展との調和、居住機能との調和、観光業の健全な発展、地価の安定その他第一条に規定する整備に際し配慮すべき事項

3　都道府県は、基本構想を作成しようとするときは、関係市町村に協議しなければならない。

4　主務大臣は、基本構想が次の各号に該当するものであると認めるときは、その承認をするものとする。

一　その基本構想に係る地域が第三条各号に掲げる要件に該当し、かつ、基本方針に適合するものであること。
二　第二項第二号から第八号までに掲げる事項にあっては、基本方針に適合するものであること。
三　その基本構想に係る第一条に規定する整備が当該特定地域及びその周辺の地域に対して適切な経済効果を及ぼすものであること。
四　その他基本方針に照らして適切なものであること。

5　主務大臣は、基本構想につき前項の規定による承認をしようとするときは、環境庁長官その他関係行政機関の長に協議しなければならない。

6　都道府県は、基本構想が第四項の規定による承認を受けたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

（基本構想の変更）

第六条　都道府県は、前条第四項の規定による承認を受けた基本構想を変更しようとするときは、主務大臣の承認を受けなければならない。

2　前条第三項から第六項までの規定は、前項の場合について準用する。

（基本構想の実施等）

第七条　都道府県は、関係民間事業者の能力を活用しつつ、第一条に規定する整備を第五条第四項の規定による承認を受けた基本構想（前条第一項の規定による変更の承認があったときは、その変更後のもの。以下「承認基本構想」という。）に基づいて計画的に行うよう努めなければならない。

2　文部大臣は、承認基本構想の円滑な実施の促進のため、関係地方公共団体に対し、スポーツ若しくは文化の振興又は社会教育に係る学習活動の推進を図る見地から必要な助言、指導その他の援助を行うよう努めなければならない。

3　前項に定めるもののほか、主務大臣、関係行政機関の長、関係地方公共団体及び関係事業者は、承認基本構想の円滑な実施が促進されるよう、相互に連携を図りながら協力しなければならない。

（課税の特例）

第八条　承認基本構想に従って重点整備地区内で特定民間施設の設置を行う者が設置をした当該施設については、租税特別措置法（昭和三十二年法律第二十六号）で定めるところにより、特別償却をすることができる。

（地方税の不均一課税に伴う措置）

第九条　（略）

（資金の確保）

第十条　（略）

（公共施設の整備）

第十一条　国及び地方公共団体は、承認基本構想を達成するために必要な公共施設の整備の促進に努めなければならない。

（国等の援助）

第十二条　国及び地方公共団体は、承認基本構想の達成に資するため、承認基本構想に基づき特定民間施設の設置及び運営を行う者に対し必要な助言、指導その他の援助を行うよう努めなければならない。

（地方公共団体による助成等）

第十三条　（略）

（農地法等による処分についての配慮）

第十四条　国の行政機関の長又は都道府県知事は、重点整備地区内の土地を承認基本構想に定める特定民間施設の用に供するため、農地法（昭和二十七年法律第二百二十九号）その他の法律の規定による許可その他の処分を求められたときは、当該重点整備地区における当該施設の設置の促進が図られるよう適切な配慮をするものとする。

（国有林野の活用等）

第十五条　国は、承認基本構想の実施を促進するため、国有林野の活用について適切な配慮をするものとする。

2　港湾管理者（港湾法（昭和二十五年法律第二百十八号）第五十六条第一項に規定する都道府県知事を含む。）は、重点整備地区に係る港湾において承認基本構想に定める特定施設の設置の促進が図られるよう当該港湾に係る水域の利用について適切な配慮をするものとする。

追悼

木下正利氏逝く

白井周二



木下正利氏略歴
大正4年1月1日生
昭和14年
東京帝国大学工学部建築学科卒
昭和14年
㈱清水組(現・清水建設)入社
昭和56年
同社代表取締役副社長大阪駐在
昭和52年4月～58年9月
㈳日本建築協会理事

畏友木下正利氏が昨年12月2日朝、入院先の神戸の市民病院で脳梗塞のため急逝してしまった。享年73歳、私よりは10歳も若く、もう先の見えてきた私としては、万一の場合何かにつけ後々のことはよろしくと、常々申していたところであったのが、このような事態になってしまい悔まれてならない。

彼の育った家庭環境はたいへんいい家庭だったらしく、彼のご兄弟方は皆さんそれぞれ大会社、官庁などの主要ポストに籍をおいていられたらしく、彼もまた熊本の名門中学濟々黌から旧制第五高等学校を経て東大建築科へと申し分のないエリートコース、そして昭和14年3月同校卒業と同時に現在の清水建設へと入ってきたのだった。

そしてもうその頃は中国との戦争が段々と激しくなってきており、そんな時機に入ってきた彼は厳しい戦中、さらに戦後の復興時代を本社から一時北陸、九州支店などを経て、大阪へ赴任してきたのが昭和36年春だった。その時たまたまその大阪で支店長だった私は、ここではじめて彼に逢い、以来今日までほとんど離れることのない繋がりが、この時に始まったのだった。

それからしばらく大阪にあって支店次長などをしていた彼は、選ばれて北陸支店長となって金沢へ転出したのであったが、ここへ行って北陸特有の寒気と湿潤の気候は彼に悪質な喘息をもたらしてしまい、そのため彼は急遽再び大阪へ復帰、しばらくして大阪支店長となり、後日、駐在副社長の要職に就くのであるが、この金沢で始まった悪疾は終生彼につきまとい、このたびの死因となった脳梗塞もその根底にはこれの関係が否定できないようだ。

このような厄介な病魔に悩まされながら彼は、大阪にあっても金沢にあってもよく業界発展のため貢献するところ多く、昭和55年には建設大臣表彰、62年春の叙勲では勲三等瑞宝章下賜の栄にも浴したのである。

このような頑張り屋で、また肥後っぽらしく正義感の強い人だった彼は、一面、趣味の人でもあって、ゴルフ、囲碁は私のよきパートナーであり、酒席などで興にのればお国歌「酒は呑め呑め一」などさまざまな自慢の喉も聞かせてくれるのだった。

今ここに永のお別れに当たり、私としては永年にわたる彼の好意に深く感謝するとともに、ここに彼のひたすら安らかなご冥福を祈りたいと思う。

(元・清水建設株式会社副社長)

故 設樂貞三さんを悼む

東畑謙三



明治31年1月6日 福島県生まれ
昭和63年12月17日逝去 享年90歳

謹んで設樂貞三さんのご逝去をお悼み致します。設樂さんと同期の唯一在世の方である矢崎高儀氏の話をそのまま記載すると、

……大正9年9月に開設早々の京大建築学科に入学したのは13人で、同級会の名前を十三灯房と名付けた。本願寺附近に居た松井清之助君がつけたものである。大正12年(1923)3月無事卒業出来たのは半分の6名、設樂君は地元三高の出身なので、皆の世話をみてゐた。彼は開放的な性格で、加茂川の四条大橋の欄干越に放尿して川が増水したと言って皆を笑わせた。又公園の池の鯉が列をなして泳いでゐるのを見て、見ろあの鯉達の様に立派に統制のとれた行動をすべきだとなかなか哲学的な観察力のあった人だった。不思議な事にこの6人は卒業後大倉三郎、坂本竜夫の両君を除いて藤島哲三郎氏を始め4人揃って旧満州に泳ぎ出した。村田治郎君が先達で南満工専の教授に進出した事もあって、次から次へと大陸へ。設樂君も旧新京市に設樂建築事務所を開き、自ら経営に当ってゐた。池の鯉の話の人生哲学予言通りに合致したものかも知れない。……

つぎに、旧満州時代よりいつも設樂さんと行を共にされた船橋亨氏の話をそのまま記載すると、

……昭和7年(1932)大連の福昌公司が建築部を開設するに当り、請われて同社の建築部長として活躍された。当時は戦雲急なため内地は不況のどん底、満州は新興国家として多くの建築工事があった。その活躍は主として大連、奉天、ハルピン、長春で、文字通り東奔西走が毎日つづいた。そして終戦となったが、日本人が一様に味った敗戦のみぢめさは前の活躍振りに反比例してゐた。先夫人を亡くされたのもこの時である。昭和21年8月離満、日本に引揚げられ、当時の兵庫縣住宅建設(株)へ専務取締役、又昭和29年3月(1954)阪神土木(株)へと就職され、昭和36年(1961)設樂建築事務所を開設、同39年名稱変更、洋建築事務所となり、主として神戸を中心に活躍された。……

この間日本建築協会では評議員3期6年、理事1期2年をつとめ、長期にわたり兵庫副支部長となり、昭和43年(1968)名誉正会員に推薦された。また引き揚げ後幸運にめぐまれ、良き奥様と結婚、一男貞樹君を得られ、神戸住吉で幸福な生活をおくられた。しかし好事魔多しで、8年前病にたおれ神戸中央市民病院で療養、長い長い闘病生活をおくられたが、この間奥様並びに貞樹君のご苦労振りは大変だった。故人がいつも気にしていた貞樹君は結婚され近く出産とか。神戸大学卒業後ずっと安井建築設計事務所で活躍、これを元気な時の設樂さんにみせたかった。

設樂貞三さんは東畑にとって4年上の大先輩、いつもご指導をあおいでいたが、職場を異にしていた関係で上記両氏に語ってもらったが、一つだけ業界に傳え残したいことがある。設樂さんの卒業された大正12年、大阪には有名な設樂建築事務所と宗建築事務所とがあった。貞三さんはこの設樂家へ養子として入られたのである。当時大阪中之島の現在のフェスティバルホールの東、今の三井物産ビルの所に江商ビルが建築された。幸いに戦災をまぬかれ戦後長く残っていたのが、日本銀行大阪支店とこのビルであった。開口部にサラセン模様のテラカッタで額ぶちをとったR.C.8階建の大建築である。貞三さんは卒業後尊父のところでこの設計に参与されたのではなかろうか。当時同期の大倉三郎さんは宗建築事務所へ就職され、その初めての作品が北浜の旧日本建築協会の建物(元は個人都市住宅)である。また大林組の土佐堀川に面した旧同社本社ビルは同期(専科)の平松さんの作品である。設樂、大倉、平松の三人はいずれも大正中期開設早々の京都大学建築学科で武田五一先生に学んだ人々で、先生のすきなスペイン調がこの若い人々の処女作に出ているのが私にとって興味あることである。(東畑建築事務所会長)

他会ネットワーク

近畿事連協、高齢化対応の研究成果をまとめる

近畿地方公共住宅建設事業者等連絡協議会は、近畿各府県の公共住宅建設事業に携わる20事業主体により、昭和54年11月に設立された。

現在、本格的な高齢化への対応が大きな課題となっており、とりわけ高齢者が安心して快適かつ充実した老後生活が営めるよう、最も基礎的な生活基盤である住宅・住環境の整備にむけて早急に対策を講じていくことが、強く求められている。

こうした状況を踏まえて、昭和60年度に「高齢化社会と公的住宅のあり方」研究会を設け、各事業主体における「高齢者住宅対策の事例(その2)」をとりまとめた。「国際居住年」の昭和62年には、「高齢者住宅計画の新しい展開を探る」シンポジュームと、記念事業として「現代建築家による住宅セミナー」を9月から12月の間に連続セミナーとして4回開催し、その講演録をとりまとめた。

なお「高齢者住宅対策の事例(その1)(その2)」「高齢者住宅計画の新しい展開を探る」「現代建築家による住宅セミナー」の4部作は、下記のとおりセットで実費頒布している。

- 販売価格　郵送　3,000円、直接購入　2,700円
- 郵送の場合の申込先／大阪府建築部住宅建設課内(大阪市中央区大手前2-1-22 06-941-8250)近畿公共住宅建設事業者等連絡協議会事務局
- 直接購入の場合の申込先／上記と日本建築協会(大阪市北区梅田1-1-3-2100 06-348-0635)

構造の頁

166

米国の構造設計

—ニューヨークでの設計体験より—

中村　俊治

筆者は、社内留学制度により昨年4月まで2年間、New York 市にある Severud - Szegezdy Consulting Engineers という構造設計事務所において設計実務を経験するという機会を得た。

Severud社はJefferson Memorial Arch, Seagram Building, Madison Square Garden 等を手がけた名門構造事務所であり、㈱大林組との関係も深い。

さて、摩天楼や最近のさまざまな形態の建築物を生み出し、われわれにもなじみが深そうに思われる米国の構造設計も、実際には日本では知りがたい部分も多いため、本稿では米国、とくにNew Yorkを中心とした東海岸での構造設計(者)について簡単に紹介してみたい。

構造設計者（事務所）

一般に構造設計者（Structural Engineer）は、設備設計者と同様Architect の下で構造設計（構造計画から施工検査まで）を行う一種の下請けである。Client であるArchitect は必然的に絶大な発言権を持ち、一方、構造設計者は、同業者間の競争が厳しく受注獲得が最重要であるので、Architect に対して年々その立場は弱くなってきているらしい。

構造設計料は、Architect との契約によるが、一般につぎのいずれかの方法によって決定される。

(1)　総工事費に対するある割合（たとえば総工費の0.8％等）

(2)　Architect が得る全設計料（総工事費の4％～6％が多い）に対する一定の割合（たとえば15％等）

(3)　面積当たりの単価（たとえば40¢/ft²など）

大学での教育のシステムは日本と大きく異なり、構造設計者は、大学でCivil Engineering の学科で教育を受け、Structural Engineering を専攻した者が多く、建築用語も十分知らずに実務につく。一方ArchitectはArchitecture の学科で教育を受けるため、構造力学の素養はほとんどない。ちなみに、Architect は Registered Architect、構造設計者は、Proffesional Engineerという免許制度があり、名実ともに完全に職能が分離している。

構造設計手法

あるプロジェクトがArchitect から提示された際、その建築物にどのような構造システムを採用するかという問題は、世の東西を問わず最も基本的でかつ重要な問題であるが、この時点で、Architect に明解かつ気に入られる(デザインを拘束しない）解答を用意することが肝要である。そして多くの場合、その決定はパートナーレベルのEngineerとArchitectの話し合いでなされる。一方、いわゆるメガストラクチュアをその建築物のIdentity として表現したい場合には、Architect からの提案もありえる。

一般によく利用される構造システムを列挙すると、床構造システムとして、合成床・合成梁、フラットスラブ・フラットプレート、ボイドスラブ、ワッフルスラブ（2方向ジョイストスラブ）等があり、架構システムとしては、モーメントフレーム、ブレース、シャウォール、またはこれらを組み合わせたもの等がある。これらのシステムの説明は、文献1)に詳しいので参照されたい。

建築基準法と設計規準

米国では、その国土の広大さゆえ、気候、地震、危険度等自然条件が地域によって大きく異なる上に、州の独立性が非常に高いため、多くの州で独自の州建築基準法（State Building Code）が定められている。また、New York市のような大都市では、City Code が定められている。

一方、民間からもいくつかの規準が作成されている。日本でも有名なU.B.C.(Uniform Building Code）や東海岸でよく用いられるBOCA（Basic National Code）等である。また、設計規準として、鉄骨構造であればAISCの〝Manual of Steel Construction〟、コンクリート構造であればACI 318 〝Building Code Requirement for Reinforced Concrete〟が全米で用いられている。設計荷重専門のANSI 〝Minimum Design Load〟などもある。

れっきとした法律である州基準に比して、民間の諸規準それ自体には法的拘束力がない点など、その関係は日本の建築基準法と建築学会の諸規準との関係に似ている。

ASDとLRFD、荷重と強度

世界的な流れとして、構造物の設計は、許容応力度設計（ASD）より終局強度設計（USD）の考え方に移ってきている。一方、荷重や抵抗（強度）の不確かさによる安全率のバラツキを減らすために荷重抵抗係数法（ＬＲＦＤ）がある。このＬＲＦＤは最近、鋼構造の設計に取り入れられ、1986年にＡＩＳＣより〝Manual of Steel Construction〟ＬＲＦＤ版が発刊された。ＡＣＩでは同様の考え方を1971年に取り入れ終局強度設計を行っているが、最近の研究結果を考慮し、荷重係数が修正される予定である。

最近の話題

構造設計に関する最近の話題には、興味深いものが多くあるが、とくに日本でも同様に注目されている超高強度コンクリートとメガストラクチュアについてふれてみたい。

(超)高強度コンクリート

米国でのコンクリート強度の最高記録は、飛躍的に上昇している。Fc=8000psi～10000psi（約560～700 kg/cm²）程度のコンクリートは、かなり実績を積んでいるが、一昨年シアトルでFc=19000 psi（約1330kg/cm²）のコンクリート強度が達成された。このコンクリートは構造強度上は14000psiで十分であるが、変形を抑えるためヤング係数が決定され、それを満足するため19000psiのコンクリートが生まれたのである。このような(超)高強度コンクリートが実際に使用できるのは米国では、試験等で実証されれば、設計者の責任で比較的簡単に使用できるという背景があるからである。余談であるが、この19000psiのコンクリートの供試体は通常のサイズ（30cm×15cm）では、圧壊させることができず、20cm×10cmのシリンダーが用いられたそうである。

メガストラクチュア

さまざまな名称がつけられたメガストラクチュアが考案されており、一種のブームである。巨視的なものの見方が得意の米国のエンジニアにこのメガストラクチュアは適していると筆者は考えるが、最近考案されている多くのものは基本的に同じ考え方よりなっている—すなわち、建物の外周部に巨大な柱を築き、何層もつきぬけるトラス等を用い、各階の鉛直荷重をその柱に集めることによって水平荷重時に生じる外柱の引張力をキャンセルするシステムである。

新しい名称のシステムが発表されるたびに、最も経済的なシステムであり、いわゆる「高さのプレミア」の限界であると主張しているのは興味深いが、構造物としての不静定次数の低さや、極厚ロール鉄骨(Jumbo Section)、通しの複雑な仕口での溶接等、気になる部分もある。

地震力の大きい日本では、鉛直荷重で地震時引抜力をキャンセルできるとは考えられないが、地盤へのアンカー等を用いることにより実現可能であり、近々このメガストラクチュアブームが訪れると筆者は確信している。

あとがき

米国の構造設計全般について紹介したが、最後にこの経験を通じての感想を述べてみたい。

Architect の厳しい要求と斬新なデザインに対して、生き残りをかけて懸命に問題を克服していこうとする米国の構造設計者の姿を見るにつけ、自分は、構造設計者として日本独特の厳しい耐震規定（実際、日本の設計用地震荷重は、東海岸の風荷重に比べると破壊的な大きさであるが）を盾に、アーキテクトの挑戦に背を向けていたのではないかと反省させられた。今後、日本の建築デザイン界も米国の影響をさらに敏感に受けていくようになるであろうが、表面的、技術的な点だけでなく、学ぶべきところは学びたいものである。

文献

1)　ウォルフガング・シェラー著「高層建築の構造」鹿島出版会

（なかむら　としはる　株式会社大林組本店建築設計第6部）

設備の頁

168
氷蓄熱システムとその採用

行藤三男／栗山知広

氷蓄熱システムとは、文字通り氷の形で熱を蓄え、それを冷房に利用するシステムである。氷を利用する技術は古くからあったが、最近注目され始め、空調分野に利用する技術開発が進められ、採用例も多くなってきている。この引き金はエネルギー供給事情であり、電力各社による夜間蓄熱調整契約による夜間電力料金の引き下げであろう。

わが国のエネルギー消費量は、昭和48年のオイルショックを契機に二桁台で伸びてきたものがそれ以降一桁台に鈍化したものの、着実に増加している。これに対し、エネルギー源の多様化が図られた結果、石油の占有率は70%台から現在では50%台に下がっている。これを裏がえせば、石油に代わる新エネルギー・原子力エネルギーがこれにとってかわり、昭和60年度では約10%が原子力エネルギーとなっている。一方、世界のエネルギーの消費量をみると、全地球の消費量のうち、先進7か国とソ連で全体の6割を消費し、一人当たりでは、後進国の7～8倍（6～7t石炭／人）を消費している現状である。また地球の温暖化現象、NOx、SOx等の環境問題を考えた場合、太陽エネルギーあるいは原子力エネルギーの利用拡大が、先進国に課せられた使命ではないかと思われる。

関西電力では、この視点から原子力発電設備の比率を2030年には40%台にまで上げるべき方向に進んでおり、そのために、昼夜間の電力消費量の格差の拡大化傾向に少しでも歯止めをかけ、負荷平準化を指向して夜間蓄熱調整契約制度を導入した。この制度は、需要家にとっても昼間に使う熱を夜間に作り蓄えておくシステムを採用すれば、電力量料金が大幅に安くなり、メリットは大きい。

6,000V供給業務用電力単価（関西電力）

種別			単価	夜間料金（割引後）
基本料金	一般料金	1kW	1,660円00銭	
	特別料金	1kW	1,826 .00	
電力量料金	一般料金 夏季	1kWh	15 .57	5.52
	その他季	1kWh	14 .15	
	特別料金 夏季	1kWh	17 .13	
	その他季	1kWh	15 .57	

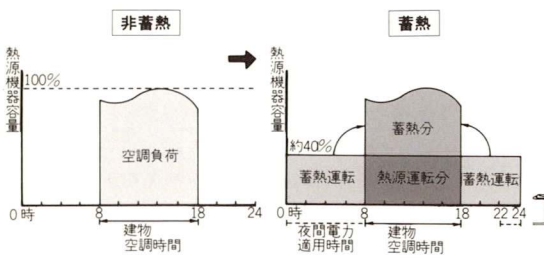
蓄熱システムそのものは、従来から水蓄熱という形で確立されており、採用例も多い。とくに特定用途の建物（たとえば電算センター）への採用例が多い。蓄熱システムが、熱源容量の低減（それに伴う受変電設備費、電力基本料金の低減）、熱源の高効率運転、運転の融通性等メリットが多い反面、従来のオープン（水配管回路）水蓄熱の場合、蓄熱槽の容量が大きくスペースおよび構築費が比較的大きく、蓄熱槽からの熱損失、ポンプ動力の増大、配管の腐食等の欠点があったためである。しかしその後、熱交換器の急速な発展により、クローズ式蓄熱システムが取り入れられ、従来の欠点が大幅に改善されているのが現状である。

近年急速に普及しつつある氷蓄熱システムは、水蓄熱の長所を伸ばし、欠点を解消できるシステムである。とくに蓄熱槽のコンパクト化という課題に応えられるもので、槽容量は水蓄熱に比べて1/5～1/10になる（氷の融解熱利用）ため、氷蓄熱システム採用の大きな促進要因となっている。ただし、氷蓄熱の場合、熱源機器の成績係数の低下、氷蓄熱槽の費用増という課題も残されている。

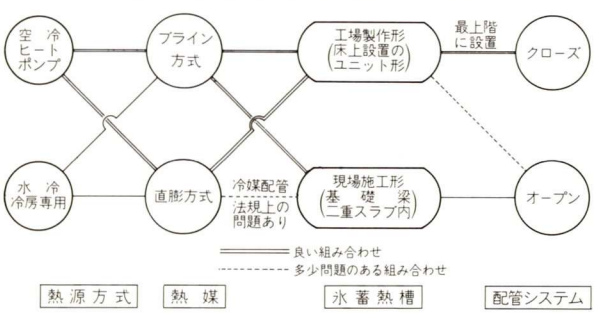
氷蓄熱システムの熱源の運転方法として、昼間に消費する熱をできるだけ夜間につくる、すなわち夜間移行率を高めていくほど、電力料金の低減がはかれる（蓄熱槽がコンパクトであるため、こういう運転方法でもスペース上制約にならない）が、一方、熱源容量の低減効果は少なくなる。

氷蓄熱システムの分類

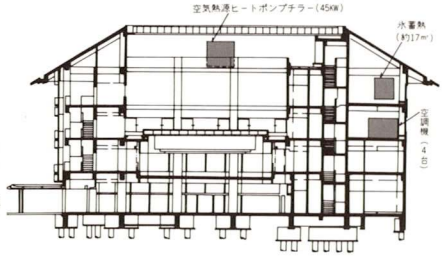
氷の形態として、ダイナミック型（動的製氷）とスタティック型（静的製氷）に分けられる。その名の通り、氷を動かすか動かさないかの分類である。蓄熱槽としては、基礎梁二重スラブ等の躯体を利用してその中に製氷コイルを設ける現場施工形と、FRP製等の氷蓄熱槽とする工場製作形に分けられる。製氷方法は、電力会社、メーカー、ゼネコンが種々開発しており、10種以上のものがある。氷をつくる熱媒として、冷凍機の冷媒で直接冷やす直膨方式と、不凍液を介して冷やすブライン方式がある。



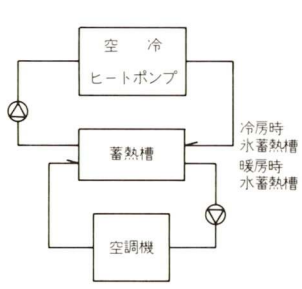
図－1　夜間電力利用によるピークシフト



図－2　氷蓄熱システムの組み合わせ



図－3　奈良営業所断面図



図－4　奈良営業所熱源システム

氷蓄熱システムの採用事例

現在建設中の関西電力奈良営業所の事例を紹介する。工場製作形のスタティック型の氷蓄熱システムを採用し、空気熱源ヒートポンプ、氷蓄熱槽、空調機を組み合わせ、氷蓄熱システムの長所を最大限利用している。この建物は、基礎梁二重スラブがないので、床下蓄熱槽とするには躯体費増となるため、床上ユニット形を選択している。また、蓄熱システムの欠点である配管のオープン回路（ポンプ動力増、配管の腐食につながる）を避けてクローズ回路とするため、上層階に氷蓄熱槽も設置している。4階に設けた理由は、直射光を遮ることと、見学者を案内しやすいことによる。

関西電力営業所でもOA機器の将来増を見越して熱源容量を決定している。したがって、将来、熱源は昼夜とも10時間運転となるが、竣工当初はOA機器が少ないため、昼間の運転は短く、夜間移行率は高くなる。氷蓄熱ヒートポンプ方式を採用すると、熱源容量は暖房負荷で決まることが多いので注意を要するが、その場合、冷房負荷の将来増に対応しやすいことにもなる。暖房時には氷蓄熱槽を温水蓄熱槽として数時間の夜間蓄熱をするので、暖房側の熱源容量も数割低減できる。

熱源部分の電力料金は、奈良営業所の場合、従来の非蓄熱ヒートポンプ方式に比べて、約⅔になると予想している。関西電力の営業所建物は姫路営業所をはじめとして、水蓄熱空気熱源ヒートポンプ方式に種々工夫したシステムとしているが、電力料金は、それらと比較しても約8割になると予想している。

奈良営業所は、この件での最適システムとなっているが、結果として従来の非蓄熱ヒートポンプ方式に氷蓄熱槽を挿入したシステムとなっている。このことは、既設の空気熱源ヒートポンプ方式の建物でも、氷蓄熱槽を追加することで容易に奈良営業所と同じシステムになることを示している。

今後の動向

冷房に限ると、スペースの点からは夜間に全蓄熱することも可能であり、この場合、昼間のデマンドで契約電力が決まり、熱源の電力基本料金は無視できるので、設備費が安くなれば、とくに冷房負荷の大きい建物に対し普及が促進されると考える。一般の事務所ビルでも、OA機器の増加による冷房負荷の増大に対応しやすく、また、既設建物のリフォームにも容易に設置できるので、採用例が増えてゆくと考えられるシステムである。

（ゆきとう　みつお　関西電力株式会社市場開発部ビル関連チームプロジェクト部長
くりやま　ともひろ　株式会社日建設計大阪第二事務所設備設計主管）

施工材料の頁

165
スレート式地中梁型枠工法

加藤　宗男

現在、建築物の型枠工事はその90%が合板を使用した在来工法であるが、近年、合板の高騰並びに型枠組立工の慢性的不足に対応すべく、種々の新工法が次々と発売されている。そして、基礎部分である地中梁や柱脚部についてもその傾向は同様であり、合理化、省力化、低廉化を追及し、新しい工法が開発されている。

今回ここに紹介するスレート式地中梁型枠工法は、地中梁や柱脚等埋め戻しを行う基礎部分の型枠用として開発された高強度特殊スレートと特殊形状の金具類を用いて組み立てる自立式型枠工法であり、とくに工期の短縮と省力化を目的として開発されたものである。

特長

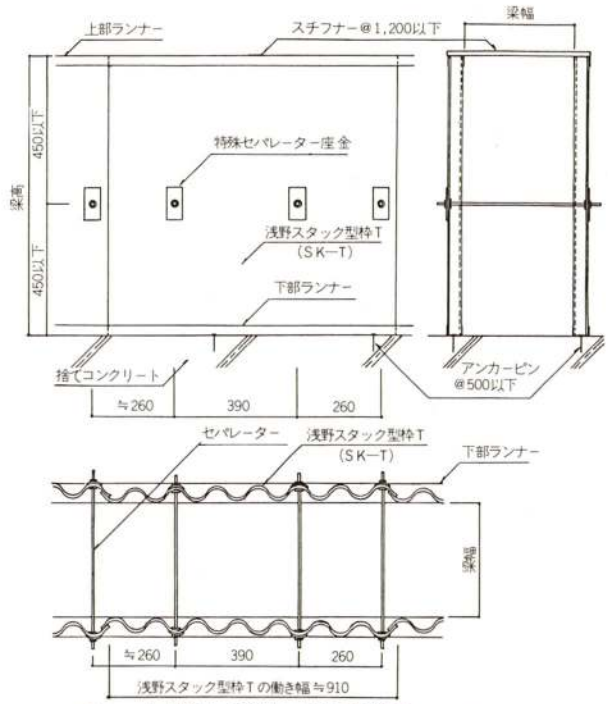
工期の短縮　在来の合板型枠工法では、《型枠の下拵え→墨出し→型枠組み立て→コンクリート打設→養生→合板・ばた材撤去→残材片付け→埋め戻し》の順序で施工される。これに対し本工法は、①型枠用スレートを梁背に合わせて予め工場で切断するため下拵え不要、②合板型枠に比較して組み立て工程が簡単、③捨型枠工法のため型枠材の撤去・残材片付けが不要、④コンクリートの養生期間を待たずに埋め戻しが可能、等型枠工事としては画期的な特長を備えているため、その工程も《墨出し→スレート型枠組み立て→コンクリート打設→埋め戻し》のごとく簡略なものとなる。

施工職種の幅が広がる　最近は、建築工事の活況も手伝って建設作業者とくに型枠組立工の不足が著しく、都市部においては工期遅延を来すなど深刻な状況となっている。本工法はその組み立て工程が簡単なため、型枠工以外の職方（スレート工、型枠解体工、軽鉄下地組立工等）でもすぐに施工できるようになり、作業員確保が容易となる。

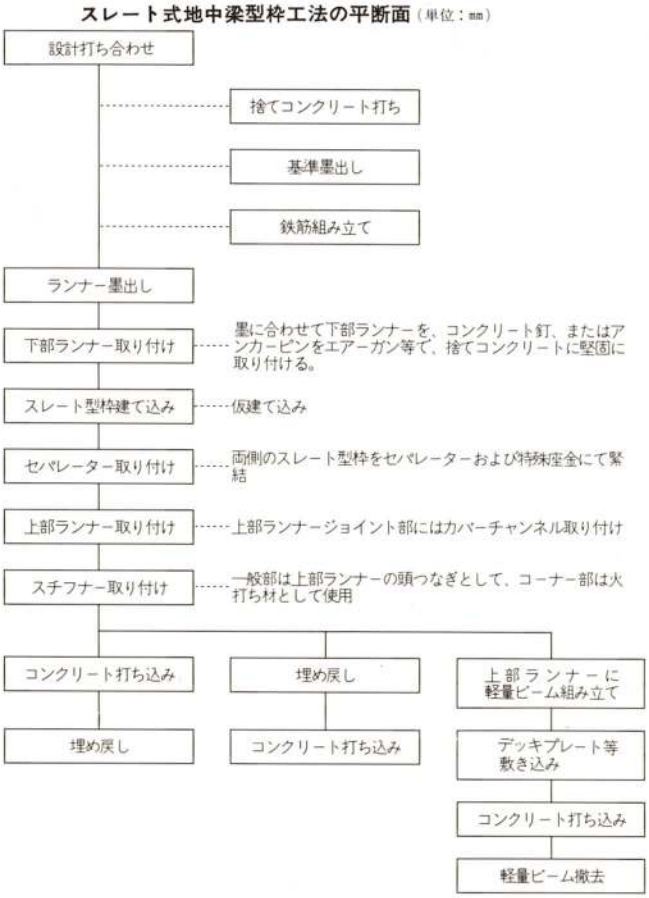
コスト低減が計れる　組立コストは合板型枠とほぼ同等であるが、型枠材撤去に伴う残材の片付けがないため、場内清掃費、残材搬出費等が削減でき、型枠工事のトータルコストが低減できる。

埋め戻しの時期の選択が可能　型枠工事においては、コンクリート打設前に埋め戻しを行うケースも多いが、このような場合、合板型枠を使用できないため、ブロック型枠とするのが一般的である。本工法においては若干の仕様変更を行うことによって、埋め戻しの時期をコンクリート打設の前後いずれにもすることが可能となる。

スラブコンクリートとの同時打ち込みが可能　二重床など埋め戻しを行わない工法の場合は、スレート型枠の上部ランナーに軽量ビームを組み立てた上に、デッキプレート、型枠用スレート等を敷き込むことにより、地中梁とスラブの同時打ち込みが可能となる。



スレート式地中梁型枠工法の平断面（単位：mm）



スレート型枠施工手順

施工手順

スレート型枠の組み立ての手順は、**上図**の通りである。

おわりに

本工法は開発され、市場に送り出されてからまだ日は浅いが、採用現場では非常に好評を博しており、大きな反響を呼んでいる。そして、本工法を基本とする応用工法に対するニーズ、アドバイス等も多数寄せられており、将来に向かって工法開発の課題も多く残っている。

これからは、各現場の声を糧に改良を加え、よりメリットのある工法を開発すべく努力してゆきたい。

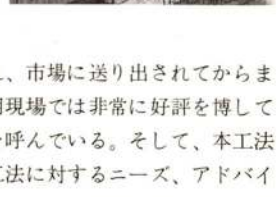
（かとう　むねお　浅野スレート株式会社技術課長）











日本建築協会

月間の動き

昭和63年12月分

理　事　会

第5回定例理事会
14日　5時～5時半　於太閤園
出席者　佐野会長ほか26名
議事　(1)通常総会開催の件
(2)'89世界デザイン会議運営会理事就任の件
(3)昭和64年度1級・2級建築施工管理技術検定試験受験準備講習会後援の件
(4)入退会者承認の件
(5)報告事項

編　集　委　員　会

3月号特集インタビュー
4日　10時半～3時半　於京都フジタホテル
出席者　篠原一男(東京工業大学名誉教授)ほか
第7回施工材料分科会
5日　4時～6時　於本会会議室
出席者　松村幹事ほか2名
議事　(1)拡大編集委員会の報告
(2)4月号施工材料特集のテーマの具体化
第5回設備分科会
5日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　安倍幹事ほか4名
議事　(1)「都市環境創造と設備」特集の企画
第9回会員企画小委員会
6日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　高田副委員長ほか7名
議事　(1)小委員会の活動内容(報告と今後の企画)
(2)新しい企画について
第9回作品作風小委員会
7日　5時～9時　於本会会議室
出席者　塘副委員長ほか6名
議事　(1)最近の掲載状況・予定の報告
(2)「新建築調査表」の作品(4月・5月竣工分)の選定
(3)「Gallery」内容報告と今後の検討
第9回編集委員会
8日　4時～6時　於本会会議室
出席者　長谷部委員長、上田委員長代行
議事　(1)12月号「讀賣テレビ」特集経過報告
(2)「夢をのせる輸送設備」特集経過報告と掲載月の件
(3)「リゾート」特集経過報告と掲載月の件
(4)2月号「竹中工務店創立90周年記念」特集経過報告
(5)収支の修正と状況報告
第10回計画系－建築系－分科会
14日　6時半～8時　於本会会議室
出席者　加藤幹事ほか9名
議事　次回特集案検討
5月号「法とまちづくり」特集編集幹事会
15日　6時～9時半　於本会会議室
出席者　石関雍夫特別幹事　笠井幹事ほか2名
議事　「法とまちづくり」(仮称)特集の企画
「建築と社会」表紙デザイン小委員会
16日　2時～3時半　於本会会議室
出席者　飯塚英雄氏(日建設計)ほか7名
議事　「建築と社会」誌表紙デザインの件
第9回広告企画小委員会
20日　4時～5時30分　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか6名
議事　(1)1月号「夢をのせる輸送設備」特集広告収入報告
(2)収支状況報告
2月号特集インタビュー
22日　7時～9時30分　於レストラン「ぼると」
出席者　東　孝光(大阪大学教授)ほか5名
3月号「東海特集」特別編集委員会
26日　6時～8時　於東海支部会議室
出席者　中島支部長ほか6名
議事　(1)掲載予定作品の報告
(2)本文の編集内容
第8回施工材料分科会
27日　4時～7時半　於本会会議室
出席者　山田委員ほか2名
議事　(1)4月号施工材料特集の企画
3月号「東海特集」座談会
28日　10時～11時半　於一宮市役所市長室
出席者　森鈑太郎一宮市長、内井昭蔵氏、中島一支部長

事　業　委　員　会

第5回教室分科会
2日　6時～8時　於本会会議室
出席者　奥村幹事ほか2名
議事　話題建築を聞く
第6回教室分科会
20日　6時～8時　於本会会議室
出席者　奥村幹事ほか3名
議事　(1)話題建築を聞く
(2)ビデオ映写会
事業委員会総会(懇親会)
3日　6時半～9時10分　於ルミナス神戸
出席者　西村委員長ほか19名
第3回若い会員活動企画グループ
13日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　宮野副委員長ほか4名
議事　(1)活動企画グループの名称について
(2)各テーマ案の検討について

建　材　委　員　会

14日　3時半～5時半　於本会会議室
出席者　金井委員長ほか14名
材料説明：吹付タイル面の総合改修システム／長谷川委員
議事　今後の検討建材

出　版　委　員　会

16日　5時～6時　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか2名
議事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定について
(3)〈プロのノウハウ〉講演会について

話題建築を聞く会

第5回ダイキンOSAKAアトリオを聞く
10日　2時～5時半　於現地
講師　田端修氏・丹田悦雄氏
参加者　47名

建築工事実務講習会(大阪開催)

2日　9時～5時　於建設交流館
科目・講師　施工計画：金田　宏氏(大林組)
仮設見積：安立俊夫氏(大林組)
積算業務：中山雅博氏(竹中工務店)
受講者　105名

建　築　ク　ラ　ブ

第200回朝食会
13日　8時半～10時　於大阪グランドホテル
演題　「患者と医者の立場」
講師　横井　浩氏(日生病院理事・超音波検査部長)
出席者　67名

建築関係団体合同懇親会

第3回実行委員会
8日　4時～6時　於太閤園
出席者　各会選出委員及び事務局
議事　'88年懇親会の諸準備について
懇親会
14日　6時～7時半　於太閤園
出席者　315名

需要者参加型住宅供給研究会

17日　9時半～12時半　於本会会議室
出席者　巽委員長ほか27名
議事　(1)委員の意見発表　住田委員、巽委員
(2)需要者参加型住宅供給について(自由討論)

12月入会者(敬称略)

〔団体会員4社〕
大興電設㈱　千蔵電気工業㈱中国支社
東洋シャッター㈱西部支店　菱電エレベータ施設㈱大阪支店
〔個人会員5名〕
奥山弘一(大林組)　藤岡三夫(住信基礎研究所)　山田勝紀(山田設計事務所)
吉沖ひとみ(山田設計事務所)　吉村益一(松下住設)

国際学生照明デザインコンペ

第２回コイズミ国際学生照明デザインコンペ
●審査委員長
栄久庵憲司（インダストリアル・デザイナー）
●審査委員
粟津　潔（グラフィック・デザイナー）
菊竹清訓（建築家）
ジョナサン・デ・パス（インテリア・デザイナー）他
●賞
コイズミ照明大賞・金賞……賞金100万円
銀賞……賞金30万円
銅賞……賞金10万円
入選……賞品
●応募資格
1988年11月10日時点に、在籍中の学生・生徒
●参加申込受付
1989年２月20日当日消印有効。
●作品受付
1989年３月１日～1989年３月10日必着
詳しくは応募要項参照。
要項希望者は、下記事務局宛70円切手同封のうえ、ご請求下さい。

〒541　大阪市中央区備後町３丁目長谷ビル３Ｆ
小泉産業㈱照明事業本部内
コイズミ国際学生照明デザインコンペ事務局
ＴＥＬ　06－262－0863
●応募要項は、学校事務局等にも若干用意しています。
●スケッチ等でも参加できます。
●電球等の資料も事務局で用意しています。請求下さい。
●入選作品は世界デザイン博覧会出展されることが決定しています。
主催　小泉産業㈱
後援　㈶日本産業デザイン振興会
　　㈳日本インダストリアルデザイナー協会
　　㈶世界デザイン博覧会協会

編集後記メモ

－改元と協会－

■１月８日から平成元年となりました。
会員の年齢構成から時代を大別しますと、明治、大正、昭和、平成の４時代を迎えた方が10％弱、３時代が20％弱であり、大部分の皆さんが２時代を迎えたことになります。
■わが日本建築協会も３時代目に入りましたが、前回の改元時をふり返ってみますと、昭和元年、２年は、協会が内務大臣の許可を得て（大正15年10月20日）、現在の社団法人日本建築協会となって日も浅く、公益法人としての組織体制固めに努力していた頃です。
■一方、「建築と社会」の様子をみますと、昭和２年１月号では「奉悼　社団法人日本建築協会役員一同、職員一同」という黒枠の会告があり、２月号で「御発引を憶ふて」という一文があるのみで、他は通常の誌面であり、会の平静な対応が伺えます。現在と政治体制や社会情勢が異なるとはいえ、当協会が常に社会の動向に徒らに左右されることなく、今日まで生き続けてきた姿をみるようである。「建築と社会」63年11月号で、浦辺鎮太郎先生が述べられたように、「建築と社会」が驚くべきロングランを記録するに至った理由は、第一に協会が本来備えている柔構造的体質と、第二に「建築と社会」の名に表われている協会の基本理念にあるといわれたこととも符合するように思えます。
■昭和２年のときと異なり、改元が１月になったため、昨年末に発行した昭和64年１月号は、ありえない発行日付でお届けしましたが、これも後年の関係者間でエピソードとして語られるかも知れませんが、協会及び「建築と社会」の姿勢には些かも変りがないことはもちろん、平成時代を迎えたのを機にますますの向上発展を誓ってやみません。
（松田記）

新刊案内：全国書店で好評発売中！

〈建築技術〉別冊Vol. 1
★サウンド・アメニティの設計技術A to Z★
住宅の防音と調音のすべて
監修　久我新一　Ａ４判 256頁　￥2,400

耐久性向上を目指す建築実務者のために
鉄筋コンクリート工事の基本と実務
監修・加賀秀治　Ｂ５判 232頁　￥3,800

専門技術者のための
建築構造問題快答集 11巻
各分野の権威が日常業務の中の数々の疑問にＱ＆Ａ形式で快答する設計者必携の実用書
監修・石黒徳衛　Ａ５判 339頁　￥3,800

建築技術者のための
保有水平耐力入門 上
精算法へのアプローチ！
星 睦廣 著　Ｂ６判 128頁　￥1,300

株式会社 建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2　福西ビル
TEL.03(5371)3811　FAX.03(5371)8282

建築技術者必携の専門誌
建築技術（KENCHIKU GIJUTSU）3月号
2月18日　全国書店で一斉発売
定価 1,200円

特集
木による空間構造へのアプローチ
木構造の解剖

本文企画
Ⅰ．緊急レポート！アルメニアにおける大地震
Ⅱ．ソフト優先の高層ＲＣ集合住宅
Ⅲ．建設省における建設技術研究開発

1．空間構造の認識法
2．基本システムの実例の解剖
●組構造●アーチ構造●壁構造●トラス構造●折板構造●立体トラス構造●ラーメン構造●フラットスラブ構造●サスペンション構造●片持梁構造●塔構造●格子梁構造……etc.
3．木構造におけるトータル・デザイン
①木構造の構造的トータル・デザイン
②素材で可能な構造システム
③木の空間構造の歩み

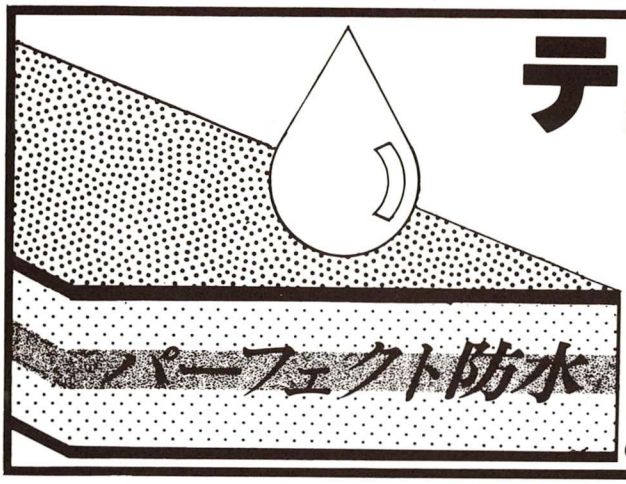
室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目（電話811-3610)

テトカッパー防水層



防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8−4−9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6−1−41	電話06（391)1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1−3−30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

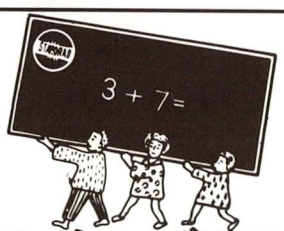
防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：〒540 大阪市中央区常盤町１−３−８ 日本生命谷町ビル ☎（943）6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547　大阪市平野区加美北3−4−5　TEL 大阪06(792)5858(代)

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

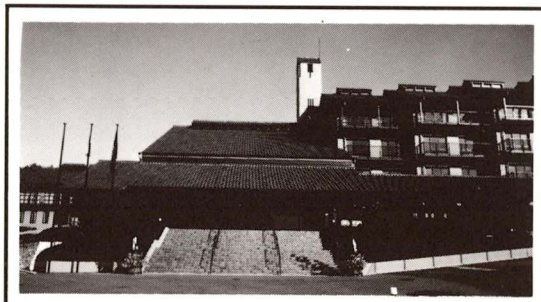
本　社　〒550 大阪市西区西本町１−13−33
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市新町50

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社	〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30	☎06 (606) 1111代
日本写植センター	〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル	☎0992 (26) 4371
津山写植センター	〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館	☎08682 (4) 1771
沖縄写植センター	〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地	☎0988 (55) 6100



〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一〜七四一六
ファックス 五六一〜七四五四

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851（大代）　大阪本社☎06－448－3603（代）
大阪支社☎06－448－5851（代）　名古屋支店☎052－211－1535（代）　中国支店☎082－247－5541
九州支店☎092－431－2147（代）　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒104 東京都中央区銀座2丁目2番17号　電話(03)535-5251
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和
給排水衛生

搬送機設備
設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661（代表）
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511（代表）

空気調和設備
給排水設備
電気設備

産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
取締役大阪支店長　堀　亀久治

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL（443）8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL（562）1351
支　店　名古屋・福岡

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222－61－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・宇都宮・大宮・千葉・川崎・富山・福井・鳥取・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪（458）3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1.2階）
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768－1 6 5 1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241代表

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話（06）352－3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738(代)

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL 06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キヤリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川崎・相模原・堺・滋賀

――誠実と技術でお応えする――

住友電設

取締役社長 相 馬 一 男

住友電設株式会社
本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)
東京／〒105 東京都港区芝2丁目2－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事
架空送配電線工事
地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事
工場電気設備工事
防爆電気設備工事
計装工事
空調工事
給排水衛生工事
特殊配管工事
消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事
CATVシステム工事
各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471
TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231
TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06(385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574)0665 福岡出張所 TEL 福岡092(771)6168

特殊壁装材製造販売 和室に最適

●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)

(株)ホクシンクロス

〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610

工場 〒580 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一 〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二 〒597 大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大阪支社

常務取締役支社長 横 田 幸 一

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所 全国主要都市32ヶ所

営業種目

●防水工事 塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法 各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事 各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事 シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事 アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可 大阪府知事許可 (般－53)第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員

大阪市北区末広町3－21
星和地所扇町ビル201S
TEL 06(315)0701

(株)特殊技研

Construction chemistry for the future.

コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材

Master Builders Technologies

ポゾリス物産株式会社
日曹マスタービルダーズ株式会社

本 社：東京都港区六本木3－16－26 TEL03-582-8813
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル) TEL06-202-3294

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依 藤 孝 蔵

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351—5428(代)
FAX(06)351—5299

省エネルギー時代の断熱用シート防水材

日立バイナリーシートP

日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。

日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- 鋼板製オリエンタルフネンシングル
- オリエンタルオリセラム


体育館屋根フネンシングル

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

デンカCSAファミリー製品

- **デンカCSA**（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
- **デンカタスコン**（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
- **デンカキューテックス**（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
- **デンカES**（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
- **デンカΣ1000**（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山(0775) 83－2381

建築と社会　第70輯第2号
平成元年2月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1の3の2100　電話大阪06(346)0695
振替口座大阪一二九九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九五〇円（送料共）

シャッターを街の新名所に変えませんか。



シャッタービジョンは、街に表情を与える新しいコミュニケーションスペースです。

思い通りの写真や文字で、シャッターに表情を与えるシャッタービジョン。デッドスペースだった閉店後のシャッターを、新しいコミュニケーションスペースに変えました。簡単な改装工事で、既設のシャッターにも取り付けOK。図柄の取替えも手軽にできますから、イベントの演出などにも効果的にご利用いただけます。



取り付けがさらに簡単になった、シャッタービジョン「カンバスタイプ」が誕生。建物の改装工事なしに、いますぐお店の顔ができます。

新しいコミュニケーションスペース
シャッタービジョン

東洋シヤッター株式会社
〒540 大阪市中央区常盤町1-3-8 日本生命谷町ビル　TEL.06(943)6571
〒106 東京都港区六本木6−3 第一地所麻布ビル　TEL.03(479)2911